

第6章 考察：縄文早期人骨としての栃原岩陰遺跡人骨

香原志勢・茂原信生・西沢寿晃
藤田 敬・大谷江里・馬場悠男

人骨の出土状況とそれぞれの基本情報は既に記したが（第3章(4)、第4章(5)）、本章では『Anthropological Science（日本語版）』119巻（2011年）91～124ページを転載することで、その詳しい分析と考察とする。

尚、本章で用いる人骨の資料番号KA-1～KA-12は、本報告別章での1号人骨～12号人骨に対応する。

序 文

栃原岩陰遺跡の発掘史と研究の現状

栃原岩陰遺跡は、長野県南佐久郡北相木村にある縄文時代草創期末から早期にかけての遺跡である。1965年に興水利雄、新村薫両氏によって発見され、第1回の発掘が行われて以来、信州大学医学部解剖学教室を中心として1978年までの14年間に15回にわたって発掘された。約5.5mの深さの堆積中から多くの文化遺物や動物骨が発掘されている。

人骨は散乱骨も含めて12体分が発掘された。今回報告するのは、縄文時代早期に属すると考えられているこれらの人骨についてである。これらの人骨が出土した層位は表層から150～180cmの深さで、その年代はYoneda et al. (2002) によって放射性炭素年代測定法を用いて新たに分析され、8300BPから8600BP（未校正）の間、すなわち縄文時代早期とされている。

この遺跡の概要、あるいは特定の個体の出土状況、人骨形態の概略に関しては散発的に報告されてきている（鈴木誠1968、1969、鈴木誠・香原1968、小松ほか1970、香原 ほか19、西沢1978・1982、池田1985、森本・高橋 1986）。

しかし、発掘主催者である鈴木誠教授の御逝去、関係者の転勤などにより人骨についてのまとまった検討がなされたことはなかった。縄文時代早期の人骨は日本国内でも出土例は少ないので栃原人骨の研究報告は貴重なものとなるであろう。

日本の縄文時代早期人骨研究の概要

かつて、縄文時代人は比較的均質な特徴を持っていると認識されていたが、発掘数が増加するにつれ、時代差、地域差にも注目が集まるようになった。

1950年に鈴木尚が縄文時代早期の平坂貝塚人骨を研究し、筋の付着部位などがよく発達しているにもかかわらず全体として華奢であること、歯の摩耗が特殊であること、など一般的に知られている縄文時代後晩期の縄文人とは異なる点を指摘した。小片は1962年に縄文時代早期人の出土した上黒岩岩陰遺跡の研究を報告した。それ以降しばしば縄文時代人の時代差について言及している（1967、1973、1977、1981）。

それらを総合してみると、早前期人は後期人に比して、下顎骨が弱小で、四肢骨、特に上肢骨が小さく、その傾向は女性より男性で顕著であるという。また、形態的にみても、女性では早前期人は中・後晩期人とほとんど変わらないが、男性では大きな差があるという。

ただし、小片の研究した縄文時代の早前期人は山間部の遺跡から出土した少数のもので、中後晩期人の大多数は海岸部の貝塚から出土したものであった。山口（1982）、小片の指摘する「華奢」な早前期人と「頑丈」な中後晩期人との違いは、遺跡の立地条件の差という別の要因も関与している可能性を示唆した。

池田（1985、1998）は、縄文時代人の形態の時代差と地域差とをあわせて検討し、山間部の洞穴遺跡、あるいは海岸部の貝塚遺跡などの立地条件の違いを考慮することで、早前期人と中後晩期人の違いが単純に時代的なものではないことを確認し、華奢な早前期人男性の上肢骨が中後晩期にいたって頑丈になった要因を、「食生活の安定とそれに伴う労働強化と大型集落の成立」に結びつけて考えている。中橋（2009）は28体が出土した山間部の上黒岩遺跡の縄文時代早期人骨を調査し、華奢な早期人の特徴を確認している。Kaifu（2010）は縄文時代人の下顎骨の変異について研究し、早期人の下顎体や下顎枝高が小さいことを指摘している。

池田（1985）の利用した早前期遺跡は北海道から九州までの30遺跡に上っているが、縄文時代の中後晩期人骨の出土の多さに比べれば、早前期の人骨は現在でもさほど多く出土しているわけではなく、しかも保存状態が悪いものが多い。

本研究では、数少ない縄文時代早期の人骨として栃原岩陰遺跡から発掘された成人人骨を中心に基本的な形態を記載し、計測結果を示し、この集団に見られる形態的な特徴を明らかにすることを第一の目的とする。次いで、報告されている縄文時代早期人骨と形態を比較し、早期人骨の特徴とされているものが、広く縄文時代早期人の特徴として共通するものかどうかを再検討し、共通する特徴を抽出することを第二の目的とする。

資料と方法

調査した人骨は、長野県南佐久郡北相木村の栃原岩陰遺跡で行われた1965年以来15回にわたる発掘調査の際に出土したものである。出土状況については西沢（1978）が詳しい。

出土した人骨は、散乱状態で出土したのもも含めて成人8体と乳幼児4体である（表1）。成人のうち4体は男性、4体は女性である。乳幼児骨4体のうち出生前後の乳児と考えられるものがKA-3とKA-5、幼児はKA-11（3歳半）とKA-12（5歳半）である。幼児2体は、香原ほか（1971）により落盤で死亡したとされている個体である。保存状態は比較的よいが、頭蓋が完形で全身がほぼ残っているものは1体KA-1だけである。

咬耗や齶蝕により観察可能な歯はごく少数なので、歯の形態に関する記述は省略した。人骨番号は発掘時に骨に書かれた番号、あるいはラベルにしたがった。発掘後の整理の段階で一部の番号に混乱がみられるので、該当する資料の記載部分にその旨を記した。なお、登録番号に付された記号KAは、出土地域名である「北相木」にちなんでつけられたものである。

人骨の計測方法は馬場（1991）にしたがった。左右があるものは左側を計測し、左側がないものは右側を計測した（データを引用した場合も同じ）。身長を推定方法は藤井（1960）の回帰直線方程式を用いた。藤井の方法を用いて日本人各時代の身長を推定した平本（1972）を参考にするためであり、またKouchi（1987）は日本人古人骨の身長推定には藤井の方法が最も正確であることを指摘しているからである。他の早前期人骨の身長と比較する際には、後述のように、早前期人は上肢骨が下肢骨に比べて小さいので、身長に直接関与している大腿骨あるいは脛骨に基づいた推定値のみを用いた。藤井（1960）の推定式は、性別、左右を区別して計算しており、今回は、左右があれば両方を用いて平均値を算出した。また、大腿骨と脛骨がある場合はそれらすべての最大長を用いて平均値を算出

表1 栃原岩陰遺跡出土人骨の概要

標本番号	出土した深さと年代 (BP)	埋葬位	性別	年齢 (段階)	推定身長	保存部位
KA-1	-155 cm (8370 BP)	側臥屈葬	♂	成人 (壮年)	162.0 cm	ほぼ全身。頭蓋はほぼ完形。左右肩甲骨片、左右鎖骨・上腕骨・橈骨・尺骨、左右寛骨、左右大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨、手根骨、足根骨、指骨、椎骨、肋骨
KA-2	-201 cm (8580 BP)	側臥屈葬	♂	成人 (熟年)	163.0 cm	ほぼ全身。上顎骨の眼窩部等を欠く。左右肩甲骨片・鎖骨・上腕骨・橈骨・尺骨、左右寛骨・大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨、手根骨、足根骨、指骨、椎骨片、肋骨片
KA-3	奥壁寄り	不明	不明	新生児		ほぼ全身。頭蓋骨不完全。左右肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨、左寛骨、右大腿骨、左右脛骨・腓骨。
KA-4	-173 cm (8530 BP)	側臥屈葬	♀	成人 (壮年～熟年)	156.8 cm	ほぼ全身。顔面の中顔部が欠ける。左右肩甲骨片・鎖骨・上腕骨・橈骨、右尺骨、右寛骨、左右大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨、手根骨、足根骨、指骨、椎骨片、肋骨片
KA-5	奥壁寄り	不明	不明	新生児 (胎齢40週相当)		ほぼ全身。頭蓋骨不完全、右肩甲骨、右鎖骨、腓骨を欠く。
KA-6	-158 cm	側臥屈葬	♀	成人		左右寛骨・大腿骨、左脛骨、左腓骨、手根骨、指骨、
KA-7	テラス西端 (8430 BP)	側臥屈葬	♀	成人 (壮年?)	155.5 cm	頭蓋不完全 (顔面大部分欠)、下顎骨、左右肩甲骨片・鎖骨・上腕骨、左橈骨、右尺骨近位部、左右膝蓋骨・脛骨、手根骨、足根骨、指骨
KA-8	-211 cm (8300 BP)	屈葬	♂	成人 (壮年)	148.4 cm	下顎骨以外の頭蓋はない。左鎖骨遠位部、右上腕骨遠位部、右橈骨、左橈骨遠位部、右尺骨、左尺骨遠位部、右寛骨、左恥骨、右大腿骨、左大腿骨遠位部、左右膝蓋骨・脛骨・腓骨、手根骨、足根骨、指骨、肋骨片。頭蓋のみで顔面の多くを欠く。
KA-9	-250～260 cm (8260 BP)	不明	♂	成人 (熟年)		
KA-10	不明	不明	♀	成人 (壮年～熟年)		下顎骨、左右肩甲骨片、左右鎖骨・上腕骨・橈骨、左右尺骨遠位部、左右膝蓋骨、椎骨片。
KA-11	-390 cm		不明	幼児 (3歳半)		ほぼ全身。胸骨、鎖骨、左脛骨を欠く。
KA-12	-390 cm		不明	幼児 (5歳半)		ほぼ全身。

出土した骨は必ずしも完形ではないものも含まれるが、識別可能な部分が出土しているものを挙げた。小片は肋骨片、椎骨片等として挙げた。
注) 年代はYoneda et al. 2002による。

した。歯の残存状態は全個体のものを表2に示した。なお、歯の順番を示す場合は歯種を I, C, P, M の略号で、番号を数字で (例:第2切歯はI2) 示した。

性別の判定

一般的に性別判定に用いられる形質を総合的に判断した。骨盤の恥骨部がある個体では、Phenice (1969) の方法にしたがったが、2例で適用できたにすぎない。恥骨部がない場合は大坐骨切痕や耳状面の高さなどの形質を参考にし (Ubelaker, 1978; Bass, 1987)、さらに前頭骨の眉間部の発達状態、乳様突起の大きさ、ならびに四肢骨の頑丈さを考慮して判定した。妊娠痕と考えると問題ないほどの大きな耳状面傍溝の確認できる個体はKA-4とKA-7で、ほかの部位の特徴も合わせて♀と判断した。縄文時代早期人骨の性別判定は全体的な華奢さによって骨盤以外の形質では判定が難しい場合が多く、西沢 (1978) によって性別が判定されたものと異なった結果になった個体がある (KA-8)。

年齢の判定

歯の摩耗が進んでおり、また個体数も少ないため集団に応用する方法を用いることはできない。脱落歯が多いことも年齢推定を難しくしている。四肢骨の骨端が骨幹と癒合を完了しているものが多く、恥骨結合面も2例を除いて残っていない。したがって、壮年、熟年、老年とといった大まかな区分でしか判定していない。椎骨に著しい加齢変化を示すものなどを総合して判断した。

年 代

Yoneda et al. (2002) が放射性炭素を用いて年代の測定を行っており、それに基づいた年代を用いた。

比較資料

縄文時代早前期人の特徴を示すものとして小片 (1981) の集計結果が使われており、本稿でもそれを早期人を含んだ比較資料として用いて、縄文時代人としての位置づけを行った。次いで、同時代の近隣の良好な資料として、男性では埼玉県の妙音寺洞穴人骨 (馬場ほか、1999) が、また、女性では長野県の北部山間から出土した湯倉洞窟人骨 (森本ほか、1986) を比較の資料とした。妙音寺人骨、湯倉人骨の項目の一部は今回新たに計測・計算した。また、早期人がまとまって出土した例は少ないので、比較的例数の多い上黒岩岩陰遺跡人骨 (中橋、2009) を比較資料に用いた。比較資料では欠損値が多い個体も多く偏差折線での分析がむづかしいため、欠損値が少ない個体で偏差折線を作成し、それ以外の個体は個別に比較している。縄文時代早期人との関係を議論されることのある更新世の港川人骨 (Suzuki,1982) を偏差折線図ならびに図で参考として提示した。

縄文早前期人骨を記載する際に、小片 (1981) は計測値が大きいことを指して「頑丈」、計測値が小さいことを指して「華奢」と表現した。この考えはおおむね後の研究者に継承されているが、「華奢」には、全体的な大きさが小さいこと、それぞれの骨の長さが小さいこと、骨が細いこと、骨が薄いこと、筋肉付着部の発達が弱いことなど多様な状態が包含されており、受け取り方が難しい表現である。この報告の記載、比較では、基本的に、サイズの違いに関しては、頭蓋・四肢骨ともに、大きい、小さい、長い、短い、という単純な表現をした。骨の構造が薄く、弱い場合、あるいは筋肉の発達が弱いことが推察される場合には「華奢」と表現し、骨の構造が厚く、強い場合、あるいは筋肉の発達が強いことが推察される場合には「頑丈」と表現した。ただし、他の人骨との比較考察の際には、その旨を記して先行研究の用例に準じた場合もある。

結 果

形態の記載は、頭蓋、歯、体幹骨、上肢骨、下肢骨の順に行い、最初に成人男性4体、次いで成人女性4体の記載をし、最後に若齢個体4体のごく簡単な記載を行う。それぞれの個体の出土部位の概要と出土層位、ならびに年代測定の結果を表1に、歯の出土状態を表2に、頭蓋や四肢骨の計測値を表3～12に示している。頭蓋がほぼ完全で四肢骨の残りもよく、記載と比較の中心となるKA-1の全身骨格を図1-1、図1-2、図1-3に示した。

1) 出土人骨の形態

1. 成人男性人骨の形態

男性と考えられるのはKA-1、KA-2、KA-8およびKA-9の4個体である。どの個体も成人と考えられ、KA-1とKA-8は壮年、KA-2とKA-9は熟年と考えられる。

1) KA-1人骨 (図1-1～図1-3)

骨の保存状態はよく、ほぼ全身が出土している。最も保存がよく、顔貌がわかるただ一つの頭蓋である。

頭蓋

頭蓋最大長186mm、最大幅144mm、バジオン・プレグマ高140mmは、縄文時代早期人としては大

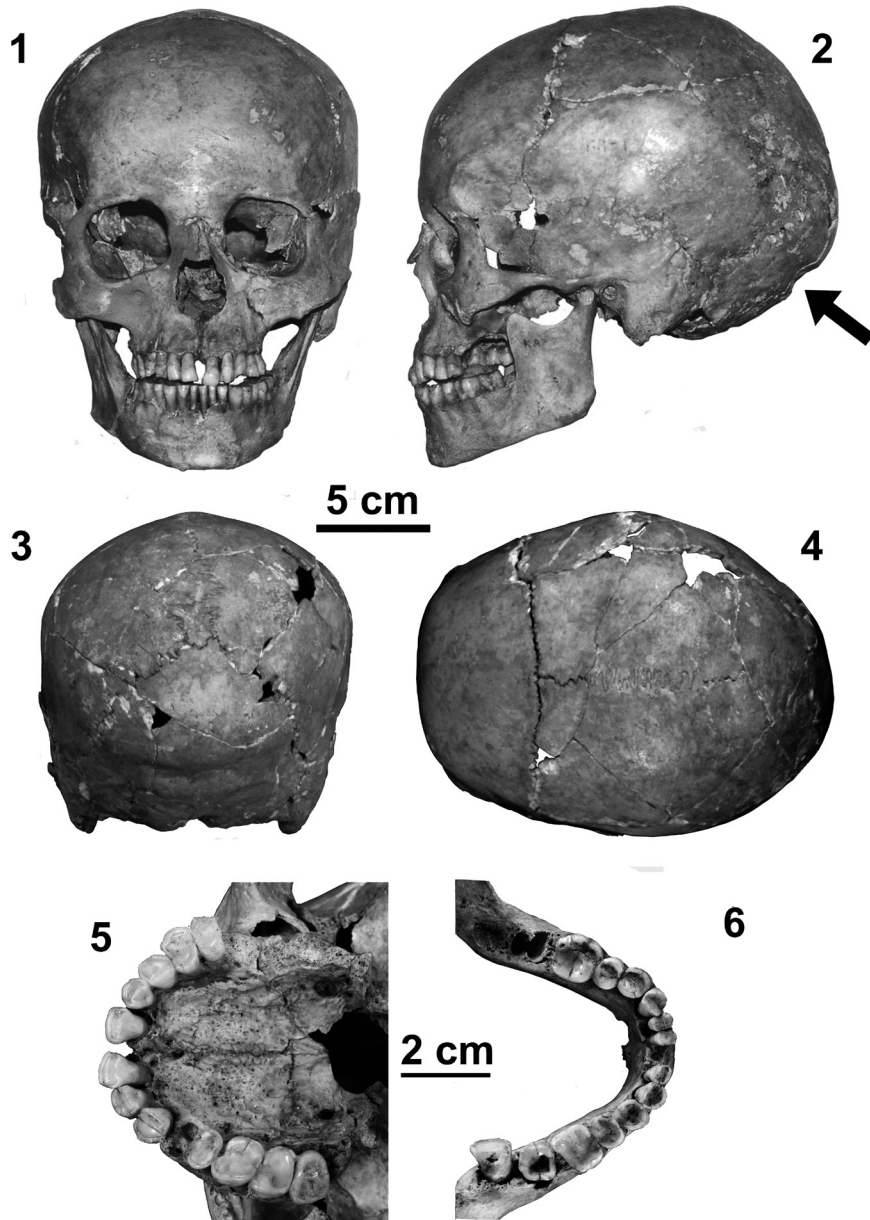


図1-1 KA-1の頭蓋骨。1：正面観、2：左側面観、3：後面観、4：上面観、5：上顎歯列、6：下顎歯列。
矢印は後頭部に見られる溝を示している。

きい。頭蓋長幅示数77.4は中頭で、頭長高示数75.3は高頭の下限である。三主縫合は外板、内板とも開放している。矢状縫合後部とラムダ縫合の走行は複雑で、縫合骨が存在する。側頭骨鱗部の頭頂縁は縫合のほぼ全域にわたって膨隆しており、多数の縫合骨が見られる。側頭線は比較的明瞭で、前頭骨部においては鋭い稜を形成し、後方ではラムダ縫合に接近している。頭頂骨後部から後頭骨にかけては左側がやや膨隆し、上面観輪郭は左右非対称である。顔面には非対称性の歪みが認められないので、この歪みは土圧の影響ではなく本来のものであろう。後頭骨鱗部は強く後方に張り出している。上項線の上方には、上項線とほぼ平行に長さ（横径）約6 cm、幅（矢状径）約1.5 cmの溝状の窪みが存在する（図1-1；2の矢印）。この窪みは、外側では広く浅い窪みとなって、左右のアステリオンに続く。上項線によって囲まれる項面が狭く、外後頭隆起の突出が極めて弱いので、後頸部の筋肉の発達には強くはなかったと思われる。ただし、乳様突起はよく発達していて、内外側方向にも厚い。頬骨

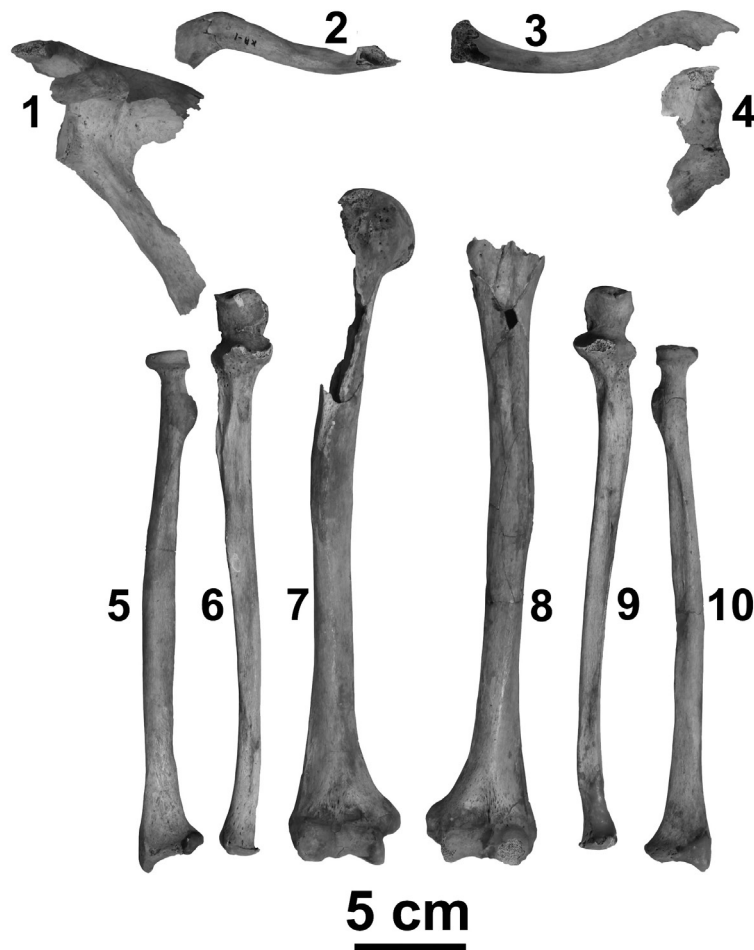


図1-2 KA-1♂の上肢骨。1：右肩甲骨肋骨面、2：右鎖骨上面、3：左鎖骨上面、4：左肩甲骨肋骨面、5：右橈骨前面、6：右尺骨前面、7：右上腕骨前面、8：左上腕骨前面、9：左尺骨前面、10：左橈骨前面。

弓は細いが外湾が顕著である。

側頭骨の下顎窩は、左右共に前方部分が荒れて多孔性となり、関節結節が低い。対応する下顎頭の関節面も左右ともに荒れて多孔性であり、変形性顎関節症の状態である。

前面観では、脳頭蓋上部の大きさに比べて、顔面、特に下顎骨は小さい印象を与える。それは、頭頂結節近くに最大幅計測点があって脳頭蓋上部が外側に張り出しているのに対し、脳頭蓋側壁の幅が下方ほど減少し、両耳幅が非常に狭いためである。

眉間および眉弓は、ほとんど膨隆していない。眼窩上三角は細いが、眼窩上縁の厚みはある。鼻根部の陥凹は深くないが、鼻骨は隆起し、上部の断面はかまぼこ形である。眼窩は四辺が直線的で横長の長方形を呈し（眼窩示数82.9の中眼窩）、外側にむかってやや傾斜している。顔高および上顔高は、一般に縄文人では現代人に比べ低いですが、当個体ではさらに低い（109mm、61mm）。頬骨弓幅（133mm）は現代人とほぼ等しいので、コルマン顔示数は82.0で広顔、コルマン上顔示数は45.9で広上顔に分類される。

下顎骨は頭蓋全体の大きさの割に極めて小さい。下顎底は直線的であり、縁隆起が発達し、後方の後縁結節に続いている。外側隆起は発達し、後縁結節と融合している。下顎体の高さは低く、前方から後方に向かってほとんど変化しない。オトガイ三角は狭く、オトガイ隆起と左右のオトガイ結節の3つの隆起が融合し突出している。オトガイ三角の両側に深くえぐれた横方向の溝があり、外側へ続

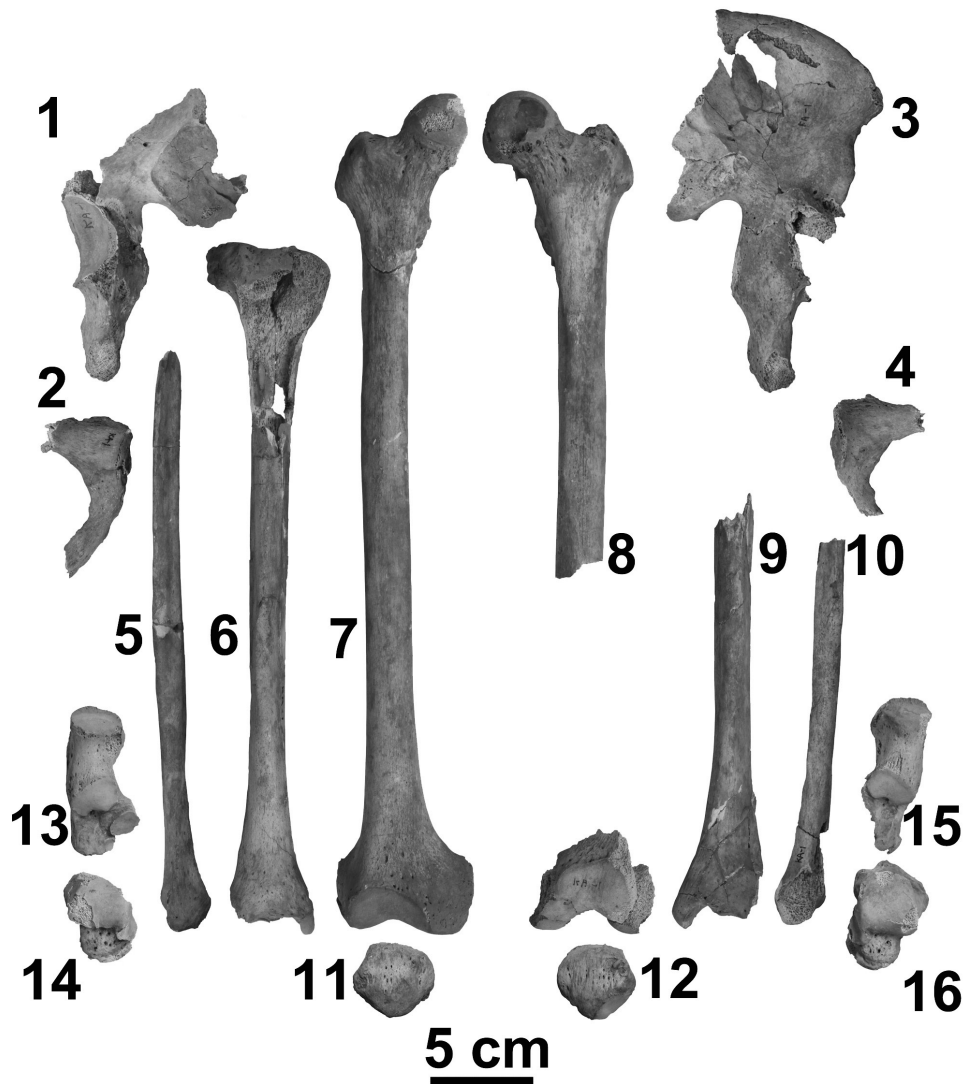


図1-3 KA-1♂の下肢骨。1：右寛骨内面、2：右恥骨前面、3：左寛骨内面、4：左恥骨前面、5：右腓骨内側面、6：右脛骨前面、7：右大腿骨前面、8：左大腿骨前面、9：左脛骨前面、10：左腓骨内側面、11：右膝蓋骨前面、12：左膝蓋骨前面、13：右踵骨上面、14：右距骨上面、15：左踵骨上面、16：左距骨上面。

いて次第に深さを減じてオトガイ孔にまで至る。咬筋粗面と翼突筋粗面のレリーフは強い。下顎枝は高さの割に幅が広い。下顎枝角は112で縄文人としては小さい。筋突起は発達し、その前縁が前方へ、また外側方へ向かって張り出している。内側を裏打ちする内突起稜はよく発達している。側頭線の前頭部が顕著に発達していたことを考えあわせると、側頭筋の前部が強力だったと思われる。

歯

上顎左大白歯3本は生前に脱落しており、歯槽は閉鎖している。そのため、下顎左大白歯の咬耗は進んでいない。上顎右側はP2からM3にかけて下方に凸に湾曲し、咬合する下顎右側はM1からM3にかけて凹に湾曲している（図2）。さらに、上顎大白歯は外側より内側の摩耗が顕著に進んでいて、これと咬合する下顎大白歯は逆に内側よりも外側の摩耗が顕著に進んでいるため咬合面は内側から外側にかけて斜めになっている。すなわち、上・下顎歯で鈴木（1950）のいう「鞍状摩耗」に似た状態が形成されている。鈴木（1950）の定義では下顎歯が内外方向に凸になっている状態も含めて鞍状摩耗と呼んでいるので、本例とは若干の違いがある。

しかし、鈴木（1950）が定義した平坂人のP2とM1の咬合面が内外方向に凸になっているのは、

表2 栃原岩陰遺跡出土人骨の歯の状態

		右								左							
		M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3
KA-1 人骨 ♂	上顎	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●
	下顎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
KA-2 人骨 ♂	上顎	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	●	●	—	—	—
	下顎	△	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
KA-4 人骨 ♀	上顎	—	—	—	●	●	○	○	○	○	○	○	●	○	—	—	—
	下顎	○	△	○	○	—	—	●	●	●	●	●	●	●	○	△	—
KA-7 人骨 ♀	上顎	○	○	△	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	下顎	—	—	—	—	—	○	△	△	△	△	○	△	●	●	●	○
KA-8 人骨 ♂	上顎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	下顎	—	○	○	●	○	●	●	●	●	○	△	○	○	●	●	△
KA-9 人骨 ♂	上顎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○
	下顎	○	○	○	○	—	△	●	●	●	●	△	●	—	●	○	○
KA-10 人骨 ♀	上顎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	下顎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	●	●	○	○

○：存在，△：死後脱落（歯はなく歯槽あり），●：生前脱落，—：不明

歯冠エナメル質が全く残っていないためである。内外的に山型になっている摩耗は歯冠のエナメル質がすべて失われると出現する現象で咬耗の激しい縄文時代人の切歯では普通に山型の摩耗が見られる。栃原人骨の場合は下顎の対応歯の内側にはまだ歯冠エナメル質が残っており、山型になっていない。咬耗が進めば同じ状態になると予測され、栃原人骨のこの状態を「鞍状摩耗」と呼んでも差し支えないだろう。下顎右M3の歯髓腔は開放している。この歯には通常の咬合面だけでなく頬側面にも摩耗した面があり方向の異なる2つの面の磨耗面を持つ（図3）。そのような変則的な磨耗が起こった機序は次のように推測される。まず、歯冠が咬合面から2/3ほど失われるまで咬耗が進み、次に歯が舌側に大きく（60°ほど）傾いて、残っていた歯冠の頬側部分が半分ほど失われるまで咬耗が進むとこのような形状になる。本来の歯冠咬合面および新たに形成された頬側部の磨耗面の境は鋭い稜を形成しており、この歯の傾斜が急激に起こったことを示している。その原因は、下顎右M2の歯根嚢胞がM3歯槽部に拡大し、M3がぐらついて急激に傾斜したためと考えられる。歯冠が割れて新たな磨耗面が形成された可能性もある。上顎切

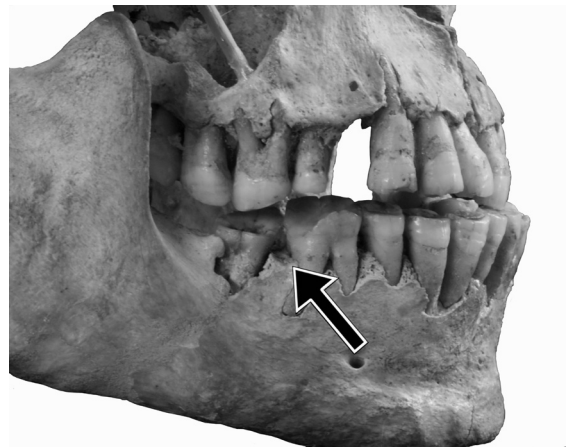


図2 KA-1♂の右臼歯部にみられる数歯にわたる鞍状磨耗（矢印）。上顎歯がP2からM3にかけて下方に凸の、一方、下顎歯はM1からM3にかけて下方に凹の磨耗をしている。

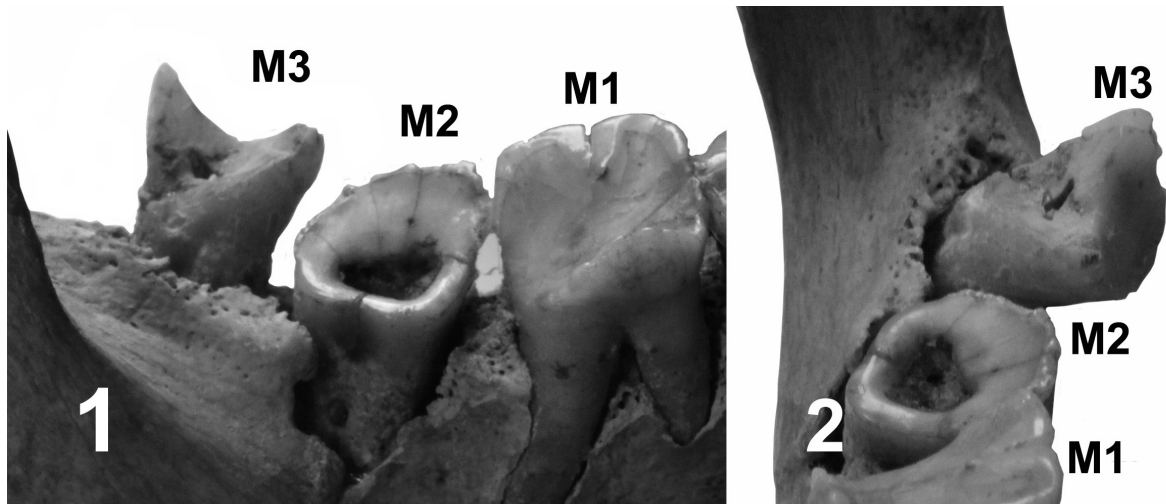


図3 KA-1♂の下顎右第3大臼歯に見られる2つの面を持った摩耗。1：頬側面から、2：前方（近心）のやや上方から。

歯の歯冠歯頸部ならびに歯根歯頸部の唇側には沈着した歯石がわずかに残っており、生前にはこの部分全面に歯石がついていたことを示している。

咬耗は、上顎前歯部がBroca（1875）の2～3度、下顎前歯部が3度、上下の大臼歯が3～4度である。

体幹骨

椎骨は残っているが、完形のものはない。下位頸椎の椎体縁には加齢変化の骨棘が形成されている。腰椎の椎体にも顕著ではないが骨棘がみられる。また、胸椎の椎体の上下縁は肥厚している。さほど若い個体ではない。

上肢骨

鎖骨は細くて短い、筋や靭帯の付着面は明瞭である。胸骨端はやや多孔性の外観を呈し、関節面は下面外側へ伸びている。肩甲骨は左右とも関節窩の辺縁にリッピングがみられる。上腕骨は細いが、結節稜や三角筋粗面などの筋付着部は発達しており、骨体中央部は、外側前方に凸に湾曲している。滑車後面には左右とも関節症が見られ、右で顕著である。橈骨、尺骨ともに左がやや長く、橈骨頭は右が大きい。橈骨粗面は内側部が強く張り出しており、左がやや大きい。肘頭には左右とも腱・靭帯付着部症の痕跡が見られ、右で顕著である。

下肢骨

寛骨の骨質はしっかりしているが、保存されている部分は少ない。大きさは中程度だが、全体に薄く、華奢である。腸骨稜結節は前後に二分した突出部を形成し、腸骨の外面で緩やかな臼稜隆起に続いている。腸骨の内面（腸骨窩）は深い。前縁の腸腰筋溝も深く、股関節を曲げる腸腰筋が発達していたと考えられる。大坐骨切痕は鋭角で狭く、男性的である。また、恥骨下枝は平坦で稜を形成しておらず、下枝そのものは外側に向かって凸で、男性的である。恥骨結合面には、平行隆線はないが、背側縁に結節状の骨の高まりが2つほどあり、下端部も明瞭で、年齢は30代前半の壮年に相当する。

大腿骨は長さに対してやや細い。殿筋粗面は明瞭だが幅が狭く、殿筋隆起の外側への張り出しは弱い。左右とも明瞭なアレン頸窩が形成されている。後面の粗線は強く隆起しており、典型的な付け柱状である。骨体下部では粗線外側唇の突出が目立つ。大腿骨下端の関節面辺縁部や膝蓋骨の関節面辺縁、ならびに脛骨の上関節面辺縁には軽度のリッピングが見られる。膝蓋骨には、大きくはないが広筋切痕が存在する。脛骨は前湾がやや強く、骨幹は上端近くまで幅が小さい。後面の鉛直線が発達し

表3 栃原岩陰遺跡出土男性人骨の頭蓋骨計測値と比較資料

Martin No.	計測項目	栃原岩陰遺跡		妙音寺脚穴遺跡		平坂貝塚		大谷寺岩陰遺跡		夫婦岩遺跡		城ノ台南貝塚		磯山城遺跡		上黒岩遺跡		縄文時代人		港川遺跡		現代		
		KA-1	KA-2	KA-9	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	細文早期	1号♂	♂平均値	1号♂
1	頭蓋最大長	186	180	170	180.0	175	178.5	175	175	179	179	187	187	183*	182.8	176	183.6	182.8	182.8	182	178.9	178.9	6.55	
3	クラベロラムダ長	181	171	167	175.5	169	169	169	169	105	105			177*		97				175	174.8	174.8	6.14	
5	頭蓋底長	100			107.5															101	100.7	100.7	4.25	
7	大後頭孔長	34			33.1															35	35.0	35.0	2.15	
8	脳頭蓋最大幅	144	128	135	141.5	136	136	139	139	139	139	140	140	147	143.4	142.5	143.4	145.1	148	148	148	140.3	5.23	
9	最小前頭幅	93			89	106*	106*	100	100	100	100	94	94	101	101.4	101	101.4	98.0	93.2	114	115.9	115.9	4.69	
10	最大前頭幅	124			107	115.0	112	128	128	118	118	118	118	126*	122.2	122.2	122.2	122.2	114	114	114	115.9	5.06	
11	両耳幅	115	115	115	120.5	118.5	118.5	120.5	120.5	125	125	118	118	131	134.8	127.7	134.8	127.7	128	128	128	124.9	4.98	
12	最大後頭幅	108	110	107	108.5	101	101	108.5	108.5	140	140	108	108	113					115	115	115	108.4	4.27	
17	バジオンブレグラマ高	140*			136.5									130	134	134			134	134	134	138.1	4.68	
20	耳ブレグラマ高	118	117	125	113.9	111	111	117	117	114	114	114	114	113	113.6	113.6	113.6	113.9	114	114	114	118.1	4.40	
23	水平周	525	505	514.0	514.0	495*	495*	514.0	514.0	515	515	515	515	523.1	523.1	512	509.0	523.1	523	523	523	513.7	15.00	
24	横弧長	328	316	303	315.0	307	307	315.0	315.0	312	312	312	312	321	319.8	313	319.8	318.2	303	303	303	324.4	10.70	
25	正中央弧長	387			362.0										388	371	388	371.9	358	358	358	371.7	11.58	
40	顔長	94			104.0									113.3	110.4	97	110.3	102.0	102	102	102	97.6	5.46	
43	上顔幅	102			103.7					111	111	111	111	145*	140.4	139	142.5	140.4	144	144	144	132.9	4.10	
45	額骨弓幅	133			128*																		5.75	
46	中顔幅	90*			95.1																		6.84	
47	顔高	109			107.7					107	107	107	107	105	105	105			107	107	107	123.8	6.84	
48	上顔高	61			65.7					61	61	61	61	61	64.8	61	64.8	68.5	63	63	63	70.7	4.21	
51	眼窩幅	41			39.5					41	41	41	41	42	42.3	42	42.3	41.9	46	46	46	42.7	1.74	
52	眼窩高	34			31.4					34	34	34	34	30	33.3	30	33.3	33.0	30	30	30	34.3	1.78	
54	鼻橋	22			23.6					22	22	22	22	28	27.0	28	27.0	26.0	26*	26*	26*	25.0	1.85	
55	鼻高	46			47.5					46	46	46	46	46	45.0	46	45.0	48.8	49	49	49	52.0	3.17	
65	関節突起幅	115*			121.3									130	122	122	127.0	125.2	131	131	131	122.0	6.50	
66	下顎角幅	90	93	64	91.8	98	98	91.8	98	69	69	69	69	75	70.5	70.5	74.5	74.5	75	75	75	96.9	6.42	
68	下顎長	28	31		32.6*					31	31	31	31	29	29.9	29	29.9	33.0	31	31	31	36.1	3.41	
69(1)	下顎体高	28	29		30.5*					31	31	31	31	28.3	28.3	28.3	31.2	31.2	31.2	31.2	31.2	36.1	3.41	
69(3)	下顎体厚	11	10		11.9					13	13	13	13	12	12.9	12	12.9	13.7	58	58	58	62.6	5.41	
70	下顎枝高	58	52		56.9	57	57	56.9	57	57	57	57	57	64	62.5	58	62.5	62.9	62.9	62.9	62.9	62.6	5.41	
70(1)	筋突起高	57	57		36.6					37	37	37	37	37	33.5	33.5	34.3	36.2	33	33	33	38.1	3.52	
71	下顎枝幅	34	34		36.6					35	35	35	35	37	32.1	32.1	32.1	32.1	33	33	33	38.1	3.52	
79	下顎枝角	112	120	124	119.8									123	121.5	121.5	121.6	121.6	121.6	121.6	121.6	127.7	8.49	
8/1	頭蓋長幅示数	77.4	71.1	79.4	78.6	76.2	76.2	79.43	79.43	77.7	77.7	74.9	74.9	80.8*	79.5	81.3	78.3	79.5	81.3	81.3	81.3	78.5	3.93	
9/8	横前頭頂示数	64.6		65.9	65.9	77.9	77.9	71.94	71.94	71.9	71.9	67.1	67.1	68.7	67.4	67.4	70.7	67.4	60.1	60.1	60.1	66.4	3.42	
9/10	横前頭示数	75.0			81.1	94.6	94.6	78.13	78.13	84.7	84.7	81.5	81.5	80.2*	79.4	79.4	79.4	79.4	78.1	78.1	78.1	66.4	3.42	
17/1	頭蓋長高示数	75.3*			75.8					78.2	78.2	78.2	78.2	71.4*	76.1	76.1	75.5	75.5	73.6	73.6	73.6	77.3	3.28	
17/8	頭蓋幅高示数	97.2*			96.5					100.7	100.7	100.7	100.7	93.7	93.7	93.7	93.7	93.7	90.5	90.5	90.5	98.6	4.16	
20/1	頭蓋長耳ブレグラマ高示数	63.4	65.0	73.5	63.3	62.2	62.2	66.9	66.9	63.7	63.7	63.7	63.7	62.1*	62.1	62.1	62.6	62.6	62.6	62.6	62.6	66.1	2.83	
20/8	頭蓋幅耳ブレグラマ高示数	81.9	91.4	92.6	80.5	81.6	81.6	84.2	84.2	82.0	82.0	82.0	82.0	76.9	79.3	79.3	78.9	78.9	77.0	77.0	77.0	84.2	3.43	
47/45	コルマン上顔示数	82.0			84.1																		93.1	5.51
48/45	コルマン上顔示数	45.9			51.3					51.3	51.3	51.3	51.3	45.3	45.6	45.3	45.6	49.4	43.8	43.8	43.8	53.3	3.34	
52/51	眼窩示数	82.9			79.5					79.5	79.5	79.5	79.5	71.4	77.0	77.0	78.6	78.6	65.2	65.2	65.2	80.4	4.61	
54/55	鼻示数	47.8			49.7					49.7	49.7	49.7	49.7	61.8	61.8	61.8	61.8	61.8	53.1*	53.1*	53.1*	48.4	4.25	
71/70	下顎枝示数	58.6	65.4		64.3									66.1	58.0	60.7	60.7	58.1	58.1	56.9	56.9	53.1	5.67	

(単位は mm, *は推定値)

ているので、中央付近の断面は菱形で、ヘリチカのIV型を示す。遠位関節面前縁は深く陥凹しており、習慣的に蹲踞姿勢をとっていたと思われる。腓骨は、骨幹の前後径も比較的大きく、前縁、後縁、骨間縁はいずれも良く発達しているが、槌状腓骨ではない。距骨で、内側蹲踞面が前方に伸展し、森本(1981)のC型にあたる滑車内側蹲踞面(馬場1970)がみられる。第一中足骨にハリスの線が観察される(図4)。

表4 栃原岩陰遺跡出土人骨の肩甲骨の計測値と比較資料

計測項目	栃原岩陰遺跡				縄文時代人				港川遺跡		関東地方人				
	縄文早期				早前期 (平均)		中後晩期 (平均)		更新世		現代				
	KA-1	KA-2	KA-7	KA-10	小片, 1981				Baba・Endo, 1982		高野, 1958a				
	♂	♂	♀	♀	♂	♀	♂	♀	1号♂	3号♀	♂	σ	♀	σ	
11	烏口突起最大長	40.7		36.2*	33.0*					44		42.4	3.39	39.2	3.01
12	関節窩長	36.1		32.4		38.0	30.7	37.4	36.0	38	32	34.8	2.53	30.7	2.23
13	関節窩幅	25.7*		24.4	23.0	25.5	23.3	30.3	24.9	26	21	25.3	2.43	22.3	1.86
13-01	肩峰関節窩距離	21.5	20.0	18.0	19.5							16.4	1.47	16.0	1.41
14	関節窩深	4.5		3.3						5	4	4.2	0.86	3.4	0.87

(単位はmm, *は推定値)

比較資料は左右側がある場合は左側を、ない場合は右側を用いた。左に欠損値が多い場合は右を用いている場合もある(表11まで同じ)。

表5 栃原岩陰遺跡出土人骨の鎖骨の計測値と比較資料

計測項目	栃原岩陰遺跡		妙音字洞 穴遺跡		縄文時代人				港川遺跡				関東地方人			
	縄文早期		縄文早期		早前期		中後晩期		更新世				現代			
	KA-1	KA-10	馬場ほか, 1999		小片, 1981				Baba・Endo, 1982				高野, 1958b			
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	1号♂	2号♀	3号♀	4号♀	♂	σ	♀	σ
1	鎖骨最大長	132*	120	146.0	137.5	125.5	149.4	131.9	122*		112		142.3	9.93	131.8	9.39
2	骨体弯曲高	8	6						8		7		10.6	2.46	9.0	2.59
2a	骨体弯曲全高	26	21.5						22*		23		30.4	3.44	27.1	3.02
2a/1	鎖骨弯曲示数		17.9						18*		20.5		21.5	2.04	20.2	2.18
3	骨体弯曲弦長	100	81.5						80*		81		100.6	7.50	93.4	8.40
4	中央垂直径		6.9						9.5	8	9	7	9.1	1.56	8.5	1.28
5	中央矢状径		9.8						10.5	10	10	11	12.2	1.62	10.7	1.58
4/5	中央断面示数		70.3						90.5	80.0	90.0	63.6	82.4	13.35	79.7	14.15
6	中央周	31	28	33.0	36.4	31.3	40.6	32.6	33	29	31	31	37.6	4.20	33.0	3.52
7-04	肩峰端矢状径		20.0						22		17	18*	23.3	3.61	21.8	2.86
7-02	胸骨端矢状径	20.5	18.3						22*	18	21		21.8	3.30	19.4	2.71

(単位はmm, *は推定値)

藤井(1960)の推定式を用いた推定身長(大腿骨と脛骨による平均値)は162.0cmである。平本(1972)の報告している縄文人男性の値159.11cmよりやや大きい。

2) KA-2 人骨

保存状態は非常によいが、顔面下半部が失われている。身長がやや高い個体である。

頭蓋

頭蓋最大長は180mm、最大幅は128mm、頭蓋長幅示数は71.1で、長頭に属する。頭蓋冠の骨は薄い。外板では矢状縫合が閉鎖しており、内板では矢状縫合とラムダ縫合の大部分が閉鎖している。側頭線は明瞭で、低く長い。前頭骨部では稜を形成し、後方はラムダ縫合に達している。後頭骨の後方への突出は弱く、外後頭隆起の突出もない。上項線の直上には、左右アステリオンを結ぶように、弧状の浅い溝が認められるが、KA-1のように明瞭ではない。乳様突起は比較的大きい。頬骨弓は細い。顔面は、上顎骨の破損が著しいので、全形はわからない。眉間から眉弓内側部は強く突出しているが、鼻根部の陥凹は強くない。鼻骨はわずかしか残っていないが、湾曲が強く、かまぼこ形である。眼窩上三角は幅広く、外側上前方に反り返るように発達している。そのため、眼窩上縁は比較的鋭く、KA-1より直線的である。上顎歯槽部の前方部分は保存されていて右I1, I2, C, P1と左I1, I2, Cが植立している。右P2および左P1より遠心の歯槽は閉鎖している。

表6 栃原岩陰遺跡出土人骨の上腕骨の計測値と比較資料

計測項目	栃原岩陰遺跡		妙音字洞穴遺跡		湯倉洞窟遺跡		上黒岩岩陰遺跡		縄文時代人		港川遺跡		関東地方人					
	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	早期	中後晚期	更新世	現代	現代	現代				
KA-1	KA-2	KA-4	KA-7	馬場ほか, 1999	馬場ほか, 1986	森本ほか, 1986	中橋, 2009	小片, 1981	Baba・Endo, 1982	西原, 1953								
計測項目	♂	♂	♀	♂(右)	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
1 上腕骨最大長	297*	302	273*	285.6	290	269.5	289.0	271.2	291.1	272.0	287	261	275*	282*	293.29	16.60	269.95	15.48
4 下端幅	51.2	55.0	53.5	46	53.0	20	18.4	54.8	50.6	57.2	56	47*			58.83	3.72	49.82	3.01
5 中央最大径	21.4	22.4	17.74	17.2	18	20	20.8	20.8	18.6	24.4	21.0	16	20	20	22.07	1.95	19.44	1.75
6 中央最小径	14.4	15.3	13.46	13.4	13	14.5	14.7	13.9	13.9	18.1	15.2	13	12.5	14	17.66	1.630	14.61	1.17
6/5 骨体横断示数	67.3	68.5	75.9	78.1	72.2	72.5	70.6	75.0	74.2	73.1	75.6	76.5	78.1	70.0	80.12	4.87	75.40	5.73
7a 中央周	58	62	51	60.8	51	59	61.6	55.0	71.0	60.7	59	49	48	58	65.24	5.16	56.38	4.31

(単位は mm, * は推定値)

表7 栃原岩陰遺跡出土人骨の橈骨の計測値と比較資料

計測項目	栃原岩陰遺跡		妙音寺洞穴遺跡		上黒岩岩陰遺跡		縄文時代人		港川遺跡		関東地方人						
	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	早期	中後晚期	更新世	現代	現代	現代						
KA1	KA-2	KA-8	KA-4	KA-7	KA-10	馬場ほか, 1999	中橋, 2009	小片, 1981	Baba・Endo, 1982	蝦名, 1951a							
計測項目	♂	♂	♀	♀	♀	♂(右)	♂	♀	♂	♀	♂	♀					
1 最大長	234		206	225.0	219	198.5	237.5	209.4	230.9	212.4	215	198*	213*	223.68	9.99	200.28	10.73
4 骨体横径	15.0	14.9	11.4	14.3	12.4	11.8	14.1	13.8	16.5	14.5	17	13		16.48	1.44	14.58	1.10
5 骨体矢状径	10.8	10.7	9.9	10.2	9.9	9.1	11.4	9.9	12.7	10.8	11	9.5		11.66	0.99	9.61	0.72
5/4 骨体断面示数	71.9			68.6	66.7	72.5	80.8	72.5	76.2	72.0	64.7	73.1		71.03	5.77	66.06	4.95
4a 骨体中央横径	14.9		11.6	13.3	14	13.3	14.0	13.6	16.0	13.9	15	12	12	15.64	1.48	13.94	1.31
5a 骨体中央矢状径	10.8		9.1	10.1	10	9.7	11.0	9.9	13.1	10.3	11	9.5	10.5	12.19	0.88	10.03	0.75
5(5) 骨体中央周	41.5		33	36			40.0	37.1	47.7	39.7	44	34	35	43.41	3.38	37.14	2.96
5(6) 下端幅	29.8		26.5	30.9			30.2	27.6	32.4	27.8	31	28	27.5	33.34	2.21	28.67	1.44

(単位は mm, * は推定値)

表8 栃原岩陰遺跡出土人骨の尺骨の計測値と比較資料

計測項目	栃原岩陰遺跡		妙音寺 洞穴遺跡		上黒岩岩陰遺跡		縄文時代人		港川遺跡		関東地方人								
	縄文早期		縄文早期		縄文早期		早前期		中後晩期		現代								
	KA-1	KA-2 KA-8 KA-4	縄文早期	馬場ほか, 1999	縄文早期	中橋, 2009	小片, 1981	小片, 1981	Baba • Endo, 1982	更新世	蝦名, 1951b								
尺骨最大長	♂ 253.5	♀ 263	♂ 247.5	♂(右)	♂ 241.0	♀ 227.0	♂ 250.5	♀ 230	♂ 255.1	♀ 231.7	1号♂ 230	2号♀ 214	3号♀ 232	4号♀ 230*	♂ 239.97	♀ 216.67	σ 10.11	σ 216.67	σ 11.61
骨体中央矢状径	♂ 12.8	♀ 14.0	♂ 12.5	♂(右)	♂ 11	♀ 11.3	♂ 13.7	♀ 12.6	♂ 14.7	♀ 12.6	♂ 13	♀ 14	♂ 13	♀ 13	♂ 12.98	♀ 10.59	σ 1.19	σ 10.59	σ 0.71
骨体横径	♂ 13.3	♀ 15.0	♂ 13.0	♂(右)	♂ 14	♀ 14.3	♂ 13.9	♀ 13.2	♂ 15.9	♀ 14.1	♂ 14	♀ 10	♂ 9	♀ 11	♂ 15.98	♀ 13.66	σ 1.03	σ 13.66	σ 0.91
11/12 骨体横断面示数	♂ 96.6	♀ 95.7	♂ 96.2	♂(右)	♂ 78.6	♀ 79.7	♂ 99.2	♀ 96.4	♂ 93.4	♀ 87.0	♂ 92.9	♀ 140	♂ 144.4	♀ 118.2	♂ 81.38	♀ 6.92	σ 6.92	σ 78.00	σ 6.68
骨体上横径	♂ 19.8	♀ 20.9	♂ 19.2	♂(右)	♂ 19.0	♀ 17.7	♂ 21.2	♀ 18.0	♂ 21.2	♀ 18.0	♂ 18	♀ 15	♂ 17	♀ 17	♂ 20.03	♀ 1.98	σ 1.98	σ 16.91	σ 1.48
骨体上矢状径	♂ 22.5	♀ 23.9	♂ 21.5	♂(右)	♂ 23.0	♀ 21.0	♂ 25.2	♀ 22.4	♂ 25.2	♀ 22.4	♂ 23	♀ 19	♂ 19	♀ 21	♂ 24.83	♀ 1.84	σ 1.84	σ 21.72	σ 1.47

(単位は mm, * は推定値)

表9 栃原岩陰遺跡出土人骨の大腿骨の計測値と比較資料

計測項目	栃原岩陰遺跡		妙音寺 洞穴遺跡		上黒岩岩陰遺跡		縄文時代人		港川遺跡		関東地方人								
	縄文早期		縄文早期		縄文早期		早前期		中後晩期		現代								
	KA-1	KA-2 KA-8 KA-4 KA-6	縄文早期	馬場ほか, 1999	縄文早期	中橋, 2009	小片, 1981	小片, 1981	Baba • Endo, 1982	更新世	大場, 1950								
大腿骨最大長	♂ 425	♀ 438	♂ 386.0	♂(右)	♂ 420.0	♀ 390.0	♂ 405.5	♀ 382.3	♂ 416.9	♀ 392.5	1号♂ 398	2号♀ 360*	3号♀ 385	4号♀ 360	♂ 412.23	♀ 382.56	σ 19.95	σ 382.56	σ 18.34
骨体中央矢状径	♂ 30.7	♀ 26.3	♂ 28.2	♂(右)	♂ 27.5	♀ 24.7	♂ 28.3	♀ 22.3	♂ 30.1	♀ 26.2	♂ 26.5	♀ 21	♂ 24	♀ 21	♂ 27.52	♀ 24.42	σ 2.25	σ 24.42	σ 1.58
骨体中央横径	♂ 23.8	♀ 25.1	♂ 22.1	♂(右)	♂ 23.5	♀ 20.7	♂ 23.6	♀ 22.5	♂ 25.9	♀ 23.8	♂ 26.5	♀ 22	♂ 23.5	♀ 23	♂ 26.60	♀ 2.12	σ 2.12	σ 23.31	σ 1.71
6/7 骨体中央断面示数	♂ 128.7	♀ 104.5	♂ 127.3	♂(右)	♂ 117.2	♀ 120.0	♂ 120.2	♀ 114.5	♂ 116.4	♀ 110.6	♂ 100.0	♀ 95.5	♂ 102.1	♀ 91.3	♂ 103.66	♀ 8.61	σ 8.61	σ 105.45	σ 8.86
8 骨体中央周	♂ 85	♀ 81	♂ 84.0	♂(右)	♂ 81.0	♀ 72.5	♂ 83.4	♀ 76.9	♂ 89.2	♀ 79.8	♂ 83	♀ 69	♂ 75	♀ 71	♂ 83.70	♀ 5.91	σ 5.91	σ 73.68	σ 3.89
9 骨体上横径	♂ 27.9	♀ 30.8	♂ 27.5	♂(右)	♂ 27.5	♀ 25.3	♂ 28.1	♀ 27.2	♂ 30.1	♀ 28.2	♂ 30	♀ 25	♂ 26	♀ 26	♂ 31.10	♀ 2.25	σ 2.25	σ 27.99	σ 1.79
10 骨体上矢状径	♂ 21.8	♀ 20.6	♂ 22.8	♂(右)	♂ 22.5	♀ 20.2	♂ 22.6	♀ 20.9	♂ 25.1	♀ 22.1	♂ 22	♀ 18	♂ 19	♀ 18.5	♂ 25.31	♀ 1.93	σ 1.93	σ 22.23	σ 1.32
10/9 骨体上断面示数 (扁平示数)	♂ 78.1	♀ 67.0	♂ 82.9	♂(右)	♂ 81.8	♀ 79.7	♂ 80.3	♀ 77.1	♂ 83.5	♀ 78.4	♂ 73.3	♀ 72.0	♂ 73.1	♀ 71.2	♂ 81.42	♀ 7.17	σ 7.17	σ 79.91	σ 6.07
17 頸周	♂ 85	♀ 90	♂ 85.0	♂(右)	♂ 92.0	♀ 80.3	♂ 96.1	♀ 84.4	♂ 84.4	♀ 84.4	♂ 85	♀ 74	♂ 75	♀ 75	♂ 97.50	♀ 6.62	σ 6.62	σ 81.98	σ 4.58

(単位は mm, * は推定値)

表10 栃原岩陰遺跡出土人骨の脛骨の計測値と比較資料

計測項目	栃原岩陰遺跡				妙音寺洞穴遺跡		上黒岩岩陰遺跡		縄文時代人		港川遺跡		関東地方人			
	縄文早期				縄文早期		縄文早期		早期		中後晚期		現代			
	KA-1	KA-2	KA-8	KA-4	KA7	馬場ほか, 1999	中橋, 2009	小片, 1981	Baba・Endo, 1982	1号♂	3号♀	4号♀	♂ 平均値	♀ 平均値	σ	
1	355	312*	335*	322*	332.0	342	315.3	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	298	297*	323.37	15.45	300.15	16.25
1a	365	360*	307*	345*	336.0	346	320.8	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	307	301*	327.88	14.62	303.40	15.98
8	31.8	31.2	28.2	28.8	26.2	27	26.0	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	25	23	29.00	2.13	25.79	1.96
9	19.5	18.7	16.9	17.6	19.2	19	17.5	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	17	16	22.29	1.73	20.37	1.73
9/8	61.3	59.9	60.0	61.0	73.3	70.4	67.5	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	68	69.6	78.04	7.65	79.38	6.72
8a	34.7	35.0	31.6	31.7	29.4	32	28.5	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	28	26	31.63	2.64	29.18	2.27
9a	19.6	19.0	18.3	19.5	20.3	20	18.0	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	19	18	24.78	2.29	22.19	1.87
9a/8a	56.5	54.3	57.9	61.4	60.9	62.5	63.2	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	67.9	67.2	75.90	7.48	75.94	5.96
10	82	80	72	76.5	75	73	71.8	♂ 平均値	♂ 平均値	♀ 平均値	77	70	79.30	4.97	71.12	4.82

(単位はmm, *は推定値)

表11 栃原岩陰遺跡出土人骨の腓骨の計測値と比較資料

計測項目	栃原岩陰遺跡		妙音寺洞穴遺跡		上黒岩岩陰遺跡		縄文時代人		港川遺跡		関東地方人					
	縄文早期		縄文早期		縄文早期		早期		中後晚期		現代					
	KA-1	KA-8	KA-4	KA-4	KA7	馬場ほか, 1999	中橋, 2009	小片, 1981	Baba・Endo, 1982	1号♂	3号♀	4号♀	♂ 平均値	♀ 平均値	σ	
1	295	295	12.7	12.7	14	14.0	319.0	303.3	339.9	313.4	315*	292	322.62	14.88	301.05	16.25
2	12.7	8.5	8.5	9.9	10	9.0	15.3	13.4	16.9	14.2	16	13*	14.41	1.42	13.13	1.17
3	67.0	36	37.5	30	35	29.0	77.1	72.8	70.0	72.3	71.9*	71.4	10.66	1.04	9.44	0.88
3/2	36	25	36	30	35	29.0	42.5	40.0	49.2	42.6	46	41	73.62	8.26	71.68	8.82
4	18.0	18.0	17.5	17.0	18.0	17.5	46.8	40.0	49.2	42.6	33	29	42.69	3.11	38.22	3.11
4a	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	10.4*	10.4*	9.9	10.4*	10.4*	9.9	37.09	3.54	33.7	3.31
4(2)	18.0	18.0	17.5	17.0	18.0	17.5	17	17	17	20.08	1.50	17.01	20.08	1.50	17.01	1.44

(単位はmm, *は推定値)

下顎骨は小さい。下顎底近くには広頸筋の走行に沿う多数の稜が顕著で、広頸筋が発達していたことが推測される。咬筋粗面に続く咬筋窩は広く、前方で深い凹みを形成し、外側隆起に至る。内面では、翼突筋線の隆起が顕著である。下顎枝は低く、幅広で、筋突起は発達しており、前縁は前方に丸く突出する。下顎枝角は120°と縄文時代人としては普通である。

歯

上顎大臼歯部は、生前に失われている。歯の咬耗は、切歯から小臼歯部と、後方の大臼歯部とで全く異なっている。前方では上下の歯が互いに強く咬耗しているが、後方では下顎大臼歯の咬耗がほとんど進んでいない。残っている部分では小臼歯は脱落し、歯槽は閉鎖しており、下顎大臼歯の咬耗が他と比べて極端に少なくエナメル質も残っている（Brocaの3～4度）ので、上顎大臼歯は早期に脱落していたと推測される。下顎切歯は失われているが、歯槽が残っているので、少なくとも歯根が残っていた可能性がある。下顎CとP1、P2は、咬耗が著しく進み（Brocaの4）、歯冠のほとんどが失われていて、第2象牙質が形成されている。これに対して、上顎左右I1、I2とCでは歯冠の半分ほどが残り、左P1は脱落、右P1は咬耗が顕著で歯冠のほとんどが摩滅している。上顎犬歯の磨耗は水平だが、それより遠心の左右P1では、歯冠の遠心部が後方の歯頰に向かって斜めに磨耗している。上顎の4本の切歯および左右の犬歯には、数本の明瞭な線状のエナメル質減形成がある。現代人の歯冠エナメル質の石灰化時期に当てはめると、2～4歳に相当する時期に形成されたものである（Shour and Massler,1941）。左右とも下顎P1は歯髓腔が露出したことにより細菌感染を起こしたと思われる、膿瘍の痕跡がみられる。

体幹骨

頸椎の椎体の後縦靱帯が付く後面は多孔性に荒れている。胸椎の椎体の一部に辺縁の肥厚が、また、腰椎の椎体に骨棘の形成がみられるものがあるが、多くの椎体には骨棘の形成はない。

上肢骨

鎖骨は骨体が上下に扁平である。筋レリーフは弱いが、三角筋の付着部のレリーフは明瞭である。上腕骨では大胸筋が付く大結節稜や三角筋の着く三角筋粗面はよく発達している。長さはKA-1とほぼ同じである。尺骨は湾曲が強く、骨間縁がよく発達しているが細い。右橈骨の橈骨粗面は強く張り出しており、特に内側の輪郭が堤状に盛り上がっていて、粗面の中心部は凹んでいる（左は破損）。

下肢骨

大坐骨切痕は鋭角で男性的であり、耳状面は腸骨粗面とほぼ同じ面にある。大腿骨は骨頭部が破損しているが、KA-1との比較から、最大長は438mmと推定された。大腿骨骨幹の前湾は弱く、長さに比して細い。殿筋粗面はよく発達しており、殿筋隆起が外側に張り出しているため、大腿上部の幅は広く、前後に扁平である（扁平示数65.2で超扁平大腿骨に属す）。アレン頸窩は左右とも顕著で境界は明瞭である。後面の粗線は右大腿骨でやや発達しているものの、左右とも付け柱状ではない。脛骨後面の鉛直線は発達しており、断面は菱形でヘリチカのIV型を示す。遠位関節面前縁は深く陥凹しており、蹲踞姿勢を習慣的にとっていたことが推測される。腓骨は頑丈で、前縁、後縁、骨間縁ともに良く発達しており、槌状腓骨である。左腓骨の上部1/4程度の部分に、骨折治癒によると思われる肥厚した部分が見られる。膝蓋骨関節面の周囲のリッピングは軽微である。広筋切痕は存在するがごく弱い。距骨には滑車内側蹲踞面が伸展している森本（1981）のC型の蹲踞面があり、さらに外側には頸粗面も存在する。中足骨にハリスの線と思われるものが観察される（図4）。

藤井（1960）の推定式による推定身長（大腿骨と脛骨による平均値）は163.0cmとなる。この値は縄文時代男性の平均値（159.11cm：平本、1972）よりもかなり大きい。

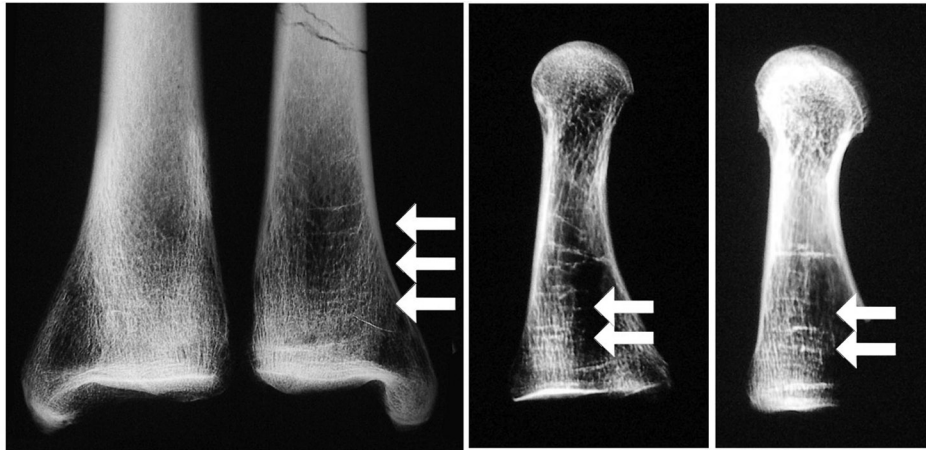


図4 栃原人骨にみられるハリスの線 (矢印)。左：KA-4♀左右脛骨遠位部前面観 (左脛骨のハリスの線は薄い)、中央：KA-7♀の足の第1中足骨、右：KA-8♀の足の第1中足骨。

3) KA-8 人骨

頭蓋では下顎枝のない下顎骨、上肢骨の一部、および下肢骨が出土している。骨の保存状態はよい。

頭蓋

下顎骨は、左右ともM2より後の下顎体から下顎枝の部分が失われている。下顎体は全体的に薄く小さい。オトガイ隆起は下顎底に近い位置で小さく突出している。オトガイ結節が左右に離れて緩い隆起を形成している。その結果、オトガイ三角は通常の三角形ではなく、下顎底に沿う隆起になっている。この

隆起の直上でオトガイ隆起の外側には、KA-1でみられたような溝が存在する (図5)。幅 (上下径) 4 mm、長さ (横径) 15mm、深さ3 mmほどで、オトガイ孔に向かっている。溝の上縁および下縁の境界は明瞭で、上縁は鋭い稜をなしている。この部分は表情筋の付着部であるが、幼児骨であるKA-11の下顎にも同様の特徴がみられることから、表情筋以外の何らかの成因、あるいは遺伝的な影響があると思われる。この溝の浅いものは平坂人骨 (鈴木1950) にも認められる。

歯

下顎の右が3本 (P2、M1、M2)、左は4本 (I2、C、P1、P2) の歯が残っている。咬耗は右M2がBroca (1875) の2度、右P2が1度、左P1、P2が3度で、左I2が4度である。右P1から左I1までの前歯部と、左大白歯2本は生前に失われ、歯槽が閉鎖している。左M3の歯槽がわずかに残っている。右M1、M2の頬側面には歯冠から歯頸部にかけて大きな齲蝕があり、とくにM1では歯冠の大半が失われている。右ではP2もM2も咬耗が少なく、象牙質の露出はないが、左の小白歯は咬耗が進み、象牙質が露出している。左I2は歯根しか残っておらず、その歯根には斜めに、つまり、植立した位置ではほぼ垂直な摩耗面が形成されている (図5)。歯根にある咬耗は白歯の咬合面よりもかなり低い。ふつうの咬合状態では上顎歯は下顎I2の歯根には接触できないので、少なくとも左側歯列では上・下顎歯の脱落など正常な咬合が失われていたと推測される。

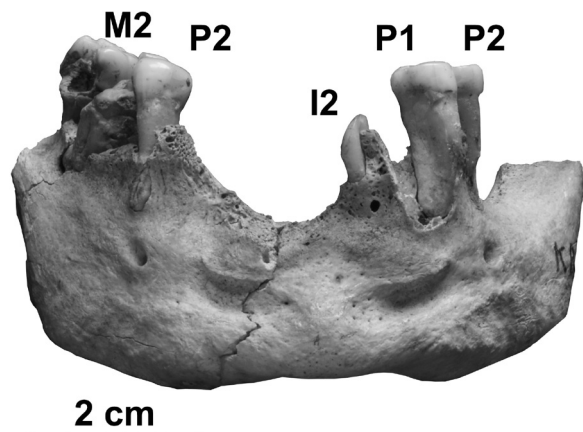


図5 KA-8♀の下顎にみられる溝 (矢印)。成因は不明である。

体幹骨

わずかな肋骨と頸椎1点、尾椎1点、ならびに椎骨の棘突起が1点残っているだけである。

上肢骨

僧帽筋附着部と、三角筋および鎖骨下筋附着部の間に稜が形成され、この部位の垂直径は他の個体と比べて大きい。上腕骨は右の遠位部だけが残っている。骨幹は細いが、外側上顆の発達が良好で、関節部は大きい。橈骨は細くて直線的で短い。尺骨の骨間縁の発達は弱い。茎状突起は大きいだが形が不整で、先端部には小さな骨棘がある。

下肢骨

寛骨の大坐骨切痕は直角に近いが、耳状面は高くない。恥骨下肢は太く男性的な曲線である。

大腿骨の骨幹は細い。顕著なアレン頸窩が形成されている。殿筋隆起は外側に張り出しているため、骨幹上部の扁平性はやや強い(扁平示数75.8)。後面の粗線の発達は強くない。左膝蓋骨の内側関節面に長径10mm、短径5mm程度の楕円形のわずかに凹んで荒れた異常面が観察される。外側の広筋切痕は広く、深い。

脛骨の骨幹の幅は小さいが、鉛直線は顕著で、後面の中央付近の断面は菱形でヘリチカのIV型を示す。遠位関節面前縁は左右ともに深く陥凹し、距骨頸部の対応する部分に頸結節が見られる。腓骨は細い。距骨には滑車内側蹲踞面が前方に伸展する森本(1981)のC型蹲踞面がある。左の距骨は外側の関節面がかなり前方まで伸展している。中足骨にハリスの線が観察される。

藤井(1960)の推定式で計算した推定身長(大腿骨と脛骨による平均値)は148.4cmとなり、平本(1972)の報告している縄文時代男性の平均値159.11cmより11cmほども小さい。

4) KA-9 人骨

顔面の大部分が失われた頭蓋と、わずかな四肢骨だけが出土している。変則的な磨耗を示す個体である。寛骨は出土しておらず、総合的に判定して男性とした。

頭蓋

頭蓋最大長170mm、大幅135mmは、どちらも縄文時代早期人としてはかなり小さく、頭蓋長幅示数79.4は、短頭に近い中頭に属する。耳プレグマ高125mmは縄文時代人としてはかなり大きい。頭蓋冠の骨は薄い。

正中近くの頭頂骨には、指先大の窪みが数多く存在し、外傷性病変の可能性がある。後頭骨鱗部は湾曲が弱く、外後頭隆起も発達しない。側頭線の発達は弱いだが、後方はラムダ縫合に達している。乳様突起は幅広く発達し、さらに乳突部全体が基部から大きく側方に張り出している。眼窩上三角は外側に突出するとともに、前上方に反り返っている。その結果、眼窩上縁は直線的である。左右の下顎窩前半部には軽度の関節症病変が認められる。右下顎頭は健全である(左下顎頭は欠損)。

下顎骨は小さいが、下顎体が非常に厚い印象である。それは、下顎体下部と下顎底に対して、歯列を支えている歯槽部全体(下顎体上部)が舌側に変位しているためである。左右の小白歯部内側に軽度の下顎隆起がみられる。オトガイ隆起は発達しているが、左右のオトガイ結節は発達していない。下顎底前部が下方に凸に湾曲し、さらに広いオトガイ下切痕があるので、軽度のロッカージョウに見えるが、外側結節から後方の下顎底が直線的なので、実際にはスウィングしない。

歯は少数しか植立していないので、歯槽部は全体的に退縮が進んでいる。右P2、M1は、内側から外側に斜めに磨耗し、咬耗が歯根にまで及んでいる。下顎枝は低く、筋突起はKA-2と同様に前方へ張り出している。咬筋窩は狭く、レリーフは弱い。同様に、翼突筋粗面のレリーフも弱い。下顎枝

角はやや大きい。

歯

残存している歯は、どれも咬耗が顕著で、歯冠は歯頸部近くまで失われている。上下顎とも、小白歯の咬耗は Broca (1875) の4度、大白歯の咬耗度は3～4度である。上顎左の小白歯は、外側から内側にかけての山型の磨耗を示す(図6)。上顎左M1は、一般的咬耗とは逆に外側の磨耗が強い。下顎では多くの歯が生前に脱落している。下顎右P2・M1は歯冠の外側が顕著に磨耗している。鞍状磨耗を呈する平坂人骨(鈴木1950)と似た咬耗である。上顎左P2、M1の根尖部と下顎左M2の頬側根尖部に膿瘍の痕跡がある。

上肢骨

両端の欠けた左鎖骨と胸椎片だけである。鎖骨は細い。

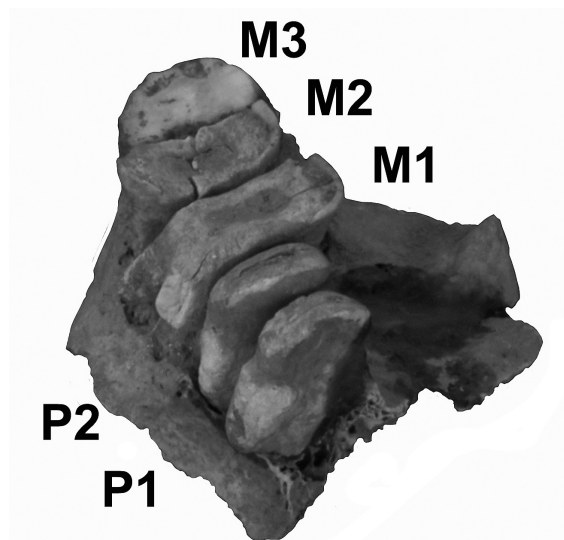


図6 KA-9♂上顎小白歯にみられる頬舌方向の山型の磨耗。上顎の小白歯(P1、P2)は典型的な山型磨耗である。この個体の場合、M1は頬側に、M2は頬側と舌側に、M3は咬合面にエナメル質が残っていて、M1の磨耗は、舌側の方の磨耗が進んでいる鞍状磨耗の減り方とは逆である。大白歯でもさらに磨耗が進み、頬側と舌側の両方のエナメル質が失われると山型磨耗に変わるものと思われる。

2. 成人女性人骨の形態

女性人骨はKA-4、KA-6、KA-7、KA-10の4体である。顔面上部と脳頭蓋があるのはKA-4、KA-7の2体で、KA-6とKA-10は頭蓋を欠く。KA-4とKA-10は壮年～熟年、KA-7は壮年、KA-6は成人と推測される。

1) KA-4 人骨

保存状態はよいが、顔面部の一部は失われている。特殊な歯の磨耗を示す個体である。

頭蓋

頭蓋最大長は184mm、最大幅は129mmで、頭蓋長幅示数は70.1となり、過長頭に近い長頭に属する。縫合は、外板では解放しており、内板では矢状縫合とラムダ縫合が半分ほど閉鎖している。前頭骨中央から後頭骨にかけて、幅3cmから8cmほどの範囲の骨表面に多孔性の変性(porotichyperostosis)が見られる(図7)。側頭線より下方の側頭筋が覆っている部分には、変性は見られない。

前頭骨部分では病変部がわずかに膨隆し、孔がやや大きい。左頭頂骨の後頭角付近に外傷の治癒によるものと思われる凹みが見られる。側頭線は明瞭で、前方では稜を形成し、後方はラムダ縫合の直前に至る。後頭骨の湾曲は小さい。外後頭隆起は中程度の発達で、その直上には、KA-1にみられた左右アステリオンを結ぶ弧状の浅い窪みがある。乳様突起は小さい。眉間や眉弓の発達は弱く、鼻根は窪まない。鼻骨は湾曲が弱く、眉間から鼻骨に至る部分は、縄文時代人としては例外的に平坦である。眼窩上縁は直線的である。

下顎骨は比較的大きく、下顎長(75mm)は早期人女性としてはもっとも大きな部類に入る。下顎底はほぼ平らで、浅い角前切痕がある。オトガイ隆起は強く突出するが、左右のオトガイ結節は発達していない。咬筋粗面のレリーフは明瞭であり、内側の翼突筋粗面にも顕著な凹凸が見られる。下顎枝は低い幅は広く、KA-1やKA-2♀の下顎骨ほどではないが筋突起の前縁が前方に張り出している。

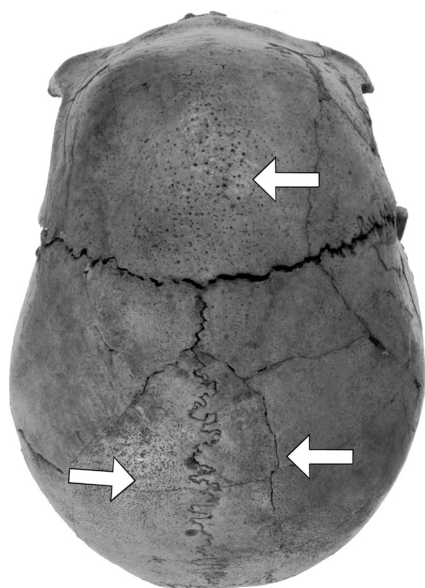


図7 KA-4♀の頭蓋冠にみられる病変。上方が前方。前頭骨から後頭骨鱗部にかけて多数の小孔 (porotic hyperostosis) が観察される。

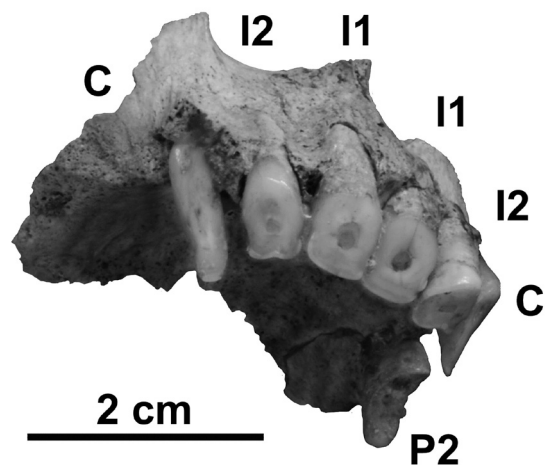


図8 KA-4♀の上顎前歯部の摩耗。上方に向かって舌側（内側）から唇側（外側）に傾斜をしており、犬歯は鋭く尖っている。いずれも第2象牙質が形成されておりゆっくりした摩耗によることがわかる。

下顎頭は左右ともやや変形し多孔性の部分がある。顎関節症による変化であろう。右P1から左P2までの前歯部では、歯が生前に脱落し、歯槽が吸収されている。左M2歯槽は退縮し膿瘍の痕跡がある。

歯

上顎では、切歯・犬歯の咬耗はBroca (1875) の4度である。左小臼歯は歯冠が失われている。下顎では、大臼歯の咬耗は3度で、小臼歯はやはり歯冠が失われている。歯槽骨が残っている部分では、上顎で4本、下顎で7本が生前に脱落している。上顎大臼歯部は左右とも失われているが、これらと噛み合う下顎大臼歯（特に右）の咬耗が少ないことから、上顎大臼歯は生前に脱落していた可能性が高い。

上顎切歯・犬歯は、外側の面が下から上に向かって斜めに磨耗している（図8）。左右犬歯は、さらに側方の面も磨耗していて槍状に細くとなっている。これらの歯にはすべて第2象牙質が形成されている。

下顎切歯は生前に脱落している。I4型の抜歯であるかどうかは不明であるが、他の個体に同様の欠損はないので、風習的抜歯とは考えにくい。上顎左P2と下顎右P2は90度ねじれて植立している。

体幹骨

頸椎には全体にリップリングが顕著である。環椎と軸椎の関節面（環軸関節）の辺縁には顕著なリップリングがみられる。軸椎の歯突起前面は関節が多孔性に荒れており、環軸関節の左側は骨同士が直接接していた痕跡があり、変形性関節症である。

軸椎と下位の第3頸椎との間、第3と第4頸椎の間の関節面はそれぞれ癒合していたと思われるので、上位頸椎は癒合して可動性がなかったと思われる。また、胸椎の椎体にも軽度のリップリングが、また腰椎の椎体には顕著なリップリングが見られるので、この個体はかなりの高齢であろう。

上肢骨

鎖骨は細く、短い。胸骨との関節面は左右とも骨増殖が見られ表面は荒れている。左右ともに

表12 栃原岩陰遺跡出土女性人骨の頭蓋骨計測値と比較資料

Martin No.	栃原岩陰遺跡										湯倉洞穴遺跡		港川遺跡		縄文時代人		関東地方人			
	城ノ台南貝塚		蛇王洞遺跡		上黒岩遺跡		港川遺跡		縄文時代人		湯倉洞穴遺跡		港川遺跡		縄文時代人		関東地方人			
	KA-4	KA-7	KA-10	KA-10	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	縄文早期	2号♀	4号♀	更新世	早・前期	中・後・晚期	小片, 1981	森田, 1950	♀平均値	♂	
1	♀	184	♂	188	♀	180	♀	169	♀	177.3	♂	176	♀	177.1	♂	176.6	♀	170.8	♂	6.78
3		178		178*		137		137		138.0		166		136.8		140.6		166.3		6.45
8		129		131		93		99		92.3		134		91.3		96.6		135.9		5.23
9		93		98*		108		122		114		92		115.7		118.5		91.0		4.27
10		108		108*		111		122		112		114		118.4		123.4		111.6		5.38
11		111		111		108		113		117		117		107.6		109.8		118.8		5.34
20		114						113				117		107.6		109.8		113.8		4.52
23		505						505		506.0		488		502.3		507.4		493.7		14.39
24		302						308		304.3		304		304.7		308.8		313.2		10.56
43		103						103				108*		103.1		106.7		100.1		3.94
65		120						117		118.5				118.8		119.7		115.7		6.17
66		90						96		92.0				91.3		97.5		90.3		4.45
68		75						63		67.2				64.2		70.0				
69(3)		11						15						12.1		12.6				
70		57						55		52.5				52.8		55.7		57.6		4.90
70(1)		57						52						54.2		58.1				
71		32						35		30.0				31.5		34.4		31.1		3.32
79		122						125		125.0				120.4		121.9		131.3		7.87
8/1		70.1						81.1		77.9		80.7		77.3		79.5		79.7		3.88
9/8		72.1						72.3				68.7		66.5		69.0		66.9		3.70
9/10		86.1						78.0				80.7		78.8		81.5		81.5		3.58
20/1		62.0						66.9				70.5		60.9		62.5		66.7		3.13
20/8		88.4						82.5				87.3		78.8		78.1		83.9		3.40
71/70		56.1						64.8		57.3				59.2		61.7		54.1		6.02

(単位はmm, *は推定値)

KA-1同様に関節面が下方外側へ伸びているが、左で顕著である。肩甲骨の関節窩の上部辺縁には軽度の骨増殖がみられる。左関節窩の内側半は上下方向に浅くえぐれており、外側部とは高さが異なる。

上腕骨の最大長はKA-1やKA-2に比べるとやや短い、骨体はやや太い。大胸筋の付着部（大結節稜）は明瞭で、三角筋粗面もやや発達している。三角筋粗面は右側がやや大きい。外側上顆部は多孔性に荒れており、小さな骨棘の形成など骨増殖がある。橈骨の橈骨粗面後縁は強く張り出し、結節上には腱・靭帯付着部症によると思われる不整な形状の骨増殖が見られる。

下肢骨

寛骨（右）では、妊娠痕とされる耳状面傍溝が大きくえぐれている。大坐骨切痕は直角に近く、腸骨粗面に対して耳状面も高い。これらは女性的な特徴である。

大腿骨では、殿筋粗面が発達しており、右側がより発達している。後面の粗線は、付け柱状によく発達している。特に、外側唇の発達が強く、大腿骨の外側顆に向かって明瞭な稜が形成されている。

脛骨は骨幹の幅が非常に小さい。後面の鉛直線も発達が悪く中央付近に達していない。そのため、断面は三角形で、ヘリチカのI型ないしH型を示す。遠位関節面前縁は深く陥凹する。この脛骨の遠位部、ならびに中足骨にハリスの線が観察される（図4）。

腓骨は男性個体と比較すると細いが槌状腓骨であり、断面は丁字型である。膝蓋骨は最大高と比べ最大幅が大きく、広筋切痕も顕著である。距骨には滑車内側蹲踞面が前方に伸展している森本（1981）のC型の蹲踞面がある。

藤井（1960）の推定式に基づいた推定身長（大腿骨と脛骨による平均値）は156.8cmで、平本（1972）の報告している縄文時代女性の平均値148.05cmよりかなり大きい。

2) KA-6 人骨

下肢骨4点、および左右の寛骨、数点の手根骨と指骨が出土している。

下肢骨

寛骨（本来の記載はKA-2だが、出土状況図からはKA-6と考えられる）の大坐骨切痕は直角に近い。耳状面は腸骨粗面に対してやや高く、耳状面の前には妊娠痕と考えられる軽度だが幅の広い耳状面傍溝がある。大腿骨はやや細めである。殿筋粗面の発達は弱く、骨幹上部の扁平度も低い。後面の粗線は、付け柱状に発達している。特に、外側唇がよく発達しており、大腿骨の外側顆に向かって明瞭な稜が形成されている。遠位関節面では、顆間窩辺縁（右）や膝蓋面上縁（左）の肥厚がみられる。

脛骨（左）の骨幹の幅は他の個体同様に小さい。後面の鉛直線は明瞭であるため、中央付近の断面は四角形でヘリチカのIV型を示す。腓骨（右）は細い。中足骨には、ハリスの線が観察される。

3) KA-7 人骨

保存状態はよいが、顔面や、大腿骨は失われている。比較的若い個体にもかかわらず、生前に脱落した歯が多い。

頭蓋

頭蓋最大長は188mmで、縄文時代早期人としてはもっとも大きな部類に属する。最大幅は131mmで、頭蓋長幅示数は69.7となり、過長頭に属する。主要三縫合は内板、外板ともに全て開存している。前額部の立ち上がりは垂直に近い。側頭線は前頭骨では稜を形成し、後方ではラムダ縫合に近接している。乳様突起は小さく、乳突上稜、耳道上稜ともに発達は弱い。左外耳道には開口部の縁全体がすぼまったような骨増殖がみられる。外耳道骨腫の一種であろう（図9）。

後頭骨鱗部はやや後方に張り出している。外後頭隆起の発達は弱い（BrocaのⅡ型）。その直上では、幅2cm、長さ8cmほどの浅い弧状の溝が観察される。眉間および眉弓は緩やかな連続した膨隆部を形成している。鼻根は窪みが弱く、鼻骨の湾曲も弱いため、全体に平坦である。

上顎骨は口蓋のみ残っているが、大部分の歯が生前に脱落したために歯槽部が退縮している。

下顎骨は小さい。右側は犬歯部より後方が失われている。歯槽の吸収が著しく、左P2

～M2部分は下顎体が低い。左右の切歯および犬歯、そして左P1は根尖のみで植立している。下顎枝は非常に低いが、幅は広く、筋突起の前縁は他の個体と同様に前方に向かって強く張り出している。

歯

大部分の歯が生前に脱落して歯槽が閉鎖しているが、残っている歯の咬耗の度合いは著しく異なる。上顎右M2、M3、上顎左M1、下顎左M3では、咬合面のエナメル質が大部分残っている（咬耗はBrocaの2度）。しかし、下顎左右犬歯では、歯冠が失われるほど咬耗が進行している（咬耗は4度）。このような状態は、通常の咀嚼によるものとは考えられない。

上顎右M2は齶蝕で舌側半が失われ、右M3の近心歯頸部には齶蝕がある。

体幹骨

残存する頸椎の関節や腰椎の椎体に顕著なリッピングがみられる。

上肢骨

鎖骨は短く、細い。右胸骨端の中央部にKA-4♀と同様に、多数の孔があいている。骨幹中央部は薄くはないが、大胸筋レリーフは目立たない。

肩甲骨の左右の関節窩面の下方1/3付近に幅5mm、長さ1cmほどの浅いくぼみがある。上腕骨頭にはこれに対応する構造はみられない。上腕骨の最大長はKA-4♀と比べても大差ないが、骨端の大きさ、骨幹の太さともに小さく、細く、直線的である。

橈骨は細く、骨幹は直線的で外側への湾曲は小さい。橈骨粗面は強く張り出している。

下肢骨

大腿骨は残っていない。脛骨は骨幹の幅が小さい。骨間縁はよく発達し、腓骨切痕に至るまで明瞭な稜を形成している。後面の鉛直線は発達していないので、中央付近の断面は正三角形に近く、ヘリチカのⅠ型である。左遠位関節面前縁は深く陥凹しており、その上部に長径10mm、短径7mm程度の横長の紡錘形の面が形成されている。これに対応して距骨にも頸結節が形成されている。

蹲踞面は、森本（1981）のC型で、滑車内側蹲踞面が伸展している。膝蓋骨は右では関節面内側下縁、左では外側下縁にリッピングが見られる。広筋切痕は左右ともに存在するが、上外側面が平らになっている程度で切れ込みは浅い。

藤井の式を用いて脛骨を用いた推定身長は155.5cmであり、平本（1972）の報告している縄文時代女性の平均値148.05cmよりかなり大きい。

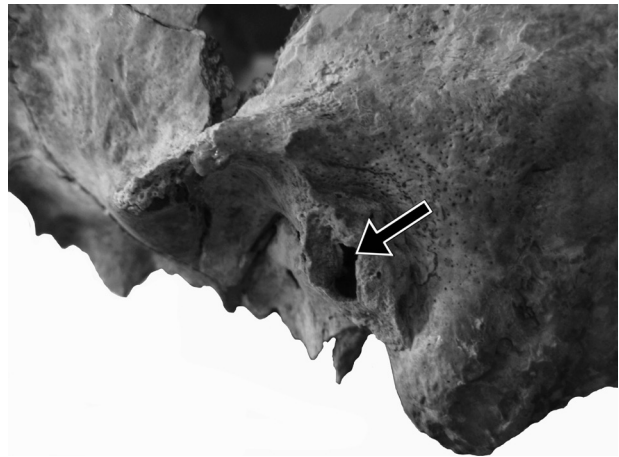


図9 KA-7♀にみられる外耳道の病変。周囲の骨増殖により外耳孔が狭くなっている。

4) KA-10 人骨

頭蓋では下顎骨のみが残っており、一部の椎骨、上肢骨（左右の肩甲骨片、鎖骨、上腕骨、橈骨と尺骨遠位部）、肋骨片、指骨が残っている。下肢骨では膝蓋骨以外は失われている。

頭蓋

下顎骨は小さめだが、下顎体は厚く、頑丈である。とくにM1～M2の部分の下顎体が、左右ともに、後縁結節を取り込んで強く外側に張り出している。

下顎底部は、ほぼ水平である。オトガイ隆起は発達しているが、左右のオトガイ結節はほとんど隆起しない。下顎枝は低いが、幅は広く、筋突起の前縁が前方に強く突出している。外面の咬筋粗面は平坦だが、前方では後縁結節が隆起するので段差が着いている。内面の翼突筋粗面の筋レリーフは明瞭である。

歯

下顎左P1・P2とM1が生前に脱落して歯槽が閉鎖している。M3は左右ともに齶蝕のため歯冠エナメル質はない。

前方の歯はどれも歯頸部付近まではほぼ水平に磨耗しているが、右P1からM1にかけて外側に傾いた咬耗があり鞍状磨耗に似た状態である。左M2には前方に傾いた咬耗があるが、左側の小白歯は生前に脱落していて鞍状磨耗であったかどうかは不明である。左M2の歯頸部遠心に齶蝕がある。

咬耗は切歯から犬歯がBroca (1875) の3度、右の犬歯から小白歯が4度、右第1大臼歯と左第1大臼歯が4度である。

体幹骨

頸椎の椎体には軽度の、また腰椎体には顕著なリッピングがみられ、若い個体ではなかったことを示している。

上肢骨

鎖骨の骨幹は細く、肩峰端も小さい。左側の胸骨端は、関節面が崩壊し、多孔性の外観をしている。関節面の前縁は肥厚して張り出している。

肩甲骨の関節窩辺縁部はやや骨増殖している。上腕骨は非常に細い。橈骨は、右側がやや長い。橈骨頭は、右の関節環状面の外周下縁が肥厚して下垂するように関節面が延長している。左橈骨でも、軽度だが関節面の下垂が見られる。

下肢骨

膝蓋骨の関節面の外周にはリッピングがみられ、特に下内側で顕著である。上外側面はほぼ直線的な広筋切痕になっている。

3. 若齢個体

4体が出土している。保存状態はどれも良好である。いずれも若齢のため性別は判定できない。

1) KA-3 人骨

ほぼ全身の骨が残っており、保存状態はおおむね良好である。歯の形成段階ではおよそ胎齢7ヶ月～出生前後 (Ubelaker, 1978) である。また、上腕骨骨幹の長さ (58.5mm) は胎齢36～38週程度、脛骨骨幹の長さ (48.5mm) は胎齢38週程度であると推測される。したがって、この個体の年齢は本来の出生時期のやや前であると推定される。

2) KA-5 人骨

熟年男性の頭蓋のみであるとされたKA-9に新生児骨が混在しており、これがKA-5に当たるものと考えられる。保存状態は良好である。大腿骨骨幹の長さ（73.0 mm）、脛骨骨幹の長さ（64.0mm）、橈骨骨幹の長さ（58.5mm）および尺骨骨幹の長さ（52.0mm）から推測すると、胎齢 40 週程度と考えられる。出生前後の個体であると推定される。

3) KA-11 人骨

保存のよい、幼児の骨格である。長骨の長さから3歳半程度と推測されている。香原ほか（1971）が、落盤で死亡したと報告している個体である。

4) KA-12 人骨

保存のよい、幼児の骨格である。長骨の長さから5歳半程度と推測されている。この個体も、香原ほか（1971）が、落盤で死亡したと報告している個体である。

II) 栃原人骨と他の縄文時代早期人骨との比較

縄文時代早期人骨として最初に詳細に研究されたのは、平坂貝塚人骨である。顔面部が失われているが、下顎骨などの形態から、鈴木（1950）は咀嚼筋を含めた筋の付着部の発達を強いが、「全骨格は概して華奢である」と述べている。その後の小片（1981）や山口（1982）、あるいは池田（1985）の研究などで明らかにされた早前期人に共通する特徴は次のように要約できる。

- 1) 頭蓋が華奢である。
- 2) 顔面頭蓋が低い。
- 3) 左右の眼窩上縁は直線的に連なる。
- 4) 下顎長が小さく、下顎枝高は低いが筋突起は前方に張り出す。
- 5) 下肢骨と比べて特に上肢骨が華奢である。
- 6) 大腿骨は粗線の発達がよく、柱状大腿骨である。
- 7) 早期人は必ずしも低身長ではない。

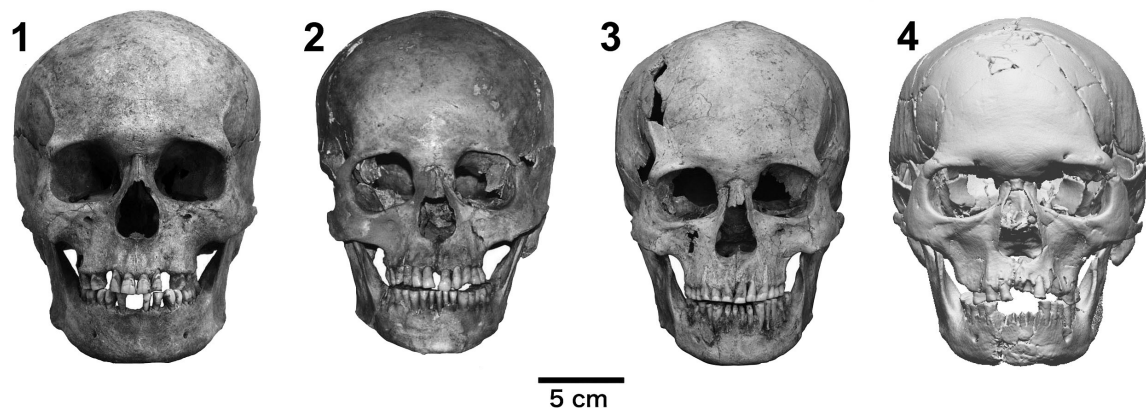


図10 頭蓋骨の正面観の比較。1：縄文時代晩期吉胡貝塚人骨（SZ04）、2：栃原岩陰人骨（縄文早期）KA-1、3：妙音寺遺跡人骨（縄文早期）、4：港川1号人骨（更新世）。前面観では咀嚼器官が小さいため早期人は華奢に見える。港川1号はKaifu et al. (2011) のCTデータに基づく新たな復元画像で、下顎骨の幅が修正されている。

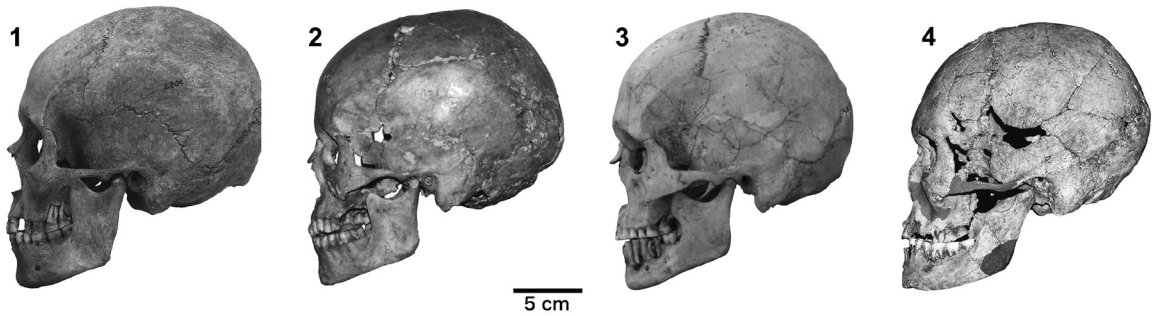


図11 頭蓋骨側面観の比較。1：縄文時代晩期吉胡貝塚人骨（SZ04）、2：栃原岩陰人骨（縄文早期）KA-1、3：妙音寺遺跡人骨（縄文早期）、4：港川1号人骨（更新世）。他の縄文人骨との差は小さいが、早期人の下顎枝の頑丈さが目立つ。

8) 下顎歯には特殊な磨耗がある（いわゆる鞍状磨耗）。

ここで述べている「華奢」とは、構造が弱いという意味ではなく、おもにサイズが小さい、あるいは特に四肢骨の場合は細いという意味である。栃原人骨は、これらの特徴をあわせ持っており、典型的な縄文時代早期人であるといえる（図10、11）。

栃原人骨が早期時代人の特徴を示しているかどうかを偏差折線を利用して比較するとともに、それ以外の形質についても検討した。比較資料は小片（1981）の示した縄文時代早前期人の平均値、並びに中後晩期人の平均値、ならびに全身に近い骨格が出土し頭蓋が完形に近い個体が出土した縄文早期人骨の妙音寺洞窟人骨、湯倉洞窟人骨、上黒岩岩陰遺跡人骨と比較した。頭蓋が不完全な個体は、偏差折線によらずに比較した（大谷寺岩陰遺跡人骨♂、城ノ台南貝塚人骨♂、平坂遺跡人骨♂、磯山城遺跡人骨2号♂、夫婦岩遺跡人骨♂）。

1. 縄文時代早前期人、中後晩期人との比較（小片1981）（図12～15）

栃原KA-1は、縄文時代早前期人の平均値と比べると、頭蓋最大長、水平周や横弧長がやや大きく頭蓋冠の大きさは中後晩期人を上回っている。逆に両耳幅、頬骨弓幅、鼻幅、下顎骨の関節突起幅、下顎角幅、下顎枝角は著しく小さい。縄文時代中後晩期人と比べると、栃原KA-1は顔面は低く、鼻幅も小さく、特に下顎骨は全体に小さく、頬骨弓幅や両耳幅が小さい。どちらかといえば小片（1981）の示した縄文時代早前期人と中後晩期人の方がよく似た偏差折線のパターンを示している。早期人といえども日本全体が似ているわけではなく、個々の形質はかなり変異があるということである。

上肢骨は小片（1981）の示す早前期人とほとんど同じパターンを示しているが、鎖骨の長さや太さは栃原人骨KA-1の方が小さい。中後晩期人と比べると偏差折線のパターンは

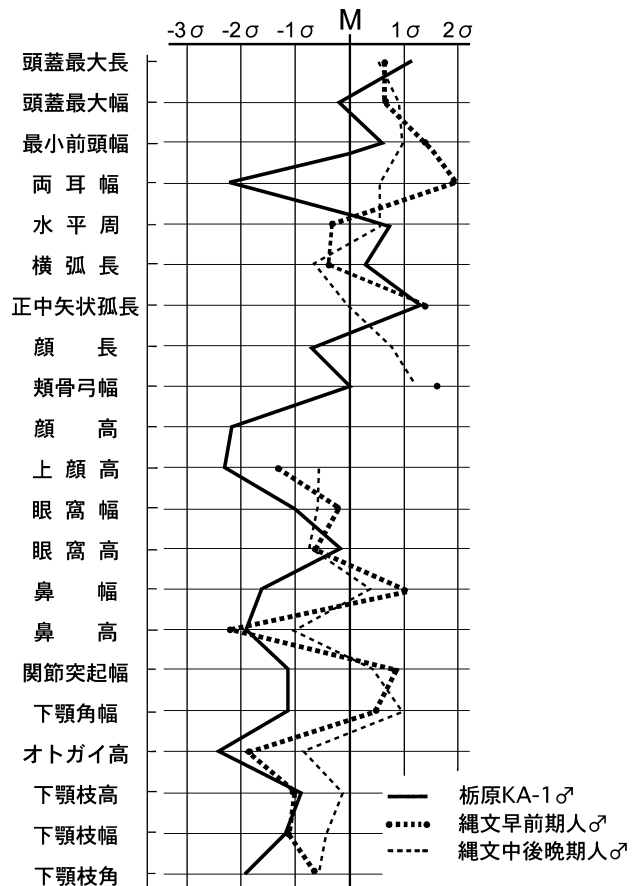


図12 KA-1♂と縄文時代早前期人（平均値）、および中後晩期人♂（平均値）の頭蓋骨との比較。Mは現代関東人男性の平均値。縄文時代早前期人、中後晩期人のデータは図16まで小片（1981）による。

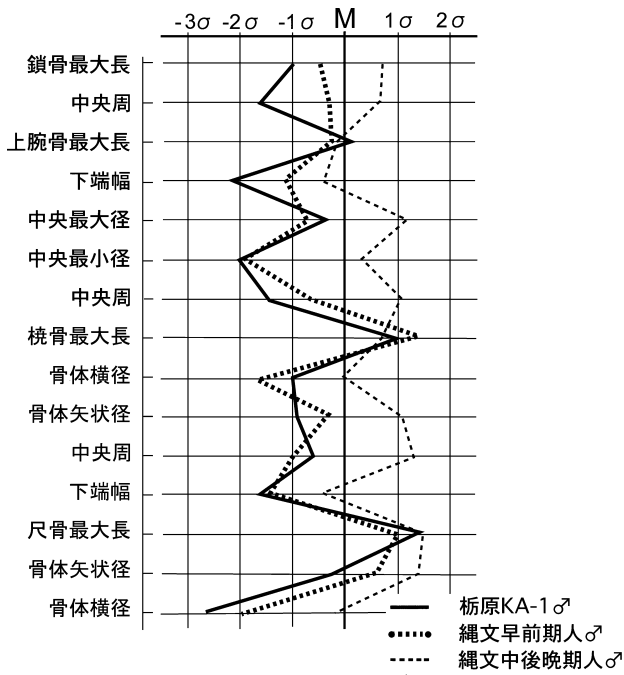


図13 KA-1♂と縄文時代早前期人（平均値）、および中後晩期人♂（平均値）の上肢骨との比較。Mは現代関東人男性の平均値。

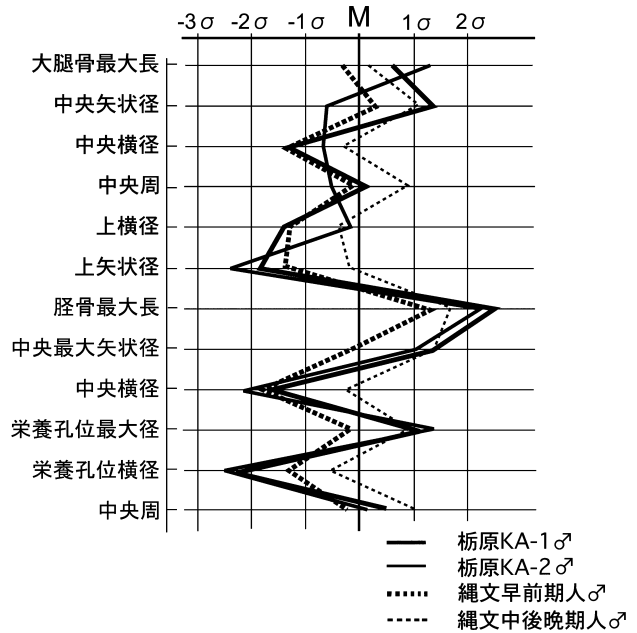


図14 KA-1♂、KA-2♂と縄文時代早前期人♂（平均値）、および中後晩期人♂（平均値）の下肢骨との比較。Mは現代関東人男性の平均値。

似ているものの、長さを除き、KA-1の方が著しく小さい値を示している。

下肢骨では栄養孔位でも中央位でも脛骨の扁平性はKA-1の方が顕著である。KA-1、KA-2ともに下肢骨の偏差折線のパターンは中後晩期人のパターンと似ている。

一方、頭蓋KA-4♀を縄文時代早前期人と比べると、頭蓋最大幅と両耳幅で栃原KA-4♀が著しく小さいものの、それ以外はよく似た偏差折線のパターンを示している。中後晩期人と比べると全体的に栃原KA-4♀の方が小さい。

小片（1981）は縄文時代早期人骨の特徴を「早期人はきゃしゃで性別の判定も困難なほどである」と述べており、形態は顔面が低く、眼窩上縁は直線的で、歯の摩耗は著しく強度、大腿骨は柱状大腿骨であるが周径は小さいものが多いとして

いる。栃原KA-1は眼窩も低く、歯の摩耗は強度で、大腿骨の柱状性が見られる点で早期人としての特徴を持っているといえ、眼窩上縁の直線性も後晩期人ほど傾いていない。

2. 妙音寺洞穴人骨（埼玉県縄文時代早期）との比較（図16～18）

栃原岩陰遺跡から山ひとつ越えた埼玉県の妙音寺洞穴遺跡から出土した同じ早期の男性人骨と栃原KA-1♂を比較すると、頭蓋最大長は栃原人骨KA-1がやや大きく、脳頭蓋全体は栃原KA-1がやや大き

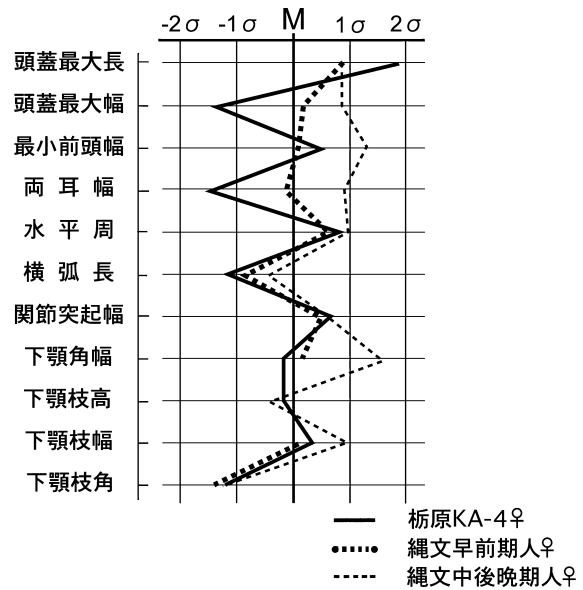


図15 KA-4♀と縄文時代早前期人♀（平均値）、および中後晩期人♀（平均値）の頭蓋骨との比較。Mは現代関東人女性の平均値。

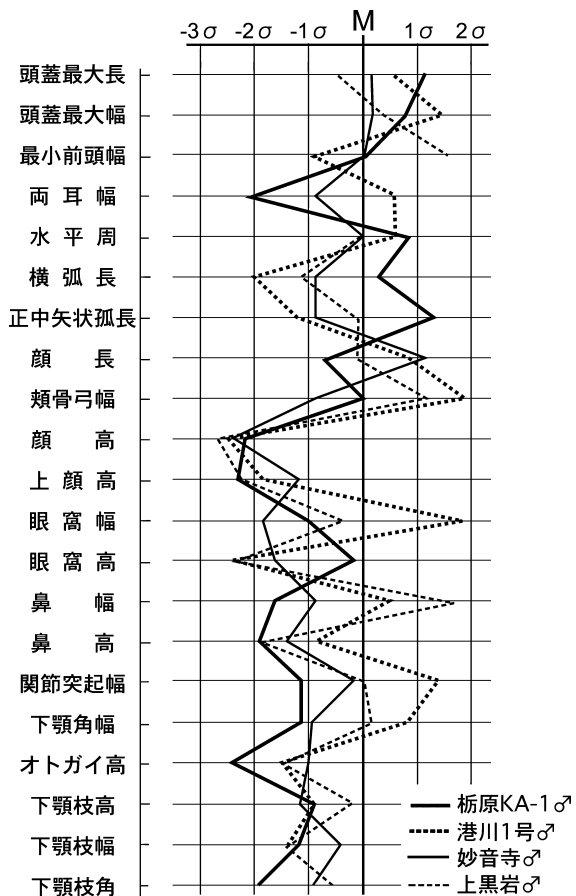


図16 KA-1♂と、縄文時代早期の妙音寺洞穴遺跡人♂、上黒岩岩陰遺跡人♂（平均値）、ならびに港川遺跡1号♂の頭蓋骨の比較。Mは現代関東人男性の平均値。データは以下による（図18まで共通）。港川人（Suzuki・1982）、妙音寺洞穴人（馬場ほか・1999）、上黒岩人骨（中橋・2009）のデータによる（図19まで共通）。

い。最小前頭幅、顔高はほぼ同じ大きさであり現代関東人よりもかなり低顔である。顔長や両耳幅は妙音寺洞穴人骨の方がやや大きい。

下顎骨では、下顎枝高以外の下顎角幅や関節突起幅などはKA-1の方が小さい。つまり、妙音寺洞穴人骨と比べると咀嚼に関係した部分は栃原KA-1の方が小さいことになる（いわゆる華奢にあたる）が、偏差折線のパターンは似ている。

上肢骨では、栃原KA-1は鎖骨の長さは妙音寺洞穴人よりやや小さいが、上腕骨や橈骨、尺骨はやや長い。下肢骨では、大腿骨や脛骨の長さは栃原KA-1♂、KA-2♂ともにやや栃原人骨の方が長く、臈骨の扁平性は栃原人骨が顕著である。

四肢骨全体では、栃原KA-1♂の方が妙音寺洞穴人骨より身長が高いので長さは異なるが、偏差折線のパターンはよく似ており、どちらも現代関東人との差は下肢骨より上肢骨の方が大きい。栃原KA-1♂が下顎骨は華奢であったが、四肢骨ではむしろ妙音寺人骨よりも中央周などが大きく、両者の違いが示される。

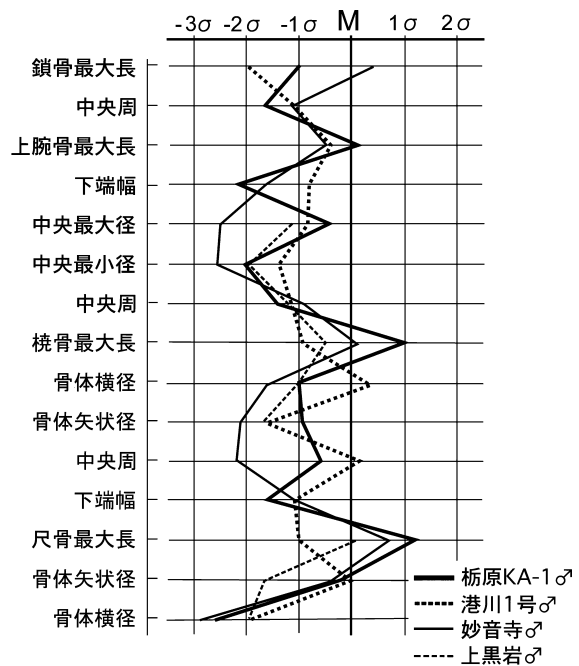


図17 KA-1♂と、縄文時代早期の妙音寺洞穴遺跡人♂、上黒岩岩陰遺跡人♂（平均値）、ならびに港川遺跡1号♂の上肢骨の比較。Mは現代関東人男性の平均値。

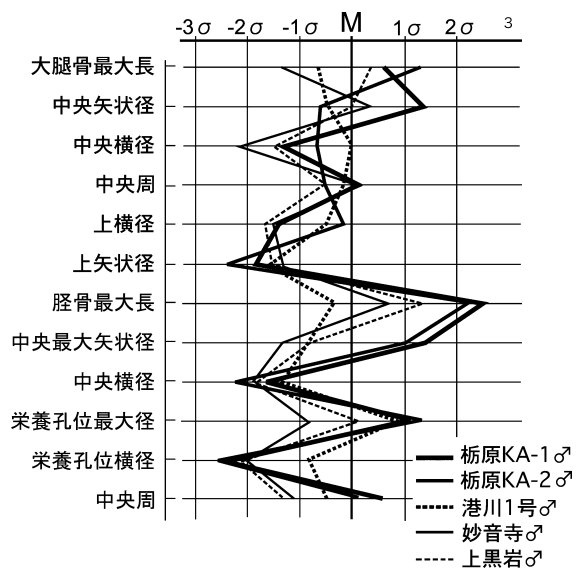


図18 KA-1♂、KA-2♂と、縄文時代早期の妙音寺洞穴遺跡人♂、上黒岩岩陰遺跡人♂（平均値）、ならびに港川遺跡1号♂の下肢骨の比較。Mは現代関東人男性の平均値。

3. 湯倉洞窟人骨（長野県縄文時代早期）との比較（女性）（図19）

栃原遺跡と同じ長野県の北部山間部にある湯倉洞窟遺跡からは縄文時代早期の成人女性人骨が出土しており、この成人女性人骨は、脳頭蓋や上顔高が高く、むしろ縄文時代中期以降の人々の特徴を示しているとされている（森本・高橋1986；森本・平田2001）。

栃原KA-4♀は、頭蓋最大長は湯倉洞窟人骨よりも大きい、頭蓋最大幅、最小前頭幅、両耳幅は小さい。下顎骨は湯倉洞窟人骨の下顎角部が外反しておりやや大きい大きな違いではない。湯倉洞窟人骨の偏差折線は上黒岩人骨♀のパターンに近い。早期人の多様性を示す一例であろう。湯倉洞窟人骨では下顎左I1から右Cにかけて、内側から外側に傾いた特殊な摩耗がある。

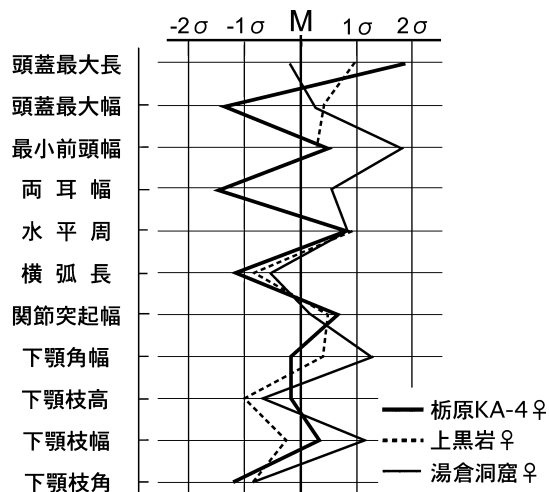


図19 KA-4♀と、縄文時代早期の妙音寺洞穴遺跡人♀、上黒岩岩陰遺跡人♀（平均値）の上肢骨の比較。Mは現代関東人女性の平均値。データは湯倉洞窟（森本ほか・1986）、上黒岩人骨（中橋・2009）

4. 上黒岩岩陰遺跡人骨（愛媛県）との比較（図16～19）

小片の一連の縄文時代早前期人研究の基礎になっている愛媛県上黒岩岩陰遺跡の早期人骨が、中橋（2009）によって詳細に研究された。それによれば、上黒岩人骨は顕著な低顔、オトガイ部が低く前後径の小さな下顎、前歯の磨耗が顕著で唇舌方向に凸な山型の磨耗面となること、四肢骨が細く特に上肢でその傾向が目立つとされている。

これらの特徴は栃原人骨と共通する特徴だが、偏差折線パターンでは栃原KA-1♂と比べるとかなり異なっている。顔高、眼窩高はどちらも低い、最小前頭幅、頬骨弓幅、眼窩幅、鼻幅は上黒岩人骨の方が大きい。

さらに水平に近い眼窩上縁、眉間部の膨隆、鼻骨の強湾曲と前方への突出など、栃原人骨（眼窩口に関してはKA-1のみ）とは異なる点もある。下顎骨は全体に上黒岩人骨の方が大きい、頭蓋では偏差折線に特に一定のパターンの違いは見いだせない。

上黒岩人骨はどちらかといえば旧石器時代の港川人1号♂と似た偏差折線パターンを示している。

5. それ以外の早期人骨との比較

城ノ台南貝塚人骨（千葉県）は海岸部としては珍しい縄文時代早期人骨である（茂原1994）。3体が出土している。

1号人骨♂は頭蓋最大長がこの時代としては最も大きく（187mm）、全体的形質も縄文時代中後晩期人に近い形質である。2号♀と3号♂?はいずれも全体的に華奢で、四肢骨も華奢である。

しかし2号♀の下顎骨は、下顎枝が低いにもかかわらず、筋突起が前方に張り出しており、一般の早期人の特徴を示している。大腿骨は柱状性を示している。頭型は中頭と長頭である。

歯の残っている2号♀、および3号♂?では、歯の咬耗は進んでいるが、いわゆる鞍状磨耗ではなく、咬合面は歯列全体が平坦である点は、栃原人骨と異なっている。

栃木県の大谷寺岩陰人骨（早期）は下顎角幅、下顎枝幅も大きく早期人としては例外的に頑丈な下顎骨である（小片ほか2000）点で栃原KA-1♂とは明らかに異なっている。平坂人骨は最小前頭幅が

かなり大きい、頭蓋冠は必ずしも大きくはない（鈴木1950）。

滋賀県の磯山城遺跡人骨2号は頭蓋最大幅、最小前頭幅はともに栃原KA-1よりも大きく、下顎の幅もかなり大きい。縄文時代の早期人と後晩期人の中間に入るといふ（池田・北川1986）。この個体の最大前頭幅が大きいことが小片（1981）の縄文時代早前期人の平均値や岩下洞穴15号（内藤1968a,b,c）にも共通しているため、池田・北川（1986）はこれを早期人の特徴と考えている。栃原KA-1も最大前頭幅は大きい、妙音寺人骨や平坂人骨では大きい値をとらない。

考 察

同時代の縄文時代早期人と比較した結果、ならびに報告されている早前期人骨の研究結果を考え合わせると、栃原岩陰遺跡から発掘された人骨は小片（1981）が述べている早前期人的な特徴を示していることが明らかにされたが、頭蓋がほぼ完全なものはKA-1♂のみであり、おもな特徴はそれに基づく。その頭蓋の特徴を整理するとともに、早期人一般に見られるものとは異なり栃原人骨集団に特有と思われるものを部位ごとにまとめて考察した。

I) 形態的特徴

1. 頭蓋の特徴

栃原人骨の頭蓋（KA-1♂）は、顔面の低さ、オトガイ高が低い、歯の著しい摩耗など縄文時代人に見られる一般的特徴を示している一方で、縄文時代早期人としては、両耳幅が小さいこと、眼窩がやや高いこと、水平周や横弧長、正中矢状弧長など頭蓋冠に関する部分の大きいことなどの特徴があり、また下顎骨は他の早期人よりもさらに小さい。

下顎体、とくに下顎底のサイズは、咀嚼器官としての頑丈さだけでなく、前頸部の構造を収容するために大きさが決定される。栃原人骨の場合は、両耳幅が小さく、後頭骨の頸筋付着部も狭いので、頸が細かった可能性が高く、そのことも下顎体の小さいことと関連するといえよう。女性ではこの特徴は目立たない（図19）。

これらを総合して考えると、栃原人骨の頭蓋は「華奢」とはいわれているが、脳頭蓋は大きい。「華奢」という印象は、頭蓋最大幅や頭蓋最大長が大きく、頭頂結節近くに最大幅計測点があるのに対し、脳頭蓋側壁の幅が下方ほど減少し、両耳幅が非常に狭いためである。さらに下顎骨が小さいことがその印象を強める。しかし、側頭線が強く発達し、下顎の筋突起や外側隆起も発達して内突起稜も厚い。さらに咬筋、翼突筋の付着する下顎角周辺は粗面が強い凹凸を示している。単純な「華奢」というわけではない。

後頭骨

栃原人骨では後頭骨の頸筋付着部が狭く、上項線や外後頭隆起の発達も弱い。したがって、栃原人骨は、上半身が華奢だったことも反映して、頸の筋肉が細く、それに伴って背筋全体も強力ではなかったと推測される。多くの個体の後頭骨の上鱗と下鱗の境界に、横走する窪みが存在している（図1-1の矢印）。KA-1♂では幅1.5cmほどの強い溝状をなし、直上の後頭骨鱗部が棚のように後方に張り出している。KA7♀ではKA-1ほどではないが浅い溝状を呈している。KA4♀ではごく浅い窪みである。この窪みの部分は、僧帽筋や胸鎖乳突筋の付く上項線と後頭前頭筋の付く最上項線の間に相当し、特別の構造物が付着する部分ではない。したがって、この窪みの解剖学的な成因は不明である。特殊な人為的な原因の可能性も考察するべきだろう。

側頭線

側頭線の走行は、全体に低く長いという共通した特徴がある。前頭骨部では明瞭な稜を形成し、頭頂骨部では後方まで伸びて、ラムダ縫合直前にまで至っている。前方部の発達が良いことは、下顎枝が広く筋突起が前方に大きく張り出していることと密接な関係があろう。弥生時代以降の頭蓋では、側頭線の走行は栃原人骨の場合よりも高く短いことが多い。

下顎骨

全体は小さく、下顎体の前方と後方の高さはほぼ同じである。男性では、下顎角幅や関節突起幅は現代人の平均値よりも小さい(表3)。オトガイ高、下顎体高は早期人としても低い。下顎体厚は早期人の中でもっとも薄い。下顎体全体が小さく、上方から見ると歯列弓の湾曲と下顎体の湾曲が重なっていて、印象としては華奢である。しかし、歯列と下顎体の湾曲が重なる特徴はネアンデルタール人でも見られ(Suzuki,1970)、力学的に弱いわけではないと考えられる。筋突起は低い前方に張り出してしている。この特徴は、側頭筋の停止部を顎関節から前方に遠ざけることになり、側頭筋の収縮力が歯列の前方で有効に働くことに役立っている。側頭線が前頭骨で強く発達していることや、栃原人の多くで前歯部の咬耗が顕著であることも関係があると思われる。

女性ではKA-7♀、KA-10♀は小さい下顎骨であるが、KA-4♀はやや大きめの下顎骨である。オトガイ結節の直上からオトガイ孔に至る溝が3体(KA-1♂、KA-8♂、KA-11)にみられる(図5)。3歳半程度の幼児と考えられるKA-11にも存在している。この周辺は表情筋以外の筋が付着することはなく、また付着する表情筋(口角下制筋、下唇下制筋、オトガイ筋、広頸筋)も筋としてはさほど強力なものではないので、筋の作用だけで形成されるものとは考えにくい。KA-8♂では下顎の広頸筋付着部に顕著な凹凸が観察されており、広頸筋との関係も考えられるが、広頸筋付着部がよく発達した凹凸が観察されるKA-2♂、KA-4♀には同様な溝はみられない。遺伝的な要素も考える必要があろう。

2. 四肢骨の形態

上肢骨

上肢骨の細さが目立ち、現代人と比べても長さより幅径で小さいものが多い(図20)。鎖骨は全体的に細く、中央付近での垂直径は6.6~8.4mmの範囲で、早期人としても最も細い部類に属している。上腕骨は三角筋粗面が発達しておらず、細く、直線的である。しかし、KA-4♀の上腕骨は縄文時代早期女性としてはかなり頑丈である。この事実は、小片(1981)の「上肢骨は男性では早前期人は中後晩期人に比べて特に細いが、女性の場合、その差が明らかでないものがある」という指摘と合致しており、栃原人骨もその例外ではないことが示される。橈骨は湾曲が小さく、直線的なものが多い(KA-4♀、KA-7♀)。上腕二頭筋の付着する橈骨粗面が非常に良く発達しているもの(KA-1、KA-2、KA-4♀)があり、筋肉の発達は悪くはなかったと思われる。この特徴に性差はみられない。肘頭窩内に骨の増殖や小窩がみられる(KA-1、KA-2、KA-4♀、KA-7♀、KA-8)。

下肢骨

大腿骨は強い柱状性を示す個体があるが、中後晩期人と比べると取り立てて顕著というほどではない。大腿骨骨幹上部は扁平(扁平係数65~78)であり、妙音寺洞穴人(81~83)(馬場ほか1999)や小片(1981)の報告している縄文時代早前期人(80.3)および中後晩期人(83.5)よりさらに扁平である。下肢骨の残っている5体のうち男性3体の大腿骨頸部には、蹲踞に関連したアレン頸窩が認められる(KA-1♂、KA-2♂、KA-8♂)。

膝蓋骨が残っているすべての個体に広筋切痕が見られる。Morimoto (1975) によれば膝蓋骨の広筋切痕は中後晩期人よりも早期人の方が著しいという。同じ早期人の上黒岩陰遺跡では右側では7体中5体に、左側では5体中4体に切痕様の形態が見られたという(中橋2009)。栃原人骨では軽度のものも含めてすべての個体で広筋切痕が観察され、早期人骨での出現率の高さを裏付けている。距骨にはよく発達した蹲踞面が認められ、いずれも滑車内側蹲踞面(馬場1970)が前方に伸展する森本(1981)のC型である。

推定身長

四肢骨から計算される栃原人骨の推定身長は、5体で調査可能であった(表13)。男性ではKA-1が162.0cm、KA-2が163.0cm、KA-8が148.4cmで、必ずしも高身長のものばかりではない。一方、女性ではKA-4が156.8cm、KA-7が155.5cmである。

平本(1972)による縄文時代人の推定身長では、男性が159.11cm、女性が148.05cmである。したがって、縄文時代人骨としては、栃原人骨の男性がやや高いものもあり、また女性の身長ではKA-4とKA-7ともに縄文時代の女性の平均値より大きい。

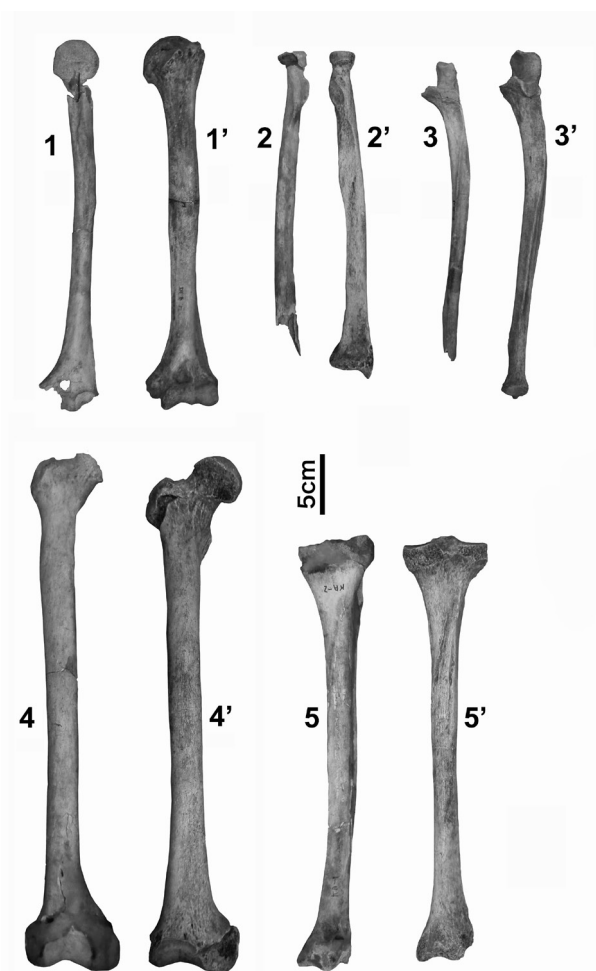


図20 栃原岩陰遺跡人骨と縄文時代後期人骨の四肢骨の比較。栃原KA-2♂男性(1:上腕骨、2:橈骨、3:尺骨、4:大腿骨、5:脛骨後面)、典型的な縄文時代後期人の蝦島貝塚人骨男性(52号)(山口、1983)(1':上腕骨、2':橈骨、3':尺骨、4':大腿骨、5':脛骨後面)。下肢骨は両者で太さが変わらないが、上肢骨は栃原人骨の方がかなり細い。

II) 各個体の生活履歴に関連した特徴

栃原人骨では、生前に歯が脱落したり破損した個体が多い。栃原人骨での厳しい歯の使用状況、ひいては厳しい生活状況が伺われる(表2)。歯の摩耗にいくつかの特殊な摩耗が見られたので、それらに関して考察する。なお、風習的抜歯は確認できていない。齲蝕は、KA-4♀、KA-7♀、KA-8♂、KA-10♀と歯が残っているほとんどの個体で認められる。その影響と思われるものも含めて、歯槽骨が吸収されて歯根膿瘍ができている個体がある(KA-1♂、KA-2♂、KA-4♀)。

1. 歯の磨耗

歯の磨耗は、早期人に一般的に見られるように栃原人骨でも非常に顕著である。ほとんどの個体で前歯は歯頸部近くまで磨耗している。下顎M1(あるいはM2)では、歯冠の外側が著しく磨耗した個体が観察される(KA-1♂、KA-9♂、KA-10♀)。対合する上顎歯が残っているものは1体(KA-1♂)しかないが、その場合は下顎歯の磨耗は外側に傾いているのに対して、上顎大臼歯の磨耗は内側(舌側)に傾いている。この磨耗様式は、鈴木(1950)が、縄文時代早期人の特徴の一つとして平坂人の下顎骨について指摘した、いわゆる「鞍状磨耗」と類似する。

鞍状摩耗とは、下顎歯列がM1を中心として近遠心方向に凹型に摩耗し、その部分の歯が頬舌的には凸湾する現象である(図2)。この鞍状摩耗に似た摩耗は、栃原人骨ではKA-1♂の下顎右側と、KA-10♀の右側(ただし、上顎が残っていないので推測である)にみられる。

切歯から臼歯部に見られる咬合面の内外方向に凸型になる摩耗は、KA-2♂、KA-7♀、KA-9♂で観察される。前歯部が水平にそろった摩耗はKA-1とKA-10♀で観察される。KA-4♀では、上顎前歯の外側が著しく摩耗しており、とくに犬歯は槍状にとがっている(図8)。歯の摩耗に関して何らかの特殊な状況が起こった可能性が高い。

歯の異常摩耗に関する全体的考察

一般に縄文時代人は歯の摩耗が著しい。通常は歯列咬合面全体が平らに摩耗し、摩耗が進行した場合には咬合面が不均一になったり、一部の歯が失われたりすることが多い。たとえば、縄文前期の彦崎貝塚人骨では、歯冠が全て失われるほど摩耗が進行しても、多くの場合、咬合面は平らで均一であり、しかも脱落している歯はほとんどない。

しかし、栃原遺跡の成人頭蓋では、咬耗状態の程度に関わらず、全ての個体で、多くの歯が脱落している。また、同一個体で、摩耗が少ない歯があるにもかかわらず一部の歯が極度に摩耗し、歯根しか残っていない場合がある。このような不均一な磨耗は、通常の咬耗だけによって起こるとは考えられない。逆に考えると、他の歯が摩耗しているにもかかわらず、ほとんど摩耗していない歯があるということは、何らかの理由でこれらの歯が咬合する相手の歯が、脱落しているか、歯冠が失われていることを意味している。

その原因として妥当性が高いのは、歯頸部の齶蝕が進行して歯冠が失われることである。縄文時代人骨では咬合面に発生する齶蝕は少なく(Fujita,1995)、栃原人骨でも見られない。しかし、歯頸部の齶蝕はかなりの率で発生し、栃原人骨でもほぼ全ての成人個体で見られる。梶ヶ山・馬場(1999)は若海貝塚(茨城県縄文時代中期)人骨で、歯頸部、とくに近遠心歯頸部に多発する齶蝕により大部分の歯冠が失われている例を報告している。

栃原人骨でも、それに近い現象が起きていると解釈できる。歯頸部の齶蝕は、臼歯の場合は、歯冠の一部破壊を誘発し、さらに進行すると、歯髄腔の細菌感染から歯根膿胞を起こし、膿瘍化して歯槽骨が退縮し、歯が脱落する。その結果、咬合する歯の摩耗が停止することになる。前歯部の場合は、歯頸部の齶蝕が進むと、歯頸部の折損によって歯冠が失われることになり、咬合する歯の摩耗が停止する。

ただし、なぜ、歯頸部の齶蝕が栃原人骨でとくに高率で発生するのかについては不明である。

異常摩耗の機序

このような観点から栃原人骨の歯を検討すると、一見したところ異常と思われる歯の保存状態や摩耗状態の説明が可能となる。KA-4♀の上顎前歯部(図8)が前上方から後下方へ傾いた特殊な磨耗をしていることに対しては、以下のような機序を想定できる。まず、上顎臼歯が齶蝕によって早期に失われ、その結果、上顎では前歯のみが下顎前歯と咬合し、前歯の磨耗が進行した。下顎臼歯は咬合する上顎臼歯がないので磨耗は進行しない。上顎臼歯が失われていると、上顎前歯が下顎前歯より後方に入り込むように咬合することが可能となり、前上方から後下方へ傾いた咬耗が進行することになったのだろう。

一般に、前歯は上顎歯に比べて下顎歯が小さく、同じ摩耗状態なら下顎歯での磨耗が早く進行する。本例でも、下顎前歯は磨耗が速く進行し、歯髄の細菌感染などにより早期に脱落したと推定できる。結果的に、上顎前歯には前上方から後下方へ傾いた磨耗が残ったのであろう。

表13 縄文時代早期人の推定身長

	時代	推定身長		推定身長		計測値データの出典	
		個体番号	♂	個体番号	♀		
栃原岩陰遺跡	早期	KA-1	162.0	KA-4	156.8	本研究	
		KA-2	163.0	KA-7	155.5		
		KA-8	148.4				
蛇王洞遺跡	早期				154.0	地土井, 1997	
妙音寺洞窟遺跡	早期		152.2			馬場ほか, 1999	
湯倉洞窟遺跡	早期				147.6	森本・高橋, 1962	
平坂貝塚	早期		162.6			鈴木, 1950	
城ノ台南貝塚	早期			2号	147.0	茂原, 1994	
磯山城遺跡	早期	1号	164.1			池田・北川, 1986	
		2号	161.8				
観音堂洞穴遺跡	早期		154.7			小片, 1976	
上黒岩遺跡	早期	E-2	157.9	ヤナセ	148.7	中橋, 2009	
		6901	159.0	E-1	150.4		
				E-5	143.3		
				6902	151.3		
				6904	145.2		
中津川洞穴遺跡	早期				147.3	百々, 1976	
野鹿洞穴遺跡	早期				146.1	小片・森沢, 1973	
粉洞穴遺跡	早期		167.8			内藤ほか, 1983	
			153.9				
岩下洞穴遺跡	早期	2号	154.7	1号	148.9	内藤, 1968a, b, c	
		6号	155.5	21号	146.4		
		9号	155.1				
		13号	152.7				
		15号	149.6				
早期人全体の平均値			157.4		149.2		
変異幅			148.4-167.8		143.3-156.8		
縄文時代人			159.11 cm		148.05 cm	平本, 1972	
参考 港川遺跡	更新世	1号	153.3	2号	141.7	Baba・Endo, 1982	
				3号	145.9		
				4号	142.8		
					144.4		
志なの入遺跡	前期				144.4	鈴木・西沢, 1975	
国府遺跡	前期	17号	169.8	14号	152.8		池田, 1986
		46号	157.2	16号	146.3		
		67号	175.3	34号	147.8		
		73号	155.5	35号	152.5		
		89号	157.3	47号	152.5		
新延貝塚	前期				140.1	永井ほか, 1980	
粉洞穴遺跡	前期	No.16	167.5			内藤, 1977	
		No.19	165.1				
前期人全体の平均値			164.0		148.1		
変異幅			155.5-175.3		140.1-152.8		
縄文時代人			159.11 cm		148.05 cm	平本, 1972	

(単位: cm)

藤井の方法に基づいて大腿骨と脛骨の最大長から計算し、対象の骨が複数ある場合はそれらの平均値を算出した。数値がPeasonの方式で計算されている場合は藤井の方法で計算し直した。

なお、この上顎前歯部の摩耗は、単純な平面ではない。犬歯では唇側だけでなく遠心（側方）にも摩耗面が回り込んでいるので、おそらく下顎切歯や犬歯の摩耗が進んだ際、あるいは脱落した際に、下顎小白歯の近心面との間で摩耗が起こったと考えられる。

同様に、KA-7♀の咬耗が著しい歯は、歯頸部の齶蝕により歯冠が破損、脱落したためと考えられる。KA-8の下顎左I2の歯根に形成された近心面の摩耗（図5）も、同じ個体の下顎右大白歯にみられるような齶蝕で、左側歯列の歯冠が脱落し、さらに下顎I1が脱落して正常な咬合が失われた結果形成されたと考えられる。

2. 病的な変化

頭蓋冠の小孔

KA-4♀にみられる頭蓋冠の前頭部から後頭部にかけて、小孔が広く分布している（図7）。これはRoberts and Manchester（1995）が述べている、鉄欠乏性の貧血に伴って出現するものである。しかし、同様に貧血に伴うといわれるクリブラ・オルビタリアは一例も認められなかった。これは、頭蓋冠の多孔性とクリブラ・オルビタリアとは必ずしも同時に現れないという従来の知見と矛盾しない。

縄文時代早期人でこのような多数の小孔の存在が報告されているのは平坂貝塚人骨（鈴木1950）で、他に城ノ台南貝塚1号人骨にも比較的広範囲に存在するが、栃原人骨の例がもっとも顕著で範囲も広い。ブレグマ周辺だけに小孔が点在する例は、国立科学博物館所蔵の縄文前期の彦崎貝塚人骨では19体中7体に、縄文時代晩期の伊川津貝塚人骨では26体中13体に、貝島貝塚（蝦島貝塚）人骨では27体中10体でみられたが、KA-4♀でみられるような頭蓋冠全面にわたるような顕著なものは皆無である。

外耳道狭窄

KA-7♀では、外耳道に著しい骨増殖があり、外耳孔を周辺から狭窄している。この狭窄は、外耳道の一部がコブ状に増殖している通常の外耳道骨腫（百々1972）とは異なっている（図9）。

エナメル質減形成

3体（KA-1♂、KA-2♂、KA-10）にみられた。いずれも切歯で、線状のエナメル質減形成が観察された。犬歯や臼歯にはみられなかった。栃原人骨のような縄文早期人骨では著しい摩耗によってその出現の様子を観察することは難しいが、存在することが観察された。

歯根嚢胞

歯の摩耗が非常に著しいため、歯髄が露出し、歯髄の細菌感染から引き起こされたと考えられる歯根嚢胞が発生し、さらに近隣の歯槽骨が失われて膿瘍になっている例が多い。大きさに差はあるがKA-2♂には3カ所、KA-4♀では3カ所、KA-7♀では2カ所、KA-8♂では1カ所、KA-9♂では2カ所、KA-10♀では1カ所で観察される。

ハリスの線

KA-4♀の脛骨遠位部にはハリスの線が観察され、KA-1♂、KA-2♂、KA-4♀、KA-6♀、KA-8の第一中足骨にはハリスの線が観察される（図4）。KA-7♀、KA-10♀の中足骨には観察されない。縄文早期人骨では、平坂人骨の第1中足骨で多数のハリスの線が観察され、鈴木（1950）は栄養の障害によって形成された可能性を指摘している。

港川人骨にもハリスの線が観察されている（Baba and Endo,1982）。栃原人骨において、かなりの頻度でハリスの線が観察されるのは、Hughesほか（1996）が指摘しているように、成長過程の若い時期に何らかのストレスあるいは病気による成長障害が高い頻度であったことを示しているものであろう。

関節症

顎関節症と思われるものが3体でみられる（KA-1♂、KA-4♀、KA-9♂）。KA-1♂の下顎窩では、関節突起および周辺の関節面に小孔が多数観察される。これに対応する下顎頭にも同様の小孔が見られる。KA-9♂の例はごく軽度のものである。KA-4♀の左右の鎖骨の胸鎖関節面は多孔性で表面が荒れている。介在する関節円板にも損傷があったと思われ、上肢の動きにかなりの支障があったことが予想される。このような症状はKA-10♀の鎖骨でも観察される。KA-4♀では環椎と軸椎の間の関節面辺縁に著しい肥厚があり、関節が癒合していたか、あるいは関節としての動きが制約されていた可能性がある。この個体はさほどの高齢ではないが頸椎、顎関節、胸鎖関節、大腿遠位部関節など各所

の関節に炎症があり、正常な運動は出来なかったであろう。四肢骨の変形性関節症は多数例で観察される。

壮年から熟年と考えられる個体には、椎骨に加齢変化であるリップリングが認められる（KA-2♂、KA-4♀、KA-7♀、KA-10♀）。成人の椎骨でリップリングが認められないのは壮年と推定されるKA-1♂の1体だけである。

上述のように、ハリスの線、エナメル質減形成、鉄欠乏性貧血によると思われる頭蓋冠の小孔、顕著な前歯の摩耗、下顎第1大臼歯を中心とした特異な摩耗である鞍状摩耗、虫歯が多く、またそれが原因と思われる多数の歯の生前脱落、多数の変形性関節炎などの存在は、栃原人骨の生活環境が非常に厳しいものであったことを示唆している。

Ⅲ) 縄文時代早期人の形質の再検討

栃原岩陰遺跡出土の人骨を中心として縄文時代早期人を概観してきたが、縄文時代早期人に共通する特徴がみられるかどうかを再検討した。

1. 頭蓋と歯の特徴

頭蓋長幅示数で示される頭型は、栃原人骨では短頭から過長頭までと変異の幅が広い。多数の個体が出土した上黒岩岩陰遺跡人骨は中頭から短頭の範囲に限られていて、栃原人骨の方が変異が大きい。早期人全体では短頭から過長頭までがみられ一定の傾向を示していない。下顎骨が小さいことは早期人の特徴と考えられ、いわゆる「華奢」な印象は主にこの下顎骨が小さいことに由来している。

栃原人骨の下顎枝が低く前後に幅が広い点は、他の早期人骨とよく似ており、早期人の前歯部での顕著な歯の摩耗との関係を示していると思われる。

下顎枝が前後に広いという形質は縄文時代を通じてしばしば観察されるが、下顎枝の高さは早期人が最も低く、筋突起は早期人がもっとも前後に広い。

平坂貝塚人骨以来、縄文早期人には上下顎の咬合で形成される鞍状摩耗を示す個体がみられており、加えて歯冠が歯頸まで摩耗した切歯部の唇舌的に山型の摩耗など、中後晩期人よりも顕著な摩耗が多く観察される。

2. 四肢骨の特徴

下肢骨は頑丈で縄文中後晩期人と大差ないが、上肢骨が細い（華奢な）点は早期人、特に男性の特徴の一つと確認できる。そのなかでも、栃原人骨は妙音寺人骨とともにもっとも細い上肢骨をもっていることになる。

大腿骨粗線の発達に関しては、他の遺跡の人骨と同様に、付け柱状に発達していることが多いが、あまり発達してない個体もある。梶ヶ山ほか（1999）が指摘しているように、下肢骨に影響を与えるような生活環境や生活様式は縄文時代を通じてほとんど変化しなかったが、上肢骨に影響を与えるような環境や様式は大きく変化したことを示しているであろう。

同じ山間部の遺跡である縄文後晩期の北村遺跡人骨の場合、大腿骨の発達した殿筋隆起が女性に多く認められ、女性の仕事として山での採集作業などとの関係を考えたが（茂原1993）、栃原人骨の場合には大腿骨の殿筋隆起は顕著なものは少なく、性差も認められなかった。中橋（2009）が報告している上黒岩人骨女性でも大腿骨の上部の扁平性は見られず、むしろ柱状大腿骨が女性に多く見られている。大腿骨の顕著な柱状性は夫婦岩岩陰遺跡人男性（Yamaguchi1992）、平坂貝塚人男性、湯倉洞

穴遺跡人女性にみられるが、かならずしもどの遺跡の個体でも柱状性が強いわけではなく、あまり発達していないものも多いので早期人の特徴と考えるのは難しい。

今後は、このような特徴が何によってもたらされたものかを解析するため、それぞれの形質の特徴と労働あるいは環境とのかかわりを精査していく必要があるだろう。

3. 推定身長

早期人は一般に身長が小さい印象であるが、発掘されたものをみると必ずしもそうではない（表13）。更新世の港川人は男性も女性も早期人と比較すると小さく、特に女性が小さい。栃原人骨男性は比較的身長が高いが、非常に低い個体もあり、女性の場合は縄文時代人の平均値（平本1972）よりやや高い。男性では妙音寺洞穴人（馬場ほか1999）は152.2cm、そして岩下洞穴人（内藤・1968a,b,c）は149–155cmと小さいが、平坂貝塚人骨（鈴木1950）は162.6cm、磯山城人骨（池田・北川1986）は164.1および161.9cmと比較的大きい。さらに、柗洞穴遺跡の個体は平均で165.7cmと最も大きい集団である（賀川ほか1973）。発掘例が多くなるにつれて多様性が確認されてくるということであろう。

IV) 縄文時代早期人の特徴のまとめ

以上の記載ならびに再検討から、縄文時代早期人の特徴をまとめると以下のようになる。

- 1) 顔面頭蓋が低い。
- 2) 下顎長が小さく、下顎枝高は低いが筋突起は前方に強く張り出す。
- 3) 下肢骨に比べて特に上肢骨が細い。
- 4) 歯の摩耗が顕著で、下顎歯、特に前歯部には歯頸部にまで達する顕著な磨耗がある。

小片のいわゆる「華奢」という表現は、上記の形態的特徴をひとまとめにしたものということができる。山間部の洞穴遺跡もしくは内陸部の淡水性貝塚から出土した早期人骨は、ほとんど例外なく上記の特徴を備えていて、いわゆる「華奢」ということができ、栃原人骨もその例外ではない。

しかし、縄文早期人骨の中には、下顎骨の大きい個体も含まれており、身長は変異に富んでいて一定の傾向は伺えない。つまり、山口（1986）がいうように、中期以降の縄文時代人に比べて早前期人は変異に富んでいる。早前期といえどもその期間は数千年におよんでおり、変異が大きくても不思議ではない。

上肢骨は中後晩期人と比べて細いが（華奢）、下肢骨は縄文中後晩期人に劣らず頑丈であること、ならびにそのような違いは女性では認められないことは他の早前期人でも確認されている（小片1981；池田1985）。

このような時代変化が男性においてのみ起こっていることの具体的な原因となる事象は想定しにくい、男性の生活環境におけるなんらかの変化が関係しているであろう。

縄文時代早期人の多様性は、鈴木（1951）以来報告されてきた縄文時代人の多様性の一端を示すものと考えられ、生活環境や生活様式という適応的観点だけではなく、いろいろな分野の研究の成果と併せて考える必要があり、早期人の特性を明らかにしていくためにはさらなる形態資料の蓄積、報告、研究が期待される

謝 辞

本人骨の研究を実施することができたのは、信州大学医学部第2解剖学教室の関係者のご理解のためのものであり、この発掘を始められた故鈴木誠先生、動物関係の研究を担当された宮尾嶽雄先生、人骨を研究された高橋穰先生、標本を管理し国立科学博物館に移管するようご配慮下さった森泉哲次教授に、心から感謝いたします。

外耳道骨腫に関しては百々幸雄東北大学名誉教授に、頭蓋の病変の一部に関しては東京都老人総合研究所の鈴木隆雄副所長（現国立長寿医療研究センター所長）にご教示いただきました。また、前歯部の唇舌的な摩耗の成因に関しては国立科学博物館の海部陽介研究主幹のご教示がきっかけになっています。性別判定に関しては海部研究主幹の他、国立科学博物館の坂上和弘研究員にもご意見もいただきました。比較資料の妙音寺洞穴人骨の研究では埼玉県埋蔵文化財調査事業団の調査許可をいただき、黒坂禎二主査をはじめとする方々のご協力をいただきました。湯倉洞窟出土人骨の調査では長野県高山村一茶ゆかりの里の小林伸子さんのご協力を得ました。あわせて、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

図10で用いた港川1号の新たな復原画像は国立科学博物館の河野礼子研究員および海部陽介研究主幹のご厚意で使わせていただきました。そのほか、貴重なご意見をくださった2名の査読者の方、また一人一人のお名前は省略させていただきますが、栃原岩陰遺跡の発掘に携わられた多くの方々から感謝いたします。本研究の一部は、科学研究費補助金（昭和60年度総合研究A代表者香原志勢）によるものである。

引用文献

- 馬場悠男（1970）蹲踞その他坐法の影響による日本人下肢骨の特徴について．人類学雑誌，78: 213 - 234.
- 馬場悠男（1991）人骨計測法．人類学講座編纂委員会編，人類学講座別巻1、雄山閣、pp. 359.
- Baba H. (1992) Early Jomon female skull from Enshoji, Urawa city, Eastern Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Series D (Anthropology)*, 18: 17 - 27.
- Baba H. and Endo B. (1982) Postcranial skeleton of the Minato-gawa man. In: Suzuki H. and Hanihara K. (eds.), *The Minato-gawa Man*. University of Tokyo Press, pp. 61 - 195.
- 馬場悠男・坂上和弘・河野礼子・加藤久雄（1999）妙音寺洞穴遺跡出土の縄文時代早期人骨．埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書，第209集，妙音寺／妙音寺洞穴，pp. 281 - 293，図版66-70.
- Bass W.M. (1987) *Human osteology, A laboratory and field manual*. Special Publication No.2 of the Missouri Archaeological Society, Columbia, pp. 1 - 327.
- Broca P. (1875) *Instructions craniologiques et craniometriques*. *Memoires de la Societe d'Anthropologie de Paris*, 2: 1 - 203.
- 地土井健太郎（1997）蛇王洞縄文早期人骨の人類学的研究．人類学雑誌，105: 293 - 317.
- 百々幸雄（1972）北海道の古人骨に見られる外耳道骨腫．人類学雑誌，80: 11 - 22.
- 百々幸雄（1976）愛媛県城川町中津川洞遺跡出土の一人骨．国立科学博物館専報，9: 199 - 206，図版19 - 21.
- 蛭名忠次郎（1951a）日本人前腕骨の人類学的研究 其一 橈骨．東京慈恵会医科大解剖学教室業績集，5: 1 - 28.
- 蛭名忠次郎（1951b）日本人前腕骨の人類学的研究 其二 尺骨．東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集，5: 1 - 28.

- 績集、5: 1-30. 藤井明 (1960) 四肢長骨の長さとの身長との関係に就て. 順天堂体育学部紀要, 3: 49-61.
- Fujita H. (1995) Geographical and chronological differences in dental caries in the Neolithic Jomon period of Japan. *Anthropological Science*, 103: 23-38.
- 福田佐 (1961) 関東地方人腓骨の人類学的研究 (計測編). 東京慈恵会医科大学雑誌, 76: 1-21.
- 平本嘉助 (1972) 縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的变化. 人類学雑誌, 80: 221-236.
- Hughes C., Heylings D.J.A., and Power C. (1996) Transverse (Harris) lines in Irish Archaeological Remains. *American Journal of Physical Anthropology*, 101: 115-131.
- 池田次郎 (1985) 海と山の日本人 - 形態の地域差と時代差 -. 江上波夫・江坂輝彌・乙益重隆・増田精一編, 日本史の黎, 六興出版, 東京, pp. 29-56.
- 池田次郎 (1986) 大阪府国府遺跡出土人骨の研究. 昭和60年度科学研究費補助金 (一般研究C) 研究成果報告書, pp. 1-5、付表 1-5.
- 池田次郎 (1988) 吉備地方海岸部の縄文時代人骨 - 時代差と地域性の成立. 鎌木義昌先生古稀記念論文集 考古学と関連科学. 鎌木義昌先生古稀記念論文集刊行会, pp. 333-371.
- 池田次郎 (1998) 日本人の来た道. 朝日新聞社, 東京, pp. 1-349.
- 池田次郎・北川賀一 (1986) 滋賀県米原町磯山城遺跡出土の縄文時代早期の人骨について. 米原町埋蔵文化財調査報告書, 磯山城遺跡, 米原町教育委員会, 4: 157-180.
- Kaifu Y. (2010) Mandibular morphological variation in the Jomon people of Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Series D (Anthropology)*, 36: 1-11.
- Kaifu Y., Fujita M., Kono R.T., and Baba H. (2011) Late Pleistocene modern human mandibles from the Minatogawa Fissure site, Okinawa, Japan: morphological affinities and implications for modern human dispersals in East Asia. *Anthropological Science*, 119: 137-157.
- 梶ヶ山真里・馬場悠男 (1999) 若海貝塚出土人骨. 若海貝塚出土人骨, 玉造町教育委員会, pp. 1-14.
- 香原志勢・中村登流・西沢寿晃・鈴木誠 (1971) 災害死と推定される早期縄文時代小児人骨 - 長野県南佐久郡北相木村枅原遺跡. 人類学雑誌, 79: 55-60.
- 小松虔・郷原保真・香原志勢 (1970) 日本最古の顔 - 北相木人. 国土と教育, 1: 145-151.
- Kouchi M. (1987) Which equations should be used to estimate the stature of ancient Japanese populations? *Bulletin of the National Science Museum, Series D (Anthropology)*, 13: 21-46.
- Morimoto I. (1975) Secular trend in emargination of the Japanese patella, with special reference to the skeletal gracility of the earliest Jomon people. *Journal of Anthropological Society of Nippon*, 83: 85-94.
- 森本岩太郎 (1981) 日本古人骨の形態学的変異 - 扁平脛骨と蹲踞面. 人類学講座 5, 雄山閣, pp. 157-188.
- 森本岩太郎・高橋讓 (1986) 長野県湯倉洞穴出土の縄文早期人骨. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 14: 29-37.
- 森本岩太郎・平田和明 (2001) 第2節 出土人骨補遺. 長野県上高井郡高山村湯倉洞窟調査報告, 湯倉洞窟, 高山村教育委員会, pp. 475-478.
- 森田茂 (1950) 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究. 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集, 3: 1-59.
- 永井昌文・中橋孝博・那須哲夫 (1980) 新延貝塚出土人骨について. 新延貝塚, 福岡県鞍手郡鞍手町

- 新延所在縄文時代貝塚の調査, 鞍手町埋蔵文化財調査会, pp. 109-113.
- 内藤芳篤 (1968a) III層の人骨. 岩下洞穴の発掘記録. 麻生優編, 中央公論美術出版, 東京, pp. 56-57.
- 内藤芳篤 (1968b) V層の人骨. 岩下洞穴の発掘記録. 麻生優編, 中央公論美術出版, 東京, pp. 110-118.
- 内藤芳篤 (1968c) 岩下人の特徴. 岩下洞穴の発掘記録. 麻生優編, 中央公論美術出版, 東京, pp. 204-206.
- 内藤芳篤 (1977) 枋洞穴出土の縄文時代人骨略報. 考古学論叢, 4: 99-110, 図版IV, V.
- 内藤芳篤・松下孝幸・分部哲秋・石田肇・佐熊正史 (1983) 大分県枋(へぎ)洞穴出土の縄文時代人骨(続報). 解剖学雑誌, 58: 426.
- 中橋孝博 (2009) 第7章 人骨. 国立歴史民俗博物館研究報告, 第154集:343-388.
- 西原四良 (1953) 関東地方人上腕骨の人類学的研究. 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集, 9: 1-63.
- 西沢寿晃 (1978) 枋原岩陰遺跡出土人骨-その埋葬と形質について-. 中央高地の考古学, 長野県考古学会編, pp. 94-104.
- 西沢寿晃 (1982) 枋原岩陰遺跡. 長野県史主要遺跡(北・東信), pp. 559-583.
- 小片保 (1962) 愛媛県上黒岩岩陰遺跡人骨概報(第一報). 愛媛県文化財調査第一報, 上黒岩遺跡学術調査報告書, 愛媛県教育委員会, pp. 14-19.
- 小片保 (1967) 洞穴遺跡出土の人骨所見序説. 日本の洞穴遺跡, 平凡社, pp. 382-423.
- 小片保 (1973) 縄文人の形質序説-主として形質の推移について-. どんめん, 1: 22-33.
- 小片保 (1976) 帝釈峡遺跡群人骨略報. 帝釈峡遺跡群, 松崎寿和編, 亜紀書房, pp. 193-200.
- 小片保 (1977) 旧石器・縄文時代の人類. 日本の第四紀研究 その発展と現状, pp. 245-260.
- 小片保 (1981) 縄文時代人骨. 小片保編, 人類学講座5日本人I, 雄山閣, pp. 27-55.
- 小片保・森沢佐歳 (1973) 野鹿洞窟出土人骨概報. 野鹿洞穴の研究-大分県直入郡萩町-, 賀川光夫編, 別府大学考古学研究報告, 3: 10-12.
- 小片保・小片丘彦・森沢佐歳 (2000) 大谷寺洞穴遺跡縄文早期及び前期人骨群の所見-特に細隆起線土器を伴う人骨及び創痕, 病変のある人骨について. 大谷寺洞穴遺跡出土屈葬人骨の保存処理及び自然科学的調査報告書, 栃木県立博物館, pp. 19-31, 図版1-10.
- 大場信次 (1950) 関東地方人大腿骨の人類学的研究(計測編). 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集, 3: 1-44.
- Phenice T.W. (1969) A newly developed visual method of sexing the Os pubis. American Journal of Physical Anthropology, 30: 297-302.
- Roberts C. and Manchester K. (1995) The archaeology of disease. Cornell University Press, pp. 243.
- 茂原信生 (1993) 北村遺跡出土の人骨の形質. 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書, 14, 北村遺跡, pp. 259-402.
- 茂原信生 (1994) 城ノ台南貝塚出土の縄文時代早期人骨. 千葉大学文学部考古学研究報告第1冊, 城ノ台南貝塚発掘調査報告書, pp. 254-265, 図版59-62.
- Shour I. and Massler M. (1941) The development of the human dentition. Journal of American dental Association, 28: 1153-1169.

- 鈴木尚 (1950) 相模平坂貝塚 (早期縄文式遺跡) の人骨について. 人類学雑誌, 61: 117-128.
- Suzuki H. (1970) The skull of the Amud man. In *Amud man and his cave*, University of Tokyo Press, pp. 117-206.
- Suzuki H. (1982) Skulls of the Minatogawa Man. In: Suzuki H. and Hanihara K. (eds.), *The Minatogawa Man*. University of Tokyo Press, Tokyo, pp. 7-49.
- 鈴木誠 (1968) 長野県北相木村栃原岩陰遺跡と人骨. 人類学雑誌, 76: 52-54.
- 鈴木誠 (1969) 南佐久郡栃原岩陰遺跡-縄文早期. 信濃考古, 27: 4-6.
- 鈴木誠・香原志勢 (1968) 長野県北相木村栃原岩陰遺跡出土人骨について. 解剖学雑誌, 43: 41-42.
- 鈴木誠・西沢寿晃 (1975) 第VI章 人骨. 志なの入遺跡-発掘調査報告, 南牧村教育委員会, pp. 25-31.
- 鈴木信夫 (1961) 関東地方人脛骨の人類学的研究 (計測編). 東京慈恵会医科大学雑誌, 75: 2638-2678.
- 高野元昭 (1958a) 関東地方人肩甲骨の人類学的研究. 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集, 18: 1-44 + 付表, 写真 1-3.
- 高野元昭 (1958b) 関東地方人鎖骨の人類学的研究. 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集, 18: 1-24 + 写真.
- Ubelaker D.H. (1978) *Human skeletal remains - Excavation, Analysis, Interpretation*. Taraxacum, Washington. pp. 172.
- Weidenreich F. (1936) The mandibles of *Sinanthropus pekinensis*. A comparative study. *Palaeontologica Sinica*, Series D, 7 (3).
- 山口敏 (1976) 観音堂洞窟第19層縄文早期屈葬人骨. 帝釈峡遺跡群, 帝釈峡遺跡群発掘調査団編, pp. 196-197.
- 山口敏 (1982) 縄文人骨. 縄文文化の研究 2, 縄文人とその環境, 雄山閣, pp. 15-88.
- 山口敏 (1983) 岩手県花泉町蝦島 (貝島) 貝塚出土縄文時代人骨の体幹体肢骨について. 国立科学博物館専報, 16: 201-222, 図版 10.
- 山口敏 (1986) 日本人の顔と身体. PHP研究所, pp. 200.
- Yamaguchi B. (1992) Notes On The Human Skeleton Of The Early Jomon Phase From The Meotoiwa Rock Shelter Site In Ogose, Saitama Prefecture. *Bulletin of the National Science Museum, Series D (Anthropology)*, 18: 29-37.
- Yoneda M., Hirota M., Uchida M., Tanaka A., Shibata Y., Morita M., and Akazawa T. (2002) Radiocarbon and stable isotope analyses on the earliest Jomon skeletons from the Tochibara Rockshelter, Nagano, Japan. *Radiocarbon*, 44: 549-557.

第7章 総括

はじめに

国史跡栃原岩陰遺跡の「栃原岩陰部」では、既に記したように1965年の発見以降、1973年までに15回に及ぶ発掘調査がなされており、本報告はその総括報告書となる。本遺跡の調査過程は第2章で述べたが、それは今日の緊急発掘とは大きく異なる学術目的の調査であり、そのためもあってか、これまで実に多様な人々の関わりがあった。残念ながら発掘調査の中心を担っていた方々が故人となられ、当時の様子を再現することは困難であるが、本書は、遺跡の生の情報を引き出せるよう、これまで公表されていなかった多量の遺物やその出土記録、調査時の平面図やセクション図を掲載することで、今後、広く共有の歴史資料として活用されることを目標に編纂された。

本章では総括として、各分野ごとに記載した情報を、時期区分とともに提示することとする。

1. 栃原岩陰遺跡の特徴

本遺跡の特徴は、大きく分けて3つあげることができる。

1点目は、その立地である。その名に示されるように、本遺跡は通常の開地遺跡ではなく、川沿いの浅い洞窟状地形に残された遺跡である。

2点目は、土器や石器のみではなく、有機質の遺物を含んだ多様で多量の出土品が見られることである。人骨、各動物骨、骨角器、貝製品、植物依存体など、特に沿岸部のように貝塚の存在しない地域では、その出土自体が極めて稀で重要となる。

そして3点目は、上記の遺物が、I～IV区のおよそ560cmに及ぶ遺物包含層の中で、基本的に攪乱されることが少なく、概ね層順を保った状態で発見されたと考えられる点である。このことは、時期区分の基礎となる土器型式や放射性炭素年代測定を起点に、各遺物のセット関係やその推移を考え得る資料となることを意味している。

以上3点は、本遺跡を理解していく上で、極めて必要な点である。

2. 遺跡の時期区分

第5章で記したように、栃原岩陰遺跡では、発掘調査時を含め20点を超える資料が、放射性炭素年代測定にかけられている。このうち15点はすでに公表されていたが（西沢1982、Yoneda et al.2002、米田2012、藤森2012a）、本報告ではこれに加え、新たに土器付着炭化物4点、シカ骨2点の分析結果やデータを掲載した。

較正年代を算出するプログラムが異なるものを含むが、測定値で見ても層順と年代値に大幅なずれはなく、概ね堆積に乱れが少ないことが予想される。またこのことは、土器の型式的なまとまりが一定のレベル幅に集中する傾向がある事と整合的で、かつその変遷は、これまでの編年観とも矛盾は少ない。

つまり、I～IV区では、放射性炭素年代測定により裏打ちされた年代のもと、土器型式毎での遺物や遺構との組み合わせを考える事が可能となる。よって、各章で示されたこれらの情報を整理しながら、可能な限りの時期区分を提示しておきたい。尚、ここでは、年代測定の値は、各々の較正プログラムで出されたものを、そのまま表記しており、その点注意されたい。

結果的には、大枠では従来の通り、レベル0～-100cmで縄文早期後葉以降の「上部」、レベル

-100～-380cmで縄文早期中葉押型文系土器の多い「中部」、レベル-380cm～最下層で縄文早期前葉表裏縄文系土器を多出する「下部」に区分可能と判断した。

但し、このうち「上部」と「中部」の境については、-100～-150cmの間では遺物量も少なく、明確に設定するのは困難である。また人骨の出土が-150cm以下にかたまることから、ここを境界にする指摘もある。しかし、遺跡の変遷を考える上では大きな問題はないと判断し、ここでは過去の見解とも混乱のないよう、-100cmを境界としている。

また「中部」については、遺物の量や内容から3時期に区分した。-100～-210cm付近で、埋葬人骨を含み、押型文系でも新しい楕円文土器が多い「中部（上）」、-210～-350cm付近で、遺物遺構の量が極めて多く、山形押型文土器が主体的に出土する「中部（中）」、-350～-380cmで、遺物遺構が少なく押型文系初期に多い格子目文土器が見られる「中部（下）」である。

但し何れにせよ、掲載したセクション図でも分かるように、岩陰内の堆積は複雑で、必ずしも水平堆積にはならないことから、区分のラインは大まかな目安と考えておきたい。

「上部」(0～-100cm)

I～IV区では、早期中葉押型文系以降の土器も見られる。量的には縄文早期後半の土器がやや多く、縄文前期、中期、弥生後半期、さらに古代の土器が極少数づつ出土している。但し、出土レベルは安定していないか、もしくは不明のものが多い。しかし、早期中葉以前の土器はほぼ-100cm以下から出土することから、0～-100cm付近は、早期後葉以降の堆積層であると判断した。

尚、-95～-127cmの炭化物資料では、9004-8560 cal BP (95.4%) という数値が出されており(第5章(1))、明確な「中部」以下の各資料の数値よりは新しいものとなる。

石器、動物骨、その他遺物も極端に少なく、加えて西沢1982では、炉址等の遺構は0～-100cmまでは皆無で、さらに-200cmまでは配石炉は無く少数の焼土が見られるのみであるとされるが、今回掲載した平面図からも、同様なことが読み取れる。

但し、やや遺物量の多い縄文早期後半の土器に関しては、従来「相木式」とも呼ばれた復元可能な個体(77-1)が含まれること、またこの土器に時間的に並行あるいは後続し、本報告では沈線文条痕文系と呼んだ早期後葉の土器が、より東側のV区、さらには1983年の調査区でも比較的多く出土していることには注意すべきである。

「中部（上）」(-100～-210cm)

埋葬されたと思われる人骨(1、2、4、6、7号人骨)は、レベル-150cm～200cm付近に集中するが、それ以外の8号人骨も、ほぼこのレベルから出土している。

記録の残る限りでは、このレベルから出土した土器は楕円押型文が主体的で、山形押型文が混ざる状況である。両施文具を使った土器も、わずかではあるが出土している(78-28、29、30)。

また、人骨の年代測定では、-155cmの1号人骨が9490～9280 cal BP、-201cmの2号人骨が9690～9470 cal BP、-173cmの4号人骨が9560～9440 cal BP、7号人骨が9530～9330 cal BP、-211cmの8号人骨が9470～9130 cal BPとなり、年代差を含むが、概ね9500年前前後となる(第5章(2))。炭化物では、-150～-182cmで10204-9295 cal BP (95.4%) とやや幅があるが(第5章(1))、人骨の値と大きな矛盾はないと思われる。

埋葬人骨群を含むこのレベルは、早期中葉の押型文期後半、山形文の一部と楕円押型文土器が主体的となる時期に相当すると考えられる。

石器では、チャート製の剥片石器がややまとまるが、これ以下で主体的となる黒曜石製石器はわずかである。哺乳類骨では、ニホンジカやイノシシが若干数見られる。土壌サンプルからは、オニグルミ、アカザ属、コナラ属の炭化核等が少量見られた（第4章(10) - 3）。

しかしいずれも、これより下位の遺物量と比較すれば少量なのは明らかであり、炉と思われる明確な配石（石組）も確認されない。

「中部（中）」（-210～-350cm）

-210cm～350cm前後では、早期中葉の山形押型文土器が主体的となり、石器をはじめ、各骨類、貝等の出土量が著しく増加する。

-230cm出土の縦位密接の山形文土器（80-5）の付着炭化物の年代測定結果が7813-7602 cal BC（95.4%）（第5章(4)）と、「中部（上）」の年代よりは若干古い結果と思われ、レベル的には矛盾はない。但し、-300～-310cm出土ニホンジカ脛骨では9660-9500 cal BP（68%）（第5章(5)）で、上記の土器より若干新しい傾向にあり、出土レベルとは逆転している。

炉跡等を見ると、西沢1982の記述でも、-200～300cmでは石組炉が18、-300～340cmでは、石組炉9、焼土7とされる。掲載した平面図でも多数の遺構が確認されるが、-250cm前後でも焼土が多く見受けられる（図23）。また西沢は-345cmで径70、厚さ80cmの土器囲い炉の存在をあげているが、図74のII-2グリッドの遺構がこれに該当すると思われる。さらにII-2グリッドの-200cmに長さ180cmにわたり直線状に置石したものが検出されたとされるが、図21のII-1グリッドに見られる配石が、これに該当するだろうか。

剥片石器の出土量は極端に増加し、-240～-280cm付近で最多となる。大部分が黒曜石で、少量の残核が混ざり、石鏃等製品に比べ、剥片が大多数を占めるという特徴を持つ。また、出土量の多い-220～-230cmを中心に100点抽出し黒曜石産地推定分析を行なったが（第5章(6)）、全体の4分の3を西霧ヶ峰系が占める結果であった。

礫石器では、「上部」「中部（上）」でもわずかに出土している砥石が-220cm前後から増加し、以下-390cm付近までが一つのピークとなる。一方で磨石、凹石類は少数に留まる。

骨角器や加工痕のある骨資料も多く見られるが、縫針や釣針などは、記録が残る中では少ない。

哺乳類骨も多く、ニホンザル、ツキノワグマ、カモシカがやや多く、イノシシ、ニホンジカは特に多い。小型のものでは、テンが一定数見られる。

鳥類骨ではキジ科（キジ、ヤマドリ）が全体の大多数を占めるが、-280～-320cm付近で小さなピークが見られる。

またこのレベルでは、サケ属の骨が椎骨を中心に多数出土しており、特に-280cm以下に多い。ヒキガエル属を主としたカエル類も、このレベルで多くなる。

貝では加工されたタカラガイ類が多く、特に-200～-300cm前後に集中し、種も4種以上となる。加工痕のあるものでは、ツノガイ、イモガイ、ハイガイ、ムシロガイが少数ずつ出土している。その他用途不明であるが、クロアワビ、ウミニナ、キクスズメ、ヤツシロガイ、ハマグリ、ヤマトシジミなど海棲（もしくは汽水棲）の種も、概ね-220～-280cm付近に偏る。

淡水棲のカワシンジュガイは、-180cm以下で途切れることなく出土するが、-260～-320cmで最も多くなる。また数は少ないが、同じく淡水性の二枚貝であるカラスガイ、ドブガイも混ざる。

植物では、大型遺体ではエゾエノキ核、オニグルミ炭化核が見られ（第4章(10) - 3）、土器の圧痕からは、コナラ属果実が検出された（第4章(10) - 4）。

「中部（下）」（-350～-380cm）

撚糸文や縄文施文の土器とともに、型式学的に押型文系土器でも古いものに多いとされる格子目文土器が、数は少ないもののこのレベルで出土している。

また、この間では遺構も記録されていないとされるが、掲載可能な平面図がこのレベルでは残されておらず、これが実態を示すか否か、詳細は分からない。

剥片石器の出土数は激減し、礫石器でも、磨石、凹石は確認出来ず、砥石も3点と低調である。またレベルの判明しているものは1点のみであるが、特殊磨石がある。

骨角器の類も少なく、各種骨類もイノシシやニホンジカは一定数見られるものの、前後するレベルに比べ、大幅に少ない。貝類では、カワシンジュガイが、数は減るが一定数出土している。その他は、タカラガイ類などが極少数出土したのみとなる。

「下部」（-380～最深部-560cm）

-380cm以下では、土器は圧倒的に縄文もしくは撚糸文の回転施文の土器が多く、量もまとまって出土している。所謂、表裏縄文系土器であるが、口縁がやや外反し同部が張る個体から、直立に近い口縁を持つものなど、器形も一様ではない。さらに内外面施文、外面のみの施文があり、内面の施文部位なども相当のバラエティが認められる。また輪積単位施文、指頭圧痕による凹凸が見られる資料が多い。しかし、これらの組み合わせや出土レベル等、その実態解明は今後の課題である。

下部出土の土器では、8点行った放射性炭素年代測定で、-440cmの表裏撚糸文（90-11）が¹¹¹⁰⁵-10745 cal BP（95.4%）、-450cmの表裏撚糸文が（91-6）で10786-10578 cal BP（93.7%）、-470cmの表裏縄文（104-26）が¹⁰⁸⁷⁹-10687 cal BP（52.5%）、-470～-480cmの表裏縄文（105-6）が8735-8560 cal BC（95.4%）、-480～-490cmの表面縄文が（94-18）で8712-8544 cal BC（94.0%）、-500～510cmの表裏縄文（108-20）が¹¹²⁰⁷-11069 cal BP（70.9%）、-520～530cmの表裏縄文（111-18）が8723-8552 cal BC（95.4%）、-530cmの表裏縄文（112-3）が¹¹¹⁵⁰-10771 cal BP（95.4%）と、およそ11000～10700年前のものとしてされた（第5章(3)、(4)）。

炭化物では、-462cmで11412-8180 cal BP（94.7%）、-534～-535cmで10524-9472 cal BP（94.9%）（第5章(1)）で、-490～-500cm出土ニホンジカ中足骨が¹⁰⁷³⁰-10520 cal BP（95%）となる（第5章(5)）。

西沢によれば、-400～500cmで石組炉29、焼土14で、中でも石組炉は-440～490cm、焼土は-420～440cmの間にかたまるとされ、-500～550cmの間は、石組炉3、焼土13で焼土が多いという傾向が述べられている。掲載した平面図からも、概ね肯首出来そうである。また図37、39では、人為的とも取れる坑が記されているが、詳細は不明。

剥片石器の量は多く、ほとんどが黒曜石であるが、中部に比べ、製品の割合が多く、残核がごく少数で、小型の板状原石が増加している。また、小型三角形の石鏃が多いこと、小型の拇指状搔器が多いこともこのレベルの特徴である。

尚、黒曜石の産地推定では、出土量の多い-480～-500cmを中心に50点行った結果、西霧ヶ峰系が最多であるが、和田峠Ⅱ・鷹山系、男女倉系、麦草峠・冷山系が一定数含まれ、「中部（中）」とは異なる傾向となった（第5章(6)）。

礫石器では、磨石、凹石が多く、約8割がこのレベル出土となる。砥石も多く確認されている。また1点のみであるが、23cm×17cmの台石が出土している。

骨角器は数、種類とも多くなり、出土レベルが判明しているものでは、縫針や釣針、ヘラ状有孔製

品などはこのレベルに偏る。アオザメの歯を研磨した製品1点も、-480cm出土である。

哺乳類骨は「中部(中)」で確認しているものに加え、ノウサギやニホンリス、ムササビ等小型哺乳類や、キツネ、カワウソなど中型のものなどが加わるか増加している。一方でニホンジカ、イノシシも-440~-480cmで最多となる。鳥類骨では、やはりキジ科(キジ、ヤマドリ)が多く、-440~-500cm付近で最も多くカウントされた。ヒキガエル属を主としたカエル類の出土も再び増加し、-450cm前後でピークを向かえる。魚骨では数は少ないものの、サケ属が見られる。

貝類では、加工されたタカラガイ類、イモガイとともに、ツノガイの数が特に多い。カワシンジュガイも再び増加し、一つのピークを形成している。

植物では、大型依存体でエゾエノキ核、オニグルミ炭化核があり、特にオニグルミは数が多い。また少数であるが、ミズナラ-コナラ炭化子葉、ハシバミ炭化果実、トチノキ炭化未熟果が検出されたことは注目される(第4章(10)-2)。土壌サンプルからは、オニグルミ、エゾエノキ、ブドウ属、マタタビ属、マメ科、アカザ属の炭化核、種子等が得られた(第4章(10)-3)。さらに土器の圧痕からは、アズキ亜属、ダイズ属の種子、ハギ属の果実圧痕が検出されている(第4章(10)-4)。

このように、非常に多様な遺構遺物が多量に出土している。但し、180cm程の厚さを持つ包含層ではあるが、現在のところ、これを細分していくのは困難と言わざるを得ない。土器の年代測定では、概ね下層ほどやや古い傾向にはあるが、それぞれの土器の型式学的位置付けを今後行う必要があろう。また他の遺物に目を向けても、磨石、凹石の類が450cm以下に多いことが指摘できる以外は、積極的に差異を見出すことが困難である。よって、時期区分の可能性は認めつつ、ここでは従来の「下部」に留めておきたい。

また、ここに含まれる-390cm出土で、2体の小児骨である11、12号人骨が、およそ300×150×130cmに及ぶ落盤の下で発見されている。骨の破損出土状況などから、落盤による圧死の可能性も指摘されている。

V 区

V区については、弥生中期後半から後期、縄文中期、前期、早期の土器が出土している。特に早期後葉の土器はやや多い。また炉址の出土記録もあり、生活空間としての利用が想定されるが、人骨1体の出土もある(10号人骨)。この10号人骨の年代測定の結果は9420~9090 cal BPと、他の人骨資料と比べやや新しい数値となっている(第5章(2))。

いずれにせよ、残された遺物とその記録からは、確実な層位的堆積を見出すことは現在のところ困難である。これは、地形的に堆積土の崩落や、より上部に位置する1983年調査区、あるいは「天狗岩岩陰部」からの土砂の流入による二次堆積のためとも思われる。

3. 岩陰利用の変遷

以上の遺構や遺物の状況を踏まえて、年代順に、主に「栃原岩陰部」の利用された変遷を、おぼろげなら描いてみたい。

縄文時代早期前葉(表裏縄文系土器期・「下部」)

まず、岩陰利用開始時期は、縄文時代早期初頭であるとした。これまで本遺跡出土の土器の一部については、草創期末期に位置付ける旨もあったが、本報告で示した下部出土の土器では、8点行った放射性炭素年代測定で、いずれも約11000~10700年前のものとされたこと、さらに型式学的には、

関東地方の撚糸文系土器最古の井草式に近いものが含まれること（100-16、108-22等）、-470cm付近以下からは、関東地方の撚糸文系に類する資料（89-27~29）が見られることなどから、現在のところ草創期には遡らないと考えておきたい。

また、その最深部は約-560cmの砂層（旧河床面）直上とされるが、仮にこれが離水をした時期を示すのであれば、図62に旧河床面を掘り込むような炉が示されているように、離水直後からの利用があったと予想される。

また、「下部」に該当するレベルでは、天井高は岩陰奥部でも4m近くあり、面積も比較的広く、生活空間として問題がない。多種多様でまた多量の遺物や遺構の存在からも、おそらくは居住空間として、盛んに利用されていたと考えておきたい。

このレベルに多い拇指状搔器については、皮鞣しに使われた可能性が示されているが（藤森1996）、多量の獣骨、砥石、そして多様な骨角器の出土を考え合わせれば、狩猟した動物（この時期には小型哺乳類も多数含まれる）を解体し、骨角器や革製品の制作を行ったという姿も思い浮かぶ。

凹石、摩石も多く、植物質食料の摂取も行っていただと思われるが、ダイズ属、アズキ亜属、またトチの利用の可能性が示されたことも重要であろう。

一方では、タカラガイ、イモガイ、ツノガイ、またアオザメの歯など、沿岸地域とのつながりを示す遺物も見られる。

また、出土したキジ科の骨からは、春先から初夏にヤマドリメスを獲得していた可能性が示され、少なくともこの期間に岩陰が利用されていたことが予想される。一方で、サケ属についてはサクラマスの可能性が指摘され、もし降海型のものが含まれれば、秋口の捕獲が考えられようか。

また、土器圧痕で確認されたダイズ属、アズキ亜属、ハギ属は中秋から晩秋に結実するため、この頃に粘土に混ざり込んだとも思われる。但し、土器の製作場所が本遺跡である確証はないため、別のシーズンに作った土器を持ち込んだというシナリオも考えられる。

また-390cmでは、泥流塊の下から検出された2体の幼児骨について、骨の破損などの出土状況から、落盤による圧死の可能性も指摘されている。そうであれば、「下部」の最後期に発生した事故とも考えられる。これは、岩陰内でも子供を含む家族単位での生活があったことの傍証となるだろうか。

縄文時代早期中葉1（格子目押型文期・「中部（下）」）

その後、一時的に岩陰の利用が不活発になると予想される。「中部（下）」では、時期を区分し得る土器として、格子目押型文が出土しているが、石器等、他の遺物も少なく、明確な遺構も記録が残されていない。押型文初期、格子目文を主体とした時期に、限定的に利用されたと考えておきたい。尚、南相木村の格子目押型文の付着炭化物の年代測定（南相木村教育委員会2016）から、およそ10500~10300年前を含むと考えられる。

縄文時代早期中葉2（山形押型文期・「中部（中）」）

やがて、土器で言えば山形押型文が最盛期を迎える頃、「栃原岩陰部」の利用は再び活発になる。

土器の出土数は表裏縄文期よりは少ないものの、石器、貝類、各骨類等全てについて格子目押型文期から大幅に増加し、特に剥片石器では最多数となる。焼土や配石遺構も多く、岩陰内部で盛んな活動があったことが伺える。

狩猟対象としては、イノシシとニホンジカが突出すると思われ、またサケ属の骨やカワシンジュガイの出土数がピークを迎える。さらには黒曜石製石器の組成や入手先の変化など、早期前葉とは異なる

る生活様式も伺える。また加工されたタカラガイ類の数も早期前葉を上回るが、クロアワビ、ウミニナ、キクスズメ、ヤツシロガイ、ハマグリ、ヤマトシジミなど、装身具の材料とは言い難い貝類も、このレベル内に偏る。

総じて、山形押型文主体のおおよそ9800～9600年前を含む時期に、居住空間として盛んに利用されていた時期としておきたい。但し、このレベルの上部では、土砂の流入、堆積や、落盤等により、岩陰北側の最奥部は埋まり、天井のある面積は縮小していたと思われる。

縄文時代早期中葉3（山形・楕円押型文期・「中部（上）」）

これを過ぎると、土器は山形押型文から格子目押型文と続いて出土するが、量は他の遺物とともに激減する。そして、-150～-200cm前後で、岩陰北面に近くほぼ2m四方の空間に、少なくとも5体（1、2、4、6、7号人骨）の遺体が横向きの屈葬姿勢で埋葬されたのである。8号人骨も-211cm出土となる。

ただし、現在のところ、これら人骨の血縁関係等は不明であり、埋葬の同時性あるいはその前後関係を検証することは難しい。しかしいずれも、縄文早期中葉押型文の後半期に埋葬されたと考えておきたい。但し、一定期間埋葬の場として認識されていたのか、一時期に埋葬されたのか、その判断は難しい。

いずれにせよ、面積、高さともに生活空間としては適さない岩陰の奥まった空間を、墓域として利用していた様子が伺える。

但し、このレベル内でも焼土は10箇所以上存在しており、もしこれが通常の生活の痕跡であるとするれば、本来あったかも知れない岩陰南側の前庭部が、県道の敷設工事により破壊されていた可能性も含め、墓地以外の何らかの利用の可能性も捨て切れない。

縄文時代早期後葉以降（条痕文沈線文系期以降各期・「上部」）

「中部」より上位の堆積土中からは、早期後半の復元可能な土器個体（77-1）があるものの、層位的な特定は難しい。少なくとも早期中葉の押型文系土器期より新しく、現代（1965年の調査開始時）までの堆積土とは言えよう。

面積、天井までの高さともにわずかな空間（遺跡発見時で、奥行き約2～3m、幅約3～5m、天井部までの高さ約2m）ゆえ、これまでのような居住や埋葬の場としては利用されなかったと考えられる。Ⅰ～Ⅳ区では、早期後葉以降、縄文前期、中期、弥生後半期、古代の土器片が少量ずつ出土しており、その時間幅は長いですが、いずれの時期においても「栃原岩陰部」の利用は少なかったと判断できるだろう。

但し、1983年や1999年調査の調査区からも、縄文前期以降、同中期、弥生前期、中期～後期、古代、中世、そして近世の遺物が少数ではあるが断続的に出土している。特に、早期後葉の土器はⅠ～Ⅳ区でもやや多く見られ、Ⅴ区や1983年調査区では、相当数が出土しており、遺跡全体で見れば、少なくとも早期後葉期にもそれなりの土地利用があったはずである。Ⅴ区出土の10号人骨も、その資料の可能性はある。

4. 今後の課題

本報告では、これまで未公開だった多数の遺物やその記録、調査時の平面図、セクション図を示した。これらは遺跡の理解に基礎的な資料となるものである。またこの他にも、これまでになく新たな

発見や見解も多数記されている。

さらに本遺跡については、発見から既に50年以上が経ち、一部を第2章で紹介したように、これまでも様々な研究や考察がなされてきた。その中には、遺跡の理解の上で欠かせないものも多く、本報告に掲載されて然るべきものも多々ある。

本来であればこれらを駆使し、さらに細かな時期区分や、それぞれの時期における遺物の関係性、岩陰の空間利用、岩陰利用のシーズンや期間、さらには海産物の入手形態、人々の移動と定住の問題、また本章で取り上げなかった資料も含めた土器編年といった基礎的なものまで、考え得る、または考えるべき事柄は多岐に渡る。

加えて、周辺の遺跡との関係を踏まえ、各時期における岩陰遺跡の存在する意味を考えることは、当地域の歴史叙述を目指す上でも、重要な論点となろう。

語り足りない部分が多いが、本報告を新たな出発点として、栃原岩陰遺跡の研究を次のステージに進めていきたい。

付表 掲載遺物観察表

凡 例

- ・本表は、掲載した土器、剥片石器、礫石器、骨角器類、貝製品の観察表である。
- ・図版番号は、掲載した実測図の番号である。
- ・発掘年月日、グリッド、出土レベルについては、遺物に直接注記のあるもの、遺物台帳に対応するNo.が注記されたもの、各記録が記されたカードが付されていたもの、各記録が記されたビニール袋若しくは小箱にまとめて保管されていたもの、その他文献等で記録が判明したものを記入した。また記録が不明瞭のものや、連続するナンバリングなどから予測できるものは（ ）内に記した。
- ・注記は、遺物の扱われ方により異なる体系があり、複数の番号がある場合は、原則として新しく付したものを記した。
- ・実測番号は、注記とともに実資料にアクセスする際の便宜を図るため掲載している。
- ・土器の図版番号の太線の囲いは、同一個体であることを示す。
- ・土器の大別は、時期、型式、あるいは主な施文をもとにした便宜上の分類である。
- ・土器の文様、調整は、基本的に施文の順に記している。
- ・土器の胎土には、肉眼で観察できた鉱物、粒子等を記した。
- ・剥片石器の素材形態は、素材となった剥片（もしくは原石）の状態を、判明する限り記した。
- ・貝製品の備考には、実測図では表しにくい、加工面の状態を記した。

図版番号	大別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色調		備考	注記	実測番号	
						外面	内面		外面	内面				
75	1	弥生中期～後期	1965/12/15	壁近く	60	胴部	縦磨き	横磨き	茶色粒子	暗赤褐色	黒色	墨書?	W1127	618
75	2	中期中葉	不明	不明	不明	胴部	半隆帯	横ナデ	乳白色粒子	薄茶褐色	薄茶褐色		W1254	745
75	3	中期中葉	1966/5/15	崩れ	不明	胴部	隆帯・連続爪形文	横ナデ	乳白色粒子	薄茶褐色	黒色		W1252	743
75	4	前期後葉	(1965/12/15)	不明	表採	胴部	無節縄文による幾何学的文様	横ナデ	輝粒子・黒色粒子	薄茶褐色	暗黄褐色	指頭圧痕による凹凸	W1312	803
76	1	沈線文条痕文系	1965/12/15	I～IV	35	口縁	横位沈線・口唇下斜め刻み	横ナデ	黒雲母多・繊維	黒色	黒褐色		WV403	965
76	2	沈線文条痕文系	1965/12/5	不明	40	胴部	条痕	横ナデ	黒雲母微量	薄赤褐色	黒色	浅い指頭圧痕による凹凸	W974	464
76	3	沈線文条痕文系	1965/12/15	不明	40	胴部	浅く太い沈線	ナデ	輝粒子	茶褐色	黒褐色	固焼き・田戸下層	W971	461
76	4	沈線文条痕文系	1965/12/9	不明	50	胴部	横方向に並ぶ沈線	横ナデ	繊維微量?輝粒子少	暗赤褐色	暗赤褐色		W973	463
76	5	沈線文条痕文系	1965/12/15	I～IV	65	胴部	横方向の太く短い沈線	横ナデ	乳白色粒子多	薄橙褐色	薄橙褐色	田戸下層	WV208	1012
76	6	沈線文条痕文系	1966/5/17	I	160	胴部	条痕縦～斜	条痕縦	黒雲母微量	暗褐色	黒色・黄褐色	指頭圧痕による凹凸	WV213	1013
76	7	沈線文条痕文系	1961/8/16	I-2	189	胴下半部	浅い条痕	ややあばた状	灰色粒子	薄赤褐色	黒茶褐色		W975	465
76	8	沈線文条痕文系	1966/3/26	不明	(200付近)	胴部	縦浅い条痕・斜沈線	横ナデ	繊維・茶色粒子	暗褐色	黒灰褐色		W1140	631
76	9	沈線文条痕文系	1966/5/?	I	210付近(8号人骨付近)	胴部	横位矢羽状沈線	横ナデ	黒雲母微量	灰褐色	灰茶褐色	V区117-27、28と同一個体	WV207	1011
76	10	沈線文条痕文系	1966/5/14	II	220	口縁	横位並行の押引文。綾杉状の連続刺突	あばた状or剥落	黒雲母多・数mm大の岩石片	黒褐色	黒茶褐色		WV176	897
76	11	沈線文条痕文系	1966/5/14	I	220	胴部	条痕文	擦痕	繊維?・乳白色粒子・赤色粒子	黒茶褐色	茶褐色	内面不均一	W1250	741
76	12	沈線文条痕文系	不明	III	226	口縁	交差する沈線	横ナデ	輝粒子	黒褐色	黒褐色	固焼き・判ノ木山西	W972	462
76	13	沈線文条痕文系	1967/4/23	III	300-310	口縁	横ナデ(条痕?)・太い工具による波状沈線	横ナデ(条痕?)	繊維微量・輝粒子少	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	A1339	944
76	14	沈線文条痕文系	不明	II	330-340	胴部	格子目状沈線		黒雲母・黒色粒子	薄茶褐色	暗褐色	指頭圧痕による凹凸・判ノ木山西	WV222	1015
76	15	沈線文条痕文系	不明	III-3	485	胴部	横方向平行沈線文	横ナデ		暗褐色	暗茶褐色		W1311	802
76	16	沈線文条痕文系	(1966/5/13)	(I)	不明	口縁	条痕縦	剥落	繊維・赤色岩石	黒茶褐色		台帳だと石器	WV134	986
76	17	沈線文条痕文系	1966/5/14	I	壁より配石の側	胴部	横方向短い沈線文	ややあばた状		黄灰褐色	黄灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・田戸下層	A1119	955
76	18	沈線文条痕文系	不明	不明	不明	胴部～底部	条痕斜・横	浅い条痕横	繊維微量・	薄茶褐色	黒褐色・黒灰色		A1001	954
76	19	沈線文条痕文系	不明	不明	不明	底部付近	条痕文		繊維?	白茶褐色	黒色	内面ほとんど剥落・白灰付着	W1251	742
76	20	沈線文条痕文系	不明	不明	不明	底部付近	条痕多方向	条痕多方向	繊維・数mm大の鉱物	赤茶褐色	灰褐色	V区120-5と同一個体か、台帳だと石器	WV133	985
76	21	沈線文条痕文系	不明	(I)	不明	胴部	太い横位沈線	横ナデ	黒雲母少	黒灰褐色	黒色	田戸下層	WV216	1014
76	22	沈線文条痕文系	不明	不明	不明	口縁	LR縄文横	横擦痕	黒雲母極小	暗赤褐色	暗赤褐色	口唇部に刻み	W890	379
76	23	沈線文条痕文系	不明	不明	不明	胴下半部	LR縄文多方向	条痕横	黒雲母・数mm大の岩石	黒褐色・暗黄褐色	暗黄褐色	指頭圧痕による凹凸	WV219	1042
77	1	沈線文条痕文系	不明	不明	不明	口縁から底部	区画隆帯(山形文)・山形文縦・押し引き・円形刺突・口唇刻み	山形文横・横ナデ	繊維微量・黒色粒子・輝粒子微量	茶褐色・暗褐色	暗褐色・黒褐色	相木式	A117・A1199他	913
78	1	橋円文	1966/5/12	II	135	胴下半部	橋円文横	ナデ	黒雲母・黒色粒子	暗茶褐色	黒灰褐色		A1278	939
78	2	橋円文	1966/5/17	I	160	胴部	橋円文横		黒雲母	暗褐色	灰褐色		W926	415
78	3	橋円文	1966/8/19	I-2	175	胴部	橋円文横～斜		輝粒子多	赤茶褐色	黒黄色		W937	426
78	4	橋円文	1966/5/13	I	200	口縁～胴部	橋円文横	横ナデ	黒色粒子	黒褐色	黒茶褐色	78-5と同一個体か、固焼き	W935	424
78	5	橋円文	不明	不明	不明	口縁	橋円文横	横ナデ	黒色粒子	黒褐色	黒茶褐色	固焼き	W922	411
78	6	橋円文	1966/5/15	I	(200付近)	口縁	貼付隆帯・橋円文横・鋸歯状沈線	横ナデ	黒雲母	黒褐色	暗茶褐色	口唇部刻み・固焼き	W930	419
78	7	橋円文	1966/5か	I	205	底部付近	橋円文縦	ナデ	金色粒子	灰色	黒褐色	白灰付着・白い灰層の下	A1144	929
78	8	橋円文	1966/5/14	I	203	胴下半部	橋円文横	横ナデ	黒雲母	灰茶褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	A1180	940
78	9	橋円文	1966/5/14	I	210	胴部	橋円文横・刺突	横ナデ	乳白色粒子	黒灰色	黒茶褐色		W925	414
78	10	橋円文	1966/5/14	I	210	胴部	橋円文横	ナデ	黒雲母・黒色粒子少	黒灰色・黒褐色	黒黄褐色		W929	418
78	11	橋円文	1966/5/15	I	218	胴下半部	橋円文縦(帯状か)		黒雲母	黒灰茶褐色	黒灰褐色	78-12と同一個体か	W928	417
78	12	橋円文	1966/5/16	I	230	胴下半部	橋円文縦(帯状か)		黒雲母	暗茶褐色	灰茶褐色・黒褐色	白灰付着	W927	416
78	13	橋円文	1966/5?	II	219	胴部	橋円文縦・横(帯状)		黒雲母	暗茶褐色	灰褐色	固焼き	W939	428
78	14	橋円文	1966/5/14	II	220	口縁	橋円文横(帯状か)	横ナデ	黒色粒子・黒雲母微量	黒褐色	暗茶褐色	口唇部橋円文・浅い指頭圧痕による凹凸	W934	423
78	15	橋円文	1966/5/14	II	220	胴部	橋円文	横ナデ	白色粒子	暗赤褐色	薄茶褐色	固焼き	W923	412
78	16	橋円文	不明	IV	400-410	胴部	橋円文斜・横	縦横ナデ	赤色粒子	黒褐色・暗褐色	灰褐色	固焼き	W920	409
78	17	橋円文	1966/5?	III	不明	口縁	橋円文?横	横ナデ	乳白色粒子少	黒灰色	暗赤褐色	固焼き・灰付着・トレンチ1	W938	427
78	18	橋円文	1965/12?	(III)	不明	口縁	橋円文斜	横ナデ	黒雲母多	黒灰褐色	暗灰褐色		W932	421
78	19	橋円文	1966/5/13	II	不明	胴部	橋円文横・鋸歯状の平行沈線	横ナデ	黒色粒子少	暗茶褐色	黒褐色	固焼き・骨を被った土中	W931	420
78	20	橋円文	不明	不明	不明	口縁	橋円文横	横ナデ	白色粒子・輝粒子少	黒色	暗茶褐色・赤褐色	固焼き	W921	410
78	21	橋円文	不明	不明	不明	口縁	橋円文斜	斜ナデ	黒雲母	黒灰色	黒灰色		W918	407
78	22	橋円文	不明	不明	不明	胴部	橋円文縦	横ナデ	黒色粒子・輝粒子少	茶褐色	黒茶褐色	穿孔	10031	938
78	23	橋円文	1965/12/9.10	不明	不明	胴部	橋円文縦(帯状)	斜ナデ	黒雲母	黒灰色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W936	425
78	24	橋円文	1966/5?	I	不明	胴部	橋円文横		黒雲母多	黒褐色	茶褐色	中央遺構面	W924	413
78	25	橋円文	不明	不明	不明	胴部	橋円文横	横ナデ	黒色粒子	暗茶褐色	黒灰色		W980	470
78	26	橋円文	不明	不明	不明	胴下半部	橋円文多方向?		茶色粒子・輝粒子	暗褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W981	471
78	27	キヤタピラ状文	1965/8/18	I 掘-1	143	胴部	キヤタピラ状文横	ナデ・ややあばた状	黒雲母多	赤褐色	黒色		W990	460
78	28	橋円文+山形文	1966/8/19	I	143	胴部	橋円文横～斜・山形文?	ナデ	茶色粒子	橙褐色	黒褐色		W979	468
78	29	橋円文+山形文	1965/5/14	I	210	胴部	橋円文横・山形文横	ナデ	茶色粒子・黒色粒子	暗橙褐色	黒黄色		W933	422

付表1 土器観察表(1)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
78	30	横内文・山形文	不明	不明	不明	胴部	横内文横・山形文横	ナデ	黒雲母	暗褐色	黄褐色		W1291	782
79	1	山形文	1965/12?	(Ⅲ)	117	口縁	山形文縦	横ナデ	黒雲母少	黒褐色	暗灰褐色	固焼き・灰付着	W1038	529
79	2	山形文	1965/12/?	不明	117	胴部	山形文縦	ナデ	黒雲母	黒褐色	黒褐色・灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1046	537
79	3	山形文	1966//8/18	I-Ⅱ	154	底部付近	山形文縦		黒雲母多	赤茶褐色	黒色		W1055	546
79	4	山形	不明	壁	190	口縁	山形文横・縦	横ナデ	黒雲母	白茶褐色	白褐色	薄	W879	368
79	5	山形文	1966?	I	(200付近)	胴部	山形文縦	横ナデ	数mm大の岩石	薄茶褐色	明茶褐色	固焼き・白灰付着	W1031	522
79	6	山形文	1666/5/14	I 西壁	(200付近)	胴部	山形文縦	横ナデ	乳白色粒子・黒雲母	灰褐色	黄灰褐色	固焼き	W1042	533
79	7	山形文	1966/5/15	I	(200付近)	胴下半部	山形文縦	横ナデ	黒雲母多	暗茶褐色	灰褐色	79-12と同一個体の可能性・浅い指頭圧痕による凹凸・固焼き・灰・灰付着	AI1125	935
79	8	山形文	1966/5/14	I 西壁	(200付近)	底部付近	山形文縦	斜ナデ	黒雲母	黒褐色	黒褐色		W1039	530
79	9	山形文	1966/8/20	I 西壁 人骨共伴	(200付近か)	胴部	山形文縦	横ナデ	黒雲母多	黄灰褐色	黒褐色		W1045	536
79	10	山形文	1966/5/16	Ⅱ 中央 配石下	(200~250付 近か)	胴下半部	山形文縦		黒雲母	暗褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W1050	541
79	11	山形文	1966/5/16	Ⅱ 中央 配石下	(200~250付 近か)	胴部	山形文縦	斜~横ナデ	黒雲母	黒色・黒灰	暗灰褐色	固焼き	W1037	528
79	12	山形文	1966/5/16 1966/5/16 1966/5/16	Ⅱ 中央 配石下 Ⅱ	(200~250付 近か) 不明 不明	胴下半部 ~底部付 近	山形文縦	横ナデ	黒雲母多	暗茶褐色	黒褐色・灰 褐色	79-7と同一個体の可能性・浅い指頭圧痕による凹凸	AI259 164 166	918
79	13	山形文	1966/5/13 1966/5/14	I I	200 210	胴部	山形文縦	横ナデ	黒色粒子微量	茶褐色	橙褐色・黒 茶褐色	割れ口に種実状圧痕あり。	AI1151 AI1111	927
79	14	山形文	1966/5/14	I	203	胴下半部?	山形文横	横ナデ	数mm大の岩石	暗茶褐色	茶褐色		W1036	554
79	15	山形文	1966/5/14	I	210	口縁	山形文横・縦(帯状)	横ナデ	黒雲母微量	黒褐色	暗褐色	口唇部山形文・固焼き	W1076	567
79	16	山形文	1966/5/14	I	210	口縁~胴部	山形文横(帯状)	横ナデ	黒雲母	薄茶褐色	薄赤褐色・ 薄茶褐色	口唇部山形原形押圧?・固焼き	W1077 568・ 569 W1078	
79	17	山形文	1966/5/14	I	210	胴下半部	山形文縦	斜擦痕	黒雲母	黒褐色	暗黒褐色		W1051	542
79	18	山形文	1966/5/14	I	210	胴下半部?	山形文縦	横ナデ	黒雲母多	黒褐色・暗 灰色	黒茶褐色	灰付着	W1044	535
79	19	山形文	1966/5/14	I-1	210	底部	山形文横・縦(帯状)	横・斜ナデ	輝粒子少	暗茶褐色・ 黒褐色	暗茶褐色・ 黒褐色	外面に回転痕か	AI1138	930
79	20	山形文	1966/5/13	Ⅲ	211(No.8号 人骨共伴)	胴部	山形文縦	横ナデ		暗褐色	暗褐色	固焼き・灰付着	W1030	521
79	21	山形文	1966/5/13	Ⅲ	211(No.8号 人骨共伴)	胴部	山形文縦	横ナデ		暗茶褐色	暗灰褐色	固焼き・灰付着	W1054	545
79	22	山形文	1966/5/14	Ⅱ	220	胴部	山形文縦	ややあばた状	黒雲母	暗褐色	暗灰褐色	固焼き・白灰付着	W1033	524
79	23	山形文	不明	Ⅱ	(220)	口縁	山形押型文縦(帯状?)	—	黒雲母	灰褐色	灰褐色	口唇部に山形押型文・裏面欠損 か・白灰付着	W878	367
80	1	山形文	1966/5/16	Ⅱ 区	(220付近)	胴下半部 (底部付 近)	山形文縦	横ナデ	細かな黒雲母	黄灰色・黒 灰色	黄灰色・黒 灰色	薄手・固焼き・灰付着	W1047 W1117	538・ 608
80	2	山形文	1966/5/16	Ⅱ	225	底部	山形文縦		黒色粒子・黒雲母微 量	黒茶褐色	灰褐色	固焼き	AI27	932
80	3	山形文	1966/8/16	Ⅲ	226	胴下半部	山形文縦	横ナデ	黒色粒子	灰褐色	茶褐色	固焼き・白灰付着	W1056	547
80	4	山形文	1966/5/16	I	230	胴部	山形文横		茶色粒子	黒褐色	黒灰色・黒 色	固焼き	W1062	553
80	5	山形文	1966/8/18	Ⅲ	230	胴下半部	山形文縦	横ナデ	黒雲母	灰色	黒色	薄手・固焼き・年代測定(第5章(4) No.1)	W1032	523
80	6	山形文	1966/5か?	Ⅱ	(230前後)	胴部	山形文縦	横ナデ	黒雲母	灰色	黒色	薄手・固焼き	W1034	525
80	7	山形文	1966/5/16	不明	(230前後)	胴部	山形文縦	横ナデ	黒色粒子	暗茶褐色	黒褐色	薄手・固焼き・灰付着	W1053	544
80	8	山形文	1966/5/14	Ⅱ	230	胴部	山形文縦	ナデ	白色粒子	薄黄灰色	黒色	灰付着	W1027	518
80	9	山形文	不明	Ⅱ	234	胴部	山形文縦	ナデ・ややあばた 状	黒色粒子・数mm大 の岩石	黒褐色	黒褐色・赤 褐色	薄手・固焼き	W1048	539
80	10	山形文	不明	Ⅱ	234	胴部	山形文縦・沈線?	横ナデ	黒雲母	灰茶褐色	黒色	薄手・固焼き	W1040	531
80	11	山形文	不明	Ⅲ	237	胴部	山形文横(帯状)	横ナデ	黒雲母多	黒色	灰褐色	灰付着	W1041	532
80	12	山形文	1966/5/16	Ⅱ	238	胴部	山形文縦	横ナデ	黒雲母	黒褐色・暗 茶褐色	黒褐色・暗 茶褐色	固焼き	W1049	540
80	13	山形文	1966/5/17	I	250	胴下半部	山形文縦	横ナデ	黒雲母多	暗黄灰褐 色	暗黄灰褐 色・黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・固焼き	AI183	933
80	14	山形文	不明	Ⅲ-4	250-260	胴部	山形文縦	横ナデ	黒雲母	薄褐色	灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・固焼 き・灰付着	W1036	527
80	15	山形文	1966/8/18 1966/8/18 1967/7/26 不明 1966/5/16	不明 不明 トレンチ 不明 Ⅱ	260-270 260-270 380-390 不明 不明	胴部	山形文縦	横ナデ	黒色粒子	黒褐色・暗 茶褐色	黒褐色・暗 茶褐色		AI365 AI216 365	917
80	16	山形文	1971/7/15	奥の院	260-270	口縁	山形文横	横ナデ	黒雲母微量	黒灰色	灰褐色	口唇部山形文・固焼き	WV305	1047
80	17	山形文	1966/8/18	Ⅲ	260-270	胴部	山形文縦	横ナデ	白色粒子少	黒褐色・灰 色	黒色・灰茶 褐色	固焼き・白灰付着	W1035	526
80	18	山形文	不明	Ⅱ-2	300-310	胴部	山形押型文縦帯	横ナデ	銀色粒子	灰褐色	黒灰色		W883	372
80	19	山形文	1966/8/19	Ⅲ-1	280-290	胴部	山形文横(帯状)	ナデ	茶色粒子	薄茶褐色	灰褐色	薄手・固焼き	W1123	614
80	20	山形文	1966/8/19	Ⅲ-1	280-290	胴部	山形文縦(帯状)	横ナデ	輝粒子・黒色粒子	灰色	黒灰色	薄手・固焼き	W1124	615
80	21	山形文	1966/8/19	Ⅱ-1	285	胴部	山形文縦(帯状)	横ナデ	銀色粒子	薄灰褐色	薄茶褐色・ 黒色	薄手・固焼き	W1284	775
80	22	山形文	?/?/25	Ⅲ-2	290-300	口縁	山形文横(帯状)	横ナデ・擦痕	金色粒子多	黒茶褐色	薄茶褐色	口唇部山形文・浅い指頭圧痕に よる凹凸・薄手・固焼き	I0025	934
80	23	山形文	1967/4/22	Ⅱ-2	(300付近)	胴部	山形文縦(帯状)	斜ナデ	銀色粒子	黒灰色	黄色灰色	薄手・固焼き	W1283	774
80	24	山形文	1968/7/26	Ⅲ-3	310-320	胴部	浅い大振り山形文縦	ナデ	黒雲母多・黒色粒子	黒褐色	明茶褐色		W1293 ~ W1296	784 ~ 787

付表1 土器観察表(2)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
									外面	内面				
81	1	山形文	1968/7/26	Ⅲ-3	310-320	胴部	浅い大振りの山形文縦	ナデ	黒雲母多	黒褐色・茶褐色	黒褐色		W1297	788
81	2	山形文	1968/7/26 1968/7/26	Ⅲ-3 Ⅲ-3	(310-320) (310-320)	胴部	浅い大振りの山形文縦	ナデ	黒雲母多	黒褐色・茶褐色	黒褐色	白灰付着	3103・ 3104	923
81	3	山形文	1968/5/18 1968/7/26	Ⅱ-3 Ⅲ-3	370 370-380	胴部	浅い大振りの山形文縦	ナデ	黒雲母多	茶褐色	黒褐色		W1292	783
81	4	山形文	不明	Ⅲ-1	((573))	胴部	浅い大振りの山形文縦		黒雲母多	黒色・黒灰色	暗灰色		W982	472
81	5	山形文	不明	不明	不明	胴部	浅い大振りの山形文縦	ナデ	黒雲母多	茶褐色	黒褐色		W1289	780
81	6	山形文	1967/7/24	Ⅲ-1	355	口縁	浅い大振りの山形文縦	ナデ	黒雲母多	黒褐色	黒褐色		W1299	790
81	7	山形文	1967/7/25	Ⅱ-3	360-370	胴部	山形文縦	斜ナデ	輝粒子	暗褐色	黒色	固焼き	W1026	517
81	8	山形文	1967/7/26	Ⅲ-2	390	口縁～胴部	浅い大振りの山形文縦	横ナデ	黒雲母多	黄褐色	黒黄褐色		W1298	789
81	9	山形文	不明	不明	不明	口縁	山形文縦・横	横ナデ	黒雲母多	黒灰色	灰褐色	口唇部山形・浅い指頭圧痕による凹凸・固焼き	W1073	564
81	10	山形文	不明	不明	不明	口縁	山形文横	横ナデ	黒雲母多	黒褐色	褐色	口唇部山形文・固焼き	W1067	558
81	11	山形文	不明	不明	不明	口縁	山形文横	横ナデ	黒雲母多	黒褐色	灰褐色	口唇部山形・薄手・固焼き	W1074	565
81	12	山形文	1970/6/12	不明	崩れ	胴部	山形横・沈線?	横ナデ	黒雲母	黒茶褐色	黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸・固焼き	W1069	560
81	13	山形文	不明	Ⅲ	トレンチ1	胴部	山形文縦	ややあばた状	黒雲母	暗赤褐色	茶褐色	固焼き	W1029	520
81	14	山形文	不明	不明	不明	胴下半部	押型文縦	斜ナデ	黒雲母	暗茶褐色	黒褐色	固焼き・灰付着	W1059	550
81	15	山形文	1966/5か?	I	不明	胴下半部	山形文縦(帯状)	斜ナデ	茶色粒子・黒雲母微量	暗褐色	褐色	固焼き・白灰付着	W1057	548
81	16	山形文	1966/?/?	Ⅲ-1	不明	胴部	山形文縦	斜ナデ	黒色粒子少	茶褐色	黄灰褐色	固焼き・灰付着	W1058	549
81	17	山形文	不明	不明	不明	胴部	山形文縦	ナデ	輝粒子	暗褐色	黒褐色	薄手・固焼き・白灰付着	W1116	607
81	18	山形文	不明	不明	不明	胴部	山形文縦	ナデ	黒雲母多	暗褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1118	609
81	19	山形文	不明	不明	不明	胴部	山形文縦(帯状)	剥落	黒雲母	灰褐色			W1119	610
81	20	山形文	不明	Ⅰ	不明	胴部	山形文縦	斜ナデ	黒雲母	暗茶褐色	黒褐色		W1028	519
81	21	山形文	不明	Ⅱ	不明	胴部	山形文縦	横ナデ	黒雲母多	黒褐色・暗褐色	暗褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1043	534
81	22	山形文	不明	不明	不明	胴部	山形文縦	斜ナデ	黒雲母多	暗黒灰色	灰茶褐色	固焼き	W1052	543
81	23	山形文	不明	不明	不明	胴部	山形文横	縦線痕	黒雲母	暗茶褐色・黒褐色	暗黒灰色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1068	559
81	24	山形文	不明	不明	不明	胴部	山形文縦・横(帯状)	横ナデ	銀色粒子・茶色粒子	灰褐色・薄茶褐色	灰褐色	薄手・固焼き	W1285	776
82	1	沢式	1967/7/? 1967/4/22 1967	I Ⅱ-2 Ⅲ-1	250 不明 280	胴部	山形文横・縦(帯状)・沈線?	横・斜ナデ	輝粒子多・茶色粒子・黒色粒子	黒灰色	黒灰色	薄手・固焼き・灰付着	42.7A W1280 W1281 A1287	942・ 771・ 772・ 773
82	2	沢式	不明	不明	不明	胴部	山形文横・縦(帯状)・沈線?	横・斜ナデ	輝粒子多・茶色粒子・黒色粒子	黒灰色	黒灰色	薄手・固焼き	W1286	777
82	3	表裏山形文	1966/5/15	トレンチ内	10	口縁	山形文縦(帯状)・山形文横	山形文横	黒雲母	黒褐色	暗褐色	口唇部山形文・薄手・固焼き・灰付着	W1071	562
82	4	表裏山形文	1966/5/13	Ⅲ	211(No.8号人骨共伴)	口縁	山形文縦(帯状)	山形文横・縦(帯状)	白色粒子小	黒色	黒灰色	口唇部山形文・固焼き	W1066	557
82	5	表裏山形文	1966/5/16	Ⅱ	234	口縁～胴部	山形文縦(帯状)施文後一部をすり消しか	山形文横(帯状)施文後一部をすり消しか・横ナデ	輝粒子少	黒色・茶褐色	暗茶褐色・茶褐色	口唇部山形文・固焼き	W1070 W1072 W1075	561・ 563・ 566
82	6	表裏山形文	1966/5/16	I	244	口縁	山形文縦(帯状)・口縁に横方向線条痕	山形文横(帯状)	黒色粒子	薄黄褐色・灰茶褐色	暗茶褐色・黄灰褐色	口唇部山形文・固焼き	W1064 W1065	555・ 556
82	7	表裏山形文	不明	Ⅲ-1	280-290	胴部	山形文縦	山形文横(帯状?)	黒雲母	黒灰褐色	灰褐色	薄手・固焼き	W1122	613
83	1	格子目文	?・8/20	(Ⅲ-2)	280-290	口縁～胴部	格子目文縦・横(帯状)	横ナデ	銀色粒子多	暗茶褐色	黄灰褐色	口唇部格子目文・浅い指頭圧痕による凹凸・薄手・固焼き	—	943
83	2	格子目文	不明	Ⅲ-2	280-290	胴部	帯状格子目?縦・横	横ナデ	銀色粒子	黒褐色	薄茶褐色	薄手・堅焼き・指頭圧痕による凹凸	W881	370
83	3	格子目文	1967/7/24 1968/5/18	3区Ⅱ Ⅱ-2	350-360 380-390	口縁～胴部	やや帯状の格子目縦	横ナデ	黒雲母	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色		A15106	937
83	4	格子目文	不明	不明	不明	口縁～胴部	格子目文縦	横ナデ	黒雲母	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色		3100	951
83	5	格子目文	1968.5?	Ⅲ	370	胴部	帯状格子目縦・横	横ナデ	黒雲母	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色		A1389	936
83	6	格子目文	1968/5/18	Ⅲ-2	386-410	底部	格子目縦	横ナデ	黒雲母・輝粒子	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色		A1383	945
83	7	格子目文	不明	Ⅲ-4 奥の院	370-380 350-370	底部付近	格子目文斜め	ナデ	黒雲母	暗褐色	黒褐色	灰付着	W1287 W1288	778・ 779
83	8	格子目文	1968/7/28	Ⅱ-3	440-450	底部付近	格子目文横	輝粒子	輝粒子	灰茶褐色・黒褐色	黒色	灰付着	W1290	781
83	9	格子目文	不明	不明	不明	底部付近	格子目文横	横ナデ	輝粒子	黒灰褐色	灰褐色・黒色	固焼き・白灰付着	—	941
83	10	沈線山形	1967/7/26 1968/7/26	Ⅲ-2 Ⅱ-3	390 390-400	口縁～胴部	太い沈線による鋸歯状文・細い沈線による鋸歯状文・縦ナデ	横ナデ	輝粒子・乳白色粒子	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	A1350A 1354	430
83	11	沈線山形	1967/7/26 1967/7/26	(Ⅲ-2) Ⅱ-3	390-400	口縁～胴部	太い沈線による鋸歯状文・すり鉢状の円文・縦ナデ	横ナデ	輝粒子・乳白色粒子	黒褐色	黒褐色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W941	920
84	1	無文	1965/12/15	不明	35	胴下半部	縦線状痕		黒雲母微量	暗茶褐色	黒色	白灰付着	W1149	640
84	2	無文	1965/12/15	不明	47	胴部	ナデ	横ナデ	茶色粒子少	赤褐色	黒褐色		W1139	630
84	3	無文	1965/12/16	I	104	胴部	縦ナデ	あばた状	黒雲母	暗黄褐色	黒黄褐色		W1154	645
84	4	無文	不明	不明	(115)	胴部	縦ナデ	横ナデ	茶色粒子・輝粒子	黒灰色	灰褐色	薄手・固焼き	W983	473
84	5	無文	1965/12/?	Ⅲ	177	胴部	縦磨き	横ナデ	輝粒子少	黒褐色	灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・台帳では山形文	W1129	620

付表1 土器観察表(3)

図版番号	大別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色調		備考	注記	実測番号	
						外面	内面		外面	内面				
84	6	無文	1966/5?	不明	(200付近)	口縁~胴部	口縁部横擦痕・胴部縦擦痕	横ナデ	黒雲母・黒色粒子	黒褐色・暗灰褐色	茶褐色・薄茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W940	429
84	7	無文	1966/5/12	I	(200付近)	胴下半部	磨き・横擦痕	横ナデ	黒色粒子	茶褐色	暗褐色	輪襷or貼り付けの凹凸?・白灰付着	W1153	644
84	8	無文	1999/5/12	I	(200付近)	胴部	横擦痕	横ナデ	茶色粒子・数mm大の岩石	暗褐色	黒茶褐色		W1136	627
84	9	無文	1965/5/16	I	235	胴下半部	斜磨き	横ナデ	黒雲母少	暗褐色	黒灰色	台帳では石鏡	W1148	639
84	10	無文	1966/5/16	I	235	胴下半部	横ナデ	横ナデ	黒雲母多	暗茶褐色	暗茶褐色	84-11と同一個体か・白灰付着	W1061	552
84	11	無文	1968/7/26	Ⅲ-3	310-320	胴部	縦ナデ?	やや	黒雲母多	暗茶褐色	黒色	白灰付着	W1060	551
84	12	無文	1967/4/21	I	250	底部付近	縦ナデ?	横ナデ	黒色粒子少	灰褐色	黒灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・台帳では石器	W1152	643
84	13	無文	1966/5/17	I	250	胴部	縦擦痕	あばた状	黒雲母	暗褐色	黒褐色		W1144	635
84	14	無文	1971/7/15	奥の院	260-270	口縁			乳白色粒子少	黒色	黒黄灰色	口縁部に粘土の潰れ	WV304	1046
84	15	無文	不明	Ⅱ-2	265	胴部	縦擦痕		黒雲母	黒褐色	黒褐色・灰褐色		W1155	646
84	16	無文	不明	Ⅱ-2	270-280	胴部	縦ナデ	あばた状	黒雲母	黒褐色	黒黄褐色	内面剥落?・圧痕013不明木材	W1156	647
84	17	無文	1967/4/21	I	274-284	胴下半部	縦磨き・横~斜擦痕	横ナデ	茶色粒子・輝粒子少	暗茶褐色	暗褐色		W1151	642
84	18	無文	不明	Ⅲ-2	280-290	胴部	指頭圧痕	横ナデ	数mm大の岩石・黒色粒子	薄赤褐色	薄赤褐色	白灰付着	W880	369
84	19	無文	1967/4/23	Ⅱ	300-310	胴部	ナデ	ややあばた状	黒雲母	茶褐色	黒色	白灰付着	W1141	632
84	20	無文	1967/7/23	Ⅲ-1	310-320	胴部	縦ナデ	横ナデ	黒雲母少	黒灰色	暗黒灰色		W1079	570
84	21	無文	1967/4/23	I	310-320	胴部	縦擦痕	ややあばた状	黒雲母	暗赤褐色	黒色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1145	636
84	22	無文	1968/7/26	Ⅲ-3	310-320	胴部	縦磨き	あばた状	輝粒子	黒茶褐色	茶褐色	内面剥落?	W1147	638
84	23	無文	1966/4/25	Ⅱ	320-330	口縁	縦擦痕	あばた状	輝粒子	暗褐色	明茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着・内面剥落?	W1146	637
84	24	無文	1969/7/23?	?-2	(320-330)	胴部		ややあばた状	黒色粒子・黒雲母	暗赤褐色	黄褐色	補修孔	W1058	576
84	25	無文	1967/4/23	Ⅲ-1	320-330	底部付近	縦磨き			焦茶色	黒色		W791	1043
84	26	無文	1967/7/23	Ⅱ-1	330-340	胴部	縦磨で	横ナデ	数mm大の岩石・黒雲母	黒茶褐色	黒色		W784	1050
84	27	無文	1967/7/28	?-2	340-350	胴部	縦ナデ	斜ナデ	灰色粒子	薄茶褐色	黒灰色・黒色		W1080	571
85	1	無文	1967/7/24	Ⅲ-1	355	胴部	縦擦痕	ややあばた状	黒雲母多	暗茶褐色・黒色	黒色・黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W858	1048
85	2	無文	不明	Ⅱ-1	370-380	胴下半部		ややあばた状	黒雲母	黒茶褐色	暗灰褐色		W1083	574
85	3	無文	不明	Ⅲ-1	380	口縁	斜擦痕	横ナデ	黒色粒子・茶色粒子	黒褐色・暗茶褐色	茶褐色		W1082	573
85	4	無文	1967/7/23	Ⅱ	380-390	口縁	横ナデ	横ナデ	乳白色粒子	黒色・茶褐色	黒灰色	穿孔	W857	F No.
85	5	無文	1967/7/26	Ⅱ	380-390	底部付近	縦磨き	横ナデ	黒色粒子	暗茶褐色・灰茶褐色	灰褐色		W1128	619
85	6	無文	1967/7/23	I	380-390	胴下半部	縦擦痕(条痕?)	ナデ	黒色粒子・輝粒子少・黒雲母微量	暗茶褐色・黒褐色	黒色・黒褐色	906と同一個体か・浅い指頭圧痕による凹凸	AI1182・AI2100	957
85	7	無文	1967/7/23	I Ⅲ-2	380-390 380-390	胴下半部 ~底部付近	縦擦痕(条痕?)	ナデ	黒色粒子・輝粒子少・黒雲母微量	暗灰茶褐色	暗灰茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV201・WV202・WV203	906
85	8	無文	1967/7/26	Ⅲ-2	395	底部	横磨き		輝粒子	灰茶褐色	黒灰色	白灰付着	W1212	703
85	9	無文	1968/5?	Ⅲ-2	407	胴下半部?	縦擦痕	斜ナデ	茶色粒子・赤色粒子	白灰褐色	暗茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1142	633
85	10	無文	1968/7/27	Ⅱ-3	450-460	口縁~底部	斜から縦ナデ(ケズリ)	横ナデ	黒色粒子	暗茶褐色・茶褐色	灰褐色	ナデによる光沢箇所あり	AI2195	946
85	11	無文	不明	I	520-530	底部			乳白色粒子	灰褐色	暗茶褐色		W1228	719
85	12	無文	不明	不明	不明	口縁~胴部	横ナデ	横ナデ	繊維??・黒雲母多	黒灰褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1125	616
85	13	無文	1966/8/17	IV	不明	口縁	ナデ	ナデ	白色粒子	黄灰褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1138	629
85	14	無文	不明	不明	不明	口縁	ナデ	ナデ	黒雲母・輝粒子	黒褐色	茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1131	622
85	15	無文	不明	不明	不明	口縁	横ナデ	横ナデ	茶色粒子多・輝粒子	黒褐色	暗茶褐色		W809・817・823	1041
85	16	無文	1965?	不明	不明	胴部	縦ナデ	横ナデ	黒雲母多	薄茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1081	572
85	17	無文	不明	不明	不明	胴下半部?	横線状痕	あばた状・縦擦痕?	輝粒子	薄茶褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸・内面剥落?	W1132	623
85	18	無文	不明	不明	不明	胴部	縦状痕	斜ナデ	黒雲母多	暗褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1133	624
85	19	無文	不明	不明	不明	胴部	縦擦痕	横ナデ	輝粒子・黒雲母微量	暗褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W1134	625
85	20	無文	不明	不明	不明	胴部	ナデ	ナデ	茶色粒子・黒雲母微量	灰茶褐色	灰茶褐色		W1120	611
85	21	無文	不明	不明	不明	胴部	ナデ	ナデ	輝粒子・数mm大の黒色岩石	暗褐色	灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1137	628
85	22	無文	1967/4/22	Ⅱ	不明	胴部	磨き	横ナデ	黒雲母	黒褐色	茶褐色	白灰付着	W1130	621
85	23	無文	不明	不明	不明	胴部	浅い縦条痕か	横ナデ	茶色粒子	明茶褐色	黒褐色	灰付着	W1135	626
85	24	無文	不明	不明	不明	底部	斜の擦痕		黒色粒子少	薄茶褐色	灰褐色	内面未調整?	W1229	720
86	1	網目状擦系文	不明 不明 1965/12/?	不明 不明 Ⅲ	117 155 117	口縁~胴部	網目状(波状)R擦系縦	横ナデ	黒色粒子・黒雲母・乳白色粒子	黒褐色・暗茶褐色	茶褐色・灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	AI314W・380	924・285
86	2	網目状擦系文	1965/12/17	Ⅲ	155崩れ	口縁~胴部	網目状(波状)R擦系縦	横ナデ	黒色粒子・黒雲母・乳白色粒子	黒褐色・暗茶褐色	茶褐色・灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	AI326	925
86	3	網目状擦系文	1965/12	Ⅲ	117	胴部	網目状(波状)R擦系縦		黒色粒子・黒雲母・乳白色粒子	黒褐色	暗茶褐色		W379	284
86	4	網目状擦系文	不明	不明	不明	胴部	網目状(波状)R擦系縦		黒色粒子・黒雲母・乳白色粒子	黒褐色	灰褐色		W383	288
86	5	網目状擦系文	不明	不明	不明	胴部	網目状(波状)R擦系縦		黒色粒子・黒雲母・乳白色粒子	黒褐色	茶褐色		W370	275

付表1 土器観察表(4)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調査等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
86	6	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状(波状)R摺系縦		黒色粒子・黒雲母・乳白色粒子	黒褐色	茶褐色		W382	287
86	7	網目状摺系文	不明	Ⅲ-4	300-310	胴部	網目状R摺系文縦	横ナデ	黒雲母多	黒茶褐色	黒色	灰付着	W1207	698
86	8	網目状摺系文	不明	不明	不明	底部付近	網目状R摺系文縦		黒雲母多	黒茶褐色	黒色	灰付着	W1208	699
86	9	網目状摺系文	1967/7/23	I	328	口縁	網目状R摺系文縦	横ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	薄黒灰色	灰茶褐色		W365	270
86	10	網目状摺系文	1971/7/15	奥の院	340-350	胴下半部	網目状R摺系文縦	横ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	黒灰色・暗茶褐色	黒色・黒灰色		W363	268
86	11	網目状摺系文	不明	Ⅲ-4	340-350	胴部	網目状R摺系文縦		黒雲母多・黒色粒子少	黒色・暗茶褐色	黒色		W355	260
86	12	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状R摺系文縦	横ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	黒色・暗茶褐色	黒色・暗茶褐色		W356	261
86	13	網目状摺系文	1968/7/25	Ⅲ-2	360-370	胴部	網目状R摺系文縦		黒雲母多・黒色粒子少	黒灰色	灰褐色		W385	290
86	14	網目状摺系文	不明 1968/7/26 1968/5/19	不明 Ⅲ-3 I-0	不明 350-380 不明	胴部下半部	網目状R摺系文縦		黒雲母多・黒色粒子少				W371 W377 W384	276- 282- 289
86	15	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状R摺系文縦	斜ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	灰茶褐色	黒色		W387	292
86	16	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状R摺系文縦	横ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	黒灰色	灰茶褐色		W372	277
86	17	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状R摺系文縦		黒雲母多・黒色粒子少	黒灰色	黒灰色		W373	278
86	18	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状R摺系文縦	横ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	黒灰色	薄茶灰色		W374	279
86	19	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状R摺系文縦	横ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	黒色・黒灰色	灰茶褐色		W375W 376	280- 281
86	20	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状R摺系文縦	斜ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	暗灰褐色	黒色		W381	286
86	21	網目状摺系文	不明	不明	不明	胴部	網目状R摺系文縦	斜ナデ	黒雲母多・黒色粒子少	黒色	灰褐色		W386	291
86	22	網目状摺系文	不明	Ⅲ-2	370	胴部	網目状(波状)R摺系縦		輝粒子	暗茶褐色	黒褐色		W378	283
86	23	網目状摺系文	不明	Ⅱ-2	420-430	胴部	網目状摺系文縦	横ナデ	乳白色粒子・輝粒子少・黒色粒子	暗茶褐色	茶褐色		W369	274
86	24	網目状摺系文	不明	Ⅱ-3	450-460	胴部	網目状R摺系文縦	R摺系横	黒雲母・黒色粒子	黒褐色・茶褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W367	272
86	25	網目状摺系文	1970/6/14	Ⅱ-1	480-490	口縁～胴部	網目状(やや波状)R摺系縦	摺系?	黒雲母多	黒灰色	黒色・黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W364	269
86	26	網目状摺系文	1967/7/23	Ⅳ	不明	口縁～底部	網目状R摺系文縦	ややアバタ状	黒雲母	薄茶褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	A1416	953
87	1	表摺系文	1966/5か	I	78	胴部	LR摺系?	弱い横ナデ	黒色粒子・輝粒子少	薄茶褐色	暗灰色	指頭圧痕による凹凸・奥壁(No.6の奥の石のした)	A11150	928
87	2	表摺系文	不明	Ⅱ	80	胴部	R摺系斜		輝粒子	薄茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W124	129
87	3	表摺系文	不明	不明	90	胴部	R摺系縦・斜	斜ナデ	黒雲母	暗茶褐色	灰黄褐色	指頭圧痕による凹凸	W368	273
87	4	表摺系文	1965/12/16	I	127	胴部	R摺系縦?	ナデ	黒雲母多	明茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W1245	736
87	5	表摺系文	不明	I Ⅱ-2	171	胴部	R摺系斜	斜ナデ		薄茶褐色	黒褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W993	483
87	6	表摺系文	不明	I Ⅱ-2	171	胴下半部	R摺系斜・横	横ナデ	輝粒子	薄茶褐色・灰褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W992	482
87	7	表摺系文	1965/5/13	I	205	胴部	L摺系縦(帯状)	横ナデ		黄茶褐色	黄茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1221	712
87	8	表摺系文	1966/5/14	I	210	口縁	L摺系文横位(口唇部下)・同縦	横ナデ	数mm大の岩石・茶色粒子	黒灰褐色	黒灰色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W277	187
87	9	表摺系文	1966	Ⅱ	40	口縁	L摺系文横位(口唇部下)・同縦	横ナデ	数mm大の岩石・茶色粒子	黒灰褐色	黒灰色・茶褐色	「人骨面近く」指頭圧痕による凹凸	W275	185
87	10	表摺系文	1966/5/14	I	210	胴部	L摺系文横位(口唇部下)・同縦	横ナデ	数mm大の岩石・茶色粒子	黒灰褐色	黒灰色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W281	191
87	11	表摺系文	1966/5/14	Ⅱ	(219)	胴部	L摺系文横位(口唇部下)・同縦	横ナデ	数mm大の岩石・茶色粒子	黒灰褐色	黒灰色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W280	190
87	12	表摺系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文横位(口唇部下)・同縦	裏面剥落	数mm大の岩石・茶色粒子	黒灰褐色	黒灰色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W274	184
87	13	表摺系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文横位(口唇部下)・同縦	横ナデ	数mm大の岩石・茶色粒子	黒灰褐色	黒灰色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W271	181
87	14	表摺系文	1966/5/16	I	230	胴部	R摺系斜	斜ナデ	乳白色粒子少	灰褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W1239	730
87	15	表摺系文	1968/7/26	Ⅲ-3	310-320	口縁	摺系?		輝粒子・乳白色粒子	灰褐色	灰茶褐色	口唇部施文・指頭圧痕による凹凸	W1237	728
87	16	表摺系文	不明	Ⅱ	325	胴部	摺系?		黒雲母	薄赤褐色	黒褐色	白灰付着	W637	366
87	17	表摺系文	1967/7/23	Ⅱ	330-340	胴部	R摺系斜		乳白色粒子・輝粒子	黒茶褐色	黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1242	734
87	18	表摺系文	不明	Ⅲ-4	330-340	胴部	L摺系縦		黒雲母多	暗茶褐色	黒色		W1248	739
87	19	表摺系文	不明	Ⅲ-1	345	胴下半部?	R摺系縦～斜	斜ナデ	茶色粒子・輝粒子	薄茶褐色	黒灰褐色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1249	740
87	20	表摺系文	不明	不明	(350)	底部付近	L摺系多方向		黒色粒子・輝粒子	灰茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1023	514
87	21	表摺系文	1974/8/22	0-4?	365-385	胴部	R摺系多方向		輝粒子	暗茶褐色	黒色	灰付着	W994	484
87	22	表摺系文	不明	Ⅲ-4	415-455	底部付近	R摺系多方向		茶色粒子	灰褐色・茶褐色	茶褐色・黒色	顕著な指頭圧痕による凹凸・灰・白灰付着	W1021	512
87	23	表摺系文	不明な	Ⅲ-2	470-490	底部付近	R摺系多方向	横ナデ?	茶色粒子	暗褐色	黒褐色	灰付着	W1022	513
87	24	表摺系文	1966/5/19	Ⅱ-2 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 院	145? 370-380 380-400 380-400	胴下半部	R摺系多方向	ナデ	黒雲母	暗褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	A12129 10018	958
87	25	表摺系文	不明	Ⅲ-4	380-400	底部付近	R摺系多方向	ナデ	黒雲母	暗褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1025	516
87	26	表摺系文	1968/5/18	Ⅱ-3	380-390	底部付近	R摺系縦		輝粒子微量・1mm大の茶色粒子少	灰褐色	黒灰褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1238	729
87	27	表摺系文	1968/5/18	Ⅲ	410-420	胴部下半部?	R摺系斜		黒雲母・茶色粒子	暗赤褐色	暗灰褐色	指頭圧痕による凹凸・外表面剥落	W1240	731

付表1 土器観察表(5)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
87	28	表撫糸文	不明	Ⅱ-3	410-420	胴部	R撫糸縦	横ナデ	黒雲母	暗褐色	暗褐色	輪種毎単位施文・貼り付け部で剥がれている	W1307 W1038	798- 799
87	29	表撫糸文	不明	Ⅲ-4	415-450	胴下半部	R撫糸縦		茶色粒子	明灰褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1016	507
87	30	表撫糸文	不明	Ⅲ-4	415-450	底部付近	L撫糸多方向		数mm大の岩石	白灰褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1015	506
87	31	表撫糸文	不明	I-3	420-430	口縁	撫糸文L or R縦・斜	横ナデ		茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・内外面に、薄く粘土の剥がれた箇所あり	W995	485
88	1	表撫糸文	不明	Ⅱ-3	420-430	胴部	R撫糸縦	斜ナデ	輝粒子・茶色粒子・ 数mm大の岩石	黄灰色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W978	468
88	2	表撫糸文	不明	奥の院	425	胴下半部	R撫糸縦	斜ナデ	輝粒子・茶色粒子・ 数mm大の岩石	黄灰色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W977	467
88	3	表撫糸文	不明	不明	不明	胴下半部	R撫糸縦	斜ナデ	輝粒子・茶色粒子・ 数mm大の岩石	黄灰色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W976	466
88	4	表撫糸文	1968/5/20	Ⅱ-2	425	胴下半部	R撫糸斜	横ナデ	黒雲母	暗茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W375	262
88	5	表撫糸文	1968/7/27	Ⅱ-3	425-435	胴部	R撫糸斜	横ナデ	茶色粒子・輝粒子	茶褐色	黒褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1234	725
88	6	表撫糸文	1968/7/27	Ⅱ-3	430	胴部	R撫糸縦	斜ナデ	輝粒子・赤色粒子	暗茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1235	726
88	7	表撫糸文	不明	Ⅲ-2	430-440	口縁	R撫糸斜(2方向)	横ナデ	乳白色粒子	薄茶褐色	薄茶褐色		W361	266
88	8	表撫糸文	不明	Ⅲ-1	440	口縁	R撫糸縦		輝粒子・茶色粒子	黒褐色	暗灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W352	257
88	9	表撫糸文	不明	(Ⅱ-1)	440	胴下半部	R撫糸縦		白色粒子多・数mm 大の岩石	黒褐色・灰 褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W721	F No.
88	10	表撫糸文	不明	Ⅲ-2	440-450	口縁	L撫糸縦		輝粒子	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W261	169
88	11	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	L撫糸縦		輝粒子	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W260	168
88	12	表撫糸文	1968/9/19	Ⅱ-1	450-460	口縁	撫糸縦	横ナデ	黒雲母微量	薄茶褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W348	253
88	13	表撫糸文	1968/7/27	Ⅲ-2	440-450	胴部	R撫糸縦	横ナデ	乳白色粒子	黒灰色	黄灰色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	W1241	732
88	14	表撫糸文	1968/7/28	Ⅱ-3	450-460	胴部	R撫糸多方向		輝粒子	白灰褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1217	708
88	15	表撫糸文	1970/10/17	Ⅲ-1	450-550	胴部	R撫糸縦	斜ナデ	黒雲母多	灰褐色	黒黄褐色	灰付着	W1024	515
88	16	表撫糸文	1968/7/28	Ⅱ-3	450-460	胴下半部？	L撫糸縦	横ナデ	輝粒子	灰色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・炭・白灰付着	W1217	746
88	17	表撫糸文	不明	Ⅱ-0	455	口縁	R撫糸斜(2方向)	ゆるい横ナデ	輝粒子	暗茶褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W362	267
88	18	表撫糸文	不明	Ⅱ-2	460	口縁	O段・撫糸横	横ナデ	黒色粒子・輝粒子	薄茶褐色	黄茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W358	263
88	19	表撫糸文	不明	不明 Ⅲ-3 I-0	470	胴部	R撫糸縦		黒雲母	白茶褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着		706
88	20	表撫糸文	不明	Ⅱ-2	470-480	口縁	R撫糸文縦・横		黒色粒子・輝粒子	灰茶褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸・穿孔		166
88	21	表撫糸文	不明	Ⅱ-1	(470-480)	口縁	L撫糸文多方向	横ナデ	輝粒子	暗茶褐色	黒茶褐色	口唇部R撫糸斜・指頭圧痕による凹凸	W359	264
88	22	表撫糸文	不明	Ⅲ-1	480	胴部	R撫糸縦	斜ナデ	乳白色粒子多	暗灰褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1019	510
88	23	表撫糸文	不明	Ⅲ-1 Ⅲ-1 不明	480-490 470-480 不明	口縁	R撫糸斜・縦	横ナデ	輝粒子・茶色粒子	灰褐色	灰褐色・明 茶褐色	口唇部R撫糸文横(一部内面に及ぶ)・指頭圧痕による凹凸	W266 W262	170- 171- 172
88	24	表撫糸文	1970/6/14	Ⅱ-1	480-490	胴部	L撫糸縦		黒雲母多	明茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1244	735
88	25	表撫糸文	不明	Ⅱ-2	490-500	胴部	R撫糸縦	横ナデ	黒雲母多・黒色粒子	暗灰褐色	暗黄灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1020	511
88	26	表撫糸文	不明	Ⅱ-2	495	胴部	R撫糸縦・横(帯状)	横ナデ	黒雲母多	黒色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸・89-13と同一個体と思われる	W354	259
88	27	表撫糸文	不明	Ⅱ-2	495	胴部	R撫糸縦・斜		黒雲母多	黒褐色	暗茶褐色		W1242	733
88	28	表撫糸文	1968/5/19	I-0	不明	胴部	R撫糸縦		黒雲母多	黒褐色	暗茶褐色		W1246	737
88	29	表撫糸文	不明	不明	495	口縁	L無節撫糸斜	弱い横ナデ	輝粒子・茶色粒子	暗茶灰褐色	黒色・黒灰 色	指頭圧痕による凹凸・89-29~ 32、同一個体の可能性	W259	167
88	30	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	L無節撫糸斜		輝粒子・茶色粒子	茶灰褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W1236	727
88	31	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	L無節撫糸多方向	弱い横ナデ	輝粒子・茶色粒子	暗茶灰褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W353	258
88	32	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	L撫糸縦		輝粒子・茶色粒子	茶灰褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W351	256
88	33	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	R撫糸縦・斜		輝粒子・茶色粒子	暗茶褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W349	254
89	1	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	R撫糸斜	横ナデ	輝粒子極微量	黒灰色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W347	252
89	2	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	L撫糸縦	横ナデ擦痕	黒色粒子・黒雲母微 量	薄茶褐色	明茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W690	1039
89	3	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	L撫糸斜			灰茶褐色	赤褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1247	738
89	4	表撫糸文	不明	不明	不明	口縁	L撫糸文斜		黒雲母多	黒灰褐色	暗黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸・穿孔	W1213	704
89	5	表撫糸文	不明	Ⅲ	前れ	底部付近	L撫糸斜め(交差)		輝粒子	暗褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W716	1036
89	6	表撫糸文	不明	不明	不明	胴部	R撫糸文縦	横ナデ	黒雲母・赤色粒子	暗赤褐色	黒色・茶褐 色	指頭圧痕による凹凸	W722	F No.
89	7	表撫糸文	不明	不明	不明	胴部	R撫糸斜(2方向)		黒雲母多	黒灰色	黒色		W969	458
89	8	表撫糸文	1966/6/17	I-2	不明	胴下半部	L撫糸横	横ナデ	輝粒子	橙褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W360	265
89	9	表撫糸文	不明	不明	不明	胴下半部	L撫糸文縦・斜	横ナデ	黒雲母多	薄赤褐色	茶褐色・黒 褐色	指頭圧痕による凹凸	W1315	806
89	10	表撫糸文	1966/5/15	不明	不明	胴部	R撫糸縦	横ナデ	黒雲母	暗褐色	暗褐色		W1126	617
89	11	表撫糸文	不明	Ⅱ	不明	胴部	L撫糸横・斜			茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W366	271
89	12	表撫糸文	不明	不明	不明	胴部	L撫糸縦	横ナデ	黒雲母	茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1211	702
89	13	表撫糸文	不明	Ⅱ-2	不明	胴部	R撫糸縦・横	斜ナデ	黒雲母多	黒褐色	灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・89-26 と同一個体と思われる	W968	457
89	14	表撫糸文	不明	不明	不明	胴部	L撫糸文縦	横ナデ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W295	197
89	15	表撫糸文	不明	不明	不明	胴部	L撫糸文縦	横ナデ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W296	198
89	16	表撫糸文	不明	不明	不明	胴部	L撫糸文縦	横ナデ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W297	199

付表1 土器観察表(6)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号
						外面	内面		外面	内面			
									外面	内面			
89 17	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦	横ナテ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W298	200
89 18	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦	横ナテ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W299	201
89 19	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦	横ナテ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W300	202
89 20	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦	横ナテ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W301	203
89 21	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦	横ナテ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W302	204
89 22	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦	横ナテ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W303	205
89 23	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦	横ナテ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W304	206
89 24	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦	横ナテ	黒色粒子	茶褐色・暗 茶褐色・明 灰褐色	黒灰褐色・ 灰褐色		W305	207
89 25	表裏系文	不明	不明	不明	胴部	R摺系縦	横ナテ	黒雲母少・数mm大 の岩石	暗黄灰褐色	黒灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W692	1051
89 26	摺系文	不明	不明	不明	胴部	L摺系文縦		黒雲母多	灰茶褐色・ 黒褐色	黒灰色	白灰付着	W1231	722
89 27	摺系文系・稲荷台	不明	II-1 II-1	440-450 470-480	胴下半部	R摺系文縦	横ナテ	黒雲母	赤褐色	赤褐色	白灰付着	W1232 W1233	723・ 724
89 28	摺系文系・稲荷台	不明	II-2	465	胴下半部	R摺系文縦		黒雲母	赤茶褐色	灰褐色	723・724と同一個体?	なし	809
89 29	摺系文系・東山式	不明	III-2	520-530	口縁	横ナテ・沈線文?	横ナテ	輝粒子微量・黒色粒 子微量	灰茶褐色	灰茶褐色	摺系文系最後の無文	W1274	765
89 30	摺系文系	1965	不明	不明	口縁	R摺系縦	横ナテ	輝粒子	黒赤褐色	暗茶褐色	穿孔	W278	188
90 1	表裏摺系文	不明	III-4	340-350	口縁～胴 部	R摺系文斜位(口唇部下)・ R摺系文縦(胴部)・指頭圧 痕	R摺系横	黒雲母多	茶褐色・黒 褐色	茶褐色・黒 褐色	穿孔	W328	230
90 2	表裏摺系文	不明	不明	不明	胴部	R摺系縦	R摺系横	黒雲母多	茶褐色	茶褐色		W326	228
90 3	表裏摺系文		II-3	380-390	胴部	R摺系文横・斜	R摺系横		灰茶褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W99	105
90 4	表裏摺系文	不明	II-3	410-430	口縁	R摺系斜	R摺系横	輝粒子	黒色	黒色・茶褐 色	口唇部R摺系・指頭圧痕による凹 凸・白灰付着	W343	245
90 5	表裏摺系文	不明	III-4	415-450	口縁	L摺系縦	L摺系横	輝粒子微量	黄褐色	黒褐色・暗 茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1014	505
90 6	表裏摺系文	1968/7/27	II-3	430	胴下半部	R摺系縦・斜	R摺系縦～斜	茶色粒子・乳白色粒 子	茶褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸・輪積毎単 位施文・白灰付着	W346	251
90 7	表裏摺系文	1968/7/27	II-3	430	胴部	R摺系縦・斜	R摺系横・横ナテ・ 擦痕		薄赤褐色	薄赤褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W350	255
90 8	表裏摺系文	不明	II-3	430-440	胴部	摺系(原体不明)	L摺系横	黒雲母多	黒褐色	黒褐色	外面剥落・指頭圧痕による凹凸	W95	101
90 9	表裏摺系文	不明	II-1	430-450	口縁	R摺系縦	R摺系横	黒雲母小・輝粒子・ 茶色粒子	暗褐色	暗褐色	深い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W747	1035
90 10	表裏摺系文	1968/7/28	II-2	455	胴下半部	R摺系多方向	R摺系横	黒雲母多	茶褐色	黒色・赤褐 色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による 凹凸・白灰付着	W329	231
90 11	表裏摺系文	不明	II-1 II-2 II-1	440 455-460 460-470	口縁～胴 部	R摺系縦	R摺系横	黒雲母・数mm大の 岩石	暗茶褐色・ 黒褐色	黒色	口唇部にR摺系横・指頭圧痕による 凹凸・灰付着・圧痕Q28サイズ 属・年代測定(第5章(3)No.1)	---	249・ 250
90 12	表裏摺系文	不明	不明	425	口縁	R摺系縦	R摺系横	黒雲母・数mm大の 岩石	黒色・暗褐 色	暗茶褐色	90-11と同一個体と思われる	W757	F No.
90 13	表裏摺系文	不明	III-3	440-450	口縁	L摺系縦	L摺系横	輝粒子微量	黒灰褐色	黒灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W336	238
91 1	表裏摺系文	1968/7/28 1968/7/28 1968/7/28 1968/7/30	II-3 II-3 II-3 II-0	450-460 450-460 440-450 470-480	口縁～胴 部	R摺系多方向	口縁下にR摺系 横	輝粒子・茶色粒子	黒灰褐色	黒灰褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	2163 2164 2172 2181	921
91 2	表裏摺系文	1968/7/28	II-3	460	口縁～胴 部	R摺系多方向	口縁下にR摺系 横	輝粒子・茶色粒子	黒色・灰茶 褐色	黒色・黒灰 褐色	9顕著な指頭圧痕による凹凸・灰 付着	W325	227
91 3	表裏摺系文	不明	II-3	440-450	胴下半部	L摺系?縦・斜(交差)	L摺系?横	黒雲母多	黒茶褐色	黒灰褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	W736	1038
91 4	表裏摺系文	不明	III-1	450	口縁	R摺系縦	R摺系横	黒雲母・茶色粒子	黒褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1170	661
91 5	表裏摺系文	不明	II-2	450-460	口縁	R摺系縦	R摺系文横	輝粒子	灰色	灰色	口唇部R摺系横・灰付着?	W1165	656
91 6	表裏摺系文	不明	II-0	450	口縁	R摺系縦	R摺系横	黒雲母多	薄茶褐色	黒色	口唇部R摺系横・指頭圧痕による 凹凸・灰付着・年代測定(第5章(3) No.4)	W330	232
91 7	表裏摺系文	不明	不明	不明	口縁	R摺系縦	R摺系横	黒雲母多	薄茶褐色	黒色	口唇部R摺系横・指頭圧痕による 凹凸・白灰付着・圧痕O19サイズ 属?種子	W331	233
91 8	表裏摺系文	不明	III-1	450-460	胴部	R摺系多方向	R摺系横	黒雲母・数mm大の 岩石	茶褐色・黒 褐色	黒色・白灰 褐色	指頭圧痕による凹凸・灰・灰付着	W344	246
91 9	表裏摺系文	不明	III-1	450-490	胴部	R摺系斜・縦	R摺系横	赤色粒子	暗灰褐色	白灰褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W945	434
91 10	表裏摺系文	不明	III-3	460-470	胴部	摺系横～斜	摺系横	乳白色粒子	明茶褐色	黒色	白灰付着	T9	977
91 11	表裏摺系文	不明	II-1	460-470	胴部	R摺系縦	R摺系横	黒雲母・黒色粒子	薄茶褐色	暗灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1314	805
91 12	表裏摺系文	不明	III-0	480-490	口縁	R摺系斜～縦	R摺系横	輝粒子微量	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W884	373
91 13	表裏摺系文	不明	III-1	480	口縁	R摺系縦～斜	R摺系文横	輝粒子	茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W341	243
91 14	表裏摺系文	不明	III-2	490-500	胴部	R摺系多方向	R摺系斜	茶色粒子	薄茶褐色	黒褐色	輪積毎単位施文か・灰付着	W1018	509
91 15	表裏摺系文	不明	III-1	495	口縁	R摺系斜・縦	R摺系横	黒雲母多	灰茶褐色	黒茶褐色	口唇部R摺系文横・輪積毎単位施 文か・指頭圧痕による凹凸	W891	380
91 16	表裏摺系文	不明	II-1	495	口縁	R摺系斜	R摺系文斜・横	輝粒子	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W332	234
92 1	表裏摺系文	不明	I-0	500-530	胴部	R摺系文縦	R摺系文横	黒雲母	茶褐色	灰茶褐色	深い指頭圧痕による凹凸	W1007	497
92 2	表裏摺系文	不明	II-2	510	胴部	R摺系多方向	R摺系文横	乳白色粒子	赤褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	V762	F No.
92 3	表裏摺系文	不明	III-1	530-540	口縁	R摺系縦	R摺系横	黒雲母多	黒色	黒色	口唇部にR摺系	W758	F No.

付表1 土器観察表(7)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	表測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
92	4	表裏縹系文	不明	不明	不明	口縁	L縹系斜	L縹系文斜～横	輝粒子	黒褐色	黒褐色・暗 茶褐色		W338	240
92	5	表裏縹系文	不明	不明	不明	口縁	L縹系斜	L縹系斜・横	輝粒子・茶色粒子	赤茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W342	244
92	6	表裏縹系文	不明	不明	不明	口縁	R縹系斜・縦	R縹系横	茶色粒子・黒雲母小	薄灰褐色	灰褐色	口唇部内縹系横・指頭圧痕による凹凸・灰付着	W333	235
92	7	表裏縹系文	不明	不明	不明	胴部	R縹系斜	R縹系文横	黒雲母多	茶褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1017	508
92	8	表裏縹系文	不明	不明	不明	胴部	R縹系縦・斜(網目)	R縹系横	輝粒子少	茶褐色	茶褐色	白灰付着	W484- 2	319
92	9	表裏縹系文	不明	不明	不明	胴部	縹系文斜	縹系文横	黒雲母多	黒色・暗茶 褐色	黒灰色	顕著な指頭圧痕による凹凸	W1084	575
92	10	表裏縹系文裏縄文	不明	Ⅲ-1	440	胴部	R縹系縦	LR縄文横	黒雲母多	灰茶褐色	灰黒褐色	輪積毎単位施文か、浅い指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1303	794
92	11	表裏縹系文裏縄文	不明	I-1	490-500	胴部	R縹系縦	LR縄文横	黒雲母多	茶褐色・暗 茶褐色	茶褐色・暗 茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1316	807
92	12	表裏縹系文裏縄文	不明	Ⅲ-1	500-510	口縁	R縹系縦	R縄文横	黒雲母	茶褐色	黒褐色		W1313	804
92	13	表裏縹系文裏縄文	不明	Ⅲ-2	520-530	胴部	R縹系縦	RL縄文	黒雲母	暗茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W335	237
93	1	表縄文	1965/12/15 ?	不明	(55)	胴部	RL縄文横(帯状)	横ナデ		黒赤褐色	黄褐色	指頭圧痕による凹凸	W1150	641
93	2	表縄文	1966/5/15	(Ⅱ)	80	胴部	RL縄文(0段多糸)縦	横ナデ	黒色粒子微量、輝粒 子微量	黒褐色・茶 褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1253	744
93	3	表縄文	不明	Ⅱ	(171)	胴部	RL縄文横・横擦痕	横ナデ	黒雲母	黒灰褐色	茶褐色	輪積毎単位施文か・「中央配石 下」	W282	192
93	4	表縄文	1965/12/17	I	175	胴部	LR縄文縦(帯状)	斜ナデ	輝粒子少	黒褐色	暗灰褐色		W1198	689
93	5	表縄文	不明	Ⅲ	200	口縁	LR縄文横	斜ナデ	黒雲母	黒褐色	灰茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による 凹凸	W264	174
93	6	表縄文	1966/5/14	Ⅱ	210	胴部	LR縄文横(帯状?)	横ナデ	黒雲母	黒褐色・茶 褐色	黒褐色・茶 褐色	帯状もしくは輪積毎単位施文・押 型文に伴う?	W279	189
93	7	表縄文	1966/5/14 1966/5/14	Ⅱ Ⅱ	219 220	底部	RL縄文縦・横(羽状)		黒色粒子・茶色粒子	暗灰褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	A129 A1244	926
93	8	表縄文	不明	人骨 No.5の 左隣	(-230)	胴部	LR縄文縦	横ナデ	輝粒子少	暗茶褐色	黒茶褐色		W1196	687
93	9	表縄文	不明	人骨 No.5の 左隣	(-230)	胴部	RL縄文横	斜ナデ		黄灰色	黒褐色		W1197	688
93	10	表縄文(帯状)	不明	I	240付近	口縁	RL縄文縦(帯状)		黒雲母微量	暗茶褐色	黒灰色	浅い指頭圧痕による凹凸	W283	980
93	11	表縄文(帯状)	不明	I	240付近	胴部	RL縄文縦(帯状・一部すり 消しか)	横ナデ	黒雲母微量	黒褐色・暗 茶褐色	橙褐色	指頭圧痕による凹凸	W284	981
93	12	表縄文(帯状)	不明	I	240付近	胴部	RL縄文縦(帯状)		黒雲母微量	黒茶褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W285	982
93	13	表縄文	不明	I Ⅱ-1 I	234 (240) 240付近	胴下半部	RL縄文縦(帯状)	斜擦痕	黒雲母微量	暗茶褐色・ 黒色	暗茶褐色・ 黒色	指頭圧痕による凹凸	W286・ W287・ W288・ W289・ W291	194・ 195 193 196 983
93	14	表縄文(帯状)	不明	I	240付近	胴部	LR縄文縦(帯状)	横ナデ	黒雲母多	暗褐色	黒色・暗茶 褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W292	984
93	15	表縄文	不明	Ⅲ-4	250-260	底部	RL縄文縦	ナデ	黒雲母	灰茶褐色	灰茶褐色	灰付着	W1223	714
93	16	表縄文	不明	奥の院 崩れ	(276)	口縁～胴 部	羽状縄文(LR縄文横・縦)	斜ナデ・擦痕	数mm大の岩石多数	暗灰茶褐 色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸顕著・口縁 安定しない	W969- 2	459
93	17	表縄文	不明	Ⅱ	330-340	胴部	LR縄文横	欠損	茶色粒子少	赤茶褐色	黒灰色?	内面剥落?	W1206	697
93	18	表縄文	1968/5/18	I-3	370-380	口縁	羽状縄文(LR縄文縦・LR 縄文縦)	横ナデ	黒雲母多	黒灰色	黒灰色・茶 灰色	同一個体指頭圧痕による凹凸	W276	186
93	19	表縄文	1967/7/?	不明	375	胴部	羽状縄文(LR縄文縦・LR 縄文縦)	横ナデ	黒雲母多	暗茶褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1204	695
93	20	表縄文	不明?	Ⅲ-2	380	胴部	羽状縄文(LR縄文縦・LR 縄文縦)	横ナデ	黒雲母多	薄茶褐色	黒灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W408	295
93	21	表縄文	不明	Ⅱ-2	380-390	胴部	羽状縄文(LR縄文縦・LR 縄文縦)		黒雲母多	明灰褐色	明灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W636	365
93	22	表縄文	1968/5/18 1968 1968/5 1968/5/17 1967/7/26 1968/5/18	Ⅲ-3 I-3 Ⅲ Ⅱ-2 トレンチ Ⅱ-2	312 370 370 387 380-390 380-390	口縁～底 部	RL縄文横・ナデ	横ナデ・ややアバ タ状	黒雲母	黒褐色・茶 色	黒灰色・茶 色		A1386 1203 A1389 A12109 A1352 A12115	914
93	23	表縄文	不明	Ⅱ-2	380-390	胴部	RL縄文横	ややあばた状	乳白色粒子	灰褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W642	F No.
93	24	表縄文	1968/5/18	Ⅱ-3	380-390	底部付近	RL縄文横	横ナデ	黒色粒子	黒色	茶褐色	白灰付着	2105	979
93	25	表縄文	1967/7/26	Ⅲ-2	380-390	底部付近	LR縄文横	横ナデ	黒雲母微量	黒色	黒褐色	白灰付着	358	968
94	1	表縄文	1968/5/18	Ⅱ-2	390	胴部	LR縄文縦		輝粒子	黒茶褐色	薄茶褐色	白灰付着	W612	358
94	2	表縄文	1968/7/26	Ⅱ-3	395	底部	縄文		輝粒子少	灰茶褐色	暗茶褐色	灰付着	W1193	684
94	3	表縄文	1967/7/26	Ⅲ-2	395	底部	縄文			灰褐色	灰褐色	白灰付着	W1192	683
94	4	表縄文	不明	トレンチ	400-410	胴部	無節orLR縄文横?	横ナデ		薄褐色	黒色・灰色	灰付着	W984	474
94	5	表縄文	1967/7/27 (1965/5)	Ⅱ-1 不明	410-420 不明	口縁～胴 下半部	RL縄文縦	横ナデ	茶色粒子	暗灰色・暗 茶褐色	暗灰色・暗 茶褐色	白灰付着	— A1065 A1066	915
94	6	表縄文	不明	Ⅳ	410-420	胴部下半 部	無節L縄文斜・横	横ナデ	輝粒子	薄褐色	黒茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による 凹凸	W1306	797
94	7	表縄文	不明	Ⅱ-2	(414)	口縁	LR縄文横		黒雲母	灰茶褐色	灰茶褐色		W913	402
94	8	表縄文	1968/7/28	Ⅱ-2	430-440	底部	縄文			白灰色	灰色	白灰付着	W1194	685
94	9	表縄文	1968/7/28	Ⅱ-3	450-460	底部	LR縄文斜		黒雲母	灰茶褐色	黒灰褐色	灰付着	W1191	682

付表1 土器観察表(8)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号
						外面	内面		外面	内面			
									外面	内面			
94 10	表縄文	1968/7/28	Ⅱ-3	440-450	胴部	RL縄文縦	斜ナデ	黒雲母	暗褐色・黒褐色	黒褐色・褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W988	478
94 11	表縄文	不明	Ⅲ-0	440-450	胴部	LR縄文縦		輝粒子小	灰褐色	黒褐色	圧痕029アズキ重属	T2	967
94 12	表縄文	不明	I-0	450-460	底部	RL縄文多方向?		黒色粒子	黒褐色・暗茶褐色	茶褐色	白灰付着	W1224	715
94 13	表縄文	不明	Ⅱ-3	460-470	胴部	無節R縄文多方向	欠損	黒雲母	暗茶褐色		指頭圧痕による凹凸	W1172	663
94 14	表縄文	1968/7/29	I-0	470-480	口縁	LR縄文横・縦	斜め線状痕	黒雲母多	黒茶褐色	黒茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・炭付着	W273	183
94 15	表縄文	不明	Ⅲ-4	470-480	口縁	LR縄文縦・斜	横ナデ	黒雲母	暗茶褐色	茶褐色	95-7と同一個体の可能性・指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W268	178
94 16	表縄文	不明	I-0	470-480	底部付近	LR縄文縦			薄茶灰褐色	薄茶灰褐色	擬口縁	W625	364
94 17	表縄文	不明	I-3	470-490	口縁	LR縄文横・側面押圧	横ナデ	黒色粒子・黒雲母微量	黒茶褐色	赤褐色・黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1304	795
94 18	表縄文	不明	Ⅱ-3	480-490	口縁	LR縄文横		灰色粒子	暗灰色・黄灰褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸・炭付着・年代測定(第5章4No.2)	W991	481
94 19	表縄文	不明	Ⅱ-2	480-490	口縁	LR縄文斜	横ナデ	黒雲母	灰茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W990	480
94 20	表縄文	不明	Ⅱ-3	480-490	口縁	RL縄文横	剥落	黒雲母多	黒褐色	-		W989	479
94 21	表縄文	不明	I-3	480-490	口縁	RL縄文縦		輝粒子	灰褐色	灰茶褐色		W236	159
94 22	表縄文	不明	I-3	480-500	口縁~胴部	LR縄文縦・斜・口縁部に1条のLR側面押圧	横ナデ	輝粒子・乳白色粒子	黒灰色	灰褐色・黒色	指頭圧痕による凹凸・やや波状の口縁か	W236	25
94 23	表縄文	不明	Ⅱ-2	510-520	口縁	口縁部に1条のLR側面押圧		輝粒子・乳白色粒子	黒褐色	黒褐色		W148	143
94 24	表縄文	不明	I-2	485	胴下半部	RL縄文縦	横ナデ	銀色粒子	茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W270	180
94 25	表縄文	不明	Ⅱ-3	490-500	底部	RL縄文多方向		銀色粒子	灰褐色	灰褐色		W886	375
94 26	表縄文	不明	I-1	490-500	胴部	RL縄文縦~斜(0段多か)	欠損	茶色粒子	黒灰色	-	穿孔あり・指頭圧痕による凹凸	W888	377
94 27	表縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文横		輝粒子	黒茶褐色	灰褐色	94-28と同一個体か・輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W1220	711
94 28	表縄文	不明	Ⅱ-1	490-500	口縁	LR縄文横	横ナデ	輝粒子	薄茶褐色・黒色	黒褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W263	173
95 1	表縄文	不明	Ⅲ-0	490-500	口縁	縄文? 押圧?		黒雲母	黒色	黒色		W229	157
95 2	表縄文	不明	I-0	506-516	底部	LR縄文斜	指頭圧痕	輝粒子	灰褐色	茶褐色		W1226	717
95 3	表縄文	不明	I-0	510-520	口縁	LR縄文横		黒雲母	黒色	黒褐色・赤褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・輪積毎単位施文か	W1114	805
95 4	表縄文	不明	Ⅱ-3	510-520	胴部	LR縄文斜~横		黒雲母微量	黒茶褐色	明茶褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	W1279	770
95 5	表縄文	不明	Ⅱ-2	(510-520)	口縁	LR縄文縦	横ナデ	黒雲母	灰褐色	暗灰褐色・黒色	炭付着	W1203	694
95 6	表縄文	不明	Ⅲ-1	515	口縁	RL縄文縦	横ナデ	輝粒子少	灰褐色	灰褐色	口唇部RL縄文横	W1205	696
95 7	表縄文	不明~胴部	Ⅲ-1	515	口縁	LR縄文横・口縁部に1条のLR側面押圧(?	横ナデ	黒雲母	薄茶褐色	灰茶褐色	違う原体使用?・94-15と同一個体の可能性	W269	179
95 8	表縄文	1970/10/15	Ⅲ-1	515	胴部	LR縄文縦	斜擦痕	黒雲母多	白灰褐色	白灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1276	767
95 9	表縄文	不明	Ⅱ-0	520	底部	LR縄文斜		茶色粒子少・輝粒子少	暗茶褐色	暗茶褐色		W1227	718
95 10	表縄文	不明	Ⅱ-2	520	胴下半部	LR縄文横		黒雲母多	黒茶褐色	黒褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	10013	948
95 11	表縄文	不明	Ⅱ-2	530	胴下半部	LR縄文横		黒雲母多	黒茶褐色	黒褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	10014	949
95 12	表縄文	不明	Ⅲ-0	520-530	口縁	LR縄文横		黒雲母多	灰茶褐色	黒色・黒灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1269	760
95 13	表縄文	不明	Ⅱ-3	520-530	口縁	LR縄文縦・2条のLR縄文側面押圧		黒雲母	黒褐色	黒褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1301	792
95 14	表縄文	不明	(Ⅲ-0)	(520-530)	口縁	LR縄文横		黒雲母	黒色・黒灰褐色	黒色・黒灰褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・炭付着	W312	214
95 15	表縄文	不明	Ⅱ-2	520-530	胴下半部	LR縄文横・RL縄文横		黒色粒子	薄橙褐色	灰褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W107	113
95 16	表縄文	不明	Ⅱ-2	525	胴部	LR縄文横	横ナデ	黒雲母	茶褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W985	475
95 17	表縄文	不明	Ⅲ-1	530	口縁	LR縄文横~斜	横ナデ	黒雲母	橙茶褐色	橙茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸・白灰付着?	W266	176
95 18	表縄文	不明	Ⅲ-1	540-550	胴部	LR縄文縦? RL縄文横?	条痕? 縄文?	黒雲母少	白灰褐色	白灰褐色・黒色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸・灰・炭付着・内面施文か	W1256	747
95 19	表縄文	不明	Ⅲ-1	545	胴下半部	LR縄文斜・縦		灰色粒子	薄茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W887	376
95 20	表縄文	1970/10/19	Ⅱ	不明	口縁~胴部	LR縄文横・口縁部に1条のLR側面押圧	横ナデ	黒雲母	黒色・黒茶褐色・灰茶褐色	薄茶褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸・炭付着	10011	962
95 21	表縄文	不明	不明	不明	口縁~胴部	RL縄文横・口縁部に1条のRL側面押圧	ナデ	輝粒子・黒色粒子	黒褐色・茶褐色	茶褐色・黒色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸・穿孔・炭付着	10039	950
95 22	表縄文	不明	不明	不明	口縁から胴部	LR縄文横		輝粒子多	暗灰色・黒色	暗灰色・黒色	口縁が波打つ・指頭圧痕による凹凸・炭付着	E2	
95 23	表縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文縦		黒雲母	灰褐色	灰褐色・黒色	補修孔	W616	359
95 24	表縄文	不明	ステ土	不明	口縁	LR縄文横	横ナデ	輝粒子	黒灰色	黒色	口唇部LR縄文横・炭付着	W556	338
95 25	表縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文横			薄茶褐色	灰茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W522	321
96 1	表縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文横		輝粒子	黒褐色	黒灰褐色	口唇部にLR縄文横・白灰付着	W1199	690
96 2	表縄文	不明	不明	不明	口縁	RL縄文横・1条のRL側面押圧	ゆるい横ナデ	黒色粒子・輝粒子	茶褐色・黒褐色	茶褐色・黒褐色	口唇部にRL縄文横・指頭圧痕による凹凸	W6	6
96 3	表縄文	不明	不明	不明	口縁	RL縄文横・1条のRL側面押圧	ゆるい横ナデ	黒色粒子・輝粒子	茶褐色・黒褐色	茶褐色・黒褐色	口唇部にRL縄文横・指頭圧痕による凹凸	W14	14
96 4	表縄文	不明	不明	不明	口縁	RL縄文横・2条のR側面押圧		黒雲母多	黒色・黒褐色	黒茶褐色	口唇部にRL縄文横・指頭圧痕による凹凸	W5	5
96 5	表縄文	1970/6/?	ステ土	不明	口縁	RL縄文縦		黒雲母	薄茶褐色	黒色	口唇部施文・指頭圧痕による凹凸	W1210	701
96 6	表縄文	不明	不明	不明	口縁	無節R縄文縦	横ナデ	黒雲母	暗茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1202	693
96 7	表縄文	1966/5/15	不明	不明	胴下半部	LR縄文縦	横ナデ	輝粒子少	黒褐色・暗茶褐色	灰褐色・黒色	炭付着	A061	956
96 8	表縄文	不明	不明	不明	胴下半部	LR縄文縦			薄茶褐色	黒灰色	表面炭付着・内面炭化物付着	W889	378
96 9	表縄文	不明	トレンチ1	不明	胴部下半部	LR縄文縦を擦り消し	横ナデ		薄茶褐色	黒褐色薄茶褐色		W622	362

付表1 土器観察表(9)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号
						外面	内面		外面	内面			
96 10	表織文	不明	不明	不明	胴部	LR織文縦	横ナデ		茶褐色	黒色・灰色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1201	682
96 11	表織文	不明	不明	不明	胴部	LR織文横	ナデ	黒雲母少	暗灰褐色	茶褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1200	691
96 12	表織文	1966/5/16	II	不明	胴部	LR織文縦(帯状?)	横ナデ	黒雲母	茶褐色・黒褐色	黒色		W1222	713
96 13	表織文	不明	不明	不明	胴部	RL織文横	横ナデ	黒雲母?少	暗茶褐色	黒褐色・暗茶褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W1230	721
96 14	表織文	不明	不明	不明	底部	織文	ナデ	黒雲母多	灰色	灰褐色	灰付着	W1209	700
97 1	表裏織文	1966/5/15	I	260	口縁	RL織文横	RL織文横	輝粒子	黒色	黒色	口唇部RL織文横・灰付着	W334	236
97 2	表裏織文	不明	不明	不明	口縁~胴部	LR織文横・斜(帯状)	LR織文横	白色粒子微量	灰茶褐色・黒色	黄灰褐色	口唇部LR織文横・輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W265 W272	182 175
97 3	表裏織文	1970/10/?	II-1	305	口縁	RL織文横	RL織文横・斜	黒雲母多	黒褐色	黒褐色・暗褐色	指頭圧痕による凹凸	W675	1037
97 4	表裏織文	不明	III-1	310-320	胴部	RL織文横・縦	RL織文縦	茶色粒子	茶褐色・黒褐色	茶褐色・黒褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸・灰付着	W670	1049
97 5	表裏織文	不明	III-0	340-350	口縁	RL織文横	RL織文縦	輝粒子	黒灰色	黒灰色	口唇部RL織文	W661	F No.
97 6	表裏織文	不明	III-4	340-350	胴部	RL織文横(無R織文?)	RL織文縦	黒雲母多	灰褐色	暗灰褐色	指頭圧痕による凹凸・2種類の原付か	W669	1044
97 7	表裏織文	不明	III	370-380	口縁	LR織文横	LR織文横~斜	黒雲母	黒灰褐色	灰褐色	口唇部LR織文横・指頭圧痕による凹凸		437
97 8	表裏織文	不明	0-4?	365-385	胴部	LR織文縦	LR織文斜	輝粒子・1mm大の岩石	黒褐色	暗茶褐色		W1195	686
97 9	表裏織文	1970/10/19	(II-0)	(-525)	口縁~胴部	LR織文横	LR織文横	黒雲母微量	白灰褐色・黒灰色	黒色・灰褐色	口唇部LR織文横・輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸・灰付着・台帳では石器	2406	959
97 10	表裏織文	不明	II-3	380-390	口縁部	LR織文斜め	剥落面に織文の痕跡	黒色粒子・乳白色粒子	黒褐色		輪積毎単位施文か(剥落面に織文の痕跡)	W639	F No.
97 11	表裏織文	1968/7/26	I-3	390-400	口縁	LR織文横・斜・斜め線状痕	LR織文横・斜	輝粒子	薄茶褐色	暗茶褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸・圧痕002不明	W4	970
97 12	表裏織文	不明	II-3	390-400	口縁	LR織文横	LR織文横	黒雲母	黒茶褐色	灰褐色・黒色	口唇部LR織文・浅い指頭圧痕による凹凸・穿孔2つ	W651	F No.
97 13	表裏織文	1968/7/26	I-3	390-400	胴部	LR織文縦	LR織文横	黒雲母	暗褐色	黒色	輪積毎単位施文か・灰付着	W963	452
97 14	表裏織文	1968/7/26	I-3	390-400	胴~胴下半部	LR織文多方向	LR織文横	黒色粒子	暗茶褐色・薄茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W41	47
97 15	表裏織文	1968/5/19	II-0	(400付近)	胴下半部	LR織文縦	LR織文横	黒雲母少	茶褐色	黒茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸・灰付着	W965	454
97 16	表裏織文	1968/5/19	II-0	(400付近)	胴部	LR織文斜	LR織文横	輝粒子	黒灰褐色	黒灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W962	451
97 17	表裏織文	不明	II-1	410-420	胴部	RL織文横	RL織文斜	乳白色粒子少	灰褐色	黒灰褐色		W59	65
98 1	表裏織文	不明	II-3	410-430	胴部	RL織文横	RL織文横	茶色粒子	黒茶褐色	暗茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W65	71
98 2	表裏織文	不明	III-2	410-430	胴部	織文	RL織文斜	茶色粒子	暗茶褐色	明茶褐色	圧痕022不明材or釜	W1180	671
98 3	表裏織文	1968/7/28	II-2	410-435	胴部	RL織文斜	RL織文斜	茶色粒子・輝粒子	黒灰色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W607	355
98 4	表裏織文	不明	II-3	410-435	口縁~胴部	RL織文斜	RL織文斜	輝粒子・灰色粒子小	黒褐色	暗茶褐色・黒褐色	口唇部RL織文横・輪積毎単位施文・顕著な指頭圧痕による凹凸	W320	222
98 5	表裏織文	1968/7/26	III-3	330-340	口縁	RL織文斜	RL織文斜	輝粒子・灰色粒子小	黒褐色	灰褐色	口唇部RL織文横・輪積毎単位施文・顕著な指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W322	224
98 6	表裏織文	1978/7/27	III-3	420	胴部	無節LR織文縦・擦痕横	無節LR織文横	輝粒子	暗茶褐色・黒褐色	黒色・薄茶褐色		W605	354
98 7	表裏織文	1968/7/27	II-3	420	口縁~胴部	LR織文斜	LR織文横	輝粒子	黒色	黄灰色	指頭圧痕による凹凸	W677	F No.
98 8	表裏織文	不明	II-3	420-430	口縁	無節R織文横	無節R織文横	黒雲母	薄茶灰褐色	薄茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸・顕著な指頭圧痕・口縁安定しない	W1190	681
98 9	表裏織文	不明	I-3	420-440	口縁	無節R織文横	無節R織文横	輝粒子	暗灰褐色	灰茶褐色		W1181	672
98 10	表裏織文	不明	I-3	420-440	口縁	無節R織文横	無節R織文横	輝粒子・茶色粒子	灰褐色	暗茶褐色	口唇部無節R織文横・指頭圧痕による凹凸	W1189	680
98 11	表裏織文	不明	II-1	430	口縁	LR織文横	LR織文横	輝粒子・乳白色粒子少	黒灰褐色	黒茶褐色	口唇部LR織文横・指頭圧痕による凹凸	W1182	673
98 12	表裏織文	不明	II-3	430	胴部	LR織文斜	LR織文斜		薄橙褐色	薄茶褐色	輪積毎単位施文か・灰付着	W105	111
98 13	表裏織文	不明	II-3	430	胴部	無節R織文横	無節R織文横	輝粒子	茶褐色	黒色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W106	112
98 14	表裏織文	不明	II-2	430-440	口縁	LR織文横	LR織文横	輝粒子微量	暗褐色	黒色		W754	F No.
98 15	表裏織文	不明	II-2	430-440	口縁	LR織文横	LR織文横	輝粒子・茶色粒子	黒褐色・灰茶褐色	黒色	口唇部LR織文横・指頭圧痕による凹凸	W1179	670
98 16	表裏織文	不明	II-2	430-440	胴部	LR織文斜	LR織文横	黒雲母	薄茶褐色	灰茶褐色	輪積毎単位施文か	W96	102
98 17	表裏織文	不明	II-3	430-440	胴部	LR織文横~斜	LR織文横	黒雲母	暗茶褐色	黒褐色		W97	103
98 18	表裏織文	不明	III-3	430-440	胴部	RL織文斜	RL織文横		薄茶褐色	薄茶褐色	白灰付着	W115	121
98 19	表裏織文	1967/7/27	III-1	440	口縁~胴部	LR織文縦	LR織文横・原体押圧	黒雲母多	黒色・黒灰褐色	黒色	口唇部LR織文横・指頭圧痕による凹凸・圧痕011アズキ型属種子	W16	16
98 20	表裏織文	1974/8?	I-4	440	口縁	LR織文斜	LR織文横	輝粒子多・乳白色粒子	黒褐色	暗黄灰褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W1275	766
98 21	表裏織文	不明	II-1	440	口縁	LR織文横	LR織文横	黒雲母・黒色粒子	灰薄茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W692	381
98 22	表裏織文	不明	III-1	440	口縁	RL織文斜	RL織文斜か	数mm大の岩石	灰褐色	灰茶褐色	白灰付着	W986	476
98 23	表裏織文	不明	不明	445	底部	LR織文横・斜	LR織文横	乳白色粒子	黒色・白灰色	灰褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W38	44
99 1	表裏織文	不明	II-2	440-450	口縁	LR織文横	LR織文横	輝粒子	黒灰色	黒灰色	口唇部LR織文横	W1185	676
99 2	表裏織文	不明	III-3	440-450	口縁	LR織文横	LR織文横	輝粒子	灰褐色・黒灰色	灰褐色・黒灰色	口唇部LR織文横	W1187	678
99 3	表裏織文	不明	II-3	440-450	口縁	LR織文横	LR織文横	黒雲母多	灰茶褐色	黒色	口唇部LR織文横・原体は太さの違いがあるか	W1186	677
99 4	表裏織文	不明	III-3	440-450	口縁	LR織文横	LR織文横		薄茶褐色	橙褐色	口唇部LR織文横・指頭圧痕による凹凸・灰付着?	W895	384
99 5	表裏織文	不明	II-1	440-450	胴部	LR織文斜	LR織文斜	輝粒子	黒褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1184	675
99 6	表裏織文	不明	III-0	440-450	胴部	RL織文横	RL織文斜	黒雲母多	茶褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1183	674

付表1 土器観察表(10)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調査等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号
						外面	内面		外面	内面			
99	7 表裏縄文	不明	Ⅲ-2	440-450	胴下半部	RL縄文横	RL縄文斜	茶色粒子・輝粒子少	赤茶褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1178	669
99	8 表裏縄文	不明	Ⅱ-2	440-450	胴部	RLR複節縄文横	RLR複節縄文横	黒雲母	灰茶褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W339	241
99	9 表裏縄文	(1968/7/28)	(Ⅱ-2)	(440-450)	口縁～胴 下半部	LR縄文縦(口磨)・横(胴部)	LR縄文横	輝粒子	黒色・暗茶褐色	茶褐色・暗茶褐色	口唇部LR縄文横・輪積毎単位施文指頭圧痕による凹凸・台帳では石器	W306	208
99	10 表裏縄文	不明	Ⅱ-0	450	口縁	RL縄文横・縦	R(0段多糸)縄文横	茶色粒子・輝粒子	黒灰褐色	黒灰褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・表裏で違う原体	W3	3
99	11 表裏縄文	不明	Ⅰ-0	450	口縁	LR縄文横～斜	LR縄文横	輝粒子・茶色粒子	灰褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W1188	679
99	12 表裏縄文	不明	Ⅰ-0	450	胴部	LR縄文横	LR縄文斜		薄黄灰褐色	黒灰色	輪積毎単位施文か	W116	122
99	13 表裏縄文	不明	Ⅱ-1	450	胴部	LR縄文横	LR縄文横	乳白色粒子少	薄茶褐色	黒灰色	内面剥落多い	W111	117
99	14 表裏縄文	不明	Ⅱ-0	450	胴部	RL縄文縦・斜	RL縄文縦	黒雲母	黒色	暗茶褐色		W90	96
99	15 表裏縄文	不明	Ⅰ-0	450	底部付近	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母小	暗橙褐色	灰茶褐色	輪積毎単位施文か・縦口縁	T8	976
99	16 表裏縄文	1965/5/6	Ⅱ-3	450	胴下半部	LR縄文縦・斜	LR縄文横	輝粒子	暗茶褐色	黒褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸・炭付着	W1168	659
99	17 表裏縄文	1970/5/20	Ⅱ-0	455	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母	黒灰色	茶褐色・黒色	口唇部LR縄文横	W337	239
99	18 表裏縄文	1968/5/20	Ⅱ-0	455	口縁～胴部	LR縄文多方向	LR縄文横	数mm大の岩石・乳白色粒子・黒雲母?	黒灰色・茶灰色	茶灰色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・輪積毎単位施文か・大型個体・炭付着	W321	223
100	1 表裏縄文	1968/5/20	Ⅱ-2	455	口縁～胴部	LR縄文多方向	LR縄文横	黒雲母多	黒灰色・黒灰褐色	黒灰色・黒灰褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W324	226
100	2 表裏縄文	1968/7/27	Ⅱ-0	458-470	底部	LR縄文横	縄文??	黒雲母	白灰褐色・茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	W1214	705
100	3 表裏縄文	1968/7/26 1968/7/29 不明	Ⅱ-3 Ⅱ-2 Ⅲ-2	435 455-460 460-470	口縁～胴部	無節L縄文横・斜	無節L縄文横・斜め	輝粒子多・黒色粒子	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色	口唇部無節L縄文横・指頭圧痕による凹凸・炭付着・穿孔	A2153 A12161	922
100	4 表裏縄文	1968/7/28	Ⅱ-3	450-460	口縁	LR縄文横	LR縄文縦	乳白色粒子	薄茶褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W778	1034
100	5 表裏縄文	不明	Ⅲ-0	450-460	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒褐色	暗茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1173	664
100	6 表裏縄文	不明	Ⅲ-3	450-460	口縁	LR縄文横	LR縄文横	茶色粒子	灰褐色	灰褐色	口唇部LR縄文横	W1163	654
100	7 表裏縄文	不明	Ⅲ-0	450-460	口縁	LR縄文斜	LR縄文横～斜		薄暗茶褐色	灰褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1164	655
100	8 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	黒褐色	暗茶褐色・黒色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1167	658
100	9 表裏縄文	不明	Ⅱ-0	450-460	口縁	LR縄文斜	LR縄文斜	黒雲母	灰褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W1171	662
100	10 表裏縄文	1968/7/28	Ⅱ-3	450-460	口縁	RL縄文横	RL縄文横～斜	輝粒子	薄茶褐色	灰褐色・黒色	口唇部RL縄文横・白灰・炭付着	W323	225
100	11 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	口縁	RL縄文縦	RL縄文横	茶色粒子・輝粒子微量	薄茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1175	666
100	12 表裏縄文	不明	Ⅱ-0	450-460	口縁	RL縄文斜	RL縄文横	輝粒子	灰褐色	灰褐色	口唇部RL縄文横	W1169	660
100	13 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	口縁	RL縄文横	RL縄文横	黒雲母	薄茶褐色	薄茶褐色	W1174	665	
100	14 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	口縁	RL縄文横?	RL縄文縦?	輝粒子多・茶色粒子	黒灰褐色	黒灰色・黄灰褐色	口唇部RL縄文横?	W1162	653
100	15 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	口縁	RL縄文横	RL縄文斜	輝粒子小	黒色	黒褐色	口唇部RL縄文横・口縁突起剥がれか?	T5	973
100	16 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	口縁	RL縄文斜～横	RL縄文横	黒雲母多	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸・内面剥落・井草Iに似る	W40	46
100	17 表裏縄文	1965/7/28	Ⅱ-2	450-460	口縁	無節R縄文横～斜	無節R縄文横～斜	黒雲母	灰褐色・黒色	黒色	顕著な指頭圧痕による凹凸・炭付着?	W345	247
100	18 表裏縄文	1969/5/16	Ⅲ-3	450-460	底部付近	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子少	茶褐色	黒褐色・茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・炭付着?	W1160	651
100	19 表裏縄文	1968/7/28	Ⅱ-3	450-460	底部付近?	LR縄文横・斜	LR縄文横～斜	輝粒子少	白灰色	黒灰色	白灰付着・指頭圧痕による凹凸	W618	360
100	20 表裏縄文	不明	Ⅲ-3	450-460	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子少	灰茶褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸・炭・白灰付着	W1158	649
101	1 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	胴部	LR縄文縦	LR縄文斜	輝粒子	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W1159	650
101	2 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	胴部	LR縄文横・縦	LR縄文横・縦	銀色粒子	黒色	灰褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W86	92
101	3 表裏縄文	不明	Ⅲ-2	450-460	底部付近	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子・黒色粒子	灰褐色	黒灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1177	668
101	4 表裏縄文	1968/7/28	Ⅱ-3	450-460	胴下半部	RL縄文横	RL縄文横		薄茶灰色	黒灰色・黒色	炭付着・指頭圧痕による凹凸	W610	356
101	5 表裏縄文	1968/7/28	Ⅱ-3	450-460	胴部	RL縄文斜	RL縄文斜		茶褐色	茶褐色	炭付着・指頭圧痕による凹凸	W611	357
101	6 表裏縄文	不明	Ⅲ-0	450-460	胴部	無節R縄文縦	無節R縄文横	輝粒子	暗茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1176	667
101	7 表裏縄文	不明	Ⅲ-0	450-460	胴部	無節L縄文斜	無節L縄文横	茶色粒子	黒褐色	黒褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W1166	657
101	8 表裏縄文	不明	Ⅱ-3	450-460	底部付近	無節R縄文横	無節R縄文斜	黒色粒子	薄橙褐色	薄橙褐色	白灰付着	W87	93
101	9 表裏縄文	1968/7/28	Ⅱ-3	440-450	胴部	無節R縄文縦・斜	無節R縄文横	茶色粒子・輝粒子微量	薄茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W964	453
101	10 表裏縄文	不明	Ⅱ-0	455	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母	黒茶褐色	黒褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W30	33
101	11 表裏縄文	1968/5/20	Ⅱ-0	455	胴部	LR縄文横～斜	LR縄文横～斜	黒雲母	黒褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1216	707
101	12 表裏縄文	不明	Ⅱ-2	455	胴部	LR縄文横	LR縄文横・斜	黒雲母少	灰褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸・炭・炭付着	W943	432
101	13 表裏縄文	不明	Ⅱ-0	455	胴部	LR縄文斜め	縄文?	数mm大の岩石	茶褐色	暗茶褐色	白灰色付着	W623	363
101	14 表裏縄文	不明	Ⅰ-0	450-460	胴下半部?	RL縄文斜	RL縄文斜	黒雲母・黒色粒子	暗褐色	濃褐色	101-14～101-24. 同一個体・浅い指頭圧痕による凹凸	W956	445
101	15 表裏縄文	1968/5/20	Ⅱ-0	455	胴部	RL縄文縦	RL縄文横～斜	黒雲母・黒色粒子	黒色・暗茶褐色	黒色・暗茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W958	447
101	16 表裏縄文	1968/5/20	Ⅱ-2	455	胴部	RL縄文縦	RL縄文斜	黒雲母・黒色粒子	暗茶褐色	暗茶褐色・黒色	浅い指頭圧痕による凹凸	W951	440
101	17 表裏縄文	1968/5/20 1968/7/27	Ⅱ-0 Ⅱ-0	455 458-470	胴部	RL縄文縦	RL縄文横・斜	黒雲母・黒色粒子	暗茶褐色	暗茶褐色・灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W952	441
101	18 表裏縄文	1968/7/27	Ⅰ-0	458-470	胴部	RL縄文縦	RL縄文多方向	黒雲母・黒色粒子	暗茶褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W960	449
101	19 表裏縄文	1968/5/19	Ⅰ-0	(400付近)	胴部	RL縄文縦	RL縄文横	黒雲母・黒色粒子			浅い指頭圧痕による凹凸・圧痕032アズキ莢属種子	W957	446

付表1 土器観察表 (1)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
101	20	表裏縄文	1968/5/19 1968/5/20	I-0 II-0	(400付近) 455	胴下半部?	RL縄文縦	RL縄文横~斜	黒雲母・黒色粒子	暗茶褐色・黒褐色	暗茶褐色・黒色	浅い指頭圧痕による凹凸	W955	444
101	21	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	RL縄文縦	RL縄文横	黒雲母・黒色粒子	暗茶褐色	暗茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W950	439
101	22	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	RL縄文斜	RL縄文斜	黒雲母・黒色粒子	暗茶褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W959	448
101	23	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	RL縄文縦	RL縄文横	黒色粒子少	薄茶褐色・黒色	灰褐色・黒色	浅い指頭圧痕による凹凸	W953	442
101	24	表裏縄文	1968/7/27 1968/5/20	I-0 II-0	458-470 455	胴下半部?	RL縄文縦	RL縄文横~斜	黒雲母・黒色粒子	暗茶褐色・黒褐色	暗茶褐色・黒色	浅い指頭圧痕による凹凸・白灰	1224 W954	443
102	1	表裏縄文	不明	I-0	450-460	口縁~胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	薄茶褐色・黒灰色・黒色	暗茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・圧痕034不明	W2	2
102	2	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁~胴部	LR縄文横	LR縄文横~斜	輝粒子	薄暗茶褐色	灰茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W311	213
102	3	表裏縄文	不明	III-1	490-500	口縁~胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子・黒色粒子	薄茶褐色・黒灰色	薄茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W25	27-28
102	4	表裏縄文	S43.5.19	II-0	不明	口縁	LR縄文横	LR縄文横		薄茶褐色	薄茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W588	346
102	5	表裏縄文	1968/7/28	II-3	450-460	口縁~胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	輝粒子多・黒色粒子・乳白色粒子	黒灰色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W35	39
102	6	表裏縄文	不明	II-3	470-480	口縁~胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	輝粒子多・黒色粒子・茶色粒子	黒灰色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W37-1	41
102	7	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	輝粒子多・黒色粒子・茶色粒子	黒灰色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W37-2	42
102	8	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	輝粒子多・黒色粒子・茶色粒子	黒灰色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W37-3	43
102	9	表裏縄文	不明	II-2	450-460	胴部	無節R縄文斜	無節R縄文横	乳白色粒子・輝粒子	黒灰色	暗茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W944	433
102	10	表裏縄文	不明	I-2	520	口縁	無節R縄文縦~斜	無節R縄文横	乳白色粒子・輝粒子	黒褐色	暗茶褐色		W949	438
102	11	表裏縄文	不明	I-3	450-460	口縁	LR縄文横~斜	LR縄文横	茶色粒子	黒灰色	薄茶褐色	口唇部LR縄文横	W21	23
102	12	表裏縄文	1968/7/28	II-2 II-3	450-460 450-460	口縁~胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	輝粒子	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W599	351
102	13	表裏縄文	不明	III-1	450-470	口縁	RL縄文横	RL縄文斜		茶褐色	茶褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸・灰付着	W12	12
102	14	表裏縄文	不明	I-0	458-470	口縁~胴部	LR縄文横	LR縄文斜	輝粒子・黒雲母少	黒灰色・灰茶褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W36	40
103	1	表裏縄文	不明	I-0	458-470	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母多	灰褐色	茶褐色	口唇部に貼付あり	W1302	793
103	2	表裏縄文	不明	I-0	458-470	口縁	LR縄文横	LR縄文横		黒褐色	黒褐色	灰付着	W68	74
103	3	表裏縄文	不明	II-0	458-470	口縁	羽状縄文(LR縄文縦・横)	LR縄文横	輝粒子・茶色粒子	明茶褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	296	
103	4	表裏縄文	1968/7/27	I-0	458-470	胴部	LR縄文横	LR縄文横	茶色粒子少	灰茶褐色	黒色・灰茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1115	806
103	5	表裏縄文	不明	I-0	458-470	胴部	LR縄文斜	LR縄文縦		灰褐色	灰褐色		W67	73
103	6	表裏縄文	1968/7/27	I-0	458-470	胴部	RL縄文縦	LR縄文横・擦痕横	輝粒子	茶褐色	黒褐色		W619	361
103	7	表裏縄文	1970/10/20 1968/7/30 1968/6/14	III-3 I-0 II-0 I I-1	515 458-470 470-480 520-530 不明	口縁~胴部	口縁部に貼り付け(2箇所残存)・LR縄文口縁部横・胴部縦横で羽状	LR縄文横	輝粒子・茶色粒子	暗黒褐色・暗灰褐色	黄灰褐色・黒褐色	口唇部LR縄文横・輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	1221 1336 A12182	916
103	8	表裏縄文	1970/6/14	I-1	不明	口縁~胴部	口縁部に貼り付け(1箇所残存)・LR縄文口縁部横・胴部縦横で羽状	LR縄文横	輝粒子・茶色粒子	暗黒褐色・暗灰褐色	黄灰褐色・黒褐色	口唇部LR縄文横・輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	A1136	931
103	9	表裏縄文	不明	III-3	460	底部付近	RL縄文横・斜	RL縄文斜	黒雲母多	薄茶褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W50	56
103	10	表裏縄文	不明	III-0	460	胴部	RL縄文横	RL縄文横	黒雲母小	薄茶褐色	暗茶褐色	輪積毎単位施文の後・剥落か	W133	138
103	11	表裏縄文	不明	(II-1)	(460)	口縁	無節R縄文斜	無節R縄文横・斜	黒雲母・黒色粒子	灰茶褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W13	13
103	12	表裏縄文	不明	II-3	460-470	口縁~胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子少	黒褐色	黒茶褐色	口唇部コブ状貼り付け・LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W15	15
103	13	表裏縄文	不明	III-4	460-470	口縁	RL縄文斜	RL縄文斜~縦	黒雲母	赤茶褐色	茶褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸	W267	177
103	14	表裏縄文	不明	II-1	460-470	口縁	無節R横	無節R斜	黒雲母	灰茶褐色	黒茶褐色	口唇部無節R縄文横・指頭圧痕による凹凸	W253	163
103	15	表裏縄文	1968/7/27	II-3	460-470	口縁	無節L縄文縦?	無節L縄文縦?	輝粒子・黒色粒子	黒褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W340	242
103	16	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	無節L縄文縦?	無節L縄文縦?	輝粒子・黒色粒子	黒褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W307	209
103	17	表裏縄文	不明	II-2	460-470	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒灰色	暗茶褐色		W125	130
103	18	表裏縄文	不明	III-0	460-470	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子少	黒色・黒灰褐色	灰褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W131	136
103	19	表裏縄文	不明	III-1	460-470	胴部	LR縄文横	LR縄文斜	黒雲母	茶褐色	灰褐色	白灰付着	W129	134
103	20	表裏縄文	不明	II-2	460-470	胴部	LR縄文斜	LR縄文縦	輝粒子	灰茶褐色	黒灰色	輪積毎単位施文か・灰付着	W128	131
103	21	表裏縄文	不明	II-1	460-470	胴部	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母	薄茶褐色	暗茶褐色		W82	88
103	22	表裏縄文	不明	III-0	460-470	胴部	LR縄文横	LR縄文縦	輝粒子	黒色・黒褐色	黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W132	137
103	23	表裏縄文	不明	II-3	460-470	胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	黒色粒子・輝粒子・茶色粒子	灰黄色	灰茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W43	49
103	24	表裏縄文	不明	II-3	460-470	胴部	LR縄文多方向	LR縄文横	輝粒子	白茶褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W47	53
104	1	表裏縄文	不明	II-2	460-470	胴部	LR縄文縦	LR縄文斜	輝粒子	茶褐色	黒色・黒灰色	指頭圧痕による凹凸・灰付着・白灰付着	W94	100
104	2	表裏縄文	不明	II-3	460-470	胴部	LR縄文縦	LR縄文縦	輝粒子	黒色	黒色	灰付着	W45	51
104	3	表裏縄文	不明	II-3	460-470	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	黄茶褐色	黒褐色		W46	52
104	4	表裏縄文	不明	II-2	460-470	胴部	LR縄文斜	LR縄文横	輝粒子・黒色粒子	明灰茶褐色	茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	T4	972
104	5	表裏縄文	不明	II-2	460-470	胴部	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母	薄茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W93	99
104	6	表裏縄文	不明	III-0	460-480	胴下半部	LR縄文斜	LR縄文横~斜	黒雲母	茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸・外面剥落多い	W135	140
104	7	表裏縄文	不明	III-0	460-470	胴部	RL縄文横	RL縄文横	輝粒子少	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W134	139
104	8	表裏縄文	不明	II-1	460-470	底部付近	RL縄文横~斜	RL縄文斜	輝粒子少・乳白色粒子少	灰黄色	黄灰色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W78	84
104	9	表裏縄文	不明	II-1	460-470	胴下半部	無節L縄文横	無節L縄文斜	輝粒子・黒色粒子	灰茶褐色	灰茶褐色		W81	87

付表1 土器観察表(12)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
104	10	表裏縄文	不明	II-3	460-470	底部付近	無節R?縄文多方向	無節R?縄文多方向	黒雲母	薄茶褐色	茶褐色	輪郭毎単位施文か、指頭圧痕による凹凸、白灰付着	W42	48
104	11	表裏縄文	不明	II-1	460-470	底部付近	無節R縄文縦	無節R縄文斜		灰褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸、灰付着	W80	86
104	12	表裏縄文	不明	II-1	460-470	胴部	無節R縄文横	無節R縄文横	輝粒子	黒灰色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸、灰付着	W83	89
104	13	表裏縄文	不明	II-3	460-470	胴部	無節R縄文横	無節R縄文斜	乳白色粒子・輝粒子	黒色	黒褐色	輪郭毎単位施文か	W44	50
104	14	表裏縄文	不明	II-1	460-470	胴部	無節R縄文斜	無節R縄文横	輝粒子微量	薄茶褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸、灰付着	W128	133
104	15	表裏縄文	不明	II-1	460-470	胴部	無節R縄文多方向	無節R縄文斜	黒色粒子少	灰褐色	灰黄褐色	指頭圧痕による凹凸、灰付着	W79	85
104	16	表裏縄文	不明	III-1	460-470	胴部	LRもしくは無節L縄文縦	LRもしくは無節L縄文斜		灰茶褐色	黒色	灰付着	W1302	135
104	17	表裏縄文	不明	III-0	460-485	胴部	RL縄文縦	RL縄文横・斜	黒色粒子	茶褐色	黄灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W63	69
104	18	表裏縄文	不明	II-2	465	口縁	RL縄文横	RL縄文横	輝粒子極小	暗茶褐色	明茶褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸、白灰付着	W8	8
104	19	表裏縄文	1968/7/20	II-2	465	胴部	LR縄文横	LR縄文横・斜	黒雲母多	黒褐色・茶褐色	灰茶褐色	輪郭毎単位施文・指頭圧痕による凹凸、灰付着	W92	98
104	20	表裏縄文	不明	II-1	465-470	口縁	RL縄文横・斜	RL縄文斜	輝粒子	暗茶褐色	黒色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸	W411	297
104	21	表裏縄文	不明	III-1	465-470	口縁	RL縄文縦	RL縄文斜		灰茶褐色	灰茶褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸	W7	7
104	22	表裏縄文	不明	III-1	465-470	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	茶色粒子	黒褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W127	132
104	23	表裏縄文	不明	III-0	465-480	胴部	LR縄文横	LR縄文横	乳白色粒子	明灰褐色	黒色	輪郭毎単位施文か・灰付着	T10	978
104	24	表裏縄文	不明	III-0	465-480	胴部	縄文?	LR縄文横	茶色粒子	---	黒灰色	外面剥落・輪郭毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W98	104
104	25	表裏縄文	不明	奥の院	465-495	口縁~胴部	羽状縄文?(RL縄文縦・横)	RL縄文横	黒雲母少	黒色・白灰	黒色・灰褐色	指頭圧痕による凹凸・輪郭毎単位施文か・灰付着	W1	1
104	26	表裏縄文	不明	II-3	470	口縁	RL縄文横	RL縄文横	黒雲母	茶褐色	茶褐色・黒色	指頭圧痕による凹凸、灰・灰付着・年代測定(第5章(3)No.5)	W9	9
104	27	表裏縄文	不明	III-1	470	胴部	無節R縄文横	無節R縄文斜	黒雲母	薄茶褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W483-2	318
104	28	表裏縄文	不明	III-2	470	胴部	RL縄文横	RL縄文縦	茶色粒子・輝粒子少	黒茶褐色	黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸・輪郭毎単位施文・灰付着	W388	293
105	1	表裏縄文	1968/7/30 1968/7/27 196/5/19	II-0 II-0 II-0 不明	470-480 470-480 不明 不明	口縁~胴部	RL縄文横	LR縄文横	輝粒子	灰茶褐色・黒灰色・黒色	灰茶褐色・黒灰色・黒色	指頭圧痕による凹凸・輪郭毎単位施文か	W315 ~ W319	217・ 218・ 219・ 220・ 221
105	2	表裏縄文	不明	II-2	470-480	口縁	LR縄文横	LR縄文縦か		薄灰茶褐色	黒色・黒灰色	口唇部に縄文施文・灰付着	W518	320
105	3	表裏縄文	不明	II-0	470-480	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母	黒褐色・茶褐色	茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸、灰付着	W415	301
105	4	表裏縄文	不明	III-2	470-480	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	茶色粒子・輝粒子微量	灰茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W412	298
105	5	表裏縄文	不明	III-2	470-480	口縁	LR縄文横	LR縄文横	乳白色粒子小	黒褐色	黒茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W423	309
105	6	表裏縄文	不明	II-0	470-480	口縁	LR縄文斜	LR縄文斜		黒褐色・黒色	黒色	口唇部LR縄文横・浅い指頭圧痕による凹凸、灰・灰付着・年代測定(第5章(4)No.4)	W422	308
105	7	表裏縄文	不明	II-2	470-480	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	輝粒子・黒色粒子	黄灰褐色	黒灰色	口唇部LR縄文横	W421	307
105	8	表裏縄文	不明	III-2	470-480	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母多	暗茶褐色	黒褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W420	306
105	9	表裏縄文	不明	III-2	470-480	口縁	LR縄文横	LR縄文横	白色粒子・輝粒子微量	灰褐色	黒褐色	灰付着	W417	303
105	10	表裏縄文	不明	II-3	470-480	口縁	RL縄文縦	RL縄文横・斜	黒雲母・黒色粒子	薄茶褐色・黒灰色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸、白灰付着	W414	300
105	11	表裏縄文	不明	II-0	470-480	口縁	RL縄文斜	RL縄文横	輝粒子	茶褐色	灰茶褐色	口唇部RL縄文横。指頭圧痕による凹凸	W419	305
105	12	表裏縄文	不明	II-2	470-480	口縁	RL縄文縦・横	RL縄文横		薄茶褐色	灰茶褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸、灰付着	W418	304
105	13	表裏縄文		II-2?	470-480	口縁	羽状縄文(RL縄文横・縦)	RL縄文横	黒雲母多	黒灰色	黒色・黒灰褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸	W10	10
105	14	表裏縄文	不明	III-1	470-480	口縁	無節R縄文横	無節R縄文横	黒雲母	赤茶褐色	赤茶褐色・灰褐色	口唇部無節R縄文・指頭圧痕による凹凸	W413	299
105	15	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部	LR縄文横	一部にLR縄文横	黒色粒子・輝粒子少	黒灰色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W987	477
105	16	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部下半部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	灰褐色	明灰褐色		W439	311
105	17	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	暗茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W119	125
105	18	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部	LR縄文横	LR縄文横~斜	輝粒子少・乳白色粒子少	黒黄灰色	暗黄灰色	指頭圧痕による凹凸	W393	294
105	19	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横		黒褐色	黒灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W449	313
105	20	表裏縄文	不明	II-2	470-480	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子少	薄茶灰色	薄茶褐色		W464	316
105	21	表裏縄文	不明	II-3	470-480	胴部	LR縄文縦	RL縄文横	白色粒子小	黒茶褐色	黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W457	315
105	22	表裏縄文	不明	I-Ⅱ	470-480	胴部	LR縄文縦・斜	LR縄文縦	黒雲母	黒灰褐色	灰茶褐色		W91	97
105	23	表裏縄文	不明	III-2	470-480	胴部	LR縄文縦~斜	LR縄文横	黒雲母	黒茶褐色	黒灰色		W447	312
105	24	表裏縄文	不明	I-0	470-480	胴部下半部	LR縄文縦	LR縄文横		薄灰茶褐色	薄灰茶褐色	輪郭毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W222	155
106	1	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部下半部	LR縄文多方向	LR縄文横・多方向		灰茶褐色	灰黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W211	150
106	2	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部下半部	LR縄文多方向	LR縄文横・多方向		灰茶褐色	灰黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W213	151
106	3	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部下半部	LR縄文多方向	LR縄文横・多方向		灰茶褐色	灰黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W214	152
106	4	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部下半部	LR縄文多方向	LR縄文横・多方向		灰茶褐色	灰黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W215	153
106	5	表裏縄文	不明	II-0	470-480	胴部下半部	LR縄文多方向	LR縄文横・多方向		灰茶褐色	灰黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W220	154
106	6	表裏縄文	1968/7/27	I-0	470-480	胴部	LR縄文斜・横	LR縄文横	黒色粒子・輝粒子	暗赤褐色	暗灰褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	W967	456

付表1 土器観察表 (13)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号
						外面	内面		外面	内面			
106 7	表裏縄文	不明	II-3	470-480	底部付近?	RL縄文縦~斜	RL縄文横	黒雲母	灰褐色	灰褐色・黒色	指頭圧痕による凹凸・輪積毎単位施文?	W453	314
106 8	表裏縄文	不明	II-2 III-0	470-480 480-500	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒色・灰褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸・口唇裏に貼付・輪積毎単位施文か	W32	35- 36
106 9	表裏縄文	不明	I-3	470-490	口縁	LR縄文縦	LR縄文横~斜	輝粒子少	薄茶褐色	薄黄褐色	指頭圧痕による凹凸	W914	403
106 10	表裏縄文	不明	III-0	475	口縁	RL縄文横	RL縄文横	白色粒子・輝粒子微量	黒色	黒色	炭付着	T7	975
106 11	表裏縄文	不明	II-2	475	胴部	LR縄文縦	LR縄文縦	黒雲母	黒褐色・茶褐色	黒褐色・茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W483	317
106 12	表裏縄文	不明	II-2	475	胴部	LR縄文横	LR縄文斜	輝粒子	茶褐色	灰褐色	輪積毎単位施文か	W55	61
106 13	表裏縄文	不明	IV-0	480	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒色粒子少	薄茶褐色	薄茶褐色	口唇部LR縄文横・白灰付着	W426	310
106 14	表裏縄文	1968/7/28	I-0	480	口縁	LR縄文横・斜	LR縄文横	輝粒子・茶色粒子	黒褐色	黒褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W908	397
106 15	表裏縄文	不明	II-0	480	口縁	RL縄文縦	RL縄文横	輝粒子	赤茶褐色	茶褐色・黒褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸で、擬口縁内側にも縄文の痕	W29	32
106 16	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	RL縄文縦	RL縄文横・横、斜めナナ	銀色粒子	黒赤褐色	暗茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W308	210
106 17	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	RL縄文縦	RL縄文横・横ナナ	銀色粒子	暗赤褐色	茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W310	212
106 18	表裏縄文	不明	III-0	480	口縁	不明	LR縄文縦	乳白色粒子	灰黄褐色	黄褐色	外面施文不明	W122	127
106 19	表裏縄文	不明	I-0	480	胴部	LR縄文縦	LR縄文斜	黒色粒子・黒雲母	赤褐色	暗赤褐色		W49	55
106 20	表裏縄文	不明	II-3	480-490	口縁	LR縄文縦・斜	LR縄文横	黒雲母多	黒褐色・黒茶褐色	黒色・茶褐色	口唇部LR縄文横・輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	10017	947
106 21	表裏縄文	不明	II-1	480-490	口縁	無節R縄文縦	無節R縄文横	黒雲母	暗灰茶褐色	黒褐色	口唇部無節R縄文横・指頭圧痕による凹凸	W909	398
106 22	表裏縄文	不明	I-2	480-490	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母	灰褐色	茶褐色	口唇部LR縄文横	W225	156
106 23	表裏縄文	不明	II-1	480-490	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母少	暗灰褐色	灰茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W911	400
106 24	表裏縄文	不明	II-1	480-490	胴部	LR縄文横	LR縄文斜		黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W117	123
107 1	表裏縄文	不明	II-2	480-490	胴部	LR縄文多方向	LR縄文斜	黒雲母	暗褐色	黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W916	405
107 2	表裏縄文	不明	II-0	480-490	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母多	暗褐色	黒色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W910	399
107 3	表裏縄文	不明	I-1	480-500	胴部	LR縄文横	LR縄文斜	黒雲母多	黒茶褐色	茶褐色	輪積毎単位施文か・浅い指頭圧痕による凹凸	W915	404
107 4	表裏縄文	不明	I-1	480-495	胴部	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母多	赤茶褐色・黒褐色	黒褐色・暗茶褐色	輪積毎単位施文	W374	374
107 5	表裏縄文	不明	III-0	480-490	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母	灰褐色	薄茶褐色・黒褐色	輪積毎単位施文	T6	974
107 6	表裏縄文	不明	II-1	480-490	胴下半部	LR縄文多方向	LR縄文横		灰褐色	薄灰褐色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	W118	124
107 7	表裏縄文	不明	II-1	480-490	胴部	RL縄文縦	RL縄文横	黒雲母	黒灰褐色	黒灰褐色	輪積毎単位施文か・表裏で別原体系	W917	406
107 8	表裏縄文	不明	III-4	480-490	胴部	RL縄文斜	RL縄文横		灰褐色	灰色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W112	118
107 9	表裏縄文	不明	II-2	485	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母多	灰茶褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W39	45
107 10	表裏縄文	不明	III-1	485	口縁	RL縄文斜	RL縄文横	白色粒子極少	灰茶褐色・黒色	灰茶褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W907	396
107 11	表裏縄文	1969/5/18	II-0	485	胴部	RL縄文横・斜	RL縄文斜	黒雲母多	黒茶褐色・黒褐色	黒色・黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W912	401
107 12	表裏縄文	不明	II-0	485-495	胴部	RL縄文横	LR縄文横	輝粒子微量	灰褐色・白褐色	黒灰色		W89	95
107 13	表裏縄文	不明	不明	(485-490)	口縁から胴部	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母	黒茶褐色	黒色	浅い指頭圧痕による凹凸	E3	
107 14	表裏縄文	不明	II-2	490	胴部	LR縄文縦	LR縄文斜	黒雲母	赤茶褐色	白茶褐色	炭付着	W518	57
107 15	表裏縄文	不明	II-1	490	胴部	RL縄文縦	RL縄文斜	黒雲母	茶褐色	黒褐色		W60	66
107 16	表裏縄文	不明	II-2 II-2	490 470-480	胴上半部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒灰褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸・108-1と同一個体の可能性	W898	387
107 17	表裏縄文	不明	III-? III-1	490-? 545	胴下半部	LR縄文斜	LR縄文横・斜	黒雲母	茶褐色	黒褐色	輪積毎単位施文	W896 W897	385- 386
107 18	表裏縄文	1970/6/13	III-2	490-500	口縁	LR縄文縦・横	LR縄文横	黒雲母少	薄茶褐色	灰褐色	白灰付着	WV322	1052
107 19	表裏縄文	不明	II-0	490-500	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒灰色	灰茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W314	216
107 20	表裏縄文	不明	II-2	490-500	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母・茶色粒子	黒色	暗茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W894	383
107 21	表裏縄文	不明	II-2	490-500	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	灰褐色	灰茶褐色		W73	79
107 22	表裏縄文	不明	II-2	490-500	口縁	LR縄文横	LR縄文横	薄茶褐色	黒灰色			W237	160
107 23	表裏縄文	不明	不明	490-500	口縁	LR縄文横・縦	LR縄文横・縦		灰色・黒褐色	薄茶褐色	白灰付着	W902	391
107 24	表裏縄文	不明	III-1	490-500	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	黒灰色	黒色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・炭付着	W893	382
107 25	表裏縄文	不明	III-3	490-500	口縁	無節R縄文斜	無節R縄文横	黒雲母	黒褐色・灰褐色	薄茶褐色		W62	68
107 26	表裏縄文	不明	III-0	490-500	口縁	縄文	縄文	黒雲母	黒灰色	黒灰色		W230	158
107 27	表裏縄文	不明	I-0	490-500	底部付近	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	灰茶褐色	黒色	炭付着?	W69	75
107 28	表裏縄文	不明	I 拵	490-500	底部付近	不明	LR縄文横	輝粒子	灰黄褐色	黒褐色		W114	120
107 29	表裏縄文	不明	I-0	490-500	胴部	LR縄文斜	LR縄文横	黒色粒子	灰茶褐色	灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W61	67
107 30	表裏縄文	不明	III-0	490-500	胴部	LR縄文?	LR縄文?	乳白色粒子・数mm大の赤岩石	暗茶褐色	灰褐色		W58	64
108 1	表裏縄文	不明	III-0	490-500	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒灰褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸・107-16と同一個体の可能性	W901	390
108 2	表裏縄文	不明	III-2	490-500	胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	輝粒子少	灰褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W899	388
108 3	表裏縄文	不明	II-?	490-500	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	茶色粒子	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W900	389
108 4	表裏縄文	不明	I 拵	490-500	胴部	LR縄文縦	LR縄文横		茶褐色	黒灰褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W905	394
108 5	表裏縄文	不明	II-0	490-500	胴部	RL縄文斜	RL縄文横	黒雲母	暗褐色	暗褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸・炭付着	W906	395
108 6	表裏縄文	不明	II-0	490-500	胴部	羽状縄文(LR縄文横・RL縄文横)	LR縄文横	黒雲母多	黒灰褐色	暗茶褐色・黒褐色	輪積毎単位施文か	W903	392
108 7	表裏縄文	不明	不明	490-510	口縁	無節R縄文縦	無節R縄文横	輝粒子・黒雲母	黒灰色	黒色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	W26	29

付表1 土器観察表 (14)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調査等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
108	8	表裏縄文	不明	I	495-500	胴部	LR縄文多方向	LR縄文横	黒雲母	黒灰褐色	黒茶褐色・ 黒色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W904	393
108	9	表裏縄文	1970/10/20	Ⅲ-0	500	口縁	羽状縄文(LR縄文横・横)	LR縄文横	輝粒子少・茶色粒子 少	黒茶褐色・ 黒色	薄茶褐色・ 黒色	口唇部LR縄文横	W1265	756
108	10	表裏縄文	不明	I-0	500	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子少	茶褐色・黒 褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W1005	495
108	11	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	500	口縁	LR縄文横	LR縄文横		茶褐色	暗茶褐色	口唇部LR縄文横・白灰付着	W1010 -1	500
108	12	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	500-510	口縁	LR縄文斜～横	LR縄文横	輝粒子	茶褐色	黒褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による 凹凸	W24	26
108	13	表裏縄文	不明	I-1	500-510	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母	明茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1002	492
108	14	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	500-510	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・穿孔あり	W1003	493
108	15	表裏縄文	不明	I-3	500-510	口縁	LR縄文横	LR縄文横		黄灰褐色	灰褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による 凹凸	W193	148
108	16	表裏縄文	不明	I-3	500-510	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子微量	黒灰色	灰褐色	口唇部にLR縄文横・指頭圧痕による 凹凸	W196	149
108	17	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	500-510	口縁	LR縄文横	LR縄文横		薄茶褐色	黒茶褐色	白灰付着	W247	162
108	18	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	500-510	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母	茶褐色	暗茶褐色		W66	72
108	19	表裏縄文	不明	I-3	500-510	口縁	LR縄文横	LR縄文横		灰褐色	灰色	口唇部LR縄文横・灰付着	W1100	591
108	20	表裏縄文	不明	Ⅱ-1 採集	500-510 (550)	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒色・灰褐 色	暗茶褐色・ 黒色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付 着・年代測定(第5章(3)No.3)	W255	164・ 165
108	21	表裏縄文	不明	Ⅲ-0	500-510	口縁	RL縄文横	RL縄文横	茶色粒子・輝粒子	暗灰茶褐 色	暗灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1006	496
108	22	表裏縄文	不明	Ⅱ-3?	500-510	口縁	RL縄文横～斜	RL縄文横	黒雲母	黒灰色	茶褐色	口唇部RL縄文横・穿孔・井草 I に 類似	W225	24
108	23	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	500-510	口縁	RL縄文横	RL縄文横	黒色粒子・輝粒子少	薄茶褐色	薄茶褐色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による 凹凸・白灰付着	W1008	498
108	24	表裏縄文	不明	Ⅲ-0	500-510	口縁	無節L縄文横	無節L縄文横	輝粒子少	黒灰色	灰色	指頭圧痕による凹凸	W1001	491
108	25	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	500-510	口縁	無節R縄文縦	無節R縄文横	黒雲母・黒色粒子	灰褐色	黒灰色・茶 褐色	口唇部無節R縄文横	W1012	503
108	26	表裏縄文	不明	I-0 Ⅱ-2 Ⅲ-3	500-510 460-470 460-470	口縁～胴 部	無節L縄文多方向	無節L縄文斜	輝粒子	黒灰色	黒灰色	口唇部無節L縄文横・顕著な指頭 圧痕による凹凸・穿孔あり	W17	17.18 .19
108	27	表裏縄文	不明	I-0	500	胴部	LR縄文斜	LR縄文斜	輝粒子	暗褐色	茶褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	W997	487
109	1	表裏縄文	不明	I-1	500-510	胴部	LR縄文斜～横	LR縄文横	茶色粒子	茶褐色	黒茶褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による 凹凸	W946	435
109	2	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	500-510	胴部	LR縄文横	LR縄文横		灰褐色	灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1013	504
109	3	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	500-510	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	暗灰褐色	暗灰褐色	輪積毎単位施文	W998	488
109	4	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	500-510	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	茶色粒子	薄茶褐色	灰褐色		W48	54
109	5	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	500-510	胴部	RL縄文横	RL縄文横	輝粒子少	灰茶褐色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1102	593
109	6	表裏縄文	不明	Ⅲ-0	500-510	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	茶褐色	暗灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1101	592
109	7	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	500-510	胴下半部	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	薄茶褐色	黄灰褐色・ 黒灰色	輪積毎単位施文	W882	371
109	8	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	500-510	胴部	RL縄文横	RL斜	黒雲母多	黒褐色・灰 茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1000	490
109	9	表裏縄文	不明	I-0	506-516	胴部	LR縄文横・斜	LR縄文横	黒色粒子	暗灰褐色	灰褐色		W53	59
109	10	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	(500-510)	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母多	黒灰色・灰 色	灰褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による 凹凸	W27	30
109	11	表裏縄文	不明	Ⅱ-3	500-520	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	暗茶褐色	黒色	浅い指頭圧痕による凹凸	W64	70
109	12	表裏縄文	不明	I	500-530	口縁	LR縄文多方向	LR縄文横	乳白色粒子少	黒灰色	黒灰色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による 凹凸・口唇に貼付あり	W1009	499
109	13	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	500-560	胴部	LR縄文縦	LR縄文斜	黒色粒子・輝粒子	黒褐色	暗茶褐色		W52	58
109	14	表裏縄文	1970/6/12	Ⅲ-0	505	口縁～胴 部	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	暗灰茶褐 色・黒褐色	黒色・黒灰 褐色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W19	21
109	15	表裏縄文	1965/6/13?	Ⅱ-1	505	口縁	LR縄文横	LR縄文斜	黒色粒子	灰褐色・黒 色	灰褐色・黒 色	輪積毎単位施文か・浅い指頭圧 痕による凹凸・白灰付着	W1104	595
109	16	表裏縄文	1970/10/14	Ⅱ-3 Ⅱ-2	505 470-480	口縁～胴 部	LR縄文縦・口縁下にLR縄 文斜	LR縄文横	輝粒子多	黒色・黒灰 色・暗茶褐 色	黒色・黒灰 色	指頭圧痕による凹凸	10042	919
109	17	表裏縄文	不明	Ⅲ-0	505	底部付近	LR縄文多方向	LR縄文多方向	輝粒子少・乳白色粒 子少	茶褐色	茶褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸・白灰 付着	W1103	594
109	18	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	505	胴部	RL縄文斜	RL縄文縦・横	黒雲母	黒灰色	白灰褐色	穿孔・浅い指頭圧痕による凹凸・ 灰・灰付着・圧痕023不明	W1105	596
109	19	表裏縄文	不明	I-0	506-516	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	灰褐色	暗灰褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による 凹凸	W1099	590
109	20	表裏縄文	不明	I-0	506-516	口縁	LR縄文横・口縁部に1条 のLR側面押圧	LR縄文横	乳白色粒子	黒灰色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W28	31
109	21	表裏縄文	1970/6/?	不明	不明	口縁	LR縄文横・口縁部に1条 のLR側面押圧	LR縄文横	乳白色粒子	黒色	黄灰褐色・ 黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W587	345
109	22	表裏縄文	1973/10/20	Ⅳ-0	510	胴下半部	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	薄茶褐色	黒色・黒灰 色	輪積毎単位施文・浅い指頭圧痕 による凹凸	W34	38
110	1	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	胴部	LR縄文横	LR縄文斜	輝粒子	灰褐色	暗灰褐色	指頭圧痕による凹凸・孔・圧痕 003不明木材	W1309	800
110	2	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	510-530	口縁	LR縄文縦・斜	LR縄文横	輝粒子少	茶褐色	黒色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による 凹凸・白灰付着	W20	22
110	3	表裏縄文	不明	Ⅱ-0	510	胴部	LR縄文横	LR縄文斜		灰茶褐色	黒灰色		W67	63
110	4	表裏縄文	不明	Ⅱ-0	510	胴部	LR縄文横・斜	LR縄文横	輝粒子微量	黒褐色	茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による 凹凸	W1112	603
110	5	表裏縄文	不明	Ⅲ-0	510-520	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子微量	黒褐色	茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による 凹凸	W1113	604
110	6	表裏縄文	不明	Ⅱ-3	510-500	胴部	LR縄文縦	LR縄文斜	乳白色粒子多	黒褐色	明茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1111	602
110	7	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	510-520	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	灰褐色	灰褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による 凹凸	W1098	577

付表1 土器観察表 (15)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・構造等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
110	8	表裏縄文	不明	I-0	510-520	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子少	灰褐色・薄 茶褐色	黒灰色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1090 W1088	581・ 579
110	9	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母	灰茶褐色・ 黒灰色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸・110-10と同一面体か	W1278	769
110	10	表裏縄文	不明	Ⅲ-1砂 層直下	541	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母	黒灰色	黒灰色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1266	757
110	11	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子・黒色粒子	薄茶褐色	灰茶褐色	口唇部LR縄文横・白灰付着	W1094	585
110	12	表裏縄文	不明	I-0	510-520	口縁	LR縄文横?	LR縄文横	輝粒子	黒灰色・灰 褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1106	597
110	13	表裏縄文	不明	I-0	510-520	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子少	灰褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1089	580
110	14	表裏縄文	不明	Ⅱ-3	510-520	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子少	黄褐色	黄灰褐色	LR(太いRと細いR)縄文横s	W1093	584
110	15	表裏縄文	不明	Ⅲ-3	510-520	口縁	LR縄文横~斜	LR縄文横	輝粒子	薄茶褐色	薄茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1087	578
110	16	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	口縁	LR縄文横	LR縄文斜	黒雲母	薄茶褐色	薄茶褐色	口唇部LR縄文横か・白灰付着	W1097	588
110	17	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	口縁	LR縄文横	LR縄文横		薄茶褐色	薄茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・灰付着	W183	146
110	18	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	口縁	RL縄文横	RL縄文斜	乳白色粒子少	灰褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸か	W1095	586
110	19	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	口縁	RL縄文斜	RL縄文横	黒雲母	灰茶褐色	暗灰茶褐色	口唇部RL縄文横	W186	147
110	20	表裏縄文	1970/6/14	Ⅱ-2	510-520	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子多・茶色粒子	黒茶褐色・ 黒色	黒灰色・明 茶褐色	輪積毎単位施文か・顕著な指頭圧痕による凹凸	W1107	598
110	21	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	510-520	胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	黒雲母	暗茶褐色	暗赤褐色	輪積毎単位施文・浅い指頭圧痕による凹凸	W1109	600
110	22	表裏縄文	不明	Ⅱ-3	510-520	胴部	LR縄文横	LR縄文横		薄茶褐色	灰褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W100	106
110	23	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	510-520	胴部	LR縄文斜	LR縄文斜	黒色粒子・白色粒子	薄茶褐色	灰褐色		W103	109
110	24	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	510-520	胴部	LR縄文横	LR縄文斜	輝粒子少	薄茶褐色	黒灰色	輪積毎単位施文	W71	77
110	25	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	胴部	LR縄文横	LR縄文横		黒灰色	黒灰色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W85	91
110	26	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	510-520	胴部	LR縄文横・縦	LR縄文横	輝粒子・灰色粒子	薄茶褐色	黒褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W181 W182	144・ 145
110	27	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	510-520	胴部	RL縄文縦	RL縄文横	黒雲母	暗茶褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W72	78
110	28	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	510-520	胴部	RL縄文縦	RL縄文斜	黒雲母	黒褐色	黒茶褐色		W1108	599
110	29	表裏縄文	不明	Ⅳ-1	510-520	胴部	RL縄文横・斜	RL縄文斜・横	茶色粒子	灰茶褐色	暗褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着	W1110	601
110	30	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	510-520	胴下半部	RL縄文横	RL縄文横	乳白色粒子・黒色粒子・輝粒子少	橙褐色・灰 褐色	灰橙褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・灰付着?	W999	489
111	1	表裏縄文	不明	I-1	510-520	胴下半部 (底部付 近)	無節R縄文縦	無節R縄文横	黒雲母多	灰褐色	黒褐色	圧痕024不明現象?	W120	808
111	2	表裏縄文	不明	Ⅳ-1	510-530	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒灰色	灰色	指頭圧痕による凹凸	W1261	752
111	3	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	510-530	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母	薄茶褐色	灰褐色	口唇部LR縄文横・特に厚い	W1091	582
111	4	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	510-530	口縁	LR縄文横	LR縄文横・斜	黒雲母	灰茶褐色	黒褐色・灰 茶褐色	口唇部LR縄文横・輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W1092	583
111	5	表裏縄文	不明	Ⅲ-1	513	底部	LR縄文?多方向	LR縄文?多方向	輝粒子・茶色粒子	黒褐色・茶 褐色	暗茶褐色		T3	971
111	6	表裏縄文	不明	Ⅱ-0 拂土	515	口縁	LR縄文多方向	LR縄文横	茶色粒子少・乳白色 粒子・輝粒子少	黒灰褐色 茶褐色	茶褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W545 W546	335 336
111	7	表裏縄文	1970/10/20	Ⅲ-1	515	胴部	LR縄文横	LR縄文横	黒色粒子・輝粒子少	灰茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W1011	502
111	8	表裏縄文	1970/10/20	I-0	515	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母	暗褐色	黒褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W1098	589
111	9	表裏縄文	不明	I-0	520	胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横	輝粒子	褐色	暗茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W1010	501
111	10	表裏縄文	不明	I-2	520	底部付近	LR縄文縦	LR縄文斜		灰褐色	黄灰褐色		W75	81
111	11	表裏縄文	不明	I-2	520	胴部	LR縄文斜	LR縄文横		薄茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W137	142
111	12	表裏縄文	不明	I-2	520	胴部	LR縄文斜	LR縄文横~斜	輝粒子	茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W76	82
111	13	表裏縄文	不明	I-2	520	胴下半部	無節R縄文縦	無節R縄文縦		灰赤褐色	黄褐色	指頭圧痕による凹凸	W136	141
111	14	表裏縄文	不明	I-1	520-530	口縁	LR縄文横・斜	LR縄文横	輝粒子多	黒灰色	黒灰色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W242	161
111	15	表裏縄文	不明	I-0	520-530	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子少	灰茶褐色・ 黒茶褐色	灰黄褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1271	762
111	16	表裏縄文	不明	I-1	520-530	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子・茶色粒子	黒茶褐色	暗茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1273	764
111	17	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	520-530	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母	灰黄褐色	黒茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1267	758
111	18	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	520-530	口縁	RL縄文横・斜	RL縄文縦	黒雲母	黒灰褐色	黒色・黒灰 色	口唇部RL縄文横・指頭圧痕による凹凸・灰付着・年代測定(第5章4No.3)	W1272	763
111	19	表裏縄文	不明	I-0	520-530	胴部	LR縄文横	LR縄文斜	輝粒子・茶色粒子	黒灰色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W1270	761
111	20	表裏縄文	不明	I-1	520-530	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒灰色	黒灰色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W104	110
111	21	表裏縄文	不明	Ⅲ-0	520-530	胴部	LR縄文横	LR縄文縦	乳白色粒子	灰褐色・黒 褐色	灰褐色・黒 褐色		W56	62
111	22	表裏縄文	不明	Ⅲ-0	520-540	口縁	LR縄文横	LR縄文横		黒褐色	黒褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W1260	751
111	23	表裏縄文	不明	Ⅲ-2	525	胴部	LR縄文横	LR縄文横・斜	黒色粒子	黒褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1268	759
111	24	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	525	胴部	RL縄文斜	RL縄文縦	黒雲母	茶褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W101	107
111	25	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	525	胴部	RL縄文斜	RL縄文縦	黒雲母	茶褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着・灰付着	W102	108
111	26	表裏縄文	不明	Ⅱ-2	530	口縁	LR縄文横	LR縄文横		灰褐色	黒色	白灰付着	W1259	750
111	27	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	530	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	薄灰褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1004	494
111	28	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	530	口縁	LR縄文横・縦	LR縄文横	茶色粒子	灰褐色	茶灰褐色	口唇部LR縄文横	W1263	754
112	1	表裏縄文	不明	Ⅱ-1	530	口縁	LR縄文横	LR縄文横・斜	黒雲母	灰褐色	灰褐色・黄 灰褐色・黒 色	口唇部LR縄文横・輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸・灰付着・口唇内面に突起状貼付	W1096	587

付表1 土器観察表(16)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
112	2	表裏縄文	1970/10/17	II-1	530	口縁~胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子・黒色粒子	明茶褐色	茶褐色・灰褐色	口唇部にこぶ状粘土貼付・口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W18	20
112	3	表裏縄文	不明	II-2	530	胴下半部	LR縄文横	LR縄文横・斜	輝粒子少・茶色粒子少	茶灰褐色	黒色・黒灰色	指頭圧痕による凹凸・炭付着・年代測定(第5章3No.2)	A	248
112	4	表裏縄文	不明	III-1	530-540	口縁	LR縄文横	LR縄文横		薄茶褐色	黒色・黒灰色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	W88	94
112	5	表裏縄文	不明	II-2	530-540	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母・茶色粒子	灰茶褐色	茶褐色	白灰付着	W1262	753
112	6	表裏縄文	不明	III-2	530-540	胴部	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母少	薄暗茶褐色	灰褐色	灰付着	W110	116
112	7	表裏縄文	不明	III-1	530-540	胴部	LR0段多条縄文横	LR0段多条縄文横	黒色粒子少	薄茶褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W109	115
112	8	表裏縄文	不明	III-1	535	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子少	黒色	黒茶褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W1264	755
112	9	表裏縄文	不明	III-1	535	口縁	RL縄文横	RL縄文斜	黒雲母	黒灰色	黒色	口唇部RL縄文横	W1277	768
112	10	表裏縄文	不明	II-2	535	胴下半部	LR縄文横	LR縄文横		薄黄灰褐色	黒灰色・黒色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸・炭付着	W123	126
112	11	表裏縄文	不明	III-1	540-550	口縁	LR縄文横	LR縄文横	白色粒子	薄茶褐色	薄茶褐色	白灰付着・炭付着	W1257	748
112	12	表裏縄文	不明	III-2	540-550	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母	黒色	黒色・茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W74	80
112	13	表裏縄文	1070/10/21	III-2	545	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子・黒色粒子	白灰褐色	黄灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1258	749
112	14	表裏縄文	1970/10/21	III-2	545	胴部	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子・黒色粒子	黒色・黒灰褐色	黒灰褐色	輪積毎単位施文か・顕著な指頭圧痕による凹凸	W33	37
112	15	表裏縄文	不明	IV-1	550-560	胴部	LR縄文斜	LR縄文横		灰色	黒灰色	口唇部指頭圧痕による凹凸	W70	76
112	16	表裏縄文	不明	III-1	560-565	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母多	赤褐色	茶褐色	口唇部に突起	T1	969
112	17	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁から胴部	LR縄文から斜め	LR縄文横	輝粒子多・黒色粒子	褐色	薄褐色	口唇部LR縄文・輪積毎単位施文・浅い指頭圧痕による凹凸	E1	
112	18	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁から胴部	LR縄文横	LR縄文横	白色粒子少	暗灰褐色	灰茶褐色	口唇部LR縄文・指頭圧痕による凹凸	E6	
112	19	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁から胴部	RL縄文横	RL縄文横	輝粒子	黒色	黒灰褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・炭付着	E4	
112	20	表裏縄文	1670/6/2	不明	崩れ	口縁から胴部	LR縄文斜め・横	LR縄文横	輝粒子少	暗茶褐色	灰茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	E5	
112	21	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母多	黒色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W942	431
112	22	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母	灰茶褐色	黒茶褐色	口唇部LR縄文横・輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W113	119
112	23	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文横・口縁部に1条の無節R?側面押圧	LR縄文縦	輝粒子	白灰褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸	W591	349
113	1	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文斜	LR縄文横	黒雲母	茶褐色	茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸	W961	450
113	2	表裏縄文	不明	IV-0	不明	口縁	LR縄文横	LR縄文横	輝粒子	黒灰色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸・内面に粘土貼付?・炭付着	W1219	710
113	3	表裏縄文	1966/5/16	中央記石下	不明	口縁	LR縄文横	LR縄文縦	茶色粒子・輝粒子少	黒褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W589	347
113	4	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文縦	LR縄文横	輝粒子	黒褐色	黒色・赤褐色	炭付着	W572	343
113	5	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	LR縄文横	LR縄文縦	黒色粒子・輝粒子・茶色粒子	黒褐色	茶褐色	口唇部LR縄文横・指頭圧痕による凹凸・圧痕??	W537	331
113	6	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁~胴部	LR縄文横・斜	LR縄文横	輝粒子多・白色粒子多・黒色粒子多	黒色	黄灰褐色・黒色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	W966	455
113	7	表裏縄文	不明	II-0	不明	口縁	RL縄文斜	RL縄文横		灰茶褐色	灰褐色	口唇部RL縄文横	W11	11
113	8	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	無節R縄文横・斜	無節R縄文横	黒雲母・黒色粒子	黒色・黒茶褐色	薄茶褐色	口唇部無節R縄文横・指頭圧痕による凹凸	W327	229
113	9	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁	無節R縄文縦	無節L縄文横	黒雲母小	暗茶褐色	黒色	口唇部無節R縄文横	W549	337
113	10	表裏縄文	不明	不明	不明	口縁付近	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母多	黒茶褐色	薄茶灰色		W535	329
113	11	表裏縄文	1966/5/12	不明	不明	胴下半部	縄文?	縄文?		茶褐色	茶褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	W596	350
113	12	表裏縄文	不明	II 奥	不明	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	黒色粒子・輝粒子	茶褐色・薄茶褐色	暗茶褐色・黒色	指頭圧痕による凹凸・炭・灰付着	W309	211
113	13	表裏縄文	不明	不明	不明	胴下半部~底部付近	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母少	黒灰色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸・輪積毎単位施文	W603 W604	352 353
113	14	表裏縄文	不明	不明	不明	底部	LR縄文縦	LR縄文横~斜	輝粒子	白灰褐色	黒灰色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸・炭付着	WV406	961
113	15	表裏縄文	不明	II-1	崩れ	胴部	LR縄文斜	LR縄文縦	黒色粒子	黒褐色	暗灰褐色	輪積毎単位施文か・指頭圧痕による凹凸	W947	436
113	16	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文横	LR縄文斜	輝粒子少	黒灰色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	W1121	612
113	17	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文斜	LR縄文横	茶色粒子少	灰褐色	明茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	W996	486
113	18	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文斜	LR縄文斜	黒雲母多	灰色・黒褐色	灰色・黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W1161	652
114	1	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文斜	LR縄文横	輝粒子・乳白色粒子・1mm次の岩石	明黄褐色	黄褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による凹凸	W1300	791
114	2	表裏縄文	不明	III-下方	不明	胴部	LR縄文縦	縄文		灰茶褐色	黒灰色		W536	330
114	3	表裏縄文	1968/5/?	II-0	不明	胴部	LR縄文?	LR縄文斜	茶色粒子	暗茶褐色	黒茶褐色		W544	60
114	4	表裏縄文	1970/5/?	不明	不明	胴部	LR縄文斜	LR縄文横	輝粒子少	黒褐色	薄茶褐色	輪積毎単位施文?	W528	326
114	5	表裏縄文	不明	(I-孤)	不明	胴部	LR縄文横	LR縄文横	黒雲母多	黒灰色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W526	324
114	6	表裏縄文	不明	IV-0	不明	胴部	LR縄文横	LR縄文横	銀色粒子	灰茶褐色	黒色	炭付着	W525	323
114	7	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文横	LR縄文斜	輝粒子少	茶褐色・黒褐色	茶褐色	114-8と同一個体か・指頭圧痕による凹凸・白灰付着・輪積毎単位施文	W569	341
114	8	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文縦	LR縄文横		茶褐色・黒褐色	薄茶褐色・黒褐色	指頭圧痕による凹凸・白灰付着	W578	344
114	9	表裏縄文	不明	砂(?)層表面	不明	胴部	LR縄文横~斜	LR縄文横		炭化物付着・		炭化物付着・輪積毎単位施文?	W538	332
114	10	表裏縄文	不明	(I-孤)	不明	胴部	LR縄文縦	LR縄文横	黒雲母	黒灰色	暗赤褐色		W527	325
114	11	表裏縄文	不明	不明	不明	胴部	LR縄文横	縄文?	黒雲母多	黒灰色	黒褐色		W541	333

付表1 土器観察表(17)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
114	12	表裏織文	不明	不明	不明	底部付近	RL織文横・斜	RL織文横・斜	黒色粒子少	白灰褐色	黒褐色・薄 茶褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による 凹凸・白灰付着・圧痕020不明 歪状	W1305	796
114	13	表裏織文	不明	不明	不明	胴下半部	RL織文多方向	RL織文多方向	輝粒子	黒灰色・白 灰色	茶褐色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による 凹凸・白灰付着	W560	339
114	14	表裏織文	不明	(I - 拡)	不明	胴部	RL織文縦	RL織文縦	輝粒子	薄茶褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W531	328
114	15	表裏織文	1968/7/?	II-3	不明	胴部	RL織文縦	LR織文横	輝粒子少	黒褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	W530	327
114	16	表裏織文		不明	不明	胴部	RL織文縦	RL織文縦	乳白色粒子	白褐色	白褐色	白灰付着	W590	348
114	17	表裏織文	不明	不明	不明	胴部	RL織文縦・斜	RL織文縦	輝粒子少・茶色粒子 少	灰茶褐色	灰茶褐色	輪積毎単位施文	W566 W571	340・ 342
114	18	表裏織文	不明	不明	不明	胴部	RL織文横	RL織文横～斜・ 横擦痕	乳白色粒子少	茶褐色	薄茶褐色	指頭圧痕による凹凸	W544	334
114	19	表裏織文	不明	くずれ	不明	胴部	RL織文斜	RL織文縦	黒雲母多	茶褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	W108	114
114	20	表裏織文	1970/6/2	クスレ		胴部	RL織文多方向	RL織文横	輝粒子微量	黒灰色	黒灰色	輪積毎単位施文・指頭圧痕による 凹凸	W84	90
114	21	表裏織文	不明	不明	不明	胴部	無節R織文横	LR織文横	黒雲母	黒灰色	黒褐色		W524	322
114	22	裏織文	不明	II-0	458-470	底部付近		織文	輝粒子	灰茶褐色	黒色	灰付着	W123	128
114	23	裏織文	不明	II-2	470-480	口縁		LR織文縦	茶色粒子・乳白色粒 子	灰茶褐色	灰褐色・黒 色	指頭圧痕による凹凸	W416	302
115	1	土製円盤(表裏織 文)	1965/?/?	III-1	(465-470)	胴部	LR織文	LR織文	黒雲母	薄茶褐色	暗茶褐色	灰付着・断面加工か	W77	83
115	2	小型土器?	不明	II-3	270-280	底部もしくは ミニチュア土 器	線状痕	横ナデ	黒雲母多	黒色・暗黄 褐色	黒色	灰付着	W1157	648
115	3	小型土器?	不明 不明 1968/5/18	III-4 院 III-4 II-3	352 520-570 352 380	底部もしくは ミニチュア土 器	横ナデ(擦痕)	ナデ・ややあばた 状	黒雲母	灰茶褐色	黒色・黒茶 過食		10020 W807 W1143	963 1040 634
115	4	小型土器?	不明	I-3	480-490	底部もしくは ミニチュア土 器	LR織文横	横ナデ	茶色粒子	灰褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	W1128	709
115	5	小型土器?	不明	不明	不明	底部もしくは ミニチュア土 器	織文?	横ナデ	茶色粒子	暗褐色	茶褐色	顕著な指頭圧痕による凹凸	10008 ?	952
116	1	弥生中期～後期	1967/7/23	V-2	(+80)	底部	横ナデ	横ナデ	乳白色粒子	茶褐色	黒色	時期不明	WV188	1005
116	2	中期中葉・藤内式	不明	V	不明	胴部	隆帯(爪形)・	縦ナデ	乳白色粒子・黒雲母 小	暗褐色	黒色		WV189	1006
116	3	踏橋a式	不明	V	表探	胴部	RL織文?木葉文	横ナデ	乳白色粒子	黒褐色	暗橙褐色		WV281	1028
116	4	前期後葉	1972/7/24か	V-2	90-100	胴部	RL織文横	斜めナデ	白色粒子	暗茶褐色	黒色		WV284	1033
116	5	羽状織文系	1967/4/23	V	35-55	胴下半部	RL織文多方向	横ナデ(浅い条 痕?)	繊維多・数mm大の 岩石	暗赤褐色	暗赤褐色		WV22	831
116	6	羽状織文系	1967/4/23か	V	55-75	胴部	RL織文横	横ナデ	繊維	灰色	灰色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV410	F No.
116	7	羽状織文系	(1967/7/24)	V-2	90-100	胴部	LR織文横	ややあばた状	黒色粒子	薄褐色	黒灰褐色	指頭圧痕による凹凸	WV401	F No.
116	8	羽状織文系	1966/7/23	V(拡 張区)	不明	口縁	RL織文横	ナデ	繊維・乳白色粒子少	明黄褐色	暗黄褐色	口唇部刻み・指頭圧痕による凹 凸	WV31	840
116	9	羽状織文系	不明	V-2	不明	胴部	RL織文横		繊維多・茶色粒子	黒色	暗黄灰色		WV324	1045
116	10	羽状織文系	1967/4か	V	不明	胴部	結束羽状織文	横ナデ	繊維・茶色粒子少	暗灰褐色	暗灰茶褐 色		WV411	F No.
116	11	羽状織文系?	1967/7/25	V	不明	口縁	LR織文縦	斜ナデ	繊維・輝粒子・茶色 粒子・数mm大の 鉱物	暗赤褐色	暗茶褐色	口唇部LR織文横・波状口縁か	WV11	820
116	12	羽状織文系?	1967/7/25	V	不明	胴部	RL織文横・縦	横擦痕	繊維・輝粒子・茶色 粒子・数mm大の 鉱物	黒色・暗黄 褐色	茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV13	822
117	1	沈線文条痕文系?	不明	V-2	(0)	胴部	RL織文横	横ナデ(浅い条 痕)	茶色粒子・数mm大 の岩石	赤褐色	黒赤褐色		WV420	F No.
117	2	沈線文条痕文系	1967/4/23	V	6-15	胴部	沈線	条痕横	繊維微量?・数mm 大の岩石	暗黄褐色	黒黄褐色		WV4	813
117	3	沈線文条痕文系	不明	V	(6-15)	胴部	横方向押し引き	ややあばた条	繊維・黒雲母多	薄茶褐色	黒灰色	指頭圧痕による凹凸	WV7	816
117	4	沈線文条痕文系	不明	V(フル イ)	15-35	口縁	斜め押し引き	剥落か	繊維多・黒雲母多	黒灰色	茶褐色		WV60	869
117	5	沈線文条痕文系	1967/4/23	V(フル イ)	15-35	胴部	条痕・沈線	条痕	繊維・赤色岩片	暗茶褐色	黒赤褐色		WV55	864
117	6	沈線文条痕文系	1967/4/23	V(フル イ)	15-35	胴部	条痕斜	ややあばた状	繊維・黒雲母多	黒褐色	黄灰色		WV58	867
117	7	沈線文条痕文系	1967/4/23	V(フル イ)	15-35	胴部	格子目状沈線	横擦痕	黒雲母多	暗茶褐色	暗灰色	判ノ木山西	WV54	863
117	8	沈線文条痕文系	1967/7/23	V	20	胴部	条痕斜	横ナデ?	繊維微量?・黒雲母 微量	茶褐色	黒褐色		WV29	838
117	9	沈線文条痕文系	1967/7/23	V	20	胴部	条痕縦	浅い条痕斜?	繊維・黒色粒子・輝 粒子・岩石片	黒褐色	暗褐色		WV30	839
117	10	沈線文条痕文系	1967/4/23	V	35-55	口縁	横方向押し引き・斜め押し 引き	横ナデ	繊維・黒雲母多	黒茶褐色	暗茶褐色		WV141	880
117	11	沈線文条痕文系	1967/4/23	V	33-55	口縁	条痕横・3条の沈線による 格子目文・楕円形刺突	横ナデ・擦痕	繊維少・茶色粒子	黒色	暗茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・判ノ木 山西	WV158	893
117	12	沈線文条痕文系	1967/4/23	V	35-55	胴部	RL織文0段多条・太い沈 線による刻み?	横ナデ	繊維?・赤色粒子 多・数mm大の岩石	暗茶褐色	赤茶褐色		WV21	830

付表1 土器観察表(18)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
						117	13		沈線文条痕文系	1967/4/23				V
117	14	沈線文条痕文系	1967/7/23	V-2	40-60	口縁	格子目状の平行沈線	横ナデ	繊維・灰色粒子・数mm大の岩石片	黒色・黒灰褐色・暗茶褐色	黒灰色・暗茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・白灰付着・判ノ木山西	WV146・W147・W148	885・886・887
117	15	沈線文条痕文系	1967/7/23	V-2	40-60	胴部	浅い条痕?・RL縄文?	沈線文	茶色粒子・輝粒子微量・繊維微量	黒色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	WV263	1024
117	16	沈線文条痕文系	1967/7/23	V-2	40-60	胴部	条痕横・縦	条痕横	繊維・黒雲母微量・数mm大の岩石	黒茶褐色	黒茶褐色		WV261	1023
117	17	沈線文条痕文系	不明	V	50	胴部	斜め条痕	横条痕	繊維微量・数mm大の岩石片	暗褐色	黒褐色		WV404	F No.
117	18	沈線文条痕文系	1967/4/23	V	(50付近)	胴部	条痕斜・隆帯(刻み)による縦横の区画・斜太い沈線	条痕横	繊維微量・黒色粒子	橙灰色	黒茶褐色	117-9と同一個体の可能性・浅い指頭圧痕による凹凸・野島	WV170	896
117	19	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴部	隆帯(刻み)による縦横の区画・斜太い沈線	条痕横	繊維微量・黒色粒子	暗橙灰色	黒色	浅い指頭圧痕による凹凸・野島	WV168	997
117	20	沈線文条痕文系	1967/4/23	V	55-75	口縁	縦平行沈線・斜細い沈線・縦方向隆帯(刻み)		黒雲母	黒灰色	灰茶褐色	口唇刻み・野島	WV169	998
117	21	沈線文条痕文系	1967/4/23	V-2	55-75	口縁	条痕横		黒雲母	黒灰色	黒灰色		WV413	F No.
117	22	沈線文条痕文系	1967/4/23 不明	V V	55-75 不明	口縁	条痕横・斜の沈線・角状工具による角押文	条痕斜・扇状の刺突列	繊維・黒雲母多	黒茶褐色 灰色	黒灰褐色 白黄色	相木・内面施文は子母口にある	WV162	994 891
117	23	沈線文条痕文系	1967/4か	V	55-75	底部	浅い条痕		繊維多	明茶褐色	黒色	外面に回転痕か?	WV406	966
117	24	沈線文条痕文系	1967/4/23	V	55-75	胴部	斜め沈線・横方向押し引き	斜め擦痕	繊維多・黒雲母多	暗灰茶褐色	茶褐色	指頭圧痕による凹凸	WV144	883
117	25	沈線文条痕文系	1967/4/23	V	55-75	胴部下 部	条痕縦～斜	斜ナデ	繊維・白色粒子	薄褐色	黒灰褐色		WV20	829
117	26	沈線文条痕文系	1967/7/23	V-2 V	65-75 不明	口縁	横位平行の沈線間を爪形文と斜沈線で充填	横ナデ	輝粒子・黒色粒子	黒色・薄茶褐色	黒褐色	口縁やや波打つ	WV151 -W152	989
117	27	沈線文条痕文系	1967/7/?	V区-2	65-75	口縁	沈線文	横ナデ	黒雲母微量	黒褐色	黒褐色	I~IV区76-9と同一個体・固焼き	WV27	836
117	28	沈線文条痕文系	1967/7/25	V-2	85-105	口縁	沈線文	横ナデ	黒雲母微量	黒色	黒褐色	固焼き	WV245	1018
118	1	沈線文条痕文系	1967/7/?	V2	65~75	胴部	沈線	横ナデ	数mm大の岩石	暗黄褐色	暗黄褐色		WV26	835
118	2	沈線文条痕文系	1967/7/23	V-2	65-75	胴部	縦磨き・斜並行沈線・連続刺突	縦一糸の擦痕?	黒色粒子・茶色粒子・数mm大の岩石片	黒色粒子・黒灰褐色	赤褐色・黒褐色	田戸下層	WV219	910
118	3	沈線文条痕文系	1967/4/23	V-2	75-90	胴部	条痕斜	横ナデ?	繊維・黒雲母多	灰黄褐色	黒褐色		WV16	825
118	4	沈線文条痕文系	1967/7/22	V区-2	75-90	胴部	太い沈線	ややあばた状	繊維・黒雲母多	暗灰色	茶褐色		WV15	824
118	5	沈線文条痕文系	1972/7/22	V-1	80	口縁	横ハの字状沈線・横位押し引き状沈線	横ナデ	繊維・黒雲母多	黒灰色	黒灰色		WV135 987・ 988 WV136	987・ 988
118	6	沈線文条痕文系	不明	(V-?)	80	底部付近	条痕縦～斜	条痕横～斜	黒雲母微量・数mm大の岩石	薄茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	WV40	849
118	7	沈線文条痕文系	不明	(V-?)	80	胴部	条痕斜	ナデ?	繊維微量?茶色粒子	暗褐色	黒褐色		WV42	851
118	8	沈線文条痕文系	不明	(V-?)	80	胴部	??	横ナデ	黒雲母・黒色粒子	暗褐色	黒灰褐色		WV41	850
118	9	沈線文条痕文系	1967/7/24	V-2	80-90	口縁	条痕地文・横位連続刺突・沈線	横擦痕(浅い条痕?)	茶色粒子・数mm大の岩石	茶褐色	茶褐色		WV254	1020
118	10	沈線文条痕文系	1967/7/24	V-2	80-90	胴部	条痕横	条痕?斜め	繊維・色粒子少	茶褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV402	F No.
118	11	沈線文条痕文系	1967/7/24?	V-2	80-90	胴部	条痕縦	横ナデ	繊維・乳白色粒子	暗褐色	黒褐色		WV181	1001
118	12	沈線文条痕文系	1967/7/24	V-2	90-100	胴部	浅い沈線	剥落	乳白色粒子・繊維微量	橙褐色	橙褐色	999と同一個体・内面剥落	WV178	898
118	13	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴部	浅い沈線	剥落	乳白色粒子・繊維微量	黒褐色	黒褐色	898と同一個体・内面剥落	WV171	999
118	14	沈線文条痕文系	1967/7/24	V-2	90-100	胴部	条痕多方向	条痕?横	数mm大の岩石	茶褐色	黒灰色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV290	1029
118	15	沈線文条痕文系	1967/7/24?	V-2	90-100	胴部	細い沈線	横ナデ		茶褐色	黒灰色		WV153	990
118	16	沈線文条痕文系	1967/?	V	80	口縁～胴部	格子目状の押し引き・横方向4条の押し引き	あばた状(剥落か)	繊維・黒雲母多	黒灰色	茶褐色・白灰褐色	指頭圧痕による凹凸・穿孔	WV145	884
118	17	沈線文条痕文系	1967/4/22か	V	100	口縁	格子目状の押し引き・横方向の押し引き	横ナデ?条痕?	繊維・黒雲母多	黒灰色	灰茶褐色	指頭圧痕による凹凸	WV137	876
118	18	沈線文条痕文系	1967/4/22か	V	100	胴部		横ナデ	繊維・黒雲母多	黒灰色	白灰褐色	指頭圧痕による凹凸	WV139	878
118	19	沈線文条痕文系	1966?/3/26	V	不明	胴部	横方向の押し引き	横ナデ	繊維・黒雲母多	暗黄灰色	白灰褐色	指頭圧痕による凹凸	WV142	881
118	20	沈線文条痕文系	1967/4/22か	V	100	胴部	斜め擦痕	横ナデ・擦痕	繊維・黒雲母多	暗褐色・黒褐色	黒色		WV140	879
118	21	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴部	横方向押し引き	斜め擦痕	繊維多・黒雲母多	暗灰茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	WV143	882
118	22	沈線文条痕文系	1967/4/22	V	100	口縁	斜・縦細い沈線・口縁直下に刻み	条痕横・斜	乳白色粒子微量	暗茶褐色	暗茶褐色	口唇部刻み	WV161	894
119	1	沈線文条痕文系	1967/4/22か	V	100	胴部	縦擦痕	あばた状(剥落か)	繊維多・黒雲母多	茶褐色・白茶褐色	黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸	WV138	877
119	2	沈線文条痕文系	1967/7か	V	(100付近)	胴部	斜めナデ	横条痕	輝粒子	薄茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	WV403	F No.
119	3	沈線文条痕文系	1967/7/23	V	100-110	胴部	条痕斜	条痕斜	繊維微量?数mm大の岩石	茶褐色	暗茶褐色		WV43	852
119	4	沈線文条痕文系	1967/7/24	V-2	100-120	口縁	太い沈線	横ナデ	乳白色粒子	暗褐色	黒茶褐色	口唇部刻み・鶴ヶ島台	WV182	1002
119	5	沈線文条痕文系	1962/4/23? 1967/7/23	V-1	110-120	口縁	横位連続円形刺突・格子目状沈線	条痕横	繊維微量・茶色粒子	暗褐色	暗赤褐色		WV165 ・166	996
119	6	沈線文条痕文系	1967/7/23	V-1	110-120	胴部	浅い条痕斜?	浅い条痕?あばた状	繊維?・数mm大の岩石	茶褐色	茶褐色	灰付着	WV39	848
119	7	沈線文条痕文系	1967/7/23?	(V-1)	(110-120)	底部付近	条痕縦・横	横ナデ	黒雲母多	薄茶褐色	黒色	台帳だと骨針	WV291	1030

付表1 土器観察表 (19)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
														外面
119	8	沈線文条痕文系	1967/7?	V	(120付近)	口縁	浅い沈線	条痕横	乳白色粒子・繊維微量	黒褐色	黒褐色	口唇部刻み	WV179	899
119	9	沈線文条痕文系	不明	V-1	120-130	胴部	押し引き状の沈線	条痕横	繊維微量? 障粒子・茶色粒子	暗褐色	黒褐色		WV164	895
119	10	沈線文条痕文系	1967/7/25	V-2	120-140	口縁	楕円連続円形刺突・太い格子目状沈線	横ナデ・斜め線状条痕	乳白色粒子・障粒子微量	黒褐色	赤褐色		WV159	992
119	11	沈線文条痕文系	1968/7/25	V-2	120-140	胴部	条痕? 縦・斜	条痕? 横	数mm大の岩石	褐色	黒褐色		WV33	842
119	12	沈線文条痕文系	1967/7/25	V-2	120-140	胴部	浅い格子目状の沈線	横ナデ	繊維微量・灰色粒子	黒褐色	黒褐色		WV154	991
119	13	沈線文条痕文系	1967/7/25	V-2	120-140	胴部	細い沈線横	縦ナデ	茶色粒子	黒色・暗茶褐色	暗褐色・黒褐色	固焼き・判/木山西	WV149	888
119	14	沈線文条痕文系	1967/7/24	V V-2	130 75-95	口縁~胴部	横擦痕(条痕?)・貝殻腹縁文	横ナデ	繊維微量	黒灰褐色	暗茶褐色	口唇部に貝殻背圧痕・顕著な指頭圧痕による凹凸・白灰付着	5128 WV25	960・ 834
119	15	沈線文条痕文系	1972/7/24	V	138	口縁	斜め太い条痕・口縁に連続刺突	条痕横	繊維・灰色粒子・赤色粒子少	黒色・黒褐色	黒色・黒褐色	穿孔・判/木山西	WV157	892
119	16	沈線文条痕文系	1967/7/24	V	138	口縁~胴部	横方向の浅い条痕	横ナデ	繊維・黒色粒子・数mm大の岩石	黒色	茶褐色	白灰付着	WV407	F No.
119	17	沈線文条痕文系	1967/7/24	V	138	胴部	斜め条痕?・横位平行沈線(押し?)	縦ナデ	乳白色粒子	黒褐色・暗赤褐色	暗黄褐色		WV163	995
119	18	沈線文条痕文系	1967/7/27	V-2	150-170	胴部	条痕(擦痕)縦・横	あばた状・条痕か	繊維・黒色粒子・茶色粒子・数mm大の鉱物	暗褐色	薄褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV46	855
119	19	沈線文条痕文系	1967/7/26	V-1	170-180	口縁	沈線文・押し	横ナデ	黒雲母微量・茶色粒子	暗褐色	黄褐色		WV408	F No.
119	20	沈線文条痕文系	1967/7/26	V-1	240-250	口縁	太い沈線	横ナデ(条痕?)	茶色粒子	黒灰色	黒茶褐色	口唇部刻み	WV258	1021
120	1	沈線文条痕文系	1967/7/26	V-1	240-250	胴部	RL縄文・沈線・刺突?	横ナデ	乳白色粒子	茶褐色	暗灰色	時期不明	WV260	1022
120	2	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴部	横擦痕(条痕?)・縦・斜3条の沈線・口縁部下連続刺突	条痕横	繊維・茶色粒子・黒色粒子少	暗褐色	暗褐色	口唇部斜刺み・灰付着・判/木山西	WV155	890
120	3	沈線文条痕文系	不明	V	不明	口縁	太い平行沈線		乳白色粒子	橙褐色	橙褐色	波状口縁・口唇部刻み	WV172	1000
120	4	沈線文条痕文系	不明	V	不明	口縁	横条痕・太い沈線と列点(押し?)	条痕横	繊維多・数mm大の岩石鉱物	暗茶褐色	茶褐色	口唇部円形刺突	WV294	1032
120	5	沈線文条痕文系	1981/12/12	V 区上方 V 区下方	不明	胴下半部	条痕多方向	条痕多方向	繊維・数mm大の鉱物岩石	暗茶褐色	黒褐色	1~IV区985と同一個体の可能性・浅い指頭圧痕による凹凸	WV293	1031
120	6	沈線文条痕文系	1967/7/25	V	不明	胴部	太い沈線・条痕斜	条痕横	黒色粒子・数mm大の岩石	暗橙褐色	黒茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV9	818
120	7	沈線文条痕文系	1967/7/25	V	不明	胴部	羽状縄文(RL縄文異方向)	条痕横	繊維・数mm大の岩石	茶褐色	暗茶褐色		WV12	821
120	8	沈線文条痕文系	1967/7/25	V	不明	胴部	条痕斜	浅い条痕?	繊維?・乳白色粒子	暗橙褐色	橙褐色		WV14	823
120	9	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴下半部	条痕	縦擦痕	乳白色	橙褐色	黒茶褐色	さらに接着面あり	WV418 F No. 415・ 419	
120	10	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴部	条痕		乳白色	黒褐色	黒茶褐色	w418他と同一個体接着面あり	WV417	F No.
120	11	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴部	条痕横・斜めの細い沈線	条痕横	繊維	暗茶褐色	黒褐色		WV204	907
120	12	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴部	隆帯・条痕横・押角文	条痕他方向	繊維微量・乳白色粒子・数mm大の岩石	黒褐色・暗茶褐色	暗赤褐色	浅い指頭圧痕による凹凸・茅山下層	WV205	908
120	13	沈線文条痕文系	1967/7か	V	不明	胴部	斜め条痕		繊維・黒雲母多	暗茶褐色	黒褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV183	1003
120	14	沈線文条痕文系	1966/7/23	V (拡張区)	不明	胴下半部	条痕縦~斜	横ナデ(浅い条痕?)	繊維微量・数mm大の岩石	灰茶褐色	黒褐色	白灰付着	WV32	841
120	15	沈線文条痕文系	不明	V	不明	胴部	斜・縦擦痕(条痕)・縦・斜沈線		黒雲母多	暗褐色		内面剥落?・判/木山西	WV150	889
120	16	沈線文条痕文系	1967/7/25	V	不明	胴部	条痕斜・貝殻腹縁文		繊維微量・数mm大の岩石	黄褐色	黄褐色		WV8	817
121	1	橋戸文	1967/4/23	V	6-15	胴部	橋戸文横	ナデ	黒色粒子	黄灰褐色	黒灰褐色		WV6	815
121	2	橋戸文	1967/4/23	V(7ルイ)	15-35	胴部	橋戸文横			茶褐色	黒褐色		WV56	865
121	3	橋戸文	1967/7/23	V-2	40-60	口縁	橋戸文横	横ナデ	黒雲母多	灰褐色	灰褐色		WV193	904
121	4	橋戸文	1967/7/23	V-2	75-80	口縁	橋戸文やや斜の横	横ナデ	黒雲母少・乳白色粒子	黒灰色	暗茶褐色	固焼き	WV195	905
121	5	橋戸文	1967/7/25	V-2	85-105	口縁	橋戸文横	横ナデ	黒雲母多	黒茶褐色	茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV244	1017
121	6	橋戸文	1967/7/24	V-2	90-100	胴下半部	橋戸文斜	横ナデ	乳白色粒子	灰茶褐色	黄灰色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV193	1007
121	7	橋戸文	1967/7/23	V-2	90-100	口縁	橋戸文横	ナデ	黒雲母	茶褐色	暗茶褐色		WV228	912
121	8	橋戸文	1967/7/25	V-1	100-110	口縁	橋戸文横	横ナデ	黒雲母・黒色粒子	黒褐色	茶褐色	固焼き	WV919	408
121	9	橋戸文	1967/7/24	V-2	100-120	底部付近	橋戸文横	横ナデ	黒雲母多	薄褐色	黒褐色		WV197	1009
121	10	橋戸文	1967/7/23	V-1	110-120	底部付近	橋戸文縦	横ナデ	黒雲母	茶褐色	暗茶褐色	指頭圧痕による凹凸	WV224	1016
121	11	橋戸文	1967/7/25	V-2	120-140	口縁	橋戸文横	横ナデ	黒雲母小	黒色	茶褐色		WV200	1010
121	12	橋戸文	1968/7/25	V-2	120-140	胴部	橋戸文横	ナデ	数mm大の赤色岩石	赤褐色	茶褐色		WV34	843
121	13	橋戸文	1967/7/24	V-1	140-150	胴部	橋戸文横	ナデ	黒雲母多	白灰色	黒色	白灰付着	WV53	862
121	14	橋戸文	1967/7/27	V	150-170	口縁	橋戸文横	横ナデ	黒雲母	黒茶褐色	暗茶褐色		WV64	873
121	15	橋戸文	1967/7/27	V-2	150-170	胴部	橋戸文横	横ナデ		灰黄褐色	灰黄褐色		WV48	857
121	16	橋戸文	1967/7/26	V-1	180-190	胴部	橋戸文多方向	横ナデ	数mm大の岩石多	黒褐色	黒褐色		WV19	828
121	17	橋戸文	1967/7/27	V-1	200-220	胴部	橋戸文やや斜の横	横ナデ	黒雲母多	暗灰褐色	暗灰褐色		WV226 WV227	911
121	18	橋戸文	1967/7/27	V-1	210	口縁~胴部	橋戸文横	横ナデ	黒雲母多	黒色・黒茶色	暗赤褐色	穿孔・固焼き	WV191	903
121	19	橋戸文	1967/7/27	V	220-240	口縁	橋戸文横	横ナデ	黒雲母多	黒褐色	明茶滑翔		WV280	1027
121	20	橋戸文	1967/7/27	V	220-240	胴部	橋戸文縦・横	横ナデ	黒雲母微量	黒褐色・茶褐色	灰褐色	固焼き	WV279	1026
121	21	橋戸文	不明	V	不明	底部付近	橋戸文横	横ナデ	茶色粒子	灰褐色	灰褐色	指頭圧痕による凹凸	WV38	847
121	22	橋戸文	不明	V	不明	胴部	橋戸文横	横ナデ		黒褐色	暗橙褐色		WV37	846
122	1	山形文	1968/5/19	V-3	75	胴部下半部	山形文横	ややあばた状	白色粒子	暗褐色	黒褐色		WV2	811
122	2	山形文	1968/5/19	V-3	75	胴部	山形文横	横ナデ	黒雲母少・数mm大の岩石	茶褐色	茶褐色		WV3	812
122	3	山形文	?/7/26	V	90	胴部	山形文横(帯状)	横ナデ	黒色粒子・障粒子・白色粒子	黒灰色	黒灰褐色	固焼き	WV62	871
122	4	山形文	?/7/26	V	90	胴部	山形文縦・横(帯状)	横ナデ	黒色粒子・障粒子	白灰褐色	白灰褐色	薄手固焼き・白灰付着	WV61	870
122	5	山形文	1967/7/23	V-1	110-120	胴下半部	山形文縦	剥離あり	黒色粒子	暗灰茶褐色	茶褐色	薄手	WV187	1004

付表1 土器観察表(20)

図版 番号	大 別	発掘年月日	区画	レベル	部位	文様・調整等		胎土	色 調		備 考	注記	実測 番号	
						外面	内面		外面	内面				
						122	6		山形文	1967/7/23				V
122	7	山形文	1967/7/26	V	140-150	胴部	山形文縦	ナデ	黒色粒子・輝粒子	黒褐色	薄茶褐色	薄手固焼き	WV66	875
122	8	山形文	不明	V	不明	口縁	山形文横	丁寧なナデ	数mm大の岩石	黒褐色	黒茶褐色	口唇部山形文・薄手固焼き	WV255	964
122	9	キヤタピラ状文	1967/7/24	V-2	90-100	胴部	キヤタピラ状文横	横ナデ	乳白色粒子・黒色粒子	灰褐色	灰茶褐色		WV186	902
122	10	キヤタピラ状文	1967/7/25	(V-2)	120-140	口縁	キヤタピラ状文横	横ナデ	乳白色粒子・黒色粒子	黒色	灰茶褐色		WV218	909
122	11	キヤタピラ状文	1967/7/27	V-1	200-220	胴部	キヤタピラ状文横	横ナデ	乳白色粒子・黒色粒子	黒灰色	灰茶褐色		WV185	901
122	12	キヤタピラ状文	不明	V	不明	胴部	キヤタピラ状文横	横ナデ	乳白色粒子・黒色粒子	黒色	灰茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV184	900
123	1	無文	1967/4/23	V区	6-15	胴部			黒雲母多・繊維	暗褐色	灰茶褐色		WV5	814
123	2	無文	1967/4/23	V(フルイ)	15-35	口縁	ナデ	横ナデ	黒色粒子	暗褐色	黒茶褐色	灰付着	WV59	868
123	3	無文	1967/4/23	V-2	75-90	胴下半部	縦磨き	ややあばた状	数mm大の岩石	茶褐色	灰褐色		WV18	827
123	4	無文	1967/7/24	V-2	75-95	胴下半部	横擦痕(条痕?)	ややあばた状	繊維?・赤色粒子・黒色粒子	赤褐色	茶褐色	炭付着	WV23	832
123	5	無文	1967/7/24	V-2	75-95	底部付近	斜め擦痕	擦痕	繊維?・赤色粒子少	褐色	黒褐色	灰付着	WV24	833
123	6	無文	?/7/26	V	90	胴部			黒雲母・輝粒子・黒色粒子	黒色	暗薄茶褐色		WV63	872
123	7	無文	1967/7/か	V	(100付近)	口縁	横ナデ	横ナデ	乳白色粒子	黒褐色	茶褐色	中期以降か?	WV400	F No.
123	8	無文	1967/7/25	V-2	120-140	底部				黒灰色	黒灰色	白灰付着	W1225	716
123	9	無文	1967/7/25	V-2	120-140	胴部	横擦痕	横ナデ	繊維微量?	灰褐色	白灰褐色		WV35	844
123	10	無文	1967/7/25	V-2	120-140	胴下半部	横擦痕(条痕?)	擦痕横	繊維微量?・数mm大の岩石	灰褐色	灰褐色		WV36	845
123	11	無文	1967/7/27	V-2	150-170	胴部	横擦痕?	横擦痕?	茶色粒子少	灰黄褐色	黒色		WV49	858
123	12	無文	1968/5/19	V-5	170-200	胴部			輝粒子微量・茶色粒子微量	暗茶褐色	黒褐色	指頭圧痕による凹凸	WV45	854
123	13	無文	不明	V	不明	胴部	斜・縦擦痕	あばた状	繊維・黒雲母多	暗茶褐色	黒色		WV65	874
123	14	無文	1967/7/25	V	不明	胴部	横磨き	横ナデ・ややあばた状	黒色粒子少	暗褐色	暗褐色		WV10	819
124	1	表擦糸文	1967/7/?	V-2	65-75	胴部	L擦横~斜	横ナデ	繊維?・数mm大の岩石	暗褐色	黒褐色		WV28	837
124	2	表擦糸文	1967/4/23	V-2	75-90	胴部	L擦糸斜	横ナデ	輝粒子微量・数mm大の岩石	白灰褐色	白灰褐色	灰付着	WV17	826
124	3	表擦糸文	1967/7/か	V	(100付近)	口縁部	L擦糸横	横ナデ	黒雲母多	茶褐色	黒灰褐色		WV412	F No.
124	4	表擦糸文	1967/7/25	V-2	120-140	底部	擦糸文斜め		黒色粒子・黒雲母	薄赤褐色	薄赤褐色	白灰付着	WV414	F No.
124	5	表擦糸文	1967/7/27	V-2	150-170	胴部	擦糸??	横ナデ	黒雲母	暗茶褐色	黒色		WV47	856
124	6	表擦糸文	1967/7/か	V	不明	胴部	L擦糸横		黒色粒子・輝粒子	暗褐色	黒茶褐色	灰付着	WV194	1008
124	7	網目状擦糸文	1968/5/19	V	170-200	胴部	網目状R擦糸縦	横ナデ	黒雲母小	褐色	黒灰褐色		WV44	853
124	8	擦糸文系	1967/7/24	V-2	85-95	口縁~胴部	斜めの連続する沈線	横ナデ・擦痕	乳白色粒子・輝粒子・数mm大の岩石	黒褐色・暗茶褐	黒褐色・暗茶褐	東山	WV253 ・W861	1019
124	9	表縄文	不明	(V)	100	口縁	LR縄文横・口縁部に1条のR側面押圧			灰黄褐色	黒色	指頭圧痕による凹凸・炭付着	W31	34
124	10	表縄文	1967/7/24	V	138	口縁~胴部	LR縄文縦	横ナデ	輝粒子	黒褐色	黒茶褐色	浅い指頭圧痕による凹凸	WV405	F No.
124	11	表縄文	1967/7/26	V-2	140-150	胴部	RL縄文縦~横	ナデ	黒色粒子・輝粒子	色茶褐色	黒褐色	灰付着?	WV50	859
124	12	表縄文	1967/7/26	V-1	170-180	口縁	横擦痕・RL縄文横		黒雲母多	黒茶褐色	黒茶褐色	指頭圧痕による凹凸	WV277	1025
124	13	表縄文	不明	V	不明	底部	LR縄文斜		茶色粒子・黒雲母	黒茶褐色	黒茶褐色	ミニチュア土器?腹口縁の底部?	WV52	861
124	14	表裏縄文	1967/4/23	V(フルイ)	15-35	胴部	RL縄文縦・横	RL縄文横	茶色粒子・輝粒子少	灰茶褐色	灰茶褐色		WV57	866
124	15	表裏縄文	不明	V	不明	底部付近	LR縄文斜	LR縄文横	輝粒子・灰色粒子・数mm大の岩石片	暗灰茶褐色	黒褐色		WV51	860

付表1 土器観察表(21)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測 番号	
125	1	石鏃	1965/12/15	不明	35	黒曜石	2.4	1.5	0.4	0.9	剥片		279	543
125	2	石鏃	1971/7/12	奥の院	48	黒曜石	1.7	1.8	0.2	0.4	剥片	磨面	297	548
125	3	石鏃	1967/4/21	II-0	50	黒曜石	1.7	1.3	0.2	0.3	剥片		11	477
125	4	石鏃	1965/12/15	不明	60	黒曜石	1.8	1.2	0.2	0.3	剥片		278	542
125	5	石鏃	1965?/12/16	不明	145	黒曜石	1.5	1.3	0.2	0.3	剥片		298	549
125	6	石鏃	1966/8/19	I 抔	175	黒曜石	2.1	1.4	0.2	0.3	剥片		13	151
125	7	石鏃	1966/5/?	I	200	黒曜石	2.0	1.6	0.6	1.4	剥片		175	24
125	8	石鏃	1965/5/14	I	210	黒曜石	2.1	1.7	0.6	1.5	剥片		74	11
125	9	石鏃	1966/5/12	不明	不明	黒曜石	2.7	1.8	0.4	1.5	剥片		38	3
125	10	石鏃	1966/5/12	8号人骨下	211	黒曜石	1.6	1.9	0.2	0.4	剥片		36	479
125	11	石鏃	1966/5/?	II	219	黒曜石	2.0	1.4	0.3	0.6	剥片		10	2
125	12	石鏃	不明	I	220	黒曜石	2.1	1.5	0.3	0.5	剥片		167	502
125	13	石鏃	1966/5/14	II	220	黒曜石	1.5	1.4	0.3	0.6	剥片	原産地推定TH11-003	130	65
125	14	石鏃	1966/5/14	II	220	黒曜石	1.4	1.3	0.3	0.4	剥片	原産地推定TH11-004	131	66
125	15	石鏃	1966/5/15	II	220	黒曜石	1.3	1.3	0.3	0.4	剥片	原産地推定TH11-008	177	70
125	16	石鏃	1966/5/14	B溝	220	黒曜石	1.7	1.4	0.2	0.4	剥片		47	483
125	17	石鏃	1966/5/15	不明	220	黒曜石	1.7	1.4	0.4	0.4	剥片	原産地推定TH11-009	178	71
125	18	石鏃	1966/5/15	不明	220	黒曜石	1.9	1.7	0.2	0.5	板状原石	原産地推定TH11-010	180	72
125	19	石鏃	1966/5/15	不明	220	黒曜石	2.0	2.1	0.3	0.7	剥片	磨面	179	171
125	20	石鏃	1966/5/15	不明	220	黒曜石	1.6	1.4	0.1	0.2	剥片	磨面	181	504
125	21	石鏃	不明	不明	220	黒曜石	1.6	1.8	0.4	0.9	剥片		280	544
125	22	石鏃	1971/7/14	奥の院	230-240	黒曜石	1.5	1.0	0.3	0.3	剥片		291	547
125	23	石鏃	1966/5/16	I	230-240	黒曜石	2.4	1.9	0.2	0.5	剥片	磨面	97	165
125	24	石鏃	1966/5/16	II	230-240	黒曜石	1.8	1.4	0.2	0.4	剥片	原産地推定TH11-002	95	63
125	25	石鏃	1966/5/16	不明	235	黒曜石	2.1	1.6	0.4	1.3	剥片	原産地推定TH11-007	166	69
125	26	石鏃	1966/5/16	II	240	黒曜石	2.1	1.8	0.4	1.5	剥片		132	18
125	27	石鏃	1971/7/14	奥の院	250-260	黒曜石	1.3	1.7	0.2	0.4	剥片	磨面	287	545
125	28	石鏃	1971/7/15	奥の院	250-260	黒曜石	1.6	1.7	0.2	0.4	剥片	磨面	290	546
125	29	石鏃	1966/8/20	I 抔人骨	253-265	黒曜石	1.8	1.6	0.2	0.5	剥片		78	490
125	30	石鏃	1966/8/17	III-1	255-260	黒曜石	2.5	1.6	0.1	0.4	剥片		243	527
125	31	石鏃	1966/8/18	II	260-270	黒曜石	2.3	1.7	0.1	0.3	剥片		92	13
125	32	石鏃	1967/5/16	中央配石70下	270	黒曜石	1.2	1.4	0.2	0.3	剥片		169	23
126	1	石鏃	1971/7/15	奥の院	270-280	黒曜石	1.3	1.2	0.2	0.3	剥片		270	34
126	2	石鏃	1971/7/15	奥の院	270-280	黒曜石	1.9	1.3	0.2	0.4	剥片		269	536
126	3	石鏃	1966/8/18	II	270-280	黒曜石	2.2	1.8	0.4	0.9	剥片		19-1	155
126	4	石鏃	1966/8/18	II	270-280	黒曜石	2.2	1.6	0.4	1.0	剥片		19-2	478
126	5	石鏃	1966/8/18	III	270-280	黒曜石	2.2	1.5	0.4	0.8	剥片		20	156
126	6	石鏃	1966/8/18	II	280-290	黒曜石	1.4	1.3	0.3	0.5	板状原石		90	12
126	7	石鏃	1966/8/?	III-2	280-290	黒曜石	1.4	1.4	0.3	0.3	剥片		82	491
126	8	石鏃	不明	IV	290	黒曜石	1.4	2.0	0.1	0.4	剥片		101	166
126	9	石鏃	1971/7/15	奥の院	300-310	黒曜石	1.2	1.1	0.2	0.2	剥片		273	538
126	10	石鏃	1967/7/23	III-2	300-310	黒曜石	2.3	2.3	0.6	2.7	板状原石		193	27
126	11	石鏃	1967/7/23	III-2	300-310	黒曜石	1.5	1.3	0.1	0.3	剥片		195	507
126	12	石鏃	1967/7/23	III-2	300-310	黒曜石	1.4	1.7	0.2	0.3	剥片	磨面	197	508
126	13	石鏃	1967/7/23	III-2	300-310	黒曜石	1.1	1.3	0.3	0.3	剥片		261	531
126	14	石鏃	1967/4/23	II-1	310-320	黒曜石	2.2	1.7	0.4	1.3	剥片		6	475
126	15	石鏃	1967/7/23	II	320-330	黒曜石	1.5	1.5	0.4	0.5	剥片		12	150
126	16	石鏃	1967/7/23	III	320-330	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.3	剥片		259	530
126	17	石鏃	1967/4/24	II	325	黒曜石	1.6	1.3	0.2	0.3	剥片	磨面	71	162
126	18	石鏃	1967/7/24	IV	330-340	黒曜石	1.1	1.0	0.2	0.1	剥片		39	481
126	19	石鏃	1967/7/24	II-1	340-350	黒曜石	1.2	1.1	0.2	0.1	剥片		188	505
126	20	石鏃	1968/7/27	III-0	340-350	黒曜石	1.3	1.3	0.2	0.3	剥片		246	528
126	21	石鏃	1968/7/24	III-0	340-350	黒曜石	2.1	1.5	0.2	0.4	剥片		266	534
126	22	石鏃	1967/7/25	III-1	380	黒曜石	2.0	1.5	0.2	0.5	剥片		189	506
126	23	石鏃	1968/5/18	II-3	380-390	黒曜石	1.9	0.9	0.2	0.2	剥片		14	152
126	24	石鏃	1968/7/24	II-3	460	黒曜石・黒	1.7	1.3	0.5	0.8	自然面の残る剥片		267.2	33
126	25	石鏃	1968/5/19	II-2	410-420	黒曜石	1.6	1.2	0.3	0.4	自然面の残る剥片		113	16
126	26	石鏃	1968/5/19	II-2	410-420	黒曜石	1.1	0.9	0.2	0.2	剥片		114	493
126	27	石鏃	1968/5/20	II-2	435-440	黒曜石・黒	2.0	1.9	0.5	1.5	両極剥片		129	17
126	28	石鏃	1970/6/12	I-2	440-450	黒曜石	1.1	1.1	0.1	0.1	剥片		209	515
126	29	石鏃	1968/5/20	II-0	450-460	黒曜石	1.2	1.2	0.2	0.2	剥片		168	22
126	30	石鏃	1968/7/29	II-1	450-460	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.2	剥片		59	160
126	31	石鏃	1968/7/29	II-3	450-460	黒曜石	1.8	1.4	0.2	0.4	自然面の残る剥片		2	1
126	32	石鏃	1968/7/28	III-2	450-460	黒曜石	1.3	1.3	0.2	0.2	剥片		318	552
127	1	石鏃	1968/7/27	II-0	450-470	黒曜石・黒	1.3	1.3	0.2	0.3	剥片		43	5
127	2	石鏃	1968/7/27	II-0	450-470	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.3	剥片		44	6
127	3	石鏃	1968/7/27	II-0	450-470	黒曜石	1.2	1.4	0.2	0.3	剥片		45	T1
127	4	石鏃	1969/5/17	II-1	450-470	黒曜石	1.1	1.0	0.3	0.2	剥片		57	159
127	5	石鏃	1969/5/17	II-1	450-470	黒曜石	1.2	1.2	0.2	0.3	剥片		56	485
127	6	石鏃	1971/7/15	奥の院	460-470	黒曜石	1.3	1.1	0.2	0.2	剥片		272	35
127	7	石鏃	1968/7/29	II-0	460-470	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.4	自然面の残る剥片		147	21
127	8	石鏃	1968/7/29	II-0	460-470	黒曜石	1.4	1.3	0.2	0.3	剥片		145	500
127	9	石鏃	1968/7/29	II-0	460-470	黒曜石	1.3	1.3	0.3	0.4	剥片		146	501
127	10	石鏃	1969/5/17	II-1	460-470	黒曜石	1.8	1.4	0.2	0.4	剥片		54	484
127	11	石鏃	1968/7/12	III-2	460-470	黒曜石	1.6	1.0	0.2	0.2	剥片		143	498
127	12	石鏃	1968/7/12	III-2	460-470	黒曜石	1.3	1.3	0.2	0.2	剥片		144	499
127	13	石鏃	1969/5/18	III-1	465-480	黒曜石・黒	1.2	1.1	0.3	0.3	剥片		192	26
127	14	石鏃	1969/5/18	II-0	470-480	黒曜石	1.3	1.1	0.2	0.2	剥片		64	10

付表2 剥片石器観察表(1)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測 番号
127 15	石鏃	1967/5/17	II-2	470-480	黒曜石	1.4	1.2	0.3	0.4	剥片		65	486
127 16	石鏃	1967/5/17	II-2	470-480	黒曜石	1.5	1.4	0.3	0.4	剥片		66	487
127 17	石鏃	1967/5/17	II-2	470-480	黒曜石	1.4	1.3	0.4	0.4	剥片		67	488
127 18	石鏃	不明	II-3	470-480	黒曜石	0.8	1.2	0.2	0.2	剥片		218	30
127 19	石鏃	不明	II-3	470-480	黒曜石	1.2	1.4	0.2	0.2	剥片		219	519
127 20	石鏃	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	1.8	1.4	0.4	0.8	剥片		55	9
127 21	石鏃	1970/6/13	I 拵	470-480	黒曜石	1.0	1.0	0.2	0.1	剥片		201	511
127 22	石鏃	1971/7/13	I-3	475-485	黒曜石	1.4	1.3	0.3	0.4	剥片		267.1	535
127 23	石鏃	1970/10/19	III-0	480	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.4	剥片	原産地推定TH11-011	223	74
127 24	石鏃	1968/7/29	I-0	480-490	黒曜石	2.2	1.6	0.4	1.1	剥片	原産地推定TH11-005	141	67
127 25	石鏃	1968/7/29	I-0	480-490	黒曜石	1.5	1.3	0.2	0.2	剥片		135	496
127 26	石鏃	1968/7/29	I-0	480-490	黒曜石	1.8	1.3	0.5	0.6	剥片		142	497
127 27	石鏃	1969/5/18	III-0	480-490	黒曜石	1.3	1.3	0.2	0.3	剥片		53	158
127 28	石鏃	1969/5/19	III-1	480-490	黒曜石	1.8	1.7	0.6	1.8	板状原石		191	25
127 29	石鏃	1970/10/18	III-3	480-490	黒曜石	1.5	1.3	0.2	0.4	剥片	原産地推定TH11-012	229	76
127 30	石鏃	1968/7/29	I-0	485	黒曜石	1.0	1.3	0.2	0.2	剥片	原産地推定TH11-001	63	62
127 31	石鏃	1969/5/19	II-0	490-500	黒曜石	0.8	1.2	0.2	0.2	剥片	原産地推定TH11-006	164	68
127 32	石鏃	1969/5/19	II-0	490-500	黒曜石	1.2	1.2	0.2	0.2	剥片		163	169
128 1	石鏃	1970/6/14	II-1	490-500	黒曜石	1.3	1.0	0.1	0.2	剥片		304	40
128 2	石鏃	1970/6/14	II-1	490-500	黒曜石	1.3	1.4	0.2	0.3	剥片		208	514
128 3	石鏃	1970/6/13	II-1	490-500	黒曜石	1.6	1.3	0.3	0.3	剥片		210	516
128 4	石鏃	1970/6/14	II-2	490-500	黒曜石	1.6	1.7	0.3	0.5	剥片		199	509
128 5	石鏃	1970/6/14	II-2	490-500	黒曜石	1.4	1.2	0.3	0.3	剥片		200	510
128 6	石鏃	1970/6/12	III-0	490-500	黒曜石	1.1	1.1	0.4	0.4	剥片		237	32
128 7	石鏃	1970/6/12	III-0	490-500	黒曜石	1.6	1.4	0.3	0.4	剥片		308	551
128 8	石鏃	1970/6/14	I 拵	490-500	黒曜石	1.4	1.4	0.4	0.5	剥片		206	513
128 9	石鏃	1970/6/14	II-1	500-510	黒曜石	1.8	1.5	0.3	0.6	剥片		202	28
128 10	石鏃	1970/10/18	II-3	500-510	黒曜石	1.1	1.3	0.2	0.2	剥片		222	520
128 11	石鏃	1970/6/12	III-0	500-510	黒曜石	1.3	1.2	0.2	0.2	剥片		220	172
128 12	石鏃	不明	III-6?	500-510	黒曜石	1.1	1.1	0.2	0.2	剥片		216	517
128 13	石鏃	不明	III-6?	500-510	黒曜石	1.0	1.1	0.2	0.2	剥片		217	518
128 14	石鏃	1971/7/14	I 拵	500-510	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.4	剥片		289	38
128 15	石鏃	1971/7/13	I-2	520	黒曜石	1.6	1.5	0.5	1.0	剥片		284	37
128 16	石鏃	1971/7/13	II-0	520-530	黒曜石	1.5	1.7	0.1	0.2	剥片		271	537
128 17	石鏃	1970/10/20	II-2	520-530	黒曜石	1.5	1.4	0.4	0.5	剥片		231	525
128 18	石鏃	1970/10/20	II-2	520-530	黒曜石	1.3	0.9	0.2	0.2	剥片		232	526
128 19	石鏃	1970/10/20	II-3	520-530	黒曜石	0.7	1.1	0.2	0.1	剥片		233	173
128 20	石鏃	1970/10/19	III-3	520-530	黒曜石	1.5	1.1	0.2	0.2	剥片		230	524
128 21	石鏃	1971/7/13	II-1	530(砂層直上)	黒曜石	1.5	1.6	0.2	0.4	剥片		268	174
128 22	石鏃	1969/4/24	III-3	フルイ	黒曜石	2.0	1.7	0.2	0.6	剥片		41	4
128 23	石鏃	1971/7/15	奥の院	不明	黒曜石	2.1	1.7	0.6	1.8	剥片		300	39
128 24	石鏃	1967/5/16	II	不明	黒曜石	2.1	1.9	0.3	0.7	剥片		137	19
128 25	石鏃	1967/5/16	II	不明	黒曜石	1.5	1.8	0.2	0.3	剥片		138	20
128 26	石鏃	1966/5/16	不明	不明	黒曜石	2.1	2.1	0.4	1.3	剥片		104	15
128 27	石鏃	1967/4/22	I-拵	不明	黒曜石	2.0	1.4	0.3	0.6	剥片		102	638
128 28	石鏃	不明	不明	不明	黒曜石	2.0	2.1	0.2	0.6	剥片	磨面	20309	640
129 1	石鏃	1965/12/15	褐色	73	水晶	3.3	2.2	0.7	4.4	剥片		263	533
129 2	石鏃	1966/5/15	不明	80	チャート	1.9	1.4	0.4	0.7	剥片		85	492
129 3	石鏃	不明	不明	125	チャート	1.5	1.4	0.3	0.4	剥片		73	489
129 4	石鏃	1965/12/16	不明	145	チャート	2.7	1.6	0.4	1.0	剥片		274	539
129 5	石鏃	不明	1号人骨	160	チャート	2.1	1.6	0.4	0.9	剥片		275	36
129 6	石鏃	不明	1号人骨	160	チャート	1.9	1.6	0.5	1.0	剥片		276	540
129 7	石鏃	1966/2/4	I	173	チャート	2.3	1.7	0.3	0.6	剥片		18	154
129 8	石鏃	1965/5/13	I	175	チャート	2.0	1.7	0.3	0.7	剥片		75	163
129 9	石鏃	1965/12/18	2号人骨下	190	チャート	1.9	1.8	0.3	0.9	剥片		258	529
129 10	石鏃	1966/12/?	No7伴出	200	チャート	1.5	1.4	0.4	0.6	剥片		127	494
129 11	石鏃	1966/5/12	8号人骨下	211	チャート	1.1	1.4	0.2	0.2	剥片		37	480
129 12	石鏃	1966/5/14	不明	220	チャート	2.1	1.7	0.4	1.2	剥片		46	157
129 13	石鏃	1966/5/16	II	230-240	チャート	1.1	1.2	0.3	0.4	剥片		94	14
129 14	石鏃	1969/4/2	I-1	274-284	チャート・赤	1.1	1.3	0.2	0.1	剥片		165	170
129 15	石鏃	1967/4/23	III-2	300-310	チャート	0.9	1.3	0.2	0.2	剥片	磨面	16	153
129 16	石鏃	1967/7/23	III-2	300-310	チャート	0.9	1.2	0.1	0.1	剥片	磨面	262	532
129 17	石鏃	1967/4/24	II	325	チャート	1.3	1.7	0.2	0.4	剥片		70	161
129 18	石鏃	1968/5/20	II-2	340	チャート	1.6	1.2	0.2	0.4	剥片		9	476
129 19	石鏃	1968/5/18	III-3	380-390	チャート	1.5	1.4	0.3	0.4	剥片		277	541
129 20	石鏃	1968/5/19	II-2	410-420	チャート	1.5	1.8	0.3	0.5	剥片		112	168
129 21	石鏃	1970/6/13	I-1	440-450	チャート	1.8	1.4	0.3	0.8	剥片		204	512
129 22	石鏃	1968/7/27	II-0	450-470	チャート	4.8	1.4	0.3	0.8	剥片		42	482
129 23	石鏃	1969/5/19	II-0	470-480	チャート	1.0	1.1	0.2	0.1	剥片		3	149
129 24	石鏃	1970/6/13	II-1	470-480	チャート	1.2	1.2	2.0	0.2	剥片		235	31
129 25	石鏃	1970/6/11	II-1	480-490	チャート・茶	1.7	1.2	0.2	0.4	剥片		203	29
129 26	石鏃	1970/10/17	II-3	488	チャート	1.0	0.9	0.2	0.1	剥片		227	523
129 27	石鏃	1970/10/?	II断面	500-510	チャート	1.7	1.3	0.4	0.7	剥片		224	521
128 28	石鏃	1970/?/19	II-1	520-530	チャート	1.9	1.6	0.3	0.5	剥片		226	522
129 29	石鏃	1970/10/?	II-1	530	頁岩	1.5	1.2	0.2	0.3	剥片		301	550
129 30	石鏃	1968/5/?	不明	不明	チャート	2.2	1.0	0.4	0.8	剥片		128	495
129 31	石鏃	不明	III	不明	チャート	1.3	1.5	0.2	0.2	剥片		76	639
129 32	石鏃	1966/5/12	崩れ	不明	水晶	3.0	2.1	0.8	4.2	自然面		174	503

付表2 剥片石器観察表(2)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測 番号
130	1	1965/12/16	不明	60	黒曜石	1.6	1.7	0.7	2.2	剥片		40	T24
130	2	1966/5/16	II?壁際	264	黒曜石	1.4	1.6	0.3	0.9	自然面の残る剥片		271.2	561
130	3	1967/7/23	II	320-330	黒曜石	2.6	2.2	0.8	4.3	自然面の残る剥片		2273	130-3
130	4	1968/7/27	II-3	420-430	黒曜石	2.2	1.4	0.6	1.4	自然面の残る剥片		2387.1	T15
130	5	1968/7/28	I-1	423	黒曜石	2.4	2.1	1.1	5.7	自然面の残る剥片		1330	587
130	6	1968/7/28	II-2	430-440	黒曜石	2.4	2.0	0.8	3.4	原石		Y1	T21
130	7	1968/7/27	II-3	430-440	黒曜石	2.2	1.6	0.7	2.0	剥片		2274	590
130	8	1968/7/27	II-3	430-440	黒曜石	2.5	2.6	1.1	8.9	原石		2214	130-8
130	9	1968/5/19	III-1	430-440	黒曜石	2.3	1.5	0.9	2.9	自然面の残る剥片		3316	596
130	10	1968/7/27	III-3	430-440	黒曜石	1.9	2.3	0.8	2.3	剥片		3149.1	T35
130	11	1968/7/28	III-1	440-450	黒曜石	1.6	1.7	0.7	2.5	両極剥片		b.7.6.6	415
130	12	1968/7/28	II-3	450-460	黒曜石	3.0	2.9	1.8	10.2	自然面の残る剥片		2426	T11
130	13	1968/7/29	III-1	450-460	黒曜石	1.7	1.6	0.9	1.9	両極		3138	592
130	14	1968/7/27	I-0	458-470	黒曜石	1.3	1.1	0.4	0.6	剥片	小型	1231	130-14
130	15	1968/5/20	I-0	460	黒曜石	2.6	2.7	0.8	5.4	自然面の残る剥片		1229	T25
130	16	1968/7/29	III-1	460-470	黒曜石	2.1	1.4	0.7	1.5	剥片		Y2	114
130	17	1968/7/28	III-2	460-470	黒曜石	2.2	1.8	0.6	2.2	剥片		3131.1	130-17
130	18	1968/7/28	III-2	460-470	黒曜石	3.1	3.0	1.0	9.4	自然面の残る剥片		3131	322
131	1	1968/7/28	III-2	460-470	黒曜石	2.2	2.3	0.6	4.3	原石		3150.2	T14
131	2	1968/7/23	III-2	460-470	黒曜石	2.8	2.0	0.9	5.2	自然面の残る剥片		3323	T16
131	3	1971/7/15	奥の院	460-470	黒曜石	2.5	1.8	0.5	2.6	自然面の残る剥片		3353	357
131	4	1969/5/10	III-0	465-480	黒曜石	2.8	2.0	0.8	4.2	自然面の残る剥片		3198	326
131	5	1971/7/13	II-3	470	黒曜石	2.1	2.6	0.9	4.3	両極剥片		1364	131-5
131	6	1971/7/31	II-3	470	黒曜石	2.2	2.3	0.5	2.7	剥片		1363	131-6
131	7	1968/7/28	III-2	470	黒曜石	2.1	1.6	0.5	1.6	原石		3325	T19
131	8	1968/7/30	II-0	470-480	黒曜石	2.7	1.7	0.7	2.9	剥片		2213	350
131	9	1969/5/18	II-0	470-480	黒曜石	1.7	2.0	0.6	2.4	両極剥片	使用痕	2204	131-9
131	10	1970/6/12	II-1	470-480	黒曜石	2.7	1.6	0.9	4.1	両極剥片		2391	131-10
131	11	1969/5/17	II-2	470-480	黒曜石	1.8	1.7	0.6	1.9	自然面の残る剥片		2203	589
131	12	1969/5/17	II-3	470-480	黒曜石	2.3	2.2	0.6	2.7	剥片		2208	84
131	13	1969/5/16	III-0	470-480	黒曜石	2.5	2.0	0.6	3.0	自然面の残る剥片		3119	352
131	14	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	2.4	1.7	0.8		自然面の残る剥片		3133.2	354
131	15	不明	III-3	470-480	黒曜石	2.7	2.4	0.7	5.2	原石		3284	355
131	16	不明	III-3	470-480	黒曜石	2.1	1.9	0.9	2.7	自然面の残る剥片		3285	595
131	17	1971/7/15	奥の院	470-480	黒曜石	3.0	2.4	1.1	9.0	原石		3362	358
131	18	1969/5/18	II-0	470-480	黒曜石	2.3	1.4	0.4	1.7	原石		2278	T29
132	1	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	2.3	1.7	0.9	3.3	両極剥片?		b.8.15.7	343
132	2	不明	III-3	470-480	黒曜石	2.3	2.8	1.2	7.9	自然面の残る剥片		3283	222
132	3	1969/5/17	II-3	470-480	黒曜石	2.4	2.0	1.0	6.5	自然面の残る剥片		b.8.12.5	427
132	4	1970/10/18	III-3	480	黒曜石	1.6	2.4	0.6	2.7	自然面の残る剥片		3346	331
132	5	1968/7/28	不明	480	黒曜石	2.2	2.6	1.1	5.0	剥片		1230	T9
132	6	1969/5/17	III-2	480	チャート	2.7	2.2	1.3	6.3	剥片		3148.1	98
132	7	1969/5/17	III-2	480	黒曜石	3.0	2.8	1.2	10.0	自然面の残る剥片	原産地推定THI1-027	3148.2	T17
132	8	1968/7/30	III-0	480	黒曜石	2.3	2.0	1.0	4.7	原石		3118	132-8
132	9	1969/6/13	II-2	480-490	黒曜石	2.5	2.6	0.9	4.7	自然面の残る剥片	原産地推定THI1-020	2393	91
132	10	1969/6/14	II-1	480-490	黒曜石	2.3	1.9	0.9	2.6	両極剥片	原産地推定THI1-016	2205	83
132	11	1969/6/14	II-1	480-490	黒曜石	2.8	1.7	0.6	2.5	剥片	原産地推定THI1-018	2376	88
132	12	1968/5/19	III-1	480-490	黒曜石	2.9	1.8	0.9	3.8	自然面の残る剥片	原産地推定THI1-024	3126	219
132	13	1970/6/14	II-2	490-500	黒曜石	2.4	2.0	0.5	2.3	両極剥片?		Y3	115
132	14	1970/6/14	II-2	490-500	黒曜石	2.1	1.5	0.7	1.9	自然面の残る剥片	原産地推定THI1-019	2379	132-14
132	15	68.613	III-1	490-500	黒曜石	2.8	2.2	0.6	3.2	原石	原産地推定THI1-028	3174	100
132	16	1970/6/13	III-1	490-500	黒曜石	2.4	2.0	0.8	5.1	剥片		3163	132-16
132	17	1969/5/18	III-3	490-500	黒曜石	1.6	1.6	0.5	1.5	自然面の残る剥片	小型	3117	132-17
132	18	1969/5/18	III-3	490-500	黒曜石	2.5	2.2	0.6	3.5	原石	原産地推定THI1-023	3115	T12
132	19	1969/6/13	III-1	490-500	黒曜石	2.4	2.2	1.0	4.7	両極剥片	原産地推定THI1-031	3277	T18
132	20	1969/6/14	II	500-510	チャート	2.7	2.3	1.0	6.6	両極剥片		2388	89
133	1	1969/6/14	II-1	500-510	黒曜石	2.2	2.1	0.8	3.4	自然面の残る剥片		2375	591
133	2	不明	II-3	500-510	黒曜石	2.3	2.1	0.5	2.1	自然面の残る剥片		b.10.10.4	348
133	3	1969/6/12	III-0	500-510	黒曜石	2.0	1.6	0.7	2.1	両極剥片		3191	594
133	4	1969/6/12	III-0	500-510	黒曜石	1.5	1.8	0.7	2.1	両極剥片		3189	133-4
133	5	1970/10/20	IV-1	500-510	黒曜石	3.0	2.2	1.8	3.8	原石		430	133-5
133	6	1970/6/12	III-0	500-510	黒曜石	2.1	2.3	1.1	4.7	両極剥片		3165	133-6
133	7	1971/7/12	I	510-520	黒曜石	1.7	1.8	0.7	2.4	自然面の残る剥片		b.11.17.7	334
133	8	1970/10/18	II-1	510-520	黒曜石	1.8	1.9	0.7	2.7	両極剥片		2409	351
133	9	1970/10/20	III-1	510-520	黒曜石	2.3	2.8	1.4	8.8	自然面の残る剥片		3288	356
133	10	1969/6/14	III-2	510-520	黒曜石	1.6	1.5	0.6	1.7	原石		3183	593
133	11	1971/7/15	奥の院	510-520	黒曜石	3.3	2.8	0.9	10.1	自然面の残る剥片	大型	3359	T41
133	12	1971/7/12	I	510-530	黒曜石	3.1	2.2	0.8	4.5	自然面の残る剥片		1341	349
133	13	1971/7/?	I-2	520	黒曜石	2.3	1.9	0.9	3.5	自然面の残る剥片		b.11.12.8	T57
133	14	1970/6/14	III-1	520-530	黒曜石	2.4	1.8	0.7	3.0	剥片		3178	101
133	15	不明	不明	520-530	黒曜石	2.2	1.9	0.7	3.4	自然面の残る剥片		1334	588
133	16	1970/10/20	II-1	535	黒曜石	2.4	1.8	0.6	2.8	剥片		2414	133-16
133	17	1970/10/21	IV-1	550-560	黒曜石	2.3	1.7	0.5	2.2	両極剥片		428	307
133	18	不明	崩れ	不明	黒曜石	1.9	1.7	0.6	1.8	自然面の残る剥片		113	586
134	1	1968/7/28	III-3	440-450	黒曜石	3.3	1.0	0.3	1.0	自然面の残る剥片		3128	T5
134	2	1968/7/27	I-0	458-470	黒曜石	2.4	1.3	0.4	0.8	剥片		1198	134-2
134	3	1970/10/19	III-0	520-530	黒曜石	5.3	2.5	0.6	8.6	原石		3287	T7
134	4	1969/5/16	II-1	450-460	黒曜石	2.8	2.0	0.6	1.9	原石		2264	28

付表2 剥片石器観察表(3)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測番号	
134	5	石鏝	1970/6/14	II-0	490-500	黒曜石	3.6	2.9	1.0	7.9	剥片		2378	134-5
134	6	石鏝?	1968/5/17	II-3	360-380	黒曜石	4.2	2.8	0.8	5.7	自然面の残る剥片		2255	632
134	7	縦長両面加工石鏝	1967/7/25	II	360-370	チャート	4.5	1.7	0.8	6.5	剥片		2147	185
134	8	縦長両面加工石鏝	1970/6/13	II-2	490-500	黒曜石	4.8	1.6	0.5	4.9	自然面の残る剥片		20513	T8
134	9	縦長両面加工石鏝	1970/10/20	I 掘-0	520	チャート	5.2	1.9	0.7	6.0	原石		1241	183
134	10	縦長両面加工石鏝	1970/10/18	II-2	530-540	黒曜石	5.1	1.9	0.8	7.9	原石		2423	T4
135	1	二次加工のある剥片	不明	II 壁側	85	黒曜石	2.6	2.5	1.1	4.1	自然面の残る剥片		a.0.19.1	417
135	2	二次加工のある剥片	?/5/13	II	207	黒曜石	3.0	8.1	1.2	8.6	自然面の残る剥片		a.0.37.6	439
135	3	スクレイパー	1966/5/14	II	219	黒曜石	3.3	2.2	0.9	4.6	両極剥片		225	75
135	4	スクレイパー	1966/5/14	II	219	黒曜石	2.6	2.5	1.1	5.3	自然面の残る剥片		a.2.3.11	422
135	5	スクレイパー	不明	I	220	黒曜石	2.7	1.6	0.7	1.7	剥片	原産地推定TH11-039	a.0.14.33	238
135	6	スクレイパー	1966/5/14	II	220	黒曜石	2.7	1.6	0.7	2.5	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-017	2266	86
135	7	スクレイパー	?/5/14	II	220	黒曜石	2.1	1.1	0.3	0.5	剥片	原産地推定TH11-043	a.0.16.11	229
135	8	スクレイパー	?/5/14	II	220	黒曜石	3.9	3.6	1.2	11.2	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-053	a.0.16.20	232
135	9	スクレイパー	不明	II	220	黒曜石	1.6	2.4	0.8	2.8	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-085	a.0.24.13	279
135	10	スクレイパー	不明	II	220	黒曜石	2.4	1.8	0.9	4.2	両極剥片?	原産地推定TH11-090	a.0.24.27	281
135	11	二次加工のある剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	3.5	3.1	0.9	5.7	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-044	a.0.16.12	230
135	12	二次加工のある剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.9	2.4	1.3	3.9	両極剥片	原産地推定TH11-045	a.0.16.13	231
135	13	二次加工のある剥片	?/5/15	II	220	黒曜石	2.1	2.5	1.4	5.4	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-088	a.0.24.22	233
135	14	二次加工のある剥片	?/5/15	II	220	黒曜石	2.2	2.1	0.8	3.9	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-084	a.0.24.12	278
135	15	二次加工のある剥片	?/5/15	II	220	黒曜石	2.3	2.4	1.1	4.5	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-089	a.0.24.24	280
135	16	二次加工のある剥片	?/5/15	II	220	黒曜石	2.0	2.5	0.4	2.4	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-091	a.0.24.33	282
135	17	二次加工のある剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	3.8	2.9	1.0	10.6	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-050	a.0.16.18	136
135	18	二次加工のある剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	3.2	2.3	0.6	0.3	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-052	a.0.16.2	138
135	19	二次加工のある剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	0.9	1.7	0.3	0.4	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-058	a.0.16.25	258
135	20	二次加工のある剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.8	1.9	0.4	1.1	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-076	a.0.16.43	273
136	1	スクレイパー	1966/8/17	III-1	224-229	黒曜石	2.5	2.2	0.8	3.5	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-123	a.3.4.21	245
136	2	スクレイパー	1966/8/17	III-1	224-229	黒曜石	2.9	1.5	0.5	2.1	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-125	a.3.5.10	246
136	3	二次加工のある剥片	?/8/16	III	226	黒曜石	2.1	4.9	0.9	7.0	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-095	a.0.41.1	235
136	4	スクレイパー	1966/8/16	III	226	黒曜石	3.0	3.5	0.7	6.2	剥片	原産地推定TH11-025	3136.1	96
136	5	スクレイパー	1966/8/16	III	226	黒曜石	2.5	2.6	0.7	3.8	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-026	3136.2	220
136	6	スクレイパー	1966/5/?	II	228	黒曜石	1.6	1.8	0.7	1.8	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-106	a.2.4.8	239
136	7	スクレイパー	1966/5/?	II	228	黒曜石	1.8	0.4	1.0	2.9	剥片	原産地推定TH11-102	a.2.4.22	241
136	8	二次加工のある剥片	1966/5/?	II	228	黒曜石	1.9	2.3	0.9	3.0	剥片	原産地推定TH11-104	a.2.4.32	125
136	9	二次加工のある剥片	?/5/14	II	230	黒曜石	1.9	3.0	0.9	2.4	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-098	a.0.42.15	237
136	10	二次加工のある剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	2.3	1.9	0.4	1.4	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-114	a.2.6.37	127
136	11	二次加工のある剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	2.5	1.8	0.8	2.7	剥片	原産地推定TH11-121	a.2.7.1	243
136	12	二次加工のある剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	2.7	1.8	0.6	2.5	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-122	a.2.7.3	244
136	13	二次加工のある剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	2.9	3.2	0.9	6.5	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-111	a.2.6.23	286
136	14	二次加工のある剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	1.8	1.4	0.5	1.1	剥片	原産地推定TH11-113	a.2.6.36	288
136	15	二次加工のある剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	2.4	1.9	0.4	0.9	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-115	a.2.6.45	289
136	16	二次加工のある剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	1.9	1.1	0.3	0.4	剥片	原産地推定TH11-118・両極か?	a.2.6.54	291
136	17	スクレイパー	1966/5/16	I	235	黒曜石	2.6	2.1	0.7	3.2	両極剥片?		186	73
136	18	二次加工のある剥片	不明	I	240	黒曜石	4.2	2.7	0.8	7.5	自然面の残る剥片		a.0.18.6	438
136	19	スクレイパー	1966/5/16	II	240	黒曜石	2.2	2.3	0.5	2.7	自然面の残る剥片		2228.1	615
136	20	二次加工のある剥片	1968/5/16	II	240	黒曜石	2.3	1.2	0.4	1.2	自然面の残る剥片		2228.2	616
137	1	スクレイパー	1966/8/17	III-1	240	黒曜石	3.6	3.0	0.7	5.0	剥片		3315	628
137	2	二次加工のある剥片	1966/8/17	III-1	240	黒曜石	5.1	1.6	0.7	5.8	自然面の残る剥片		3314	577
137	3	二次加工のある剥片	1966/5/17	I	250	黒曜石	3.5	2.8	0.8	6.2	剥片		192	179
137	4	スクレイパー	1966/8/17	III-1	250-255	黒曜石	2.2	4.4	0.9	7.3	自然面の残る剥片		3125	576
137	5	スクレイパー	1966/5/16	II	259	黒曜石	7.9	3.4	0.9	34.4	剥片		257	180
137	6	二次加工のある剥片	1968/8/18	II	260-270	黒曜石	3.2	1.6	0.5	1.9	自然面の残る剥片		2244	618
137	7	スクレイパー	1966/8/18	III	260-270	黒曜石	2.4	1.8	0.6	2.7	剥片		3318	328
137	8	二次加工のある剥片	1966/8/18	III	260-270	黒曜石	3.4	1.8	0.5	2.6	自然面の残る剥片		a.3.13.25	443
137	9	二次加工のある剥片	1966/8/18	III	260-270	黒曜石	3.7	3.4	1.1	9.5	自然面の残る剥片		a.3.13.33	444
137	10	スクレイパー	1971/7/15	奥の院	260-270	黒曜石	3.3	2.6	0.9	6.3	自然面の残る剥片		a.11.1.3	474
137	11	二次加工のある剥片	1966/8/19	II	270-280	黒曜石	3.3	3.0	0.8	8.8	原石		2431	T32
137	12	スクレイパー	?/8/19	IIIフルイ	280-290	黒曜石	2.3	2.0	0.5	1.6	自然面の残る剥片		a.0.36.32	420
137	13	スクレイパー	1971/7/15	奥の院	300-310	黒曜石	2.3	1.4	0.9	2.7	両極剥片	多方向両極か	3354	210
137	14	スクレイパー	1967/4/23	III-1	310-320	黒曜石	2.0	2.8	0.6	5.4	自然面の残る剥片		3335	T49
138	1	スクレイパー	1967/7/23	II	320-330	黒曜石	1.1	1.9	0.5	1.1	剥片		2432	575
138	2	スクレイパー	1967/4/23	II-2	320-330	黒曜石	2.5	3.0	0.8	5.5	剥片	両極剥片かも	2224	614
138	3	スクレイパー	1967/4/23	III-2	320-330	黒曜石	2.9	4.5	1.0	16.2	自然面の残る剥片		3334	578
138	4	スクレイパー	1968	III-2	332	黒曜石	4.3	1.3	0.6	3.1	自然面の残る剥片		3141	199
138	5	スクレイパー	1967/7/23	II	330-340	黒曜石	3.5	1.9	0.7	3.5	自然面の残る剥片		2148	567
138	6	スクレイパー	1971/7/15	奥の院	330-340	黒曜石	1.6	2.3	0.6	2.1	両極剥片		3356	211
138	7	スクレイパー	1967/7/25	III	375	黒曜石	6.0	1.8	0.7	6.5	自然面の残る剥片		3137	T6
138	8	スクレイパー	1968/7/26	III-3	385	黒曜石	2.6	3.5	0.7	5.6	自然面の残る剥片		3146	T46
138	9	スクレイパー	1969/7/26	II-3	385-390	黒曜石	3.8	1.3	0.6	2.3	原石		2252	620
138	10	二次加工のある剥片	1968/7/26	II 奥	390	黒曜石	1.8	3.3	0.5	2.9	自然面の残る剥片		2211	568
138	11	二次加工のある剥片	1968/7/27	I-3	390-400	黒曜石	3.6	3.1	1.4	15.0	両極剥片		a.7.7.9	T43
138	12	スクレイパー	1968/7/26	II-3	390-400	黒曜石	3.5	2.3	0.6	4.7	自然面の残る剥片		2209	314
138	13	二次加工のある剥片	1968/7/26	II-3	390-400	黒曜石	3.8	1.4	0.5	2.2	自然面の残る剥片		2209.2	609
138	14	スクレイパー	1967/7/26	III	390-400	黒曜石	3.0	2.4	0.7	4.9	自然面の残る剥片		3338	330
138	15	スクレイパー	1967/7/26	III-2	390-400	黒曜石	3.6	2.5	0.8	8.2	自然面の残る剥片		3145	97
138	16	スクレイパー	1968/7/26	II 奥	390-400	黒曜石	6.3	3.1	1.1	16.1	原石		2215	187
138	17	スクレイパー	1968/5/18	II-2	400-410	黒曜石	2.3	2.0	0.7	3.1	両極剥片		2216	T10
139	1	スクレイパー	1968/5/18	II-2	410	黒曜石	3.5	2.2	1.0	7.0	自然面の残る剥片		2107	T20

付表2 剥片石器観察表 (4)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測番号	
139	2	スクレイパー	1968/7/26	II-3	410-420	黒曜石	4.5	3.2	0.7	6.7	自然面の残る剥片		2218	188
139	3	スクレイパー	1968/5/19	II-2	415	黒曜石	2.1	2.9	0.6	3.0	自然面の残る剥片		2226	569
139	4	スクレイパー	1968/5/20	II-2	420-430	黒曜石	3.7	1.2	0.9	3.1	自然面の残る剥片		2246	T27
139	5	スクレイパー	1968/7/27	II-3	420-430	黒曜石	1.7	2.3	0.4	1.3	剥片		2395	319
139	6	スクレイパー	1968/5/19	III-1	420-430	黒曜石	3.2	2.1	0.6	2.8	剥片		b.6.3.1	T50
139	7	スクレイパー	1968/7/27	II-3	430	黒曜石	6.4	2.2	0.6	9.8	原石		2220.2	189
139	8	スクレイパー?	1968/5/20	II-0	430-440	黒曜石	3.3	2.3	0.9	4.0	原石		b.6.19.5	341
139	9	スクレイパー	1968/5/20	II-2	430-440	黒曜石	3.5	2.2	1.1	8.1	両極剥片	多方向両極か	2272	571
139	10	スクレイパー	1968/5/20	II-2	430-440	黒曜石	2.8	1.7	0.5	2.2	剥片		b.6.14.2	340
139	11	スクレイパー	不明	II-3	430-440	黒曜石	1.9	2.8	0.9	2.7	自然面の残る剥片		b.7.7.4	449
139	12	スクレイパー	1968/7/27	III-0	430-440	黒曜石	4.2	1.8	0.4	3.4	原石		3147.1	T33
139	13	スクレイパー	1968/5/20	III-2	430-440	黒曜石	3.3	1.4	0.9	3.5	自然面の残る剥片		b.2.1.1	426
139	14	スクレイパー	1971/7/15	奥の院	430-440	黒曜石	3.1	1.5	0.7	2.1	剥片		b.11.7.4	336
139	15	スクレイパー	1971/7/15	奥の院	430-440	黒曜石	4.1	2.2	1.8	6.6	剥片		3360	579
139	16	スクレイパー	1968/7/27	II-3	440	黒曜石	2.9	1.8	0.5	4.3	原石		2389	90
140	1	スクレイパー	1968/7/29	II-1	440-450	黒曜石	3.6	1.4	0.5	2.2	原石		2238	140-1
140	2	二次加工のある剥片	1968/7/28	II-2	440-450	黒曜石	4.8	1.5	0.5	4.8	自然面の残る剥片		2254	191
140	3	二次加工のある剥片	不明	III-0	440-450	黒曜石	5.1	2.9	0.9	11.6	原石		b.7.12.1	451
140	4	スクレイパー	1968/7/28	III-1	440-450	黒曜石	1.5	1.8	0.4	1.4	原石		b.7.6.7	416
140	5	スクレイパー	1968/7/28	III-1	440-450	黒曜石	2.9	3.9	1.1	10.6	剥片		3123	T13
140	6	スクレイパー	1968/8/28	III-2	440-450	黒曜石	3.7	1.4	0.6	2.4	原石		3327	140-6
140	7	スクレイパー	1968/7/28	III-2	440-450	黒曜石	1.9	3.2	0.6	4.8	剥片		3124	95
140	8	スクレイパー	1968/7/28	III-2	440-450	黒曜石	3.3	2.2	0.4	3.0	剥片		3320	329
140	9	二次加工のある剥片	1968/7/29	III-3	440-450	黒曜石	4.0	1.8	0.7	4.7	両極剥片		3322	140-9
140	10	スクレイパー	1968/5/20	I-0	450	黒曜石	1.6	2.0	1.0	2.7	剥片	多方向両極か	b.6.6.5	434
140	11	二次加工のある剥片	1968/5/20	I-0	450	黒曜石	1.5	1.8	0.4	1.2	自然面の残る剥片	両極剥片かも	b.6.6.29	435
140	12	スクレイパー	不明	II-0	455	黒曜石	2.8	1.6	0.6	2.4	原石		b.6.12.7	339
140	13	二次加工のある剥片	1968/5/20	II-0	455	黒曜石	2.7	1.4	0.7	3.4	自然面の残る剥片		b.6.5.1	450
140	14	スクレイパー	1969/5/16	II-1	450-460	黒曜石	3.0	1.5	0.7	2.5	剥片		2399	194
140	15	スクレイパー	1969/5/16	III-1	450-460	黒曜石	3.3	1.5	0.8	3.3	剥片		3143.1	324
140	16	二次加工のある剥片	1971/7/15	奥の院	450-460	黒曜石	2.9	1.4	0.7	2.8	自然面の残る剥片		b.11.10.3	447
141	1	二次加工のある剥片	1971/7/15	奥の院	450-460	黒曜石	4.0	1.2	0.5	2.1	自然面の残る剥片	わずかな二次加工	b.11.10.6	448
141	2	スクレイパー	1968/7/29	II-2	450-480	黒曜石	3.4	1.8	0.9	4.3	原石		2227	190
141	3	スクレイパー	1968/7/29	II-2	455-460	黒曜石	3.6	1.7	0.5	2.6	自然面の残る剥片		2241	617
141	4	スクレイパー	1968/7/27	II-0	458-470	黒曜石	3.3	3.0	1.0	8.0	自然面の残る剥片		2206	313
141	5	スクレイパー	1968/5/20	I-0	460	黒曜石	3.2	1.5	1.0	4.6	原石		1234.1	309
141	6	スクレイパー	1968/5/20	I-0	460	黒曜石	3.0	1.7	0.8	3.2	両極剥片		1234.2	310
141	7	スクレイパー	1968/7/29	II-2	460-470	黒曜石	2.6	2.5	0.8	6.8	自然面の残る剥片		2230.1	217
141	8	スクレイパー	1970/10/17	II-3	460-470	黒曜石	3.0	1.7	0.8	3.7	両極剥片?		2265	318
141	9	スクレイパー	1970/10/17	II-3	460-470	黒曜石	3.1	1.8	0.7	2.8	自然面の残る剥片		2417	624
141	10	スクレイパー	1968/7/28	III-2	460-470	黒曜石	2.6	3.3	1.7	7.1	自然面の残る剥片		3131.2	353
141	11	スクレイパー	1969/5/16	III-0	460-485	黒曜石	2.7	3.6	0.5	5.1	剥片		3132	198
141	12	スクレイパー	1968/7/29	II-3	465	黒曜石	2.4	2.9	0.7	4.3	剥片		2212	610
141	13	スクレイパー	1969/5/10	III-0	465-480	黒曜石	4.9	1.4	1.0	5.4	自然面の残る剥片		3196	T38
141	14	スクレイパー	1969/5/10	III-0	465-480	黒曜石	3.1	1.3	1.1	3.3	両極剥片		3197	141-14
141	15	スクレイパー	1969/5/10	III-0	465-480	黒曜石	3.0	3.5	0.8	7.0	自然面の残る剥片		3330	T48
141	16	二次加工のある剥片	1969/5/18	III-0	465-480	黒曜石	6.0	1.8	0.8	6.0	剥片		3195	203
141	17	スクレイパー	1971/7/13	I-3	470	黒曜石	2.6	2.0	0.6	3.8	剥片?		1362	81
141	18	スクレイパー	1968/7/28	I-0	470-480	黒曜石	1.4	2.5	0.5	1.4	剥片		b.7.9.5	342
142	1	スクレイパー	1970/6/13	I-2	470-480	黒曜石	1.7	2.0	0.6	3.2	剥片		b.9.17.2	142-1
142	2	スクレイパー	1969/5/18	II-2	470-480	黒曜石	3.4	2.6	0.6	5.6	自然面の残る剥片		2260	316
142	3	スクレイパー	1969/5/18	II-2	470-480	黒曜石	2.1	2.7	0.6	2.6	自然面の残る剥片		2261	317
142	4	二次加工のある剥片	1970/6/13	II-2	470-480	黒曜石	3.0	3.3	0.5	3.2	原石		2374	471
142	5	スクレイパー	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	3.1	1.8	0.5	3.1	原石		3140.1	142-5
142	6	スクレイパー	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	3.2	1.8	0.9	4.2	自然面の残る剥片		3133	142-6
142	7	スクレイパー	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	2.6	1.8	0.9	4.4	原石		3140.2	323
142	8	スクレイパー	1970/6/13	I 拡-1	470-480	黒曜石	2.7	1.2	0.7	2.7	自然面の残る剥片		1331	78
142	9	スクレイパー	1971/7/15	奥の院	470-480	黒曜石	2.1	1.8	0.7	2.7	両極剥片		b.11.4.3	335
142	10	スクレイパー	1971/7/14	I-3	470-490	黒曜石	3.0	1.9	0.9	5.1	両極剥片		b.11.9.2	456
142	11	スクレイパー	1971/7/13	I-3	475-485	黒曜石	4.0	1.8	0.7	4.5	剥片		1358	80
142	12	スクレイパー	1969/5/17	III-2	480	黒曜石	3.7	2.1	0.8	4.9	自然面の残る剥片		3148.3	T34
142	13	スクレイパー	1968/7/28	I 拡-0	480	黒曜石	2.3	1.8	0.5	1.8	原石	原産地推定TH11-014	1237.1	216
142	14	スクレイパー	1968/7/28	I 拡-0	480	黒曜石	2.4	2.3	0.6	2.0	自然面の残る剥片		1237.2	311
142	15	スクレイパー	1968/7/28	I-0	480-490	黒曜石	3.8	1.2	0.6	3.3	自然面の残る剥片		1238.1	608
142	16	スクレイパー	1971/7/14	I-3	480-490	黒曜石	2.0	2.8	0.5	3.7	原石	原産地推定TH11-128	b.11.1.2	133
142	17	スクレイパー	1969/5/19	II-1	480-490	黒曜石	1.3	2.3	0.7	2.0	自然面の残る剥片		2205	312
143	1	二次加工のある剥片	不明	II-1	480-490	黒曜石	2.3	1.3	0.4	1.4	両極剥片	原産地推定TH11-136	b.8.17.4	298
143	2	二次加工のある剥片	1969/5/18	II-3	480-490	黒曜石	3.6	1.3	0.8	3.1	自然面の残る剥片		2217.1	611
143	3	スクレイパー	1969/5/19	III-0	480-490	黒曜石	3.5	1.7	0.9	4.1	自然面の残る剥片		3303	103
143	4	スクレイパー	1969/5/15	III-0	480-490	黒曜石	1.7	3.0	0.7	3.3	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-033	3305	104
143	5	スクレイパー	1968/5/19	III-1	480-490	黒曜石	2.8	3.1	0.4	3.9	剥片		3127	197
143	6	二次加工のある剥片	1969/5/18	III-3	480-490	黒曜石	1.1	2.1	0.8	1.5	自然面の残る剥片		2217.2	612
143	7	スクレイパー	1968/7/28	I 拡-0	480-490	黒曜石	2.4	2.5	1.0	5.1	剥片	原産地推定TH11-015	1238.2	77
143	8	スクレイパー	1969/5/18	II-0	485-490	黒曜石	3.0	1.7	0.6	3.5	原石		2280	572
143	9	スクレイパー	1969/5/18	II-0	485-490	黒曜石	2.6	2.2	0.7	3.3	剥片	原産地推定TH11-129	b.8.14.10	294
143	10	スクレイパー	1969/5/18	II-0	485-490	黒曜石	4.4	3.2	1.0	11.2	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-133	b.8.14.5	147
143	11	スクレイパー	1969/5/18	II-0	485-490	黒曜石	2.4	1.7	0.8	3.4	両極剥片	原産地推定TH11-131	b.8.14.12	296
143	12	スクレイパー	1970/6/14?	II-0	490-500	黒曜石	3.0	2.4	0.7	4.7	剥片	わずかに加工?	2384.2	623

付表2 剥片石器観察表(5)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測 番号	
143	13	二次加工のある剥片	1970/6/14	II-0	490-500	黒曜石	2.5	1.8	0.9	4.4	両極剥片		2381	192
143	14	二次加工のある剥片	1970/6/14	II-0	490-500	黒曜石	2.3	2.4	1.0	4.1	両極剥片		2377	218
143	15	スクレイパー	1970/6/14	II-1	490-500	黒曜石	2.6	1.5	0.8	3.5	両極剥片	原産地推定THI1-022	2428	94
143	16	スクレイパー	?/6/13	II-2	490-500	黒曜石	2.6	2.3	0.7	2.7	剥片	原産地推定THI1-021	2397	92
143	17	スクレイパー	1969/5/18	II-2	490-500	黒曜石	1.7	1.9	0.5	1.8	両極剥片		2258	315
143	18	スクレイパー	1970/10/14	II-2	490-500	黒曜石	2.8	1.2	0.3	1.3	剥片		b.10.9.6	431
144	1	スクレイパー	1970/10/14	II-2	490-500	黒曜石	2.5	1.9	1.0	3.4	自然面の残る剥片		b.10.9.9	432
144	2	スクレイパー	1970/6/12	III-0	490-500	黒曜石	3.2	1.9	0.8	3.6	自然面の残る剥片	原産地推定THI1-030	3180	102
144	3	スクレイパー	1970/6/12	III-0	490-500	黒曜石	2.4	1.3	1.0	2.3	両極剥片	原産地推定THI1-029	3179	221
144	4	スクレイパー	1969/5/19	III-1	490-500	黒曜石	2.7	2.5	0.8	4.4	自然面の残る剥片	原産地推定THI1-034	3307	224
144	5	スクレイパー	1970/6/13	III-1	490-500	黒曜石	2.0	2.8	0.8	3.8	自然面の残る剥片		3163	T47
144	6	スクレイパー	1970/10/17	III-1	490-500	黒曜石	2.4	1.5	0.8	2.0	両極剥片	多方向両極か	b.10.4.1	T56
144	7	二次加工のある剥片	1970/6/13	III-1	490-500	黒曜石	2.0	1.7	0.9	2.5	両極剥片	原産地推定THI1-148	b.9.13.7	250
144	8	スクレイパー	1971/7/13	I-2	500	黒曜石	2.4	2.3	0.6	3.5	自然面の残る剥片		1342	79
144	9	スクレイパー	不明	I-3	500-510	黒曜石	3.1	1.1	0.6	2.1	両極剥片?		1374	T26
144	10	二次加工のある剥片	1970/6/14	II-2	500-510	黒曜石	3.2	1.1	0.4	1.3	原石		2392	193
144	11	スクレイパー	不明	II-3	500-510	黒曜石	1.1	2.3	0.6	1.5	剥片		b.10.10.13	347
144	12	スクレイパー	1970/6/12	III-0	500-510	黒曜石	2.9	1.2	0.6	2.4	原石		b.9.10.6	344
144	13	スクレイパー	1970/6/12	III-0	500-510	黒曜石	1.1	1.6	0.6	0.8	剥片		b.9.10.9	345
144	14	スクレイパー	1968/6/12	III-0	500-510	黒曜石	2.2	3.1	0.9	6.0	剥片		3171	T37
144	15	スクレイパー	1970/6/13	III-2	500-510	黒曜石	1.9	2.8	0.9	3.6	原石		3349	332
144	16	スクレイパー	1970/6/13	III-2	500-510	黒曜石	2.0	2.0	0.7	2.9	両極剥片	多方向両極か	b.9.19.1	T55
144	17	二次加工のある剥片	1970/6/13	III-2	500-510	黒曜石	2.0	1.1	0.4	1.4	原石		b.9.19.4	452
144	18	スクレイパー	1970/10/18	II-3	500-520	黒曜石	2.8	2.4	0.8	5.4	剥片		2413	93
145	1	二次加工のある剥片	1971/7/13	I-1	500-530	黒曜石	2.7	1.6	0.4	2.3	原石		b.11.2.4	408
145	2	スクレイパー	1970/10/19	II-1	516	黒曜石	4.7	2.6	1.0	8.8	剥片		2411	195
145	3	スクレイパー	1971/7/12	I	510-520	黒曜石	1.8	2.0	0.4	2.1	原石		b.11.17.4	387
145	4	スクレイパー	1970/6/14	III-0	510-520	黒曜石	3.0	1.7	0.7	3.5	自然面の残る剥片		b.9.18.3	429
145	5	二次加工のある剥片	1970/10/19	III-0	510-520	黒曜石	5.5	1.6	0.7	6.4	原石		3280	204
145	6	二次加工のある剥片	1970/6/14	III-0	510-520	黒曜石	3.8	2.6	0.8	7.1	自然面の残る剥片		b.9.18.1	390
145	7	スクレイパー	不明	III-1	510-520	黒曜石	3.2	1.9	0.5	4.5	剥片		3345	107
145	8	二次加工のある剥片	1970/6/13	III-1	510-520	黒曜石	3.5	3.4	0.9	9.7	両極剥片		3158	202
145	9	二次加工のある剥片	1970/10/18	III-1	510-520	黒曜石	5.2	2.7	0.8	9.9	原石		3343	208
145	10	スクレイパー	1970/6/14	III-2	510-520	黒曜石	1.3	2.6	0.6	2.1	原石		b.9.12.19	346
145	11	スクレイパー	不明	III-2	510-520	黒曜石	2.3	1.3	0.6	1.7	両極剥片		b.9.12.8	T54
145	12	スクレイパー	不明	III-2	510-520	黒曜石	2.6	2.8	0.6	5.0	自然面の残る剥片		b.9.12.7	389
145	13	スクレイパー	1971/7/12	I	510-530	黒曜石	2.3	4.0	1.8	6.7	自然面の残る剥片		1361	565
146	1	スクレイパー	1970/10/18	IV-0	520	黒曜石	3.3	2.5	0.6	4.6	剥片		425	146-1
146	2	スクレイパー	1970/10/20	III-1	520-530	黒曜石	4.5	2.9	1.1	11.8	剥片	多方向両極か	3286	T40
146	3	スクレイパー	1971/7/13	I-1	521	黒曜石	2.9	3.6	0.6	5.6	剥片		1357	184
146	4	スクレイパー	1970/10/18	II-0	523	黒曜石	3.2	3.4	1.0	7.3	剥片		2407	T30
146	5	スクレイパー	不明	II-1	530	黒曜石	6.0	3.9	0.3	27.0	自然面の残る剥片		b.10.6.1	T58
146	6	スクレイパー	1970/10/19	II-1	530	黒曜石	2.8	1.6	0.5	2.1	自然面の残る剥片		2433	321
146	7	スクレイパー	1970/10/20	II-1	530-540	黒曜石	2.7	2.0	1.6	2.8	剥片		2412	320
146	8	スクレイパー	1970/10/21	III-2	530-540	黒曜石	3.1	1.1	0.7	2.1	原石		3377	333
146	9	スクレイパー	1970/10/19	III-1	540	黒曜石	3.5	2.6	0.7	4.3	剥片		b.10.1.1	446
146	10	スクレイパー	1970/10/21	IV-1	540	黒曜石	2.9	1.3	0.7	1.9	両極		432	308
146	11	スクレイパー	1970/10/21	III-2	540-550	黒曜石	4.9	2.5	0.9	8.3	剥片		3302	205
147	1	スクレイパー	不明	III-1	不明	黒曜石	3.0	2.4	1.3	8.4	剥片		3199	327
147	2	スクレイパー	1970/6/19	奥の院	不明	黒曜石	2.3	1.6	0.7	2.6	剥片		3169	325
147	3	スクレイパー	1968/5/17	不明	不明	黒曜石	3.9	5.9	1.2	17.9	自然面の残る剥片		112	555
147	4	スクレイパー	不明	不明	不明	黒曜石	5.6	3.4	0.9	15.0	剥片		20425	214
148	1	二次加工のある剥片	1965/12/15	不明	35	チャート	2.4	3.7	0.8	8.9	剥片		36	603
148	2	スクレイパー	1966/8/17	I 掘-1	110	チャート	2.8	3.8	0.8	7.7	剥片		1172	564
148	3	スクレイパー	1965/12/16	I	130-150	チャート	4.9	3.5	1.8	18.3	剥片		135	177
148	4	二次加工のある剥片	1965/12/16	I	130-150	チャート	3.0	1.8	0.7	3.7	剥片		a.1.7.8	421
148	5	二次加工のある剥片	1966/8/18	I 掘-1	135-150	チャート	1.7	4.2	0.8	5.6	原石		a.7.6.2	473
148	6	スクレイパー	65.12?	不明	153	チャート	4.3	5.4	1.8	36.8	自然面の残る剥片		35	110
148	7	二次加工のある剥片	不明	不明	153	チャート	2.7	3.8	0.8	10.7	剥片		33	602
148	8	スクレイパー	1965/12/16	I	156	チャート	2.9	1.9	1.0	5.2	剥片		122	557
148	9	スクレイパー	1965/12/17	I	160	チャート	4.5	4.0	1.0	18.5	剥片		125	112
148	10	二次加工のある剥片	1965/12/17	I	175	チャート	5.4	2.2	0.9	10.1	剥片		133	176
148	11	二次加工のある剥片	1965/12/16	I	175	チャート	4.5	3.3	0.6	12.4	自然面の残る剥片		128	604
149	1	スクレイパー	1966/5/13	II	173	チャート	2.9	5.0	0.6	12.3	自然面の残る剥片		23	601
149	2	スクレイパー	1966/5/13	I	190	チャート	5.1	2.8	0.9	9.2	剥片		1146	563
149	3	スクレイパー	1965/5/13	不明	203	チャート	6.8	4.0	0.9	21.7	剥片		70	111
149	4	スクレイパー	1966/5/14	II	219	チャート	4.1	4.4	1.2	19.6	剥片		25	553
149	5	スクレイパー	1966/5/16	I	230	チャート	3.1	5.7	1.5	26.6	自然面の残る剥片		1131	113
149	6	二次加工のある剥片	1966/5/16	II 壁際	264	チャート	2.7	2.2	0.5	4.7	剥片		271.1	627
149	7	スクレイパー	1966/8/17	III-2	255-260	チャート	4.2	4.6	1.0	19.5	自然面の残る剥片		3319	105
149	8	スクレイパー	1966/8/18	III	260-270	チャート	2.6	3.5	0.8	5.6	剥片		a.3.13.2	441
149	9	二次加工のある剥片	1966/8/18	III	260-270	チャート	1.9	3.7	0.5	4.0	剥片		a.3.13.3	442
149	10	スクレイパー	1966/8/18	III-1	260-270	チャート	2.9	4.4	0.9	10.2	剥片		a.3.14.1	424
150	1	二次加工のある剥片	1966/8/18	III-1	260-270	チャート	2.6	2.7	0.5	3.4	剥片		a.3.14.2	625
150	2	スクレイパー	1966/8/18	II-1	270-280	チャート	3.6	3.7	0.7	11.2	剥片		a.3.16.14	425
150	3	スクレイパー	?/8/20	III	280-290	チャート	2.8	3.1	0.6	6.2	剥片		a.0.4.1	584
150	4	スクレイパー	?/8/19	IIIフルイ	280-290	チャート	3.8	2.2	1.0	9.2	両極		a.0.36.5	418
150	5	スクレイパー	?/8/19	IIIフルイ	280-290	チャート	3.7	4.0	0.2	17.0	剥片		a.0.36.10	419

付表2 剥片石器観察表(6)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測番号	
150	6	二次加工のある剥片	1971/7/15	奥の院	300-310	チャート	3.5	5.0	1.4	30.1	自然面の残る剥片		3364	109
150	7	スクレイパー	1967/4/23	III-3	310-330	チャート	4.0	2.8	1.1	14.1	剥片		3341	207
150	8	二次加工のある剥片	1967/7/23	II	330-340	チャート	2.8	2.5	1.0	5.5	剥片		a.5.5.11	453
150	9	スクレイパー	1967/7/25	III	360-370	チャート	4.2	3.9	1.0	18.6	自然面の残る剥片		3340	406
150	10	スクレイパー	1968/8/20	III-2	380-390	チャート	5.0	3.1	1.6	20.8	両極剥片		a.3.23.3	433
151	1	二次加工のある剥片	1968/7/26	II奥	385-390	チャート	6.3	4.3	1.5	32.4	自然面の残る剥片		2279	87
151	2	スクレイパー	1968/7/26	II-3	430	チャート	3.0	3.8	0.5	6.4	原石		2235	570
151	3	二次加工のある剥片	1968/7/27	II-3	430-440	チャート	2.8	1.1	0.4	1.2	自然面の残る剥片		b.7.2.21	388
151	4	二次加工のある剥片	1968/5/19	III-1	430-440	チャート	3.9	1.9	0.7	5.2	剥片		3151	99
151	5	スクレイパー	1968/7/27	III-2	430-440	チャート	1.4	1.9	0.5	1.7	剥片		b.2.1.4	338
151	6	スクレイパー	1968/5/20	II-2	435-440	チャート	3.2	3.7	0.4	4.9	自然面の残る剥片		2210	186
151	7	スクレイパー	1968/7/28	III-2	470	チャート	2.8	4.4	0.7	11.1	自然面の残る剥片		3324	106
151	8	スクレイパー	1971/7/14	I-3	470-490	チャート	1.9	2.7	0.9	5.5	自然面の残る剥片		b.11.9.1	337
151	9	二次加工のある剥片	1969/5/17	III-2	480	チャート	3.6	1.3	0.7	3.1	剥片		3148.4	200
151	10	二次加工のある剥片	1970/6/14	II-2	490-500	チャート	3.3	2.9	0.8	6.6	剥片		b.0.2.9	445
151	11	スクレイパー	1970/6/12	III-0	500-510	チャート	4.1	3.2	0.6	7.9	剥片		b.9.16.1	428
151	12	スクレイパー	1970/10/19	II-0	510	チャート	2.3	3.2	0.5	3.4	剥片		2415	574
151	13	スクレイパー	1970/10/19	III-2	520-530	チャート	1.8	2.2	0.9	3.5	自然面の残る剥片		3344	209
151	14	スクレイパー	1970/10/19	II-0	525	チャート	3.0	4.0	0.7	7.7	剥片		2406	573
152	1	スクレイパー	1971/7/15	奥崩れ	不明	チャート	5.0	3.5	1.2	29.3	剥片		3363	212
152	2	スクレイパー	1971/7/15	崩れ	不明	チャート	3.9	2.4	0.9	8.3	両極剥片		110.2	554
152	3	スクレイパー	1971/7/15	崩れ	不明	チャート	3.6	2.5	0.7	5.4	剥片		110.1	306
152	4	スクレイパー	1966/8/13	I	西側配石東側付近	チャート	2.9	3.9	1.1	12.0	剥片		1173	607
152	5	スクレイパー	1966/5/16	II?	不明	チャート	2.6	2.7	0.7	5.1	両極剥片	台帳だと土器	256	560
152	6	スクレイパー	2/5/15	不明	不明	チャート	3.5	2.9	1.2	12.2	剥片		62	175
152	7	スクレイパー	1965/12/?	不明	不明	チャート	4.1	4.3	1.0	15.4	剥片		7	598
152	8	二次加工のある剥片	1968/8/18	II	260-270	チャート?	3.9	2.7	0.6	5.4	剥片		2245	619
152	9	スクレイパー	1965/12/16	I?	104	ホルンフェルス	3.1	4.5	0.8	10.0	剥片		1153	182
152	10	二次加工のある剥片	1966/5/17	I	250	頁岩	4.6	4.4	0.8	16.8	自然面の残る剥片		183	178
153	1	スクレイパー	1966/8/17	III-1	255-260	頁岩	3.8	2.4	0.9	9.5	剥片		a.3.10.3	423
153	2	スクレイパー	1970/5/16	II-0	450	<small>ウツリ山麓部(北)下流部</small>	4.0	6.0	0.7	20.6	自然面の残る剥片		2234	T3
153	3	スクレイパー	1968/7/26	II-奥	390	頁岩?	1.8	3.3	0.5	2.9	自然面の残る剥片		2211	85
153	4	スクレイパー	不明	不明	不明	珪質頁岩	2.2	3.8	0.7	5.7	自然面の残る剥片		72.1	305
153	5	スクレイパー	1967/7/26	III-2	395	水晶	4.3	3.6	1.3	22.0	両極剥片?		3155	201
153	6	スクレイパー	1969/5/16	III-0	475	水晶	5.9	3.2	0.9	17.6	両極剥片?		3114	196
154	1	両極剥片	1966/5/14	II	219	黒曜石	2.6	1.6	0.7	2.0	両極剥片	多方向両極	2425	T31
154	2	両極剥片	不明	I	220	黒曜石	1.7	1.3	0.6	1.2	両極剥片	原産地推定THI1-041・多方向両極	a.0.14.42	227
154	3	両極剥片	2/5/14	II	220	黒曜石	1.6	1.5	0.3	0.7	両極剥片	原産地推定THI1-077	a.0.16.44	274
154	4	両極剥片	2/5/14	II	220	黒曜石	2.2	1.8	0.8	2.3	両極剥片	原産地推定THI1-081・残核か?	a.0.16.17	144
154	5	両極剥片	2/5/15	II	220	黒曜石	2.5	0.9	1.3	2.5	両極剥片	原産地推定THI1-087	a.0.24.15	234
154	6	両極剥片	1966/5/?	II	228	黒曜石	2.0	1.9	0.8	2.5	両極剥片	原産地推定THI1-101	a.2.4.18	240
154	7	両極剥片	2/5/14	II	230	黒曜石	1.9	1.0	1.0	3.0	両極剥片	原産地推定THI1-099	a.0.42.6	236
154	8	両極剥片	2/8/15	II断面図1	239	黒曜石	3.8	2.4	1.1	7.7	両極剥片	原産地推定THI1-092	a.0.33.2	119
154	9	両極剥片	不明	I	240	黒曜石	2.0	2.4	0.8	4.9	両極剥片	多方向両極	a.0.18.20	360
154	10	両極剥片	1967/4/21	II-1	274-294	黒曜石	2.2	1.9	0.6	2.6	両極剥片	多方向両極	2271	621
154	11	両極剥片	2/8/18	II	280-290	黒曜石	1.9	1.0	0.4	0.9	両極剥片		2253	469
154	12	両極剥片	1968/5/20	II-1	430-440	黒曜石	1.6	1.6	0.5	0.9	両極剥片		2240	401
154	13	両極剥片	1968/5/20	II-2	430-440	黒曜石	2.2	2.4	0.6	2.8	両極剥片		b.6.11.5	459
154	14	両極剥片	1968/7/27	III-3	430-440	黒曜石	4.3	1.4	0.7	6.0	両極剥片		3149.2	T36
154	15	両極剥片	1968/7/28	III-0	440-450	黒曜石	2.9	1.8	0.8	3.1	両極剥片		b.5.2.1	457
154	16	両極剥片	1968/8/28	III-2	440-450	黒曜石	2.9	0.6	0.5	1.8	両極剥片		3328	399
154	17	両極剥片	1968/8/28	III-3	440-450	黒曜石	2.7	1.0	0.5	1.2	両極剥片		b.7.17.2	460
154	18	両極剥片	1968/7/29	II-0	450-460	黒曜石	2.1	2.0	0.7	2.4	両極剥片	多方向両極	2207	392
154	19	両極剥片	1968/7/29	III-1	450-460	黒曜石	2.7	1.4	0.5	1.7	両極剥片		3138	393
154	20	両極剥片	1969/5/16	III-1	450-460	黒曜石	2.0	1.7	0.9	2.5	両極剥片	多方向両極	3143.2	395
154	21	両極剥片	1969/5/16	III-1	450-470	黒曜石	2.0	1.6	0.7	2.0	両極剥片	多方向両極	3139	394
154	22	両極剥片	1968/7/27	I-0	458-470	黒曜石	1.6	1.5	0.5	1.2	両極剥片		1197	391
154	23	両極薄片	1968/7/28	III-2	470	黒曜石	4.2	1.3	0.7	2.4	両極剥片		3144	¹⁵⁴⁻²³
154	24	両極剥片	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	1.9	1.9	0.6	1.5	両極剥片		b.8.15.5	-
154	25	両極剥片	1969/5/19	II-1	480-490	黒曜石	2.6	1.4	0.6	2.5	両極剥片		b.8.8.3	461
154	26	両極剥片	1969/5/19	III-0	480-490	黒曜石	2.2	1.3	0.4	1.2	両極剥片	原産地推定THI1-032	3304	223
155	1	両極剥片	1969/5/19	II-0	490-500	黒曜石	3.5	4.4	1.3	14.3	両極剥片	多方向両極	2221	613
155	2	両極剥片	1970/10/14	II-2	490-500	黒曜石	3.2	1.5	0.7	3.6	両極剥片	原産地推定THI1-127	b.10.9.10	132
155	3	両極剥片	1070/6/13	III-1	490-500	黒曜石	2.5	1.6	0.6	2.5	両極剥片	原産地推定THI1-149	b.9.13.9	¹⁵⁵⁻³
155	4	両極剥片	1970/6/13	III-1	490-500	黒曜石	1.7	0.9	0.3	0.4	両極剥片	原産地推定THI1-146	b.9.13.2	248
155	5	両極剥片	1970/6/13	III-1	490-500	黒曜石	1.0	1.6	0.3	0.5	両極剥片	原産地推定THI1-147	b.9.13.3	249
155	6	両極剥片	1970/6/13	III-1	490-500	黒曜石	1.8	1.9	0.5	1.8	両極剥片	原産地推定THI1-145・多方向両極	b.9.13.10	251
155	7	両極剥片	不明	I 掘-0	490-500	黒曜石	2.3	1.3	0.5	2.0	両極剥片	原産地推定THI1-150	b.9.5.1	247
155	8	両極剥片	不明	II-3	500-510	黒曜石	2.7	1.4	0.7	1.9	両極剥片		b.10.10.3	454
155	9	両極剥片	1969/6/12	III-0	500-510	黒曜石	2.4	1.5	0.7	2.2	両極剥片		3184	396
155	10	両極剥片	1969/6/12	III-0	500-510	黒曜石	1.7	1.5	0.6	1.1	両極剥片		3190	397
155	11	両極剥片	1970/6/13	III-2	500-510	黒曜石	2.1	1.3	0.5	1.1	両極剥片		b.9.19.10	462
155	12	両極剥片	1970/10/18	II-2	520-530	黒曜石	1.9	2.1	0.6	2.2	両極剥片		b.10.11.3	455
155	13	両極剥片	1970/10/21	II-2	530-540	黒曜石	1.5	1.9	0.6	1.3	両極剥片	多方向両極	b.10.7.8	430
155	14	両極剥片	1966/5/14	I-3	220	チャート	2.9	3.1	0.9	9.4	両極剥片	多方向両極	1137	606
155	15	両極剥片	1966/5/20	III-1	280-290	チャート	2.9	3.1	0.6	5.3	両極剥片		a.3.22.1	585
155	16	両極剥片	1968/7/29	II-2	430-440	チャート	2.6	2.5	1.0	7.2	両極剥片		b.6.11.1	458
155	17	両極剥片	1968/7/29	III-3	440-450	チャート	2.6	2.0	0.7	3.7	両極剥片	多方向両極	3321	398

付表2 剥片石器観察表 (7)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測 番号	
155	18	両極剥片	1970/6/13	I-2	470-480	チャート	2.7	1.6	1.8	6.2	両極剥片	b.9.17.1	463	
155	19	両極剥片	1970/6/13	II-2	470-480	チャート	2.0	1.7	0.6	2.1	両極剥片	2383	402	
156	1	原石	1965/12/16	I	122	黒曜石	2.3	2.2	0.0	4.0	原石	a.1.5.1	367	
156	2	原石	?/5/13	II	207	黒曜石	2.4	0.4	1.1	3.0	原石	a.0.37.7	403	
156	3	原石	?/5/13	II	207	黒曜石	3.3	1.6	1.5	7.5	原石	a.0.37.8	404	
156	4	原石	?/5/14	II	220	黒曜石	2.4	2.1	0.5	2.1	原石	原産地推定THI-042・わずかな剥離あり a.0.16.10	228	
156	5	原石	?/5/16	I奥	230	黒曜石	2.8	1.2	0.9	3.0	原石	原産地推定THI-037・わずかな剥離あり a.0.12.29	226	
156	6	原石	1966/5/16	I奥	230	黒曜石	2.4	1.1	0.8	1.8	原石	原産地推定THI-117	a.2.6.51	242
156	7	原石	1968/8/17	III-1	240-245	黒曜石	2.2	1.8	1.8	6.4	原石	a.3.6.16	405	
156	8	原石	1974/8/22	I-4	415-425	黒曜石	2.7	1.6	0.7	2.9	原石	b.12.3.9	411	
156	9	原石	1970/6/12	(I-1)	423	黒曜石	3.2	2.0	0.6	4.5	原石	1333	t44	
156	10	原石	1968/7/28	III-1	440-450	黒曜石	2.5	2.4	0.6	3.0	原石	わずかな剥離	b.7.6.5	630
156	11	原石	1968/5/20	II-0	450-460	黒曜石	2.2	2.9	0.7	4.3	原石	極わずかな剥離	b.6.10.10	T51
156	12	原石	1968/7/29	III-0	450-460	黒曜石	4.5	1.5	0.5	3.5	原石	極わずかな剥離	b.7.15.1	T52
156	13	原石	不明	II-0	470-480	黒曜石	3.4	1.8	0.5	3.5	原石	わずかな剥離	b.8.18.1	631
156	14	原石	1969/5/17	II-2	470-480	黒曜石	2.3	2.0	0.6	3.6	原石		b.8.1.1	T53
156	15	原石	1969/5/17	III-1	470-480	黒曜石	2.6	2.3	0.7	4.5	原石	3200	156-15	
156	16	原石	1969/5/19	III-1	470-480	黒曜石	3.0	2.4	0.8	6.8	原石	b.8.11.2	156-16	
156	17	原石	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	3.1	2.0	0.9	5.4	原石	b.8.15.11	412	
156	18	原石	1969/5/17	III-2	470-480	黒曜石	3.0	1.4	0.9	3.8	原石	b.8.15.2	413	
157	1	原石	1969/5/17	奥	470-480	黒曜石	2.8	2.0	0.7	3.1	原石	わずかな剥離	b.11.4.1	410
157	2	原石	1969/5/19	II-1	480-490	黒曜石	4.2	2.1	0.5	4.3	原石	2225	T45	
157	3	原石	1969/5/19	II-1	480-490	黒曜石	3.4	2.1	0.8	5.0	原石	原産地推定THI-142	b.8.8.4	303
157	4	原石	1969/5/19	III-0	480-490	黒曜石	2.5	1.8	0.6	2.2	原石	原産地推定THI-138	b.8.19.3	130
157	5	原石	1969/5/18	II-0	485-490	黒曜石	2.8	1.4	0.6	3.1	原石	原産地推定THI-132	b.8.14.4	129
157	6	原石	1970/6/14	III-2	490-500	黒曜石	2.1	1.5	0.6	2.2	原石	原産地推定THI-143	b.9.11.13	134
157	7	原石	1971/7/?	I-3	500-510	黒曜石	1.7	1.4	1.2	3.6	原石	b.11.3.1	409	
157	8	原石	1971/7/?	I-2	520	黒曜石	3.2	2.1	0.9	4.5	原石	b.11.12.1	407	
157	9	原石	1970/10/18	II-2	520-530	黒曜石	3.7	1.7	0.3	2.6	原石	b.10.11.1	406	
158	1	残核	?/12/16	奥壁近く	115	黒曜石	3.3	2.0	0.4	7.4		a.0.38.2	361	
158	2	残核	1966/5/13	II	178	黒曜石	4.2	3.0	1.4	11.9		223	559	
158	3	残核	1966/8/19	I 扨1	185	黒曜石	4.4	5.3	2.4	50.5		a.3.2.9	158-3	
158	4	残核	1966/8/19	I 扨1	185	黒曜石	4.4	4.6	1.2	20.2		a.3.2.25	T42	
158	5	残核	?/5/13	I	200	黒曜石	3.0	2.6	1.0	8.2		a.0.8.9	366	
158	6	残核	?/5/14	III	200	黒曜石	1.9	3.4	0.8	4.4		a.0.7.2	365	
158	7	残核	1967/4/21	I 扨	207	黒曜石	3.8	2.0	0.6	5.2		a.4.17.6	384	
158	8	残核	196/5/14	II	219	黒曜石	2.8	2.6	1.2	5.5		a.2.3.13	440	
158	9	残核	196/5/14	II	219	黒曜石	2.5	3.9	2.0	8.4		a.2.3.18	368	
159	1	残核	不明	I	220	黒曜石	3.8	1.9	0.9	5.6		原産地推定THI-038	a.0.14.20	116
159	2	残核	不明	I	220	黒曜石	1.6	2.5	0.3	5.2		原産地推定THI-040	a.0.14.38	117
159	3	残核	?/5/15	II	220	黒曜石	2.6	2.8	1.0	8.1		原産地推定THI-086	a.0.24.14	118
159	4	残核	?/8/16	III	226	黒曜石	1.8	3.9	0.1	3.8		原産地推定THI-096・使用痕?	a.0.41.10	122
159	5	残核	?/8/16	III	226	黒曜石	1.6	2.8	1.0	4.9		原産地推定THI-097	a.0.41.4	145
159	6	残核	1966/5/?	II	228	黒曜石	1.9	5.0	1.0	5.1		原産地推定THI-105	a.2.4.6	124
159	7	残核	1966/5/?	II	228	黒曜石	1.4	2.6	0.8	4.2		原産地推定THI-103	a.2.4.30	146
159	8	残核	1966/8/17	III-1	224-229	黒曜石	2.1	3.5	1.7	9.0		原産地推定THI-124	a.3.4.23	159-8
159	9	残核	?/5/14	II	230	黒曜石	3.2	1.8	1.2	6.2		原産地推定THI-100・使用痕?	a.0.42.9	123
159	10	残核	1966/5/14	II	230	黒曜石	2.4	3.8	1.1	7.5		原産地推定THI-107	a.2.5.1	126
160	1	残核	?/5/16	II 中央	230-240	黒曜石	1.6	2.5	1.7	5.7		原産地推定THI-093	a.0.35.4	120
160	2	残核	?/5/16	II 中央	230-240	黒曜石	2.8	1.0	1.7	3.7		原産地推定THI-094・両極剥片か	a.0.35.9	121
160	3	残核	1971/7/14	奥の院	230-240	黒曜石	2.1	3.4	1.0	7.6		原産地推定THI-036	3358	108
160	4	残核	1966/5/16	I	240	黒曜石	2.8	4.3	1.3	13.4		1372	160-4	
160	5	残核	不明	I	240	黒曜石	4.0	2.3	1.1	7.0		a.0.18.1	437	
160	6	残核	1971/5/16	I	240	黒曜石	2.3	5.1	1.3	15.1		1373	82	
160	7	残核	?/5/16	II	240土	黒曜石	3.4	2.3	0.8	4.9		a.0.44.116	362	
160	8	残核	?/5/16	II	240土	黒曜石	3.0	2.7	1.6	9.2		a.0.44.9	363	
160	9	残核	?/5/16	II	240土	黒曜石	1.7	2.3	1.2	2.5		小型 a.0.44.94	364	
160	10	残核	1966/8/17	III-1	240-250	黒曜石	3.8	1.4	1.1	5.6		素材剥片小さい	a.3.7.18	377
160	11	残核	1966/8/17	III-1	240-250	黒曜石	3.1	3.0	1.8	8.7		a.3.7.22	378	
161	1	残核	1966/8/17	III-1	240-250	黒曜石	1.5	2.5	1.2	2.6		素材剥片小さい	a.3.7.26	379
161	2	残核	1966/8/17	III-1	240-250	黒曜石	2.2	2.8	0.6	3.2		a.3.7.8	380	
161	3	残核	1971/7/14	奥	250-260	黒曜石	1.5	4.4	1.9	11.4		a.11.4.1	385	
161	4	残核	1966/8/17	II-2	260-270	黒曜石	2.5	2.9	1.2	8.7		a.3.11.2	374	
161	5	残核	1966/8/18	III	260-270	黒曜石	1.8	3.2	1.1	6.3		a.3.13.53	161-5	
161	6	残核	1966/8/18	III	260-270	黒曜石	4.1	2.9	1.7	12.8		a.3.13.62	375	
161	7	残核?	1966/8/18	III	260-270	黒曜石	2.3	2.9	0.9	7.4		a.3.13.66	376	
161	8	残核	1966/12/18	III-2	260-270	黒曜石	2.2	3.5	1.6	7.4		a.0.10.13	359	
161	9	残核	1966/5/16	II 壁際	264	黒曜石	1.6	2.4	2.1	5.0		a.2.9.14	370	
161	10	残核	1966/5/16	II 壁際	264	黒曜石	2.7	4.4	1.2	18.4		a.2.9.21	371	
161	11	残核	1966/5/16	II 壁際	264	黒曜石	2.9	3.7	1.4	9.9		a.2.9.3	372	
162	1	残核	1966/5/16	II 壁際	264	黒曜石	2.5	4.1	1.3	10.0		a.2.9.6	373	
162	2	残核	1967/4/21	I-1	271	黒曜石	3.4	2.4	1.2	7.8		a.4.3.1	383	
162	3	残核	不明	III-2	300-310	黒曜石	1.9	3.0	1.2	6.1		a.5.6.19	162-3	
162	4	残核	1967/4/?	III-2	316	黒曜石	1.3	2.1	1.3	4.3		素材剥片小さい	a.4.1.5	381
162	5	残核	1967/4/?	III-2	316	黒曜石	2.4	3.7	1.6	8.7		a.4.1.6	382	
162	6	残核	1967/4/23	III	320-330	黒曜石	2.0	3.4	1.9	11.0		a.4.5.11	414	
162	7	残核	1970/6/14	III-2	510-520	黒曜石	1.1	1.7	1.5	3.0		原産地推定THI-144	b.9.12.28	131
162	8	残核	1970/10/18	II-3	510-530	黒曜石	1.9	3.5	1.0	4.8		原産地推定THI-126・二次加工?	b.10.12.5	T22

付表2 剥片石器観察表(8)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	発掘番号	
162	9	残核	1967/7/23	不明	20	チャート	6.3	2.5	2.4	38.9			a.5.8.11	400
162	10	残核	1966/5/14	II	219	チャート	4.1	4.0	1.0	18.6			a.2.3.7	369
163	1	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.8	2.6	1.0	3.5	剥片	原産地推定TH11-049・残核か?	a.0.16.17	135
163	2	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.5	2.6	0.4	1.4	剥片	原産地推定TH11-051	a.0.16.19	137
163	3	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	3.9	1.4	0.9	2.8	剥片	原産地推定TH11-063	a.0.16.3	139
163	4	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.3	1.9	0.4	1.1	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-068	a.0.16.35	140
163	5	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.9	2.3	0.8	3.9	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-075	a.0.16.42	141
163	6	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.6	2.2	0.7	2.0	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-078	a.0.16.45	142
163	7	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.4	2.9	0.8	4.4	剥片	原産地推定TH11-080	a.0.16.6	143
163	8	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.6	1.6	0.6	1.3	剥片	原産地推定TH11-047・残核か?	a.0.16.15	252
163	9	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.4	1.5	0.6	2.1	剥片	原産地推定TH11-048・わずかな剥離	a.0.16.16	253
163	10	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.0	2.6	0.6	1.8	剥片	原産地推定TH11-054	a.0.16.21	254
163	11	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.6	1.5	0.3	0.7	剥片	原産地推定TH11-055	a.0.16.22	255
163	12	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.7	0.9	0.3	0.2	剥片	原産地推定TH11-056	a.0.16.23	256
163	13	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.5	1.4	0.4	1.2	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-057	a.0.16.24	257
163	14	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.6	2.0	0.3	0.7	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-059	a.0.16.26	259
163	15	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.5	1.2	0.6	0.8	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-060	a.0.16.27	260
163	16	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.4	1.2	0.5	1.1	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-061	a.0.16.28	261
163	17	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.6	0.6	1.0	1.0	剥片	原産地推定TH11-062	a.0.16.29	262
163	18	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.4	1.7	0.5	0.8	剥片	原産地推定TH11-064	a.0.16.30	263
163	19	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.6	1.4	0.7	1.2	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-065	a.0.16.31	264
163	20	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.2	0.8	0.4	0.2	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-066	a.0.16.32	265
163	21	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.1	1.5	0.3	0.5	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-067	a.0.16.33	266
163	22	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.8	1.5	0.4	0.7	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-069	a.0.16.36	267
163	23	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.0	1.8	0.4	0.5	剥片	原産地推定TH11-070	a.0.16.37	268
163	24	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.5	1.5	0.8	1.4	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-071	a.0.16.38	269
163	25	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.0	1.3	0.2	0.3	剥片	原産地推定TH11-072	a.0.16.4	270
163	26	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.8	1.4	0.8	1.0	剥片	原産地推定TH11-073・残核か?	a.0.16.40	271
163	27	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.0	2.5	0.4	1.2	剥片	原産地推定TH11-074	a.0.16.41	272
163	28	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	0.9	3.2	0.4	0.8	剥片	原産地推定TH11-079	a.0.16.5	275
163	29	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.6	1.0	1.1	2.0	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-082・残核か?	a.0.16.8	276
163	30	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	1.7	1.7	0.7	1.2	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-083・残核か?	a.0.16.9	277
164	1	剥片	?/5/14	II	220	黒曜石	2.2	3.1	0.5	2.5	剥片	原産地推定TH11-151	a.0.16.16-2	304
164	2	剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	1.6	2.9	0.6	1.4	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-108	a.2.6.10	283
164	3	剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	2.8	1.8	0.4	1.4	剥片	原産地推定TH11-109・わずかな剥離	a.2.6.13	284
164	4	剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	1.5	2.4	0.8	2.2	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-110・残核か?	a.2.6.22	285
164	5	剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	2.4	1.8	0.6	1.2	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-112	a.2.6.29	287
164	6	剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	1.7	1.5	0.5	0.8	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-116	a.2.6.46	290
164	7	剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	2.0	1.7	0.4	0.9	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-119	a.2.6.56	292
164	8	剥片	1966/5/16	I 奥	230	黒曜石	0.2	2.0	0.5	0.7	剥片	原産地推定TH11-120・わずかな剥離	a.2.6.64	293
164	9	剥片	1966/5/16	不明	240	黒曜石	2.7	0.6	0.3	1.4	自然面の残る剥片		1236.1	466
164	10	剥片	1969/5/16	II-0	450	黒曜石	2.6	0.5	0.3	0.7	剥片		2251	468
164	11	剥片	1969/5/10	I-0	480	黒曜石	3.5	1.2	0.2	1.1	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-013	1200	215
164	12	剥片	1967/7/27	II-2	320-330	黒曜石	2.9	1.3	0.5	1.8	自然面の残る剥片		2342	470
164	13	剥片	1968/7/28	III-2	360-370	黒曜石	3.0	0.9	0.2	1.6	自然面の残る剥片		3142	436
164	14	剥片	1968/8/28	III-2	440-450	黒曜石	3.8	1.4	0.8	3.8	自然面の残る剥片		3326	472
164	15	剥片	不明	II-2	455-460	黒曜石	2.4	2.2	0.6	2.9	自然面の残る剥片		b.7.1.2	-
164	16	剥片	1970/6/13	I-2	470-490	黒曜石	4.5	2.4	0.8	4.5	自然面の残る剥片	わずかな剥離	1339	467
164	17	剥片	不明	II-1	480-490	黒曜石	4.3	3.2	0.3	11.6	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-135	b.8.17.3	148
164	18	剥片	不明	II-1	480-490	黒曜石	1.9	2.0	0.8	2.6	剥片	原産地推定TH11-134・わずかな剥離	b.8.17.1	297
164	19	剥片	1969/5/19	II-1	480-490	黒曜石	1.6	2.4	0.6	2.5	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-141	b.8.8.2	302
164	20	剥片	1969/5/19	III-0	480-490	黒曜石	3.0	3.0	0.7	5.8	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-137	b.8.19.1	299
164	21	剥片	1969/5/19	III-0	480-490	黒曜石	1.9	2.3	0.5	1.8	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-139	b.8.19.5	300
164	22	剥片	1969/5/19	III-0	480-490	黒曜石	2.0	1.5	0.4	1.2	剥片	原産地推定TH11-140	b.8.19.7	301
164	23	剥片	1969/5/18	II-0	485-490	黒曜石	1.9	2.0	0.5	2.1	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-130・わずかな剥離	b.8.14.11	295
164	24	剥片	1970/6/13	II-0	490-500	黒曜石	2.7	2.1	0.4	1.2	自然面の残る剥片		2384.1	622
164	25	剥片	1970/6/14	III-2	490-500	黒曜石	4.3	1.4	1.0	5.9	自然面の残る剥片	原産地推定TH11-035	3348	225
165	1	剥片	不明	II-1	500-510	黒曜石	5.0	4.2	0.9	14.2	自然面の残る剥片		b.9.2.5	635
165	2	剥片	1971/7/12	I	510-520	黒曜石	3.4	1.6	0.7	3.3	自然面の残る剥片		b.11.17.1	386
165	3	剥片	1969	III-2	510-520	黒曜石	2.8	1.9	0.5	2.8	自然面の残る剥片		3278	739
165	4	剥片	1965/12/16	I	90	砂岩?	6.4	3.3	1.1	19.5	剥片	わずかに加工	15	600
165	5	剥片	1965/12/?	I	115	砂岩?	6.2	3.0	0.7	10.2	剥片		18-115' 65.12	629
165	6	剥片	1965/12/16	I	151	チャート	4.5	2.8	0.7	6.9	剥片		119	64
165	7	剥片	不明	不明	153	チャート	3.2	2.0	0.5	2.4	剥片		34	626
165	8	剥片	1965/12/17	I 北側	157	チャート	3.8	4.0	0.8	14.0	自然面の残る剥片		126	558
165	9	剥片	1966/5/13	(II)	198	チャート	4.4	3.4	1.3	21.0	剥片		24	61
165	10	剥片	1966/5/16	II 壁際	264	チャート	4.1	2.5	0.5	4.5	剥片		271.3	465
165	11	剥片	1965/12/10	I	人骨面より-5cm	チャート	1.8	2.8	0.5	4.2	剥片		134	464
165	12	剥片	1972/6/14	III-0	520-530	ガラス貫安山岩	3.3	2.0	0.5	2.6	剥片	産地分析	分析No.38314	559
166	1	二次加工のある剥片	1965/12/16	I	90	ホルンフェルス	3.5	6.4	1.6	32.3	自然面の残る剥片		13	759
166	2	スクレイパー	1966/?/16	不明	90	ホルンフェルス	12.1	6.4	2.1	170.5	自然面の残る剥片		20426	582
166	3	スクレイパー	1965/12/16	I	156	ホルンフェルス	4.7	9.2	1.5	63.4	自然面の残る剥片		121	556
166	4	二次加工のある剥片	1966/5/14	I	220	ホルンフェルス	8.4	4.7	1.7	66.0	自然面の残る剥片		1101	605
167	1	削器	1966/8/17	III-1	235-246	頁岩	65.5	97.5	25.8	162.0	自然面の残る剥片			104
167	2	スクレイパー	1970/10/20	II-0	320	ホルンフェルス	6.2	10.5	1.4	97.5	自然面の残る剥片		20447	723
167	3	削器	1968/5/18	II-3	380-390	頁岩	65.1	94.6	22.5	149.5	自然面の残る剥片			115
167	4	二次加工のある剥片	1968/5/18	II-2	390	ホルンフェルス	6.2	7.2	1.2	46.3	自然面の残る剥片		2118	566
167	5	削器	1968/5/?	II-2	390	頁岩	53.5	95.3	32.1	210.6	原石			103

付表2 剥片石器観察表(9)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	素材形態	備考	注記	実測 番号	
167	6	削器	1968/5/?	Ⅲ-1	420-430	頁岩	57.5	88.7	21.8	115.0	自然面の残る剥片		113	
167	7	削器	1968/5/19	Ⅱ-1	450-470	頁岩	69.5	49.3	22.4	90.3	自然面の残る剥片		114	
167	8	削器	1969/5/?	Ⅲ-3	470	頁岩	46.2	70.2	8.6	27.2	自然面の残る剥片		112	
168	1	削器	1970/10/19	Ⅲ-3	490	頁岩	127.4	127.0	20.2	276.4	剥片		111	
168	2	削器	1970/10/20	Ⅱ-2	520	頁岩	47.4	79.7	16.3	58.9	自然面の残る剥片		116	
168	3	スクレイパー	1966/5/15	I	中央配石下	頁岩	5.2	4.4	1.2	30.5	自然面の残る剥片	風化	1133	181
168	4	削器	1970/6/13	不明	不明	頁岩	72.2	92.7	22.4	161.6	自然面の残る剥片		105	
168	5	削器	1965/12/17	不明	165	頁岩	89.6	99.9	32.2	329.3	自然面の残る剥片	AI055	106	
168	6	削器	不明	Ⅱ-0(1)	砂層	頁岩	76.7	111.1	21.0	181.0	自然面の残る剥片		107	
168	7	スクレイパー	不明	不明	不明	グリーンタフ	5.5	5.4	2.0	58.8	自然面の残る剥片		20433	583
182	1	石鏃	1967/4/23	V	35-55	チャート	1.5	1.4	0.3	0.5	剥片		25	41
182	2	石鏃	1967/4/23	V	35-55	黒曜石	1.8	1.1	0.4	0.3	剥片		22	636
182	3	石鏃	1969/4/23	V	55-75	黒曜石	3.0	1.8	0.5	1.7	剥片	灰が付着	89	46
182	4	石鏃	1967/4/23	V	55-75	黒曜石	2.5	1.5	0.3	1.1	剥片		171	54
182	5	石鏃	1967/7/23	V-2	60-70	チャート	2.8	1.7	0.4	1.2	剥片		30	42
182	6	石鏃	1967/7/23	V-2	65-75	黒曜石	1.9	1.6	0.4	0.8	剥片		48	44
182	7	石鏃	1967/7/23	V-2	65-75	黒曜石	1.1	1.1	0.2	0.2	剥片		81	164
182	8	石鏃	1967/7/23	V-2	80	チャート	1.7	1.7	0.3	0.6	剥片		58	45
182	9	石鏃	1967/7/24	V-2	100-120	黒曜石	2.3	1.8	0.5	1.7	剥片		153	53
182	10	石鏃	1967/7/24	V-2	100-120	黒曜石	2.4	1.7	0.3	0.6	剥片		155	T2
182	11	石鏃	1967/7/23	V	110-120	黒曜石	1.8	1.6	0.4	0.8	剥片		241	56
182	12	石鏃	1967/7/23	V-1	110-120	チャート	2.4	1.6	0.4	1.4	剥片		123	52
182	13	石鏃	1967/7/28	V-1	110-120	チャート	2.0	1.4	0.6	1.4	剥片		310	60
182	14	石鏃	1968/5/20	V-4	115-130	黒曜石	1.3	1.0	0.2	0.2	剥片		111	637
182	15	石鏃	1968/5/20	V-4	115-130	チャート	1.7	1.5	0.4	0.9	自然面の残る剥片		107	47
182	16	石鏃	1968/5/20	V-4	115-130	チャート	1.7	1.4	0.3	0.5	剥片		108	167
182	17	石鏃	1967/7/23	V-1	120-130	黒曜石	2.6	1.6	0.4	1.0	剥片		254	58
182	18	石鏃	1967/7/23	V-1	120-130	黒曜石	2.0	2.0	0.4	1.8	剥片		255	59
182	19	石鏃	1967/7/24	V-1	130	黒曜石	2.8	1.3	0.4	1.2	剥片		240	55
182	20	石鏃	1967/7/25	V-2	120-140	黒曜石	2.6	1.8	0.3	1.1	剥片		118	48
182	21	石鏃	1967/7/25	V-2	120-140	チャート	2.3	2.1	0.4	1.4	剥片		119	49
182	22	石鏃	1967/7/25	V-2	120-140	チャート	2.2	1.7	0.5	1.3	剥片		120	50
182	23	石鏃	1967/7/25	V-2	120-140	チャート	2.0	1.6	0.3	0.7	剥片		121	51
182	24	石鏃	1967/7/26	V-2	150	チャート	1.4	1.4	0.2	0.5	剥片		31	43
182	25	石鏃	1968/5/19	V-1	170-200	チャート	2.7	1.6	0.5	1.8	剥片		242	57
182	26	石鏃	1967/7/27	V	220-240	黒曜石	1.4	1.3	0.2	0.3	剥片		51	7
182	27	石鏃	1967/7/27	V	220-240	黒曜石	1.6	1.4	0.2	0.4	剥片		52	8
183	1	拇指状搔器	?/8/18	V	250-260	黒曜石	1.8	1.2	0.7	1.3	両極剥片		5146	597
183	2	石錐	1967/7/24	V-2	80-90	黒曜石	3.0	1.5	0.6	2.1	自然面の残る剥片		596	663
183	3	スクレイパー	1967/7/24	(V or II)	80-90	チャート	6.0	3.3	0.9	16.6	剥片		594	562
183	4	スクレイパー	1967/7/25	V-2	120-140	黒曜石	3.5	1.6	1.1	6.0	残核		5106	580
183	5	スクレイパー	1967/7/24	V-1	130-140	黒曜石	5.2	2.5	1.8	16.3	原石		5151	213
183	6	スクレイパー	1968	V-1	170-200	黒曜石	4.8	4.0	1.1	18.5	自然面の残る剥片		5143	581
183	7	削器	1967/4/22	V	120	頁岩	69.2	107.4	16.4	84.1	原石		66	
183	8	原石	1968/5/19	V	170-180	水晶	3.5	0.9	0.8	3.3	原石		5150	634

付表2 剥片石器観察表 (10)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	注記	実測 番号	
169	1	磨石	1965/12/15	不明	25	花崗岩	178.3	110.4	43.5	1374.8		102	
169	2	磨石	1966/8/17	Ⅲ-1	235-240	安山岩	125.5	74.3	48.1	725.1		100	
169	3	磨石	1966/8/19	Ⅲ-2	280	砂岩	84.2	68.6	38.9	333.1		67	
169	4	凹石	1968/4/23	Ⅱ	317	砂岩	91.5	89.8	40.1	464.2	表面深い凹・裏面浅い凹	20388	1
169	5	凹石	1968/5/?	Ⅱ-2	340	安山岩	95.1	87.2	43.3	398.8	裏面深い凹		87
169	6	凹石	不明	(Ⅲ-1)	340-350	安山岩	105.2	86.7	35.6	378.9	表裏面深い凹	20398	130
170	1	凹石	1968/5/?	Ⅱ-2	390	安山岩	144.1	79.6	43.6	673.6	表裏面やや浅い凹	20390	2
170	2	磨石	1968/5/?	Ⅱ-2	390	花崗岩	94.0	100.9	41.2	569.7			98
170	3	砥石?	1968/5/18	Ⅲ-3	390	砂岩	105.6	80.8	21.9	237.4			93
170	4	磨石	1968/7/?	Ⅱ-3	400	頁岩	107.3	89.8	24.7	409.9			92
170	5	凹石	1968/5/?	Ⅱ-2	405	砂岩	111.6	82.1	35.8	450.1	表裏面深い凹	20409	3
170	6	凹石	不明	Ⅱ-3	420	安山岩	70.4	79.8	51.5	378.4	表面深い凹		86
170	7	凹石	不明	Ⅰ-3	430	砂岩	81.9	65.3	40.6	287.1	表裏面深い凹	20386	128
170	8	凹石?	不明	Ⅱ-3	430	花崗岩	104.6	54.2	35.2	304.8	両面アバタ状		73
171	1	凹石	1968/7/?	Ⅱ-3	430	砂岩	147.5	110.7	65.8	1505.4	裏面深い凹		109
171	2	凹石	1968/7/?	Ⅱ-2	440	安山岩	68.9	101.5	41.9	411.3	両面深い凹		85
171	3	磨石	1968	Ⅲ-2	440	安山岩	103.1	72.1	26.0	253.4		20400	56
171	4	凹石	1968/7/?	Ⅲ-0	450	安山岩	112.8	75.3	37.7	358.1	両面深い凹		84
171	5	磨石	1968/7/?	Ⅰ-0	450	安山岩	175.5	98.6	48.6	943.8			81
171	6	凹石	不明	Ⅲ-1	451	安山岩	86.0	67.7	44.2	344.9	両面深い凹		82
172	1	凹石	1968/5/?	Ⅱ-0	455	砂岩	86.4	86.8	32.6	359.3	表裏面浅い凹	20396	4
172	2	凹石	1968/5/?	Ⅱ-0	455	砂岩	74.2	66.8	30.9	210.4	表面深い凹・裏面浅い凹	20415	127
172	3	凹石	1968/5/?	Ⅱ-0	455	花崗岩	108.0	42.2	36.7	253.0	表面深い凹		72
172	4	凹石	1968/7/?	Ⅰ-0	460	安山岩	81.4	64.2	36.8	269.2	両面深い凹		69
172	5	磨石	1968/7/21	Ⅱ-2	460	安山岩	108.1	87.6	44.3	389.5			71
172	6	凹石	1970/10/19	Ⅳ-0	470	砂岩	85.5	67.2	40.9	297.1	表裏面やや浅い凹	20404	5
172	7	凹石	1969/5/16	Ⅲ-1	470	砂岩	84.0	76.9	42.2	320.1	両面深い凹		68
172	8	磨石	1969/5/?	Ⅱ-3	470	砂岩	62.8	91.8	33.9	271.1			70
172	9	磨石	1968/7/?	Ⅰ-0	470	砂岩	99.0	91.8	29.6	453.1			77
172	10	凹石(?)	不明	Ⅱ-1	470	花崗岩	160.7	92.9	31.6	838.1			88
173	1	凹石	1969/5/18	Ⅲ-2	480	砂岩	83.7	78.1	23.9	245.5	裏面わずかな凹	20401	6
173	2	凹石	不明	Ⅰ-1	480	砂岩	105.4	95.0	37.7	518.8	両面やや浅い凹み		83
173	3	凹石	1970/6/13	Ⅰ-2	483	安山岩	89.0	71.8	51.2	403.8	表裏面やや深い凹	20413	7
173	4	凹石?	1969/5/?	Ⅱ-3	485	安山岩	129.9	77.7	56.5	719.5	表面やや深い凹		91
173	5	磨石	1970/10/20	Ⅰ-0	480-490	砂岩	121.0	104.2	34.4	640.4			80
173	6	磨石	1970/10/?	Ⅱ-1	490	閃緑岩	115.0	84.4	35.5	501.5			76
173	7	磨石	不明	Ⅱ-1	490	安山岩	128.0	95.2	59.9	1080.9		20394	58
173	8	凹石?	1970/6/12	Ⅲ-0	490-500	安山岩	93.5	63.8	45.4	349.9	両面やや深い凹み		94
174	1	磨石	1970/5/23	不明	495	安山岩	113.5	78.7	42.7	522.6	両面凹凸あり	20408	59
174	2	磨石	1970/10/19	Ⅳ-0	500	安山岩	116.9	97.4	57.5	745.5	裏面に浅く大きな凹み	20402	60
174	3	凹石	1970/10/18	Ⅱ-1	502	砂岩	103.6	74.1	34.1	403.7	両面深い凹	20405	129
174	4	凹石	1970/10/18	Ⅱ-0	512	安山岩	76.1	61.3	30.9	190.5	両面やや深い凹	20387	8
174	5	凹石	不明	Ⅱ-1	515	砂岩	114.2	68.9	38.2	400.0	表面やや深い凹・裏面浅い凹	20410	9
174	6	凹石?	1970/10/17	Ⅱ-0	520	頁岩	115.7	95.4	38.5	580.9	表面アバタ状		90
174	7	凹石?	1970/10/29	Ⅱ-1	520	砂岩	115.5	89.8	41.0	648.5	両面アバタ状	20391	61
174	8	凹石	1970/10/19	Ⅲ-1	530	安山岩	119.2	73.8	52.3	476.1	表面深い凹・裏面浅い凹	20395	131
175	1	凹石?	1970/10/21	Ⅳ-0	540	花崗岩	124.2	88.8	42.1	608.4	両面アバタ状		79
175	2	磨石	?/10/21	Ⅳ-1	585	砂岩	97.8	89.8	29.9	389.4		20392	63
175	3	凹石?	1968/5/30	Ⅰ-0	クズレ	安山岩	98.8	92.5	45.9	698.7	両面アバタ状		95
175	4	凹石?	1965/12/?	不明	(163)	安山岩	113.7	80.7	41.9	516.3	表面アバタ状		97
175	5	凹石?	1965/12/16	不明	不明	安山岩	126.0	83.2	47.8	729.6	表面極浅い凹		89
175	6	凹石	1967/4/?	不明	不明	安山岩	70.3	91.8	31.7	320.0	表面極浅い凹・裏面大い浅い凹み		96
176	1	磨石	1968/2/?	不明	不明	砂岩	127.2	104.6	32.1	605.5			99
176	2	特殊磨石	1968/5/17	Ⅱ-3	365	砂岩	165.2	83.2	70.6	1187.1		20389	133
176	3	特殊磨石	1967/7/22	Ⅲ	不明	砂岩	114.1	77.4	65.3	732.2		20406	64
177	1	台石?	1970/10/21	Ⅳ-1	565	砂岩	231.0	174.0	93.3	3909.9			110
177	2	台石?	1970/6/12	不明	不明	砂岩	223.3	180.0	46.7	2353.3			108
178	1	ハンマー	1968/7/?	Ⅲ-2	470	砂岩	143.9	69.9	40.6	559.8			78
178	2	ハンマー	1969/5/?	Ⅲ-1	475	安山岩	82.8	47.8	20.0	101.8		20399	57
178	3	ハンマー	1969/5/?	Ⅱ-1	475	安山岩	69.3	54.6	16.9	95.2			74
178	4	ハンマー	1970/10/19	Ⅱ-0	514	砂岩	111.0	35.9	30.5	172.3			75
178	5	ハンマー	1970/10/20	Ⅲ-1	545	安山岩	61.8	55.3	29.0	127.1		20393	62
179	1	砥石	1965/12/15	不明	30	砂質頁岩	38.4	48.9	16.3	39.9		37	10
179	2	砥石	1965/12/15	不明	40	頁岩	80.3	30.6	14.2	50.1		43	11
179	3	砥石	1967/7/24	(Ⅰ or Ⅴ)	120-140	砂岩	63.9	62.0	16.5	85.7	表裏に2条づつ	5115	125
179	4	砥石	1966	Ⅱ	219	砂岩	29.8	28.1	8.3	9.0	溝・四角	251	119
179	5	砥石	不明	Ⅱ-1	240	砂岩	32.3	36.6	6.4	6.8	浅い溝・折れ	20336	38
179	6	砥石	1966/5/17	Ⅰ?	250	頁岩	116.1	30.0	7.6	42.6		192	12
179	7	砥石	1966/8/18	Ⅲ-2	260-270	頁岩	39.6	38.4	5.5	11.0		3317	29
179	8	砥石	?/8/19	Ⅲ	270-280	砂岩	36.6	19.4	8.6	7.0	糸巻き・折れ?	3337	30
179	9	砥石	1966/8/19	Ⅱ	270-280	砂岩	38.3	35.5	9.3	15.7		2429	23
179	10	砥石	1966/8/19	Ⅱ	270-280	砂岩	35.6	33.2	8.8	8.7	溝・糸巻き	2430	24
179	11	砥石	1967/4/23	Ⅲ	300-310	砂岩	47.6	46.1	12.1	29.6	溝十字・四角・折れ?	341	15
179	12	砥石	1967/4/22	Ⅱ	316	砂岩	74.5	41.1	11.5	47.0	糸巻き・凹み	362	124
179	13	砥石	?/7/24	Ⅱ	320-330	砂岩	55.7	48.6	15.5	54.9	溝・糸巻き?	364	16
179	14	砥石	1967/4/23	Ⅰ	320-330	砂岩	65.6	36.0	9.5	21.5	溝・糸巻き	357	120
179	15	砥石	(1997/7/23)	不明	320-330	砂岩	45.0	47.9	12.1	28.1	糸巻き	298	14
179	16	砥石	不明	Ⅰ	323	砂岩	49.1	49.9	11.3	40.5	溝十時・四角	295	13

付表3 礫石器観察表(1)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	注記	実測 番号	
179	17	磁石	1968/7/?	Ⅲ-3	335	砂岩	68.2	60.5	16.2	101.6	溝・四角	20316	32
179	18	磁石	1967/7/24	Ⅱ	350	砂岩	62.0	43.5	14.7	51.0	浅い溝・糸巻き	363	121
179	19	磁石	1968/7/27	Ⅲ-0	350	砂岩	45.9	39.0	12.0	29.5	四角・折れ?	20348	46
179	20	磁石	1967/7/24	Ⅲ-1	350-360	頁岩	65.1	26.4	6.5	17.1		3129	26
179	21	磁石	1967/7/26	トレンチ	380-390	砂岩	87.9	63.7	15.2	127.2	浅い溝・糸巻き	352	126
179	22	磁石	不明	Ⅱ-3	380-390	砂岩	32.9	27.7	8.4	6.9	溝・折れ	20340	41
180	1	磁石	1968/5/18	Ⅲ-2	380-410	砂岩	86.8	57.1	10.5	58.6	浅い溝	20374	51
180	2	磁石	1968/5/18	Ⅲ-2	380-410	砂岩	64.4	54.2	12.9	47.7	溝	382	17
180	3	磁石	1968/5/?	Ⅱ-2	420	砂岩	55.6	63.9	13.9	59.7	表裏溝複数・四角・折れ	20349	47
180	4	磁石	1968/7/?	Ⅲ-3	420	砂岩?	69.6	74.3	16.3	72.8	溝・折れ	20326	34
180	5	磁石	1968/7/?	Ⅱ-2	430-440	砂岩?花崗岩?	96.2	52.3	17.4	98.7		20338	39
180	6	磁石	1968	Ⅲ-2	434	砂岩	58.6	70.7	11.5	64.0	浅い溝・四角?・折れ	20328	35
180	7	磁石	1968/7/?	Ⅲ-1	440	砂岩	68.0	48.0	12.8	42.5	溝・糸巻き・折れ	20344	42
180	8	磁石	1968/7/29	Ⅲ-3	440	砂質頁岩	45.9	54.1	5.7	18.7	極薄・線状痕・糸巻き・折れ	3156	28
180	9	磁石	1967/7/28	Ⅲ-2	450	砂岩	44.8	52.0	18.1	44.0	四角・折れ?	20334	36
180	10	磁石	1967/7/28	Ⅲ-2	450	砂岩?	41.7	37.5	10.7	16.7	溝・折れ・糸巻き?	20339	40
180	11	磁石	1967/7/28	Ⅲ-2	450	砂岩	32.3	35.1	7.3	9.0	折れ	20379	53
180	12	磁石	1968/7/?	Ⅲ-1	453	砂岩	103.9	57.3	17.9	114.1		20350	48
180	13	磁石	1968/7/29	Ⅲ-1	453	砂岩	33.0	46.6	14.9	32.6	溝・四角・折れ	20345	43
180	14	磁石	1968/7/?	Ⅲ-0	455	砂岩	59.4	124.8	12.6	108.2		20403	117
180	15	磁石	1968/7/29	Ⅱ-2	460	砂岩	31.2	21.7	7.5	8.7	小型四角	2223	19
181	1	磁石	1968/7/?	Ⅱ-0	470	砂岩	107.0	60.2	16.1	136.5		20382	55
181	2	磁石	1969/5/?	Ⅱ-4	470	砂岩	63.1	64.5	9.8	42.2	溝・糸巻き・折れ	20317	118
181	3	磁石	?/5/17	Ⅱ-2	470-480	砂岩	50.3	43.0	8.4	23.4	浅い溝・折れ	2236	20
181	4	磁石	1968/7/27	I-0	470-480	頁岩	67.1	27.6	8.6	22.8		1194	18
181	5	磁石	不明	Ⅲ-2	475	砂岩	48.6	53.4	16.2	61.1		20352	49
181	6	磁石	1969/5/17	Ⅲ-2	480	頁岩	11.7	19.8	5.2	1.6	小破片	3148	27
181	7	磁石	1969/5/18	Ⅱ-0	485-490	砂岩	53.7	34.3	8.2	16.1	浅い溝・折れ	2281	22
181	8	磁石	1969/5/?	Ⅱ-2	495	砂岩	63.5	40.6	11.2	40.0	へこみ・四角・折れ	20347	45
181	9	磁石	?/10/19	Ⅳ-0	500	砂岩	110.2	62.9	12.8	73.5	溝?	20380	54
181	10	磁石	1970/10/18	Ⅱ-3	500	砂岩	72.4	47.3	11.1	36.0	浅い溝・糸巻き	2424	122
181	11	磁石	不明	Ⅲ-1	500-510	砂岩	52.5	28.4	7.7	16.7	浅い溝・四角	20320	33
181	12	磁石	1970/10/18	Ⅱ-0	510	砂質頁岩?	68.1	47.0	9.4	30.9	線条痕	2270	21
181	13	磁石	1970/10/?	Ⅱ-2	522	砂岩	75.5	37.4	12.3	34.0	糸巻き・折れ	20363	50
181	14	磁石	1970/6/?	Ⅲ-2	525	砂質頁岩	47.4	49.0	4.6	13.8	極薄・線状痕	20375	52
181	15	磁石	1970/10/?	Ⅱ-0	529	砂岩	56.4	40.5	9.9	18.5	溝・糸巻き・折れ?	20335	37
181	16	磁石	1970/10/19	Ⅱ-1	530	砂岩??	107.4	73.1	11.8	136.0	表裏に2条づつ	2433	25
181	17	磁石	不明	Ⅲ-2	540-550	砂岩	33.6	39.0	10.1	18.0	溝・四角・折れ	20346	44
181	18	磁石	1968/5/19	Ⅱ-0	不明	砂岩	46.8	59.8	17.4	55.8	溝・半円	2106	123
184	1	磁石	1967/4/23	V	55-75	頁岩	30.1	25.5	6.5	9.3	四角・線条痕?	5147	31
184	2	磨石(敲打あり)	1967/7/25	V-2	90	砂岩	129.8	87.7	59.4	888.4			101
184	3	特殊磨石	1967/7/22	V	100	頁岩	128.2	68.8	67.2	774.9		20397	132
184	4	特殊磨石	1967/7/23	V	不明	砂岩	190.3	111.9	58.9	1628.4		20414	65

付表3 礫石器観察表(2)

図版番号	器種	発掘年月日	区画	レベル	種	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	注記	実測 番号
185 1	縫針	1971/7/16	奥の院	320	不明	不明	52.7	2.3	1.5	0.2	栃原新聞第16号から		43
185 2	縫針	1970/6/15	II-1	497	不明	不明	39.5	2.2	1.7	0.2	栃原新聞第5号から		42
185 3	縫針	不明	III-2	534	不明	不明	32.3	2.2	1.6	0.1			2
185 4	縫針	1970/10/20	III-1	541	不明	不明	50.1	1.7	2.0	0.2	栃原新聞第10号から		3
185 5	縫針	不明	不明	不明	不明	不明	31.7	1.5	1.1	9.1			41
185 6	縫針?	不明	不明	不明	不明	不明	25.3	2.6	2.1	0.2			1
185 7	縫針?	不明	II-2	480-490	不明	不明	48.0	3.8	2.8	0.6		2372	4
185 8	縫針?	1968/7/27	III-0	450	不明	不明	41.4	4.6	2.5	0.7		3249	28
185 9	針?	不明	I-4	450	不明	不明	62.3	4.4	3.0	0.9			17
185 10	針?	1970/6/13	III-2	500-510	不明	不明	79.1	6.9	2.9	1.7	栃原新聞第4号から		16
185 11	針?	1967/7/26	IV	421	不明	不明	67.1	7.9	2.8	1.8		419	139
185 12	装身具?	不明	III?	460	不明	不明	69.7	5.9	2.8	1.6	栃原新聞第6号から	3	138
185 13	装身具?	不明	不明	不明	不明	不明	85.6	5.7	3.6	2.0		3???	27
185 14	装身具	不明	不明	不明	ツキノワグマ	遊離歯	53.2	17.9	9.3	5.9			66
185 15	装身具	不明	不明	(250)	オオカミ	遊離歯	---	---	---	---	実物不明		
185 16	装身具?	不明	不明	480	アオザメ	歯	17.9	15.2	3.0	0.5	長野県史から		14
185 17	装身具?	不明	不明	275	不明	不明	21.9	10.7	1.8	0.3	栃原新聞第6号から		58
186 1	釣針	不明	不明	不明	不明	不明	26.1	10.6	2.0	0.2			7
186 2	釣針未製品	不明	不明	不明	不明	不明	18.9	8.3	2.2	0.2			8
186 3	釣針	不明	不明	不明	不明	不明	23.8	6.5	2.8	0.2			46
186 4	釣針未製品	不明	不明	410	不明	不明	27.1	9.7	2.4	0.4			12
186 5	釣針未製品	不明	不明	445	不明	不明	35.9	13.0	3.6	1.0	栃原新聞第6号から	326?	44
186 6	釣針未製品	1968/7/26	奥の院	310-320	不明	不明	42.8	13.6	5.0	1.2		3250	10
186 7	釣針未製品	1970/6/14	II-1	500-510	不明	不明	29.5	11.5	3.6	0.7	栃原新聞第5号から		11
186 8	釣針未製品	不明	不明	不明	不明	不明	23.1	9.3	2.3	0.3			45
186 9	釣針未製品	不明	III-3	490-500	不明	不明	72.6	11.1	7.9	2.5		3262	71
186 10	直釣針	1968/5/20	II-2	429	不明	不明	37.2	4.1	2.0	0.2		2346	9
186 11	直釣針	1970/6/13	I-拡	480-490	不明	不明	29.8	2.8	1.2	0.1		1240	49
186 12	直釣針	不明	不明	不明	不明	不明	36.2	2.7	1.7	0.1			5
186 13	直釣針	不明	不明	不明	不明	不明	25.2	2.2	2.2	0.1			6
186 14	直釣針	1968/5/20	II-2	429	不明	不明	47.0	8.1	4.1	1.3	栃原新聞第6号から	2346	47
186 15	直釣針?	不明	不明	不明	不明	不明	35.0	4.9	4.5	0.8			48
186 16	ヘラ状有孔製品	不明	III-2	450	不明	不明	46.0	15.8	2.2	1.6			25
186 17	ヘラ状有孔製品	不明	不明	不明	不明	不明	30.3	13.3	2.7	0.5			15
186 18	ヘラ状有孔製品	1968/7/28	I-0	480	不明	不明	19.7	11.9	2.8	0.5	焼け	320	13
186 19	ヘラ状有孔製品	1968/7/28	III-1	440-450	不明	不明	29.0	7.8	2.6	0.4		3247	24
186 20	ヘラ状有孔製品	1966/8/19	II-2	280-290	不明	不明	36.1	11.9	2.5	0.9		2325	26
187 1	刺突具状製品	1968/7/26	III-3	330-340	ニホンジカ	中手骨?	66.3	15.2	4.3	4.0	焼け?	3243	22
187 2	刺突具状製品	1968/8/18	(II)	392	不明	不明	62.0	12.1	2.2	1.7	栃原新聞第6号から	(3242)	21
187 3	刺突具状製品	1966/5/?	奥の院	217	ニホンジカ	中手骨?	82.9	8.8	4.4	3.4		2303	19
187 4	刺突具状製品	不明	不明	不明	ニホンジカ?	中足骨?	50.9	14.4	5.4	2.7	焼け		23
187 5	刺突具状製品	不明	(I)	不明	ニホンジカ?	四肢骨	124.5	10.2	7.7	7.2			82
187 6	刺突具状製品	不明	不明	不明	不明	不明	86.7	8.9	4.3	3.4			60
187 7	刺突具状製品	1966/5/13	奥の院	300-310	ニホンジカ	中手骨?	81.5	10.1	9.1	3.8	栃原新聞第16号から	(1314)	20
187 8	装身具?	1966/8/18	III	260-270	不明	不明	50.2	9.7	2.6	1.0		3217	140
187 9	装身具?	1968/7/25	II-0	470	不明	不明	53.8	9.7	2.6	1.0		2361	18
187 10	装身具?	1968/7/26	III-3	385	不明	不明	95.7	7.8	4.1	3.1	焼け?	3266	57
187 11	装身具?	(1970/10/19)	III-3	480-490	不明	不明	74.2	5.5	5.1	2.1		3284	29
188 1	尺骨製刺突具状製品	1966/5/16	III	(200前後)	ニホンジカ	尺骨	115.1	43.4	22.5	19.5		3203	69
188 2	尺骨製刺突具状製品	不明	III	212	ニホンジカ	尺骨	121.3	36.0	19.9	8.1			37
188 3	尺骨製刺突具状製品	1965/5/17	II	250	ニホンジカ	尺骨	89.8	34.1	19.1	10.9		2306	36
188 4	尺骨製刺突具状製品	1967/4/22	II-2	308	ニホンジカ	尺骨	114.3	45.5	19.7	24.8		2332	35
189 1	尺骨製刺突具状製品	1968/5/18	I-3	370	ニホンジカ	尺骨	122.6	42.3	22.5	11.4		1322	34
189 2	尺骨製刺突具状製品	1968/5/20	II-0	455	偶蹄目	尺骨	100.0	46.9	21.7	19.5		2344	67
189 3	尺骨製刺突具状製品	不明	不明	不明	ニホンジカ	尺骨	99.6	45.4	19.2	17.9			68
189 4	尺骨製刺突具状製品	1966/4/23	III-2	320-330	ニホンジカ	尺骨	95.1	46.0	21.0	16.2		2333	70
190 1	刺突具状製品	不明	III	212	ニホンジカ	中足骨?	111.5	16.3	8.9	7.6			32
190 2	刺突具状製品	1967	III	300-310	ニホンジカ	中足骨	109.1	16.0	13.3	7.0		3237	39
190 3	刺突具状製品	1970/10/16	III-3	438	ニホンジカ	中足骨	171.0	25.6	9.8	27.2	栃原新聞7号から		137
191 1	ヘラ状製品	1967/7/23	III-2	330	ニホンジカ	中手骨?	134.5	25.5	12.0	13.2		3226	30
191 2	ヘラ状製品	1967/7/24	II-2	350	ニホンジカ	中足骨	125.3	23.9	14.7	15.7		2337	33
191 3	ヘラ状製品	1967/7/24	II-2	340-350	ニホンジカ	中足骨	158.5	25.7	11.6	20.0		2330	31
191 4	ヘラ状製品	1967/4/21	I-2	240			116.1	20.8	9.9	8.8		1316	83
191 5	ヘラ状製品	1966/5/16	I	不明(灰層内)	ニホンジカ	中足骨	123.6	17.4	7.4	14.1	焼け	1301	80
191 6	ヘラ状製品	不明	不明	不明	ニホンジカ?	四肢骨	124.4	20.4	6.8	11.5		0150	81
192 1	イノシシ牙製品	不明	I	220	イノシシ	遊離歯	49.7	26.1	9.4	2.2		1110	62
192 2	イノシシ牙製品	1967/7/23	III-3	320-330	イノシシ	遊離歯	55.6	23.4	8.4	4.4		3235	64
192 3	イノシシ牙製品	1967/7/23	III-3	320-330	イノシシ	遊離歯	59.1	16.7	7.0	2.1		3235	55
192 4	イノシシ牙製品	1960/10/22	II-0	540	イノシシ	遊離歯	54.8	24.7	10.2	3.6		2337	54
192 5	イノシシ牙製品	1971/7/14	I-3	510	イノシシ	遊離歯	58.1	21.3	11.1	2.6	栃原新聞第15号から	1371	53
192 6	イノシシ牙製品	不明	II	不明	イノシシ	遊離歯	61.5	21.3	8.9	6.6			63
192 7	イノシシ牙製品	1970/10/21	III-1	540	イノシシ	遊離歯	72.1	30.6	15.4	4.1	栃原新聞第10号から	(3021)	56
192 8	イノシシ牙製品	不明	III	不明	イノシシ	遊離歯	37.2	22.0	5.0	3.2			65
193 1	不定形骨製品	1966/8/18	III-2	260-270	ニホンジカ?	四肢骨	103.9	18.2	16.8	9.1		3208	50
193 2	不定形骨製品	1966/8/18	III-2	260-270	不明	不明	75.5	13.7	5.5	1.9		3208	79
193 3	不定形骨製品	1968/7/26	III-3	380-390	不明	四肢骨	92.6	22.6	9.7	8.8		3265	75
193 4	不定形骨製品	1968/7/21	I-3	400	不明	四肢骨	88.7	20.1	13.1	7.9		1326	52
193 5	不定形骨製品	不明	III-2	420-430	不明	不明	91.5	13.9	6.2	3.6			76
193 6	不定形骨製品	(1969/5/19)	III-2	490	ニホンジカ	中足骨	80.5	13.9	6.5	4.8		3959	51
193 7	不定形骨製品	1970/6/13	I 拡	480-490	不明	不明	54.3	8.6	4.9	2.2		1239	77
193 8	不定形骨製品	不明	不明	不明	不明	不明	59.4	11.1	10.5	2.6			78

付表4 骨角器観察表(1)

図版番号	器械	発掘年月日	区画	レベル	種	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	注記	実測 番号	
193	9	不定形骨製品	不明	II	不明	ニホンジカ	中足骨?	58.5	10.5	6.4	2.5		59	
193	10	不定形骨製品	1966/5/13	II	171	ニホンザル	尺骨	110.6	17.3	13.7	7.0	2302	38	
194	1	不定形骨製品	1970/10/20	II-2	525	ニホンジカ?	四肢骨	131.4	22.9	10.1	14.2		72	
194	2	不定形骨製品	1968/7/26	III-2	460	ニホンジカ	中手骨?	68.1	12.8	5.7	3.5	3241	74	
194	3	不定形骨製品	1968/7/21	II-3	420-430	不明	不明	53.4	8.0	3.6	1.6	焼け	2235	61
194	4	不定形骨製品	不明	III	不明	ニホンジカ	尺骨	96.2	11.9	7.3	3.5	3010	73	
195	1	加工痕のあるシカ角	不明	II	230	ニホンジカ	角	105.9	24.7	12.5	14.3		96	
195	1	加工痕のあるシカ角	不明	不明	不明	ニホンジカ	角	208.2	53.7	13.8	34.8		99	
195	2	加工痕のあるシカ角	不明	III-2	584	ニホンジカ	角	145.5	28.7	41.7	34.7	焼け	97	
195	3	加工痕のあるシカ角	不明	不明	不明	ニホンジカ	角	89.0	16.6	11.4	9.7		95	
195	4	加工痕のあるシカ角	1966/8/19	III-1	185	ニホンジカ	角	120.1	43.5	16.3	22.6	3210	98	
196	1	加工痕のある骨	1967/4/23	III-3	300-310	ニホンジカ	四肢骨	81.1	13.0	10.7	8.8	剥離痕	127	
196	2	加工痕のある骨	不明	不明	不明	ニホンジカ	中足骨	111.8	20.2	11.6	12.2	剥離痕・カットマーク	121	
196	3	加工痕のある骨	1966/5/16	II	不明	ニホンジカ	中足骨	127.6	34.9	25.3	28.1	剥離痕	135	
196	4	加工痕のある骨	不明	II-3	420-430	ニホンジカ	上腕骨	71.6	49.2	44.3	37.1	剥離痕	40112	116
196	5	加工痕のある骨	不明	I	490-500	ニホンジカ	中足骨	86.3	30.9	23.4	21.6	剥離痕	123	
196	6	加工痕のある骨	不明	II	490-500	ニホンジカ	中足骨	79.5	30.3	20.5	14.3	剥離痕	122	
197	1	加工痕のある骨	1968/8/17	III-1	235-240	ニホンジカ	脛骨	114.5	39.0	29.5	42.6	剥離痕	136	
197	2	加工痕のある骨	1966/8/17	III-1	230-240	ニホンジカ	四肢骨	80.3	32.9	14.7	13.7	スパイラル剥片か	133	
197	3	加工痕のある骨	1966/5/10	中央配石	228-264	ニホンジカ	四肢骨	100.3	23.0	11.7	13.3	カットマーク・焼け	100	
197	4	加工痕のある骨	1966/5/16	中央配石	228-264	ニホンジカ?	四肢骨	77.4	18.6	18.8	9.5	スパイラル剥片か・焼け	117	
197	5	加工痕のある骨	1967/4/22	III-2	300-310	ニホンジカ?	四肢骨	67.9	21.6	10.5	9.2	スパイラル剥片か・焼け	131	
198	1	加工痕のある骨	不明	II-0	480-490	ニホンジカ	橈骨	165.8	45.2	24.6	56.1	打撃痕	119	
198	2	加工痕のある骨	1967/7/26	トレンチ	390-400	ニホンジカ	四肢骨	75.5	12.6	13.7	5.8	スパイラル剥片か	130	
198	3	加工痕のある骨	1967/7/26	トレンチ	380-390	ニホンジカ	四肢骨	78.1	27.9	19.4	16.8	スパイラル剥片か	134	
198	4	加工痕のある骨	1969/5/16	III-1	450-460	ニホンジカ	四肢骨	60.7	13.1	8.6	2.8	スパイラル剥片か	132	
198	5	加工痕のある骨	不明	II-3	480-490	ニホンジカ	中手骨	106.2	23.2	17.1	21.5	スパイラル剥片か・カットマーク	120	
198	6	加工痕のある骨	1969/5/19	III-2	490-500	ニホンジカ	四肢骨	79.9	25.0	15.5	9.5	スパイラル剥片か	128	
198	7	加工痕のある骨	不明	II-1	500-510	ニホンジカ	中手足骨	68.3	21.0	15.5	12.7	スパイラル剥片か	126	
198	8	加工痕のある骨	1974/8/22	0-1	505-515	ニホンジカ	四肢骨	65.7	27.6	14.4	7.3	スパイラル剥片か	129	
198	9	加工痕のある骨	不明	II	520-530	ニホンジカ	中手足骨	80.3	23.1	12.6	13.2	スパイラル剥片か	125	
199	1	加工痕のある骨	不明	II	250	ニホンジカ	中足骨	150.8	33.9	32.9	41.6	カットマーク	109	
199	2	加工痕のある骨	1966/5/17	II	250	ニホンジカ	上腕骨	73.8	39.3	40.1	21.2	カットマーク	102	
199	3	加工痕のある骨	不明	II-1	510-520	ニホンジカ	中足骨	213.1	21.9	13.9	34.0	カットマーク	110	
199	4	加工痕のある骨	不明	II-3	470-480	ニホンジカ	中足骨	45.5	28.2	14.9	10.0	カットマーク	104	
199	5	加工痕のある骨	不明	IV-1	550-560	ニホンジカ	尺骨	68.1	35.2	22.5	13.6	カットマーク	92	
199	6	加工痕のある骨	不明	奥の院	不明	ニホンジカ	尺骨	85.4	54.4	2.4	24.7	カットマーク	108	
199	7	加工痕のある骨	不明	III-2	520-530	ニホンジカ	中足骨	47.5	25.4	12.5	6.8	噛み傷	106	
200	1	加工痕のある骨	1966/5/16	II	228-264	ニホンジカ	肋骨	95.6	46.2	14.5	4.5	カットマーク	103	
200	2	加工痕のある骨	1966/5/19	II-2	390-400	ニホンジカ	寛骨	98.1	68.1	13.4	19.6	カットマーク	111	
200	3	加工痕のある骨	不明	III-1	480-490	ニホンジカ	下顎骨	39.8	131.5	19.1	38.6	カットマーク	86	
200	4	加工痕のある骨	1970/10/17	III-1	500-510	ニホンジカ	下顎骨	70.3	92.6	19.9	41.6	カットマーク	87	
201	1	加工痕のある骨	1966/8/18	II-2	270-280	ニホンザル	橈骨	157.5	22.2	15.2	12.7	カットマーク	91	
201	2	加工痕のある骨	不明	III-1	466	ニホンザル	頭骨	46.4	63.1	13.3	6.9	カットマーク	90	
201	3	加工痕のある骨	不明	II-0	505-516	ニホンザル	上腕骨	45.1	38.0	23.4	7.9	打撃痕	124	
202	1	加工痕のある骨	1968/7/28	I-0	480	テン	下顎骨	13.9	39.8	5.7	1.4	カットマーク	84	
202	2	加工痕のある骨	不明	IV-0	490-500	カモシカ	上腕骨	39.6	39.2	25.0	14.5	カットマーク	88	
202	3	加工痕のある骨	1970/10/18	II-0	314	カモシカ	大腿骨	65.7	35.7	20.5	8.3	カットマーク	89	
202	4	加工痕のある骨	不明	II-0	460-470	ノウサギ	尺骨	72.4	13.6	7.6	0.9	カットマーク	101	
202	5	加工痕のある骨	1968/7/27	II-0	460-470	ムササビ	橈骨	82.7	7.3	7.8	1.3	カットマーク	85	
202	6	加工痕のある骨	不明	III-2	410	イノシシ	環椎	42.1	41.8	28.1	7.5	カットマーク	105	
202	7	加工痕のある骨	不明	I-0	520-530	イノシシ	下顎骨	53.0	120.9	26.8	26.4	カットマーク	94	
202	8	加工痕のある骨	1968/7/26	III-3	340-350	イノシシ	中足骨	90.8	20.7	20.6	16.8	カットマーク	93	
202	9	加工痕のある骨	不明	II-3	390-410	イノシシ?	大腿骨	94.5	53.2	33.7	37.1	打撃痕	40111	114
202	10	加工痕のある骨	1968/7/26	III-3	340-350	イノシシ	中手骨	51.9	26.5	16.0	7.7	カットマーク	113	
202	11	加工痕のある骨	1969/5/16	II-3	450	イノシシ	中手骨	62.6	15.7	13.7	4.5	カットマーク	112	
202	12	加工痕のある骨	不明	不明	不明	イノシシ	橈骨	112.9	47.6	32.1	54.0	カットマーク	107	
203	1	針	1967/?	V	170-180	不明	不明	3.2	0.5	0.3	0.6	焼け	5136	F5136
203	2	針	1967/7/28	V-3	460?	不明	不明	2.7	0.4	0.3	0.3		5137	F5137
203	3	針	1967/7/28	V-3	460?	不明	不明	2.8	0.4	0.3	0.4		5138	F5138
203	4	針	1967/7/28	V-1	120-140	不明	不明	2.0	0.6	0.2	0.2		5140	F5140
203	5	針?	1967/7/26	V-2	170	不明	不明	7.0	0.6	0.3	1.6		5204	F5204
203	6	不定形骨製品	1967/7/23	V	55-75	不明	不明	8.9	2.0	1.0	3.6		5202	F5202
203	7	不定形骨製品	1967/7/25	V-2	85-105	不明	不明	7.7	0.9	0.8	3.3		5205	F5205
203	8	不定形骨製品	1967/7/23	V-1	110-120	不明	不明	3.9	0.9	0.4	1.0	焼け	5101	F5101
203	9	不定形骨製品	1967/4/24	V-2	75-95	不明	不明	3.6	1.5	0.6	3.3	穿孔	5129	F5129
203	10	不定形骨製品	1967/7/23	V-2	65-75	不明	不明	4.7	1.1	0.4	2.5	両側面抉り	5130	F5130
203	11	へら状?	1967/7/24	V-2	100-120	不明	不明	2.3	0.8	0.2	0.5		5134	F5134
203	12	装身具?	1967/7/24	V-2	100-120	ツキノワグマ	犬歯	4.5	1.2	0.8	3.9		5135	F5135
203	13	不定形骨製品	1967/7/26	V-1	170-180	不明	不明	6.9	2.1	0.5	3.1	U字状抉り	5206	F5206
204	1	加工痕のあるシカ角	1967/4/23	V	55-75	ニホンジカ	角	122.4	68.7	25.3	39.5		40	
204	2	加工痕のある骨	不明	V-2	20-100	ニホンジカ	脛骨	121.5	38.7	29.8	37.1	打撃痕	40102	118
204	3	加工痕のある骨	不明	V-4	20-100	ニホンジカ	中足骨	137.1	32.2	24.5	31.0	打撃痕	40103	115

付表4 骨角器観察表(2)

図原番号	種	形態	発掘年月日	区画	レベル	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	注記等	実測 番号
205	1	メダカラガイ	輪状	1966/5/16	Ⅱ	230-240	13.9	8.3	5.1	0.3	切断面の一部を研磨・205-13、205-14、205-34と共伴	T2 S8 59
205	2	メダカラガイ	輪状	1966/8/18	Ⅱ	260-270	15.6	9.6	5.2	0.3	切断面の一部を研磨	T3 S2 60
205	3	メダカラガイ	輪状	1968/5/19	Ⅱ-2	380	15.6	9.7	4.7	0.5	切断面のほとんどを研磨・205-28と共伴	T6 S4 65
205	4	メダカラガイ	輪状	1968/5/18	Ⅱ-2	380-390	13.1	7.9	3.9	0.2	切断面全周を研磨	T6 S1 64
205	5	メダカラガイ	輪状	1970/6/14	I-掘	490-500	16.0	8.9	4.3	0.3	切断面のほとんどを研磨(一部割れ)	T9 S2 68
205	6	メダカラガイ	輪状	1970/10/17	Ⅱ-2	520	15.0	8.9	6.6	0.4	切断面一部のみ研磨	T10 S1 13
205	7	メダカラガイ	輪状	1966/5/15	-	-	16.7	9.8	5.9	0.4	切断面一部のみ研磨	T2 S3 57
205	8	メダカラガイ	輪状	1967/4/?	Ⅲ-奥	-	17.9	11.0	5.2	0.6	切断面一部のみ研磨・焼けて黒く変色か	T4 S5 61
205	9	メダカラガイ	輪状	1968/7/27	Ⅱ-2	420-430	20.2	12.3	6.8	0.9	切断面のほとんどを研磨・内面に赤色の痕跡	T7 S3 67
205	10	メダカラガイ	輪状	1968/7/27	I-0	458-470	14.6	8.7	4.4	0.3	切断面一部のみ研磨・内面に赤色の痕跡	T7 S2 66
205	11	メダカラガイ	輪状	1968/7/27	I-0	458-470	19.2	10.0	4.8	0.4	切断面一部のみ研磨・内面に赤色の痕跡	T7 S97 111
205	12	メダカラガイ	輪状	1970/6/14	I-掘	490-500	17.5	9.9	5.1	0.5	切断面一部のみ研磨・内面に赤色の痕跡	T9 S3 69
205	13	メダカラガイ	輪状・半欠	1966/5/16	Ⅱ	230-240	16.2	6.7	5.2	0.2	切断面一部のみ研磨	T2 S6 70
205	14	メダカラガイ	輪状・半欠	1966/5/16	Ⅱ	230-240	20.7	10.6	7.3	0.3	切断面研磨なし	T2 S7 71
205	15	メダカラガイ	輪状・一部のみ	1966/5/16	Ⅱ	230-240	8.9	7.0	4.6	0.1	切断面研磨なし	T2 S15 72
205	16	メダカラガイ	輪状・半欠	1966/8/20	Ⅱ-1	260-270	15.9	7.0	7.4	0.2	切断面研磨なし	T3 S74 79
205	17	メダカラガイ	輪状・半欠	1966/8/19	Ⅱ-2	280-290	15.3	6.4	4.0	0.1	切断面一部のみ研磨	T3 S16 76
205	18	メダカラガイ	輪状・半欠	1966/8/20	Ⅲ	280-290	16.0	7.5	4.1	0.2	切断面一部のみ研磨	T3 S19 77
205	19	メダカラガイ	輪状・半欠部分	1966/8/20	Ⅲ-2	280-290	14.4	7.0	4.9	0.2	切断面一部のみ研磨	T3 S23 78
205	20	メダカラガイ	輪状・半欠	1971/7/15	奥の院	300-310	16.8	5.8	5.3	0.2	切断面一部のみ研磨	T11 S2 17
205	21	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/4/23	Ⅱ-2	300-310	16.0	6.4	4.6	0.3	切断面一部のみ研磨	T4 S3 80
205	22	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/4/23	Ⅲ-1	310-320	17.9	7.0	5.4	0.3	切断面一部のみ研磨・205-22、23、24共伴	T4 S7 83
205	23	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/4/23	Ⅲ-1	310-320	19.0	8.3	5.4	0.4	切断面一部のみ研磨	T4 S8 84
205	24	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/4/23	Ⅲ-1	310-320	19.0	8.3	5.4	0.4	切断面一部のみ研磨	T4 S8 84
205	25	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/4/23	Ⅲ-2	320-330	18.9	7.8	8.2	0.3	やや灰色に変色	T4 S4 81
205	26	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/4/23	Ⅲ-1	320-330	14.9	8.4	6.3	0.2	切断面一部のみ研磨	T4 S6 82
205	27	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/7/24	Ⅲ-1	350-360	18.9	9.3	5.4	0.3	切断面一部のみ研磨	T5 S3 85
205	28	メダカラガイ	輪状・半欠	1968/5/19	Ⅲ-2	380	16.6	6.5	4.6	0.2	切断面のほとんどを研磨	T6 S3 89
205	29	メダカラガイ	輪状・半欠	1968/5/19	Ⅱ-2	400-410	17.2	7.0	3.9	0.2	切断面のほとんどを研磨	T6 S2 88
205	30	メダカラガイ	輪状・半欠	1970/6/13	Ⅱ-2	490-500	19.5	8.1	4.8	0.5	切断面のほとんどを研磨	T9 S1 91
205	31	メダカラガイ	輪状・一部のみ	1966/5/16	Ⅲ-1	-	11.8	8.1	6.1	0.2	切断面研磨なし	T2 S16 73
205	32	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/7/?	表探?	-	14.2	6.5	4.1	0.2	切断面のほとんどを研磨	T5 S6 86
205	33	メダカラガイ	輪状・半欠	1967/7/?	表探	-	14.8	4.9	4.3	0.1	切断面のほとんどを研磨	T5 S4 87
205	34	メダカラガイ	穴のみ加工	1966/5/16	Ⅱ	230-240	15.7	9.5	7.8	0.4	背面に研磨による穿孔	T2 S5 58
205	35	メダカラガイ	穴のみ加工	1967/7/?	-	-	18.6	11.3	9.1	1.1	背面に明瞭な研磨による穿孔	T5 S5 110
206	1	オミナエシダカラ	輪状・一部欠	1966/5/?	Ⅲ-2	-	26.7	16.0	8.8	1.4	切断面研磨なし	T2 S13 94
206	2	オミナエシダカラ	輪状・半欠	1970/6/?	-	-	25.3	8.3	5.5	0.6	切断面のほとんどを研磨・内面に赤色の痕跡	T9 S4 95
206	3	オミナエシダカラ	輪状・半欠	1970/6/?	-	-	24.7	9.6	7.1	0.5	切断面のほとんどを研磨・内面に赤色の痕跡	T9 S9 96
206	4	タカラガイ類	破損品?	1966/8/19	Ⅲ-2	280-290	12.0	6.7	8.3	0.2	切断面研磨なし	T3 S8 74
206	5	カモンダカラ	破損品?	1966/5/14	Ⅱ	230	21.4	10.7	8.7	0.6	切断面研磨なし	T2 S1 92
206	6	カモンダカラ	破損品?	1966/5/14	Ⅱ	230	20.8	10.3	6.1	0.4	切断面研磨なし	T2 S11 112
206	7	カモンダカラ	輪状・半欠	1966/8/17	Ⅲ-1	240-245	18.9	8.8	8.2	0.5	切断面研磨なし	T3 S5 93
206	8	メダカラガイ	加工無し	1967/7/23	Ⅲ-2	320-330	15.5	9.2	7.7	0.5	加工なし	T5 S18 63
206	9	メダカラガイ	殻背部	1966/8/19	Ⅱ-2	280-290	10.7	8.9	3.0	0.1	切断面研磨なし	T3 S16 75
206	10	メダカラガイ	殻背部	1966/8/18	Ⅱ	-	11.5	8.4	3.3	0.2	切断面研磨なし	T3 S3 104
206	11	タカラガイ類	殻背部	1967/4/22	I-1	174-184	11.2	10.2	3.5	0.2	切断面研磨なし	T4 S19 12
206	12	タカラガイ類	殻背部	1966/5/14	Ⅱ	219	22.2	16.7	7.2	1.0	切断面研磨なし	T2 S2 97
206	13	タカラガイ類	殻背部	1966/5/15	I	220	19.8	12.3	7.3	0.5	切断面研磨なし	T2 S9 99
206	14	タカラガイ類	殻背部	1971/7/14	奥の院	240-250	17.3	14.3	6.8	0.5	切断面研磨なし	T11 S1 16
206	15	タカラガイ類	殻背部	1966/8/18	Ⅲ	260-270	10.4	8.1	3.0	0.2	切断面研磨なし	T3 S9 105
206	16	タカラガイ類	殻背部	1966/8/18	Ⅲ	260-270	18.9	12.8	5.2	0.5	切断面研磨なし	T9 S15 106
206	17	タカラガイ類	殻背部	1966/5/16	Ⅱ	264	26.0	18.5	7.2	1.1	切断面研磨なし	T2 S18 103
206	18	タカラガイ類	殻背部	1967/4/21	Ⅲ-奥	280	19.4	15.5	5.3	0.7	切断面研磨なし	T4 S20 108
206	19	タカラガイ類	殻背部	1967/4/22	Ⅲ-2	300-310	11.5	10.0	4.4	0.2	切断面研磨なし	T4 S13 10
206	20	タカラガイ類	殻背部	1967/4/23	Ⅲ-2	310-320	13.8	12.1	4.6	0.3	切断面研磨なし	T4 S12 9
206	21	タカラガイ類	殻背部	1967/4/23	Ⅲ-2	310-320	10.2	9.1	5.0	0.2	切断面研磨なし	T4 S14 11
206	22	タカラガイ類	殻背部	1966/5/15	I	-	13.9	13.1	4.6	0.3	切断面研磨なし	T2 S4 98
206	23	タカラガイ類	殻背部	1966/5/?	I	-	22.0	13.0	5.5	0.4	切断面研磨なし	T2 S12 100
206	24	タカラガイ類	殻背部	1966/5/?	Ⅲ-2	-	16.5	17.5	6.6	0.8	切断面研磨なし	T2 S14 101
206	25	タカラガイ類	殻背部	1966/5/16	Ⅲ-1	-	16.3	13.0	4.8	0.5	切断面研磨なし	T2 S17 102
206	26	タカラガイ類	殻背部	1967/4/20	I-奥	-	14.7	13.7	4.6	0.5	切断面研磨なし	T4 S2 107
207	1	ツノガイ	筒状	1966/8/?	Ⅱ	217	15.6	5.7	5.1	0.3	切断面凹凸のある研磨	T3 S4 21
207	2	ツノガイ	筒状	1968/5/19	Ⅱ-2	380	15.3	7.1	7.2	0.6	切断面凹凸のある研磨	T6 S11 28
207	3	ツノガイ	筒状	1967/7/26	トレンチ	400-410	23.4	5.4	5.4	0.3	切断面研磨・灰色・207-4と共伴	T5 S7 22
207	4	ツノガイ	筒状・一部欠	1967/7/26	トレンチ	400-410	8.8	4.6	4.4	0.1	切断面弱い研磨・灰色	T8 S8 23
207	5	ツノガイ	筒状	1967/7/27	Ⅱ-2	400-410	21.6	5.2	4.5	0.3	切断面弱い研磨・縦方向に列溝あり	T5 S9 24
207	6	ツノガイ	筒状・一部欠	1967/7/27	Ⅳ	410-420	20.0	5.6	6.0	0.3	切断面研磨・表面光沢	T5 S10 1
207	7	ツノガイ	筒状	1968/7/27	Ⅱ-3	420-430	28.7	6.7	6.2	0.7	切断面凹凸のある研磨・207-8と共伴	T7 S5 29
207	8	ツノガイ	筒状	1968/7/27	Ⅱ-3	420-430	21.2	8.5	8.3	1.5	切断面研磨・表面光沢	T7 S4 114
207	9	ツノガイ	筒状・一部欠?加工?	1968/5/19	Ⅲ-1	430-440	31.6	6.8	5.7	0.7	切断面研磨・赤色の痕跡・下面に半円状の加工か	T6 S5 113
207	10	ツノガイ	筒状・一部欠	1968/5/19	Ⅲ-1	430-440	23.6	5.4	5.2	0.4	切断面やや弱い研磨	T6 S8 25
207	11	ツノガイ	筒状	1971/7/18	Ⅲ-2	440-450	30.6	5.8	5.0	0.5	切断面凹凸のある研磨・表面やや光沢あり	T11 S5 19
207	11	ツノガイ	筒状	1971/7/18	Ⅲ-2	440-450	30.6	5.8	5.0	0.5	切断面凹凸のある研磨・灰色	T11 S5 19
207	13	ツノガイ	筒状	1968/7/28	Ⅱ-2	440-450	22.2	6.0	5.7	0.8	切断面研磨	T7 S7 31
207	14	ツノガイ	筒状	1968/7/29	Ⅲ-1	440-450	15.2	5.4	5.5	0.3	切断面凹凸のある研磨	T7 S9 33
207	15	ツノガイ	筒状	1969/5/16	Ⅲ-1	450-460	16.4	4.6	4.7	0.4	切断面ほとんどを研磨・表面光沢	T8 S1 34
207	16	ツノガイ	筒状	1968/7/29	Ⅱ-2	450-480	20.1	5.6	5.7	0.5	切断面ほとんどを研磨	T7 S8 32
207	17	ツノガイ	筒状	1969/5/18	Ⅱ-3	490-500	19.2	4.8	4.8	0.5	切断面やや弱い研磨	T8 S2 35
207	18	ツノガイ	筒状・一部欠	1970/6/13	Ⅱ-2	490-500	21.8	4.9	4.9	0.6	切断面折れか・207-19と共伴	T9 S6 37

付表5 貝製品観察表(1)

図版番号	種	形態	発掘年月日	区画	レベル	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	注記等	実測 番号
207	19	ツノガイ	筒状・一部欠	1970/6/13	Ⅱ-2	490-500	35.7	6.0	5.5	0.9	切断面弱い研磨、欠損	T9 S5 38
207	20	ツノガイ	筒状	1970/5/23	Ⅱ-2	490-500	14.6	6.3	6.3	0.5	切断面研磨・表面光沢	TP9 S1 115
207	21	ツノガイ	筒状・一部欠	1971/7/15	奥の院	500-510	17.8	6.0	5.7	0.3	切断面凹凸のある研磨、欠損	T11 S4 18
207	22	ツノガイ	筒状	1970/10/19	Ⅲ-1	520-530	19.4	5.0	4.9	0.5	切断面角度をつけた研磨・表面光沢・208-16と共伴	T10 S4 36
207	23	ツノガイ	筒状・一部欠	1970/10/21	Ⅳ-1	570	15.3	4.8	4.7	0.2	切断面研磨、欠損・表面やや光沢あり	T10 S2 14
207	24	ツノガイ	筒状	-	-	-	8.2	4.7	4.6	0.2	切断面研磨	TX S1 39
207	25	ツノガイ	筒状	-	-	-	11.5	3.5	3.6	0.1	切断面ほぼ研磨	TX S11 40
207	26	ヤカドツノガイ	筒状	1968/5/19	Ⅱ-2	380	11.8	3.8	3.5	0.1	切断面研磨、鋸歯状・207-27と共伴	T6 S9 26
207	27	ヤカドツノガイ	筒状	1968/5/19	Ⅱ-2	380	21.8	5.1	4.6	0.5	切断面研磨	T6 S10 27
207	28	ツノガイ	ビーズ状	1967/4/21	I	216-221	5.5	5.6	1.3	測定不能	切断面研磨	T4 S9 41
207	29	ツノガイ	ビーズ状	1968/5/19	Ⅱ-2	380	5.8	6.0	1.7	測定不能	切断面研磨	T6 S7 42
207	30	ツノガイ	ビーズ状	-	-	-	4.9	4.9	1.8	測定不能	切断面研磨	TX S12 43
207	31	ツノガイ	ビーズ状	-	-	-	4.4	4.5	1.3	測定不能	切断面研磨	TX S12 44
207	32	ツノガイ	ビーズ状	-	-	-	4.5	4.6	1.3	測定不能	切断面研磨	TX S12 45
208	1	イモガイ	輪状	1967/4/22	Ⅲ	312	12.2	12.7	1.9	0.4	全面研磨	T4 S11 8
208	2	イモガイ	大型輪状・半欠	1967/4/23	Ⅲ-3	320-330	20.6	12.6	2.3	0.4	全面研磨	T4 S10 7
208	3	イモガイ	輪状	1967/7/25	Ⅱ-1	370-380	12.3	12.8	1.6	0.3	全面研磨・208-3、4、5まとまって出土	T5 S16 6
208	4	イモガイ	輪状	1967/7/25	Ⅱ-1	370-380	10.4	11.1	1.3	0.2	全面研磨	T5 S16 4
208	5	イモガイ	輪状	1967/7/25	Ⅱ-1	370-380	10.8	11.4	1.8	0.2	全面研磨	T5 S16 5
208	6	イモガイ	輪状(薄)	1967/7/26	Ⅱ-2	380	13.7	13.6	1.5	0.2	全面(やや粗い)研磨	T5 S14 46
208	7	イモガイ	輪状(薄)	1967/11/30	Ⅱ-2	395	11.2	11.8	1.3	0.1	全面(やや粗い)研磨・落盤下小児人骨側	T5 S17 47
208	8	イモガイ	輪状(薄)	1967/11/30	Ⅱ-2	395	10.5	10.1	1.6	0.1	全面(やや粗い)研磨・落盤下小児人骨側	T5 S17 48
208	9	イモガイ	輪状(薄)	1967/11/30	Ⅱ-2	395	10.0	10.3	1.3	0.1	全面(やや粗い)研磨・落盤下小児人骨側	T5 S17 49
208	10	イモガイ	輪状・半欠	-	-	-	9.6	9.7	1.6	0.1	全面研磨	TX S16 50
208	11	イモガイ	輪状・半欠	1971/7/15	奥の院	440-450	19.8	14.1	4.4	0.9	全面研磨	T11 S7 20
208	12	イモガイ	輪状(厚)	1970/6/12	Ⅲ-0	470-500	10.7	11.4	3.4	0.5	全面研磨	T9 S7 116
208	13	イモガイ	輪状・半欠	1969/5/19	Ⅱ-3	490-500	20.2	13.6	4.1	1.0	全面研磨・赤色の痕跡	T8 S3 52
208	14	イモガイ	輪状・半欠	1970/6/14	Ⅲ-2	510-520	17.9	9.4	3.2	0.3	全面研磨	T9 S8 53
208	15	イモガイ	輪状(厚)	1970/10/20	Ⅲ-2	520	15.1	15.5	5.0	1.7	全面研磨	T10 S3 117
208	16	イモガイ	輪状(薄)・一部欠	1970/10/19	Ⅲ-1	520-530	11.7	12.0	1.2	0.2	全面研磨・赤色の痕跡・207-22と共伴	T10 S5 15
208	17	イモガイ	輪状(厚)	1967/4/?	-	-	21.5	22.2	3.3	1.9	全面研磨	T4 S1 51
209	1	ムシロガイ	装身具?	1967/7/24	Ⅲ-2	340-350	13.6	10.9	9.1	0.5	研磨による穿孔か	T5 S13 118
209	2	ムシロガイ	装身具?	1967/7/24	-	-	15.7	8.8	8.4	0.5	研磨による穿孔か・切断面一部研磨	T5 S12 54
209	3	ウミナ	装身具?	1971/7/20	奥の院	240-250	23.9	9.7	9.7	0.9	加工もしくは欠損	T11 S6 56
209	4	ハイガイ	装身具?	1966.8.?	Ⅲ	240	23.0	30.6	11.0	3.6	切断面研磨	T3 S1 119
209	5	カワシシユガイ	赤色顔料容器	1970/10-	Ⅱ-3	500付近	25.8	43.4	10.5	4.6	内面に赤色顔料残存	120
210	1	メダカラガイ	輪状	1967/7/23	V-2	65-75	17.7	10.2	5.5	0.4	切断面一部研磨・210-2と共伴	T5 S1 62
210	2	メダカラガイ	穿孔・破損	1967/7/23	V-2	65-75	14.2	9.8	5.7	0.3	背面研磨	T5 S2 109
210	3	ツノガイ	筒状	1967/7/25	V-2	120-140	19.1	3.6	3.9	0.2	切断面研磨	T5 S11 2
210	4	イモガイ	輪状・半欠	1967/7/24	V-1	120-140	22.0	11.7	3.2	0.7	全面研磨	T5 S15 3
210	5	ハイガイ	装身具?	1967/7/26	V-2	175	19.5	23.1	8.9	1.8	頂部欠損もしくは穿孔か	T5 S24 55

付表5 貝製品観察表(2)

付表 参考文献一覧

引用参考文献については、本文中に明示した箇所もあるが、ここでは、一部それらと重なる部分も含めて掲載した。また本文中特に指示がなくとも、栃原岩陰遺跡の調査、遺構、遺物に関して書かれたものの一部を含めている。

- 飯島南海夫・田口今朝夫・片岡健治・小林将喜 1968a「千曲川上流地方の第四紀地質（その1）」『地球科学』22, 1-10.
- 飯島南海夫・田口今朝夫・片岡健治・友野邦彦・六川忠信・小林将喜 1968b「千曲川上流地方の第四紀地質（その2）」『地球科学』22, 78-85.
- 岩崎敏典・指田勝男・猪郷久義 1989「関東山地北西部、長野県南佐久郡北相木-川上地域の中生界」『地質学雑誌』95, 10, 733-753.
- 井出正義 2004「栃原岩陰遺跡の発見者～畏友興水利雄氏をしのぶ～」『佐久考古通信』No.90 佐久考古学会
- 井出浩正 2012「栃原岩陰遺跡出土土器の整理を通じて」『佐久考古通信No.111 栃原岩陰遺跡特集号』佐久考古学会
- 大参義一・佐々木明 1986「栃原岩陰遺跡の考古学的概観」『人類科学論集』20, 25-40. 信州大学人文学部？
- 及川 穰2003「出現期石鏃の型式変遷と地域的展開-中部高地における黒耀石利用の視点から-」『黒耀石文化研究』第2号 明治大学黒耀石研究センター
- 神村 透 2001「佐久との出会い」『佐久考古通信』No.80 佐久考古学会
- 亀井翼・山田正久・首都大学東京考古学研究室洞窟岩陰遺跡調査団「北相木村における岩陰地形分布調査（2007年度）概報」『長野県考古学会誌』123号
- 亀井翼・姉川裕志・佐藤会理萌・藤森英二・山田昌久・利涉幾多郎 2009「2007年度北相木村における岩陰地形分布調査」『人類誌集報2006・2007』首都大学東京考古学報告12, 81-97
- 川崎 保 2006「佐久市芦内岩陰遺跡出土の遺物について」『長野県立歴史館研究紀要』12号
- 黒坂禎二 1999『妙音寺/妙音時洞穴』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第209集
- 河内普平 1961a「八ヶ岳火山列Ⅰ」『地球科学』55, 1-8.
- 河内普平 1961b「八ヶ岳火山列Ⅱ」『地球科学』56, 11-17.
- 河内普平 1974「蓼科山地域の地質」『5万分の1地質図』幅地質調査所。
- 菊池清人（1977）北相木人と栃原遺跡. 北相木村誌刊行会編, 北相木村誌, 103-114.
- 北相木村教育委員会 1981『遺跡詳細分布調査報告書』
- 北相木村教育委員会 1984『栃原岩陰遺跡発掘調査報告書-昭和58年度-』
- 北相木村教育委員会 2000『坂上遺跡』
- 北相木村教育委員会 2002『国史跡 栃原岩陰遺跡・天狗岩岩陰-保存整備事業に伴う発掘調査報告書-』
- 北相木村教育委員会 2003『木次原遺跡』
- 金属鉱業事業団 1975『広域調査報告書秩父地域』通商産業省、資源エネルギー庁
- 興水利雄 1966「北相木人の発見まで」『信州ローム』9, 5.
- 小林謙一 2012「栃原岩陰遺跡「下部」出土土器の炭素14年代について」『佐久考古通信No.111 栃原岩陰遺跡特集号』佐久考古学会

- 小林 収・近藤高貴 2009「コガタカワシンジュガイの繁殖生態」『VENUS』67(3-4):189-197,
- 小松 虔 1966「栃原遺跡における考古学的調査概要」『信州ローム』9, 8-11.
- 小松 虔 1967a「第3次栃原岩陰遺跡調査略報」『信濃考古』17・18, 2-3.
- 小松 虔 1967b「栃原遺跡第4次調査について」『信濃考古』20, 5-6.
- 小松 虔 1970「栃原岩陰(開発の中の遺跡6)」信濃毎日新聞3/12
- 小松 虔 1977「栃原岩陰遺跡の押型文土器」『長野県考古学会誌』27, 6-15.
- 小松 虔 1978「栃原岩陰遺跡の押型文土器の出現時期」『中部高地の考古学,』83-93 長野県考古学会
- 小松 虔・西沢寿晃 1966「栃原遺跡発掘日誌」『信州ローム』9, 1-4.
- 小松 虔・西沢寿晃 1970「第9次発掘までの栃原遺跡の考古学的調査の概要」『栃原新聞6』2-8
- 小松 虔ほか 1977「栃原岩陰遺跡出土土器1例について」『長野県考古学会誌』27, 16-17.
- 香原志勢 1968「ある幼児の死-長野県北相木村栃原遺跡発掘より-」『短科研究』25-11
- 香原志勢・小松 虔・西沢寿晃・藤田 敬・宮尾嶽雄 1973「縄文早期人の世界-栃原岩陰遺跡をめぐって-」『どるめん』1, 130-167.
- 香原志勢・中村登流・西沢寿晃・鈴木 誠 1971「災害死と推定される早期縄文時代小児人骨-長野県南佐久郡北相木村栃原遺跡-」『人類学雑誌』79, 1, 55-60.
- 香原志勢・茂原信生・西沢寿晃・藤田敬・大谷江里・馬場悠男 2011「栃原岩陰遺跡(長野県南佐久郡北相木村)出土の縄文時代早期人骨-縄文時代早期人骨の再検討-」『Anthropological Science (Japanese Series)』Vol. 119(2), 91-124
- 笹沢 浩 1991「栃原岩陰遺跡」『図説日本の史跡』同朋舎
- 鈴木 誠 1966「長野県北相木村栃原岩陰遺跡出土人骨の概要」『信州ローム』9, 12
- 鈴木 誠 1968「長野県栃原岩陰遺跡と人骨」『人類学雑誌』76 1, 52-54.
- 鈴木 誠 1969「南佐久郡栃原岩陰遺跡」『信濃考古』27, 4-6.
- 鈴木 誠・西沢寿晃 1966「長野県北相木村栃原縄文早期遺跡出土の装飾品について」『信州ローム』9
- 鈴木 誠・香原志勢 1967「長野県北相木村栃原岩陰遺跡(概要)」『第21回日本人類学会日本民族学会連合大会研究発表抄録』
- 鈴木 誠・香原志勢 1968「長野県北相木村栃原岩陰遺跡出土人骨について」『解剖学雑誌』43, 1, 41-42.
- 鈴木 誠・香原志勢 1968「長野県北相木村栃原岩陰遺跡と人骨」『人類学雑誌』76-1
- 天狗岩洞穴発掘調査団「天狗岩洞穴の発掘調査~弥生時代の洞穴利用~」『佐久考古通信』No.75 佐久考古学会
- 栃原岩陰遺跡調査グループ 1970「縄文人のふるさと~栃原岩陰遺跡~」『国土と教育』4, 2-7.
- 内藤裕一・力石嘉人・大河内直彦・米田穰 2012「古人骨および動物遺存体のアミノ酸窒素同位体比分析について」『佐久考古通信No.111 栃原岩陰遺跡特集号』佐久考古学会
- Yuichi I. Naito, Yoshito Chikaraishi, Naohiko Ohkouchi, Minoru Yoneda, 2013「Evaluation of carnivory in inland Jomon huntergatherers based on nitrogen isotopic compositions of individual amino acids in bone collagen」『Journal of Archaeological Science 40』2913-2923
- 中村登流 1971「栃原遺跡から出土した鳥骨について」栃原新聞12, 5-7.
- 長野県考古学会縄文時代(早期)部会編 1977『押型文と沈線文』資料集・本編

- 西沢寿晃 1973「栃原遺跡」『信濃の縄文文化展』日本民俗資料館編
- 西沢寿晃 1978「栃原岩陰遺跡出土人骨－その埋葬と形質について－」『中部高地の考古学』長野県考古学会
- 西沢寿晃 1978「栃原の岩陰遺跡」野尻湖発掘調査団編、ほくらの野尻湖人
- 西沢寿晃 1982「栃原岩陰遺跡」『長野県史 考古資料編全1巻(2)主要遺跡(北・東信)』
- 西沢寿晃 1994「栃原岩陰遺跡」『信州の大遺跡』
- 西沢寿晃・藤田 敬 1993『栃原岩陰遺跡』北相木村教育委員会
- 西沢寿晃・宮尾嶽雄 1981「早期縄文時代長野県栃原岩陰遺跡出土の哺乳動物、第3報ニホンザルの遺存骨」『長野県考古学会誌』41, 1-10.
- 樋口昇一・藤沢平治 1966「長野県南佐久郡臼田町芦内岩陰遺跡調査概報」『信濃』18-11
- 馬場悠男・茂原信生 2012「栃原人骨の形態研究について」『佐久考古通信No.111 栃原岩陰遺跡特集号』佐久考古学会
- 藤田 敬 1971「栃原遺跡から出土した陸貝類」『栃原新聞』12, 5-9
- 藤田 敬 1977a「栃原遺跡出土の貝類(早期縄文人の貝利用)」『UNIO』13, 12-13.
- 藤田 敬 1977b「栃原遺跡出土の貝類」『UNIO』14, 6-8.
- 藤田 敬・西沢寿晃 1991「栃原岩陰遺跡発掘ものがたりI~IV」北相木村公民館報
- 藤本治義編 1958『南佐久郡地質誌』長野県南佐久教育会
- 藤森英二 1996「栃原岩陰遺跡出土の拇指状搔器について」『佐久考古通信』No.68 佐久考古学会
- 藤森英二 1997「栃原岩陰遺跡の黒曜石製石器の素材について」『佐久考古通信』No.70 佐久考古学会
- 藤森英二 1998「栃原岩陰遺跡出土の石核から」『佐久考古通信』No.72 佐久考古学会
- 藤森英二 2001「佐久の洞窟・岩陰遺跡」『佐久考古通信』81, 9-12. 佐久考古学会
- 藤森英二 2008「佐久地域の洞窟・岩陰遺跡について～その現状と課題～」『長野県考古学会誌』123号
- 藤森英二 2010「内陸地域における貝製品の流通 栃原岩陰遺跡の場合」『移動と流通の縄文社会史』雄山閣
- 藤森英二 2011a「長野県栃原岩陰遺跡出土黒曜石の蛍光X線分析装置による原産地推定結果と若干の考察」『環境史と人類』第4冊 明治大学学術フロンティア
- 藤森英二 2011b『信州の縄文早期の世界 栃原岩陰遺跡』シリーズ遺跡を学ぶ78 新泉社
- 藤森英二 2012a「栃原岩陰遺跡の小型剥片石器・特に黒曜石製石器について」『佐久考古通信No.111 栃原岩陰遺跡特集号』
- 藤森英二 2012b「栃原岩陰遺跡「下部」出土土器のAMS法による放射性炭素年代測定」『佐久考古通信No.111 栃原岩陰遺跡特集号』佐久考古学会
- 藤山龍造 2014「砥石から読み解く骨角器生産：栃原岩陰遺跡を中心に」『古代文化』第66巻第1号
- 本郷一美・山田昌久・那須浩郎・米田穰・姉崎智子・堤隆・高橋遼平・橋本望・黒沼太一・萩原弘幸
2015「長野県南佐久郡小海町天狗岩岩陰遺跡の環境考古学調査」『日本考古学協会第81回総会 研究発表要旨』
- 南相木村教育委員会 1999『南相木村遺跡詳細分布調査報告書』
- 南相木村教育委員会 2016『大師遺跡 縄文時代編』
- 宮尾嶽雄・西沢寿晃・鈴木茂忠 1980「早期縄文時代長野県栃原岩陰遺跡出土の哺乳動物、第1報出

- 土哺乳動物相」『哺乳動物学雑誌』8, 5, 181-188.
- 宮尾嶽雄・酒井英一・西沢寿晃 1981a「早期縄文時代長野県栃原岩蔭遺跡出土の哺乳動物, 第2報 アカネズミ下顎大白歯の大きさ」『歯科基礎医学会雑誌』23, 1, 141-146.
- 宮尾嶽雄・子安和弘・西沢寿晃 1981b「早期縄文時代出土イノシシの頬歯の大きさ」『成長』20, 234-235.
- 宮尾嶽雄・西沢寿晃・小安和弘 1982「早期縄文時代長野県栃原岩蔭遺跡出土の哺乳動物, 第4報ノウサギ四肢骨の大きさ」『成長』21, 1・2, 20-28.
- 宮尾嶽雄・相見満・西沢寿晃 1984a「動植物遺存体」『栃原岩陰遺跡発掘調査報告書-昭和58年度-』43-60.
- 宮尾嶽雄・子安和弘・西沢寿晃 1984b「早期縄文時代長野県栃原岩蔭遺跡出土の哺乳動物, 第5報ノウサギの歯と頭蓋骨大きさ」『歯科基礎医学会雑誌』26, 4, 1012-1022.
- 宮尾嶽雄・西沢寿晃・花村 肇・小安和弘 1984c「早期縄文時代長野県栃原岩蔭遺跡出土の哺乳動物, 第7報オオカミの骨と歯」『成長』23, 2, 40-56.
- 宮尾嶽雄・西沢寿晃 (1985) 中部山岳地帯の動物. 季刊考古学, 11, 35-38.
- 宮尾嶽雄・西沢寿晃・花村肇 1987「早期縄文時代長野県栃原岩蔭遺跡出土の哺乳動物, 第6報イヌおよび中・小型食肉類」『長野県考古学会誌』53, 24-38
- 宮下健司 1985「長野県 栃原岩陰遺跡〈岩陰住居の生活〉」『探訪縄文の遺跡-東日本編-』雄山閣
- 宮下健司 1978「矢柄研磨器の再検討~土器出現期の様相に関連して~」『信濃』Ⅲ 30-4
- 宮下健司 1995「有溝砥石」『縄文文化の研究』7 雄山閣
- 宮崎朝雄 2008「尖底回転縄文系土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 明治大学古文化財研究所 2009『環境史と人類別冊 蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定-基礎データ集〈1〉-』
- 八ヶ岳団体研究グループ (1976) 八ヶ岳火山活動の概要-とくに中期洪積世以降の火山活動について-。地球科学, 30, 2, 87-94.
- 八ヶ岳団体研究グループ (1978) ノッチの形成について-北相木川沿いのノッチを例に-。第四紀, 23, 63-68.
- 八ヶ岳団体研究グループ (1982) 八ヶ岳山麓に分布する更新統-火山活動にともなう湖盆の変遷について-。地団研専報, 24, 287-298.
- 八ヶ岳団体研究グループ (1988) 八ヶ岳の第四紀。地団研専報, 34, 275p.
- 横山 真 2000「縄文時代草創期後半における黒曜石製石器の生産形態-中部高地を例に-」『鷹山遺跡Ⅳ』長門町教育委員会・鷹山遺跡群調査団
- 米田 穰 2012「栃原岩陰遺跡から出土した縄文時代早期人骨および動物骨の同位体分析」『佐久考古通信No.111 栃原岩陰遺跡特集号』佐久考古学会
- Minoru Yoneda・Masashi Hirota・Masao Uchida・Atushi Tanaka・Yasuyuki Shibata・Masatoshi Morita・Takeru Akazawa 2002「RADIOCARBON AND STABLE ISOTOPE ANALYSES ON THE EARLIEST JOMON SKELETONS FROM THE TOCHIBARA ROCKSHELTER,NAGANO, JAPAN」『RADIOCARBON, Vol 44』
- 利渉幾多郎 2001「ノッチの形成史から復元される古水文史-長野県千曲川上流,北相木川のノッチと段丘を例に」『第四紀』
- 利渉幾多郎・栃原岩陰遺跡発掘調査団 2002「長野県北相木村栃原岩陰遺跡から出土した哺乳類の層

- 位的変化」『日本第四紀学会講演要旨集』32
- 利涉幾多郎 2003「長野県北相木村栃原岩陰遺跡から出土したシカの年齢構成」『日本第四紀学会講演要旨集』33
- 利涉幾多郎 2012「栃原岩陰遺跡の哺乳類遺体」『佐久考古通信No.111 栃原岩陰遺跡特集号』佐久考古学会
- 利涉幾多郎 2001「ノッチの形成史から復元される古水文史－長野県千曲川上流,北相木川のノッチと段丘を例に－」『第四紀』33, 105-123.
- Risho, I. and Excavation Group of the Tochibara Rock Shelter Site (2003) Stratigraphic Distribution of Early Holocene Mammals from the Tochibara Rock Shelter Site, Kita-aiki, Nagano Prefecture, Central Japan. J. Geosci., Osaka City Univ., 46

付表 調査・整理作業参加者他一覧表

50年以上続いた栃原岩陰遺跡「栃原岩陰部」の発掘、研究、整理作業には、故人も含め、実に多くの方々に関わり、全てを正確に網羅することは困難であった。

ここでは、主に藤田 敬の残した参加者リストと、北相木村教育委員会で把握できた方々をあげ、感謝の意を表したい。不備等については、平にご容赦を願う。

氏名	分担等	氏名	分担等	氏名	分担等
鈴木 誠	調査団長	赤羽 久忠	発掘調査	岸野 勝利	発掘調査
香原 志勢	発掘調査	貴島 嗣夫	〃	鈴木 宏敏	〃
宮尾 嶽雄	〃	酒井助太郎	〃	小沢 正幸	〃
中村 登流	〃	牧島 鉄	〃	吉岡 昭治	〃
高橋 譲	〃	町田 瑞男	〃	佐藤 真	〃
川中 健二	〃	関根 倫雄	〃	植竹 晴喜	〃
西沢 寿晃	〃	古田 敏夫	〃	森本 東樹	〃
宮田 康夫	〃	北村 丈成	〃	寺田 浩三	〃
大沢季江子	発掘調査・整理	矢口 良一	〃	小関 勝則	〃
稲原 弘	発掘調査	安野 信	〃	高野 光雄	〃
鈴木 茂忠	〃	吉越 正勝	〃	本田 伸夫	〃
小林国夫	〃	小井戸由光	〃	越久田治男	〃
郷原 保真	〃	伊藤 和彦	〃	村田 雅俊	〃
酒井 潤一	〃	沢村 寛	〃	神山 修	〃
小坂 共栄	〃	本間 岳史	〃	弘田 治	〃
熊井 久雄	〃	石橋 俊明	〃	寺崎 正好	〃
藤田 敬	写真・発掘調査	新海 正博	〃	佐野 邦男	〃
百瀬 寛一	発掘調査	下野 正博	〃	石踊 一則	〃
杉山 隆二	〃	菅沼美江子	〃	清野 知身	〃
渡辺 晃二	X線分析	関口 照子	〃	江口 洋久	〃
小松 虔	測量・発掘調査	西川 達男	〃	片山 吉明	〃
井尻 正二	発掘調査	花岡 和雄	〃	北村健一郎	〃
星野 通平	〃	福中 儀明	〃	永井 清孝	〃
渡辺 直経	〃	水野 学	〃	森谷 義弘	〃
池田 次郎	〃	村山 進	〃	鈴木 高志	〃
田中 正昭	〃	矢野 孝雄	〃	井口 博夫	〃
渡辺 毅	〃	吉野 博厚	〃	唐沢 英二	〃
樽野 博幸	〃	石田 聖	〃	金井 康志	〃
犬塚 則久	〃	杉山 茂	〃	小坂井嘉彦	〃
瀬戸口 烈司	〃	吉田 充夫	〃	滝沢 武彦	〃
新堀 友行	〃	中村 由克	〃	斎藤 俊爾	〃
羽鳥 健三	〃	松本 正紀	〃	柳沢 幸夫	〃
輿水 利雄	〃	若菜 弘志	〃	和田 博秋	〃
新村 薫	〃	武田真佐美	〃	丸山 幸夫	〃
会田 進	〃	坂田 恵介	〃	中沢 博	〃
宮下 健司	〃	青柳 正彦	〃	西川 敬一	〃
渡辺 環司	落盤除去など	三木 昇	〃	小野 仁志	〃
山岸 いくま	発掘調査	白田 武正	〃	安藤 清寛	〃
岡本 郁栄	〃	野村 一英	〃	倉田 治全	〃
藤本 丑雄	〃	岩瀬 祥隆	〃	武田 道郎	〃
児玉司農武	〃	亀沢栄三郎	〃	降旗 繁弥	〃
由井 茂也	〃	坂本 順三	〃	井出 唯敬	〃
大久保知巳	〃	一二三英文	〃	久保田透信	〃
鈴木 春日	発掘・整理	佑川 省治	〃	牧野 文雄	〃
藤田 成子	〃	宮本 健次	〃	友野 隆光	〃
葦沢 ふゆ	〃	山下 達雄	〃	依田 勝彦	〃
松井 和夫	発掘調査	塚田 二三雄	〃	篠崎 怜子	〃

氏名	分担等
伴野 茂美	発掘調査
畠山 圭ゆみ	〃
甘田 和雄	〃
日下 哉	〃
樋口 和郎	〃
神津 栄一	〃
佐藤 陽子	〃
井出 悟	〃
池田 真	〃
高柳 三雄	〃
神津 壮平	〃
小平 富士雄	〃
桜井 武美	〃
野沢 勇太郎	〃
三井 栄子	〃
田中 睦美	〃
丸山 和子	〃
山田 勇	〃
飯島 正典	〃
古谷 美喜男	〃
小林 孝代	〃
岩井 泉	〃
宮坂 利夫	〃
野平 ふさ子	整理作業
相藤 千恵	〃
有坂 恭祐	〃
伊沢 加奈子	〃
泉 洋江	〃
井出 浩正	〃
井上 早季	〃
岩泉 辰子	〃
岩井 聖吾	〃
岩波 陸	〃
岩見 拓	〃
江口 麦彦	〃
江田 真毅	〃
及川 穰	〃
大網 信良	〃
大上 立朗	〃
大塚 宣明	〃
大橋 里奈	〃
尾崎 沙羅	〃
河崎 裕二	〃
川部 栞里	〃
川村 悠斗	〃
北森 梨恵子	〃
隈元 道厚	〃
栗田 大輔	〃
小谷 真弘	〃
小林 克次	〃
佐々木 紅美	〃
佐藤 美穂	〃
佐藤 悠祐	〃
佐藤 悠登	〃

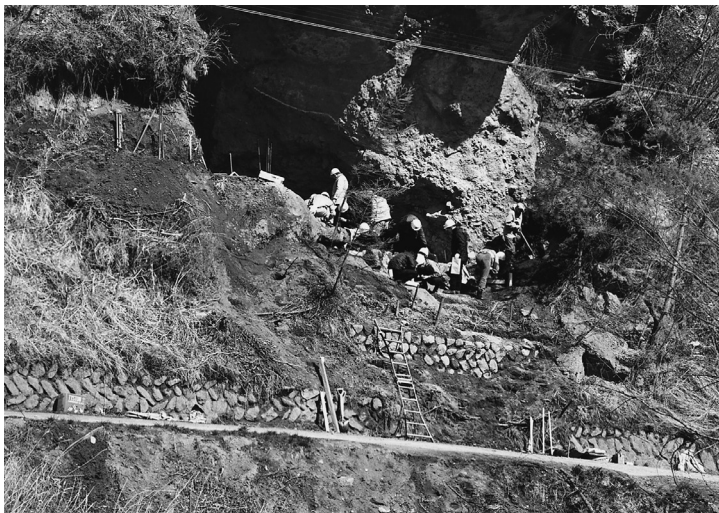
氏名	分担等
佐藤 亮太	整理作業
川端 典子	〃
新海 達也	〃
杉浦 貴史	〃
鈴木 健太	〃
鈴木 達也	〃
鈴木 宏和	〃
鈴木 佑太郎	〃
須藤 友美子	〃
関根 有一朗	〃
芹沢 一路	〃
樋泉 岳二	〃
戸塚 瞬翼	〃
直井 信介	〃
中島 透	〃
中島 恵	〃
中門 亮太	〃
野口 淳	〃
長谷川 陽	〃
服部 智至	〃
平井 義敏	〃
平原 信崇	〃
比留間 絢香	〃
藤山 龍造	〃
堀 恭介	〃
真下 直貴	〃
三木 恵介	〃
宮本 由子	〃
守屋 豊人	〃
矢沢 健太郎	〃
山崎 晃典	〃
山崎 太郎	〃
横山 真	〃
吉永 亜紀子	〃
利涉 幾多郎	〃
渡辺 双葉	〃
渡辺 雄大	〃
渡邊 玲	〃
井出 興正	保存整備委員
井出 由紀夫	保存整備委員
菊池 昭治	保存整備委員
菊池 昭郎	保存整備委員
熊井 久雄	保存整備委員
香原 志勢	保存整備委員
戸沢 充則	保存整備委員
西沢 寿晃	保存整備委員
藤田 敬	保存整備委員
宮下 健司	保存整備委員
山口 文好	保存整備委員
油井 範雄	保存整備委員
渡辺 逸男	保存整備委員
渡辺 善治	保存整備委員

氏名	分担等
会田 進	指導協力
阿部 芳郎	指導協力
大竹 幸恵	指導協力
忍澤 成視	指導協力
金子 直行	指導協力
佐々木 由香	指導協力
茂原 信生	指導協力
杉原 重夫	指導協力
田辺 智隆	指導協力
堤 隆	指導協力
内藤 祐一	指導協力
中沢 道彦	指導協力
中村 由克	指導協力
那須 浩郎	指導協力
馬場 悠男	指導協力
東村 武信	指導協力
本郷 一美	指導協力
宮崎 朝雄	指導協力
山科 哲	指導協力
山田 昌久	指導協力
米田 穰	指導協力
藁科 哲男	指導協力

協力機関等
株式会社アルカ
白田活版株式会社
株式会社加速器分析研究所
国立科学博物館
長野県教育委員会
株式会社西尾製作所
日本人類学会
株式会社パレオ・ラボ
文化庁
保安商事株式会社
明治大学黒耀石研究センター
明治大学古文化財研究所
株式会社渡辺組



栢原岩陰遺跡「栢原岩陰部」全景
(写真提供 国立科学博物館)



栢原岩陰遺跡調査風景
(写真提供 国立科学博物館)



灰層を含む土層の堆積
(写真提供 国立科学博物館)



4号人骨出土状況
(写真提供 国立科学博物館)



人骨出土状況（個体番号不明）
（写真提供 国立科学博物館）



炉と思われる配石の例
（写真提供 国立科学博物館）



75-1



75-2



75-3



75-4



76-1



76-2



76-3



76-4



76-5



76-6



76-7



76-8



76-9



76-10



76-11



76-12



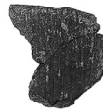
76-13



76-14



76-15



76-16



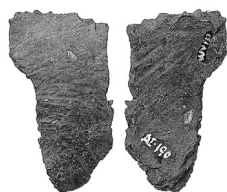
76-17



76-19



76-18



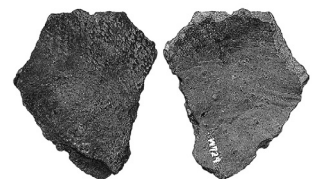
76-20



76-21



76-22



76-23



77-1



78-1



78-2



78-3



78-4



78-8



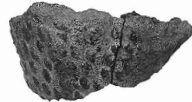
78-9



78-5



78-6



78-7



78-10



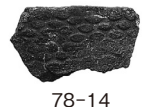
78-11



78-12



78-13



78-14



78-15



78-16



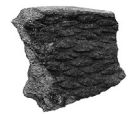
78-17



78-18



78-19



78-20



78-21



78-22



78-23



78-24



78-25



78-26



78-27



78-28



78-29



78-30



79-1



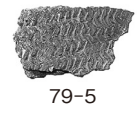
79-2



79-3



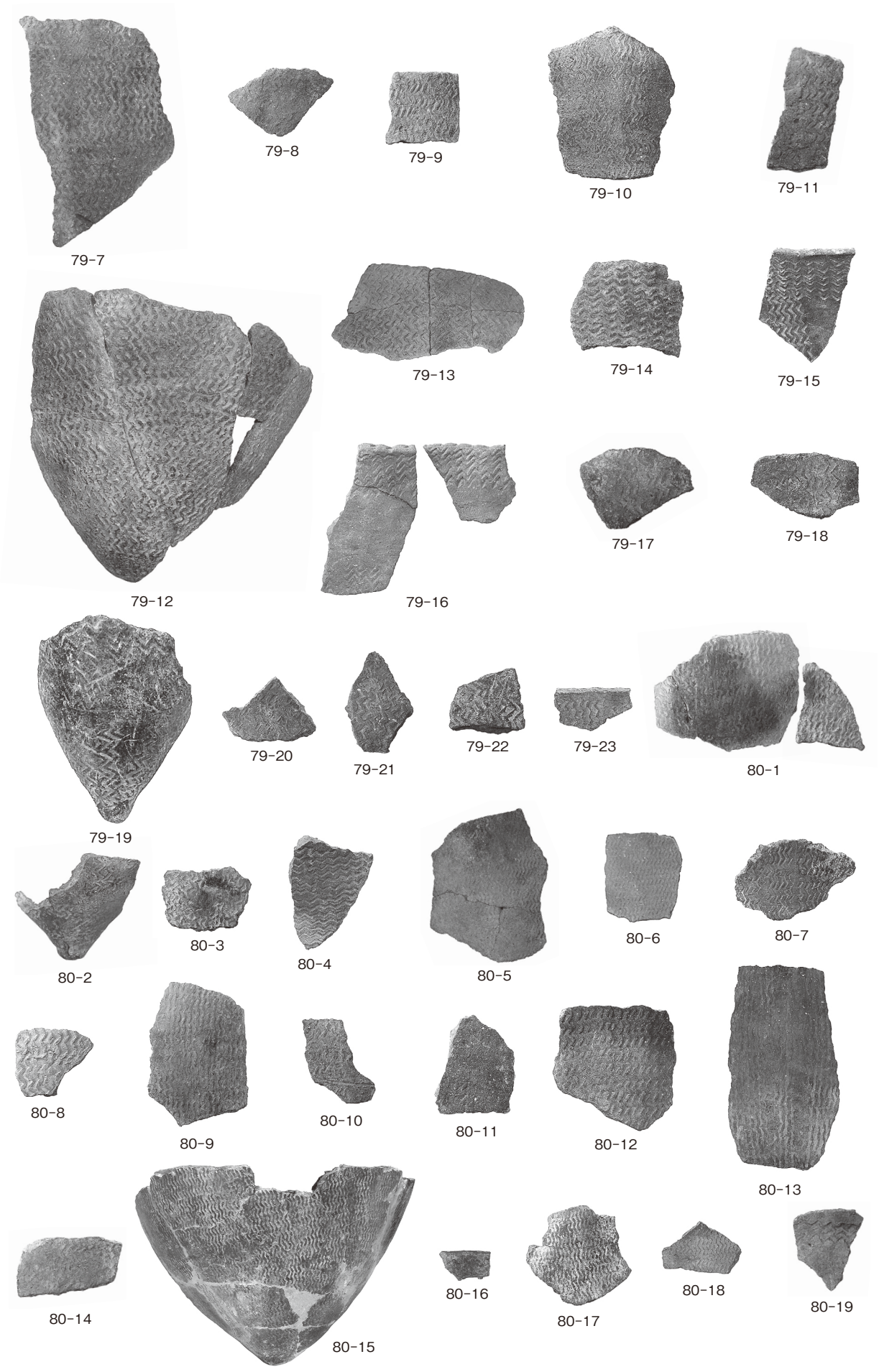
79-4

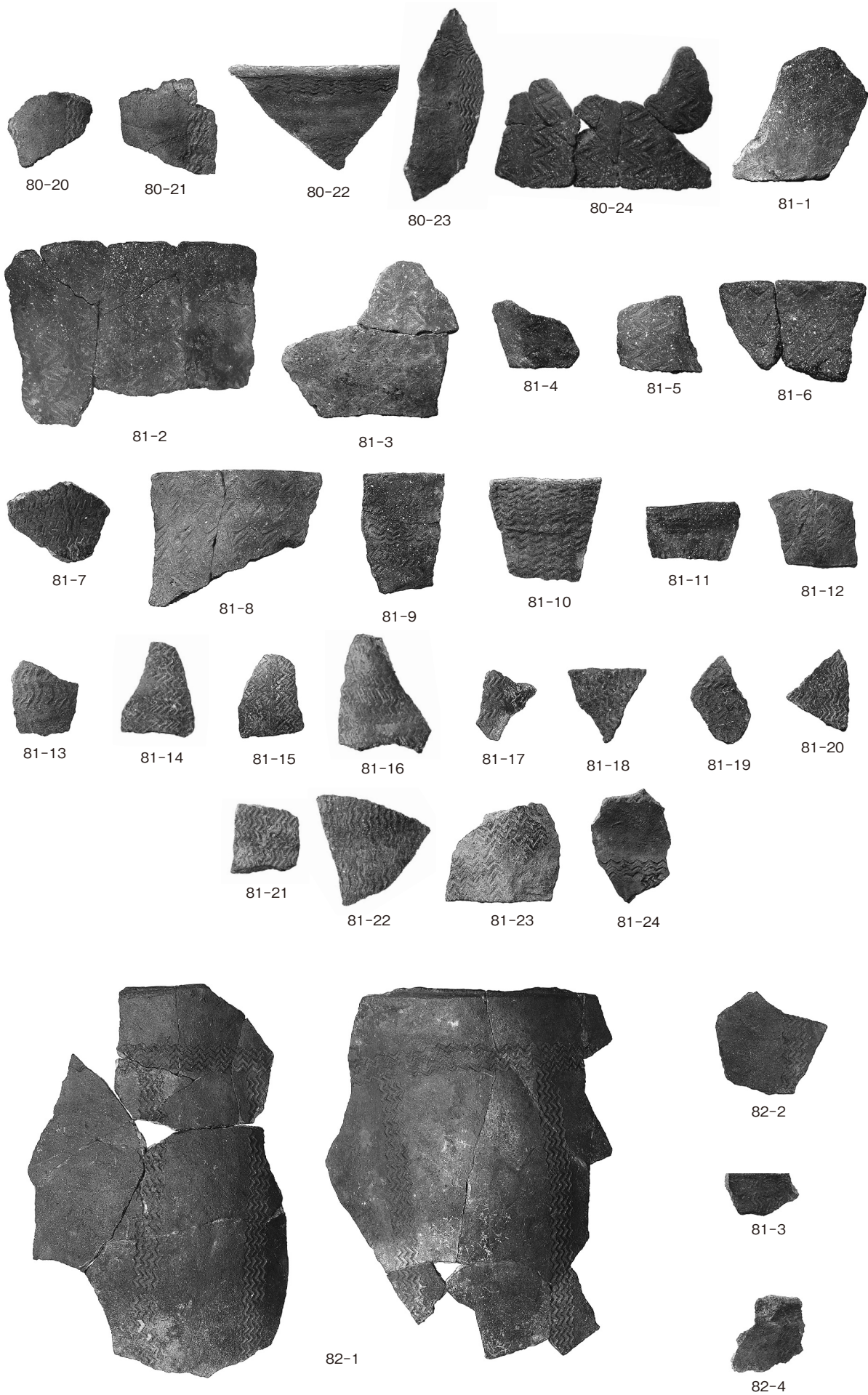


79-5

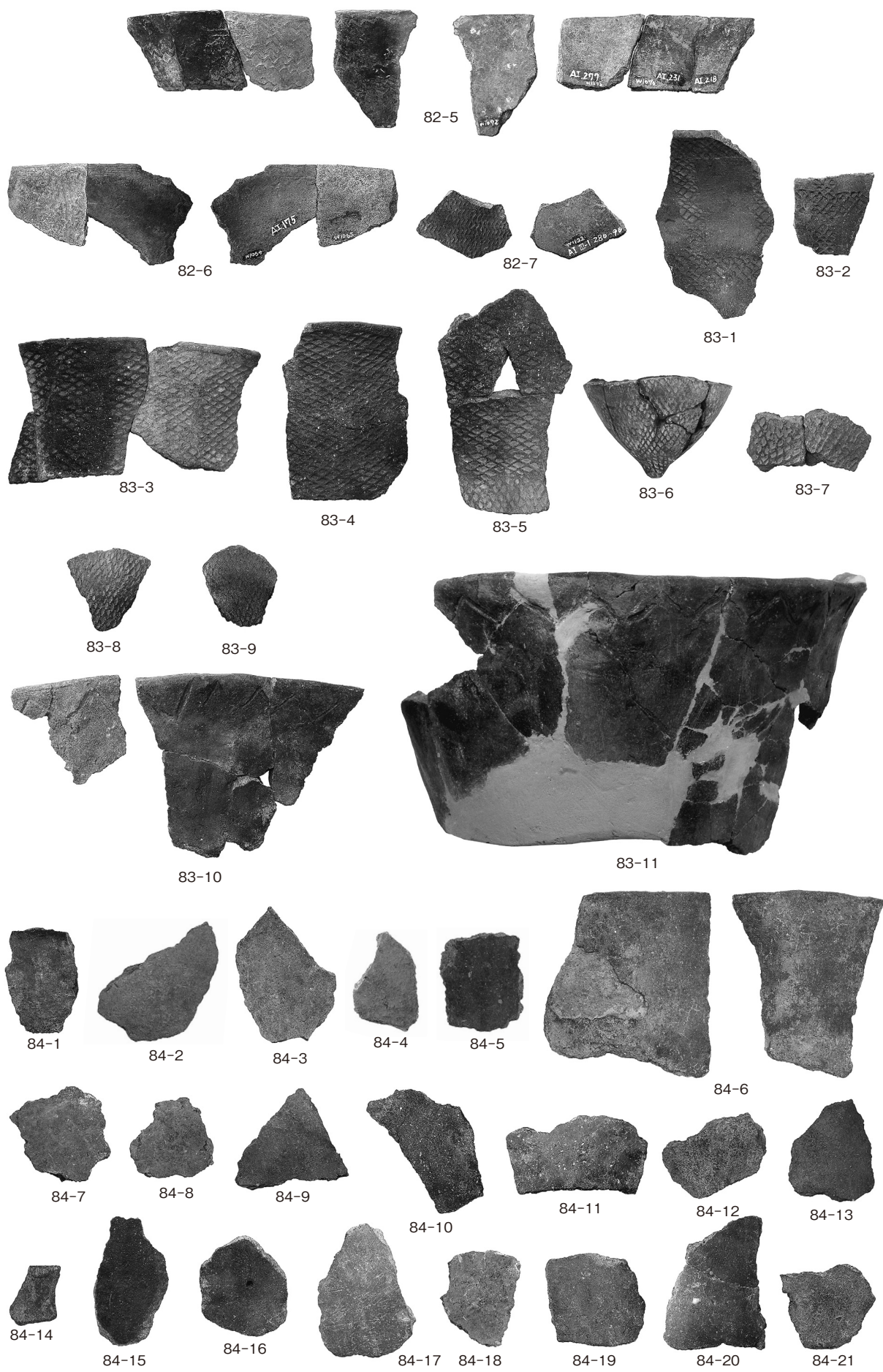


79-6

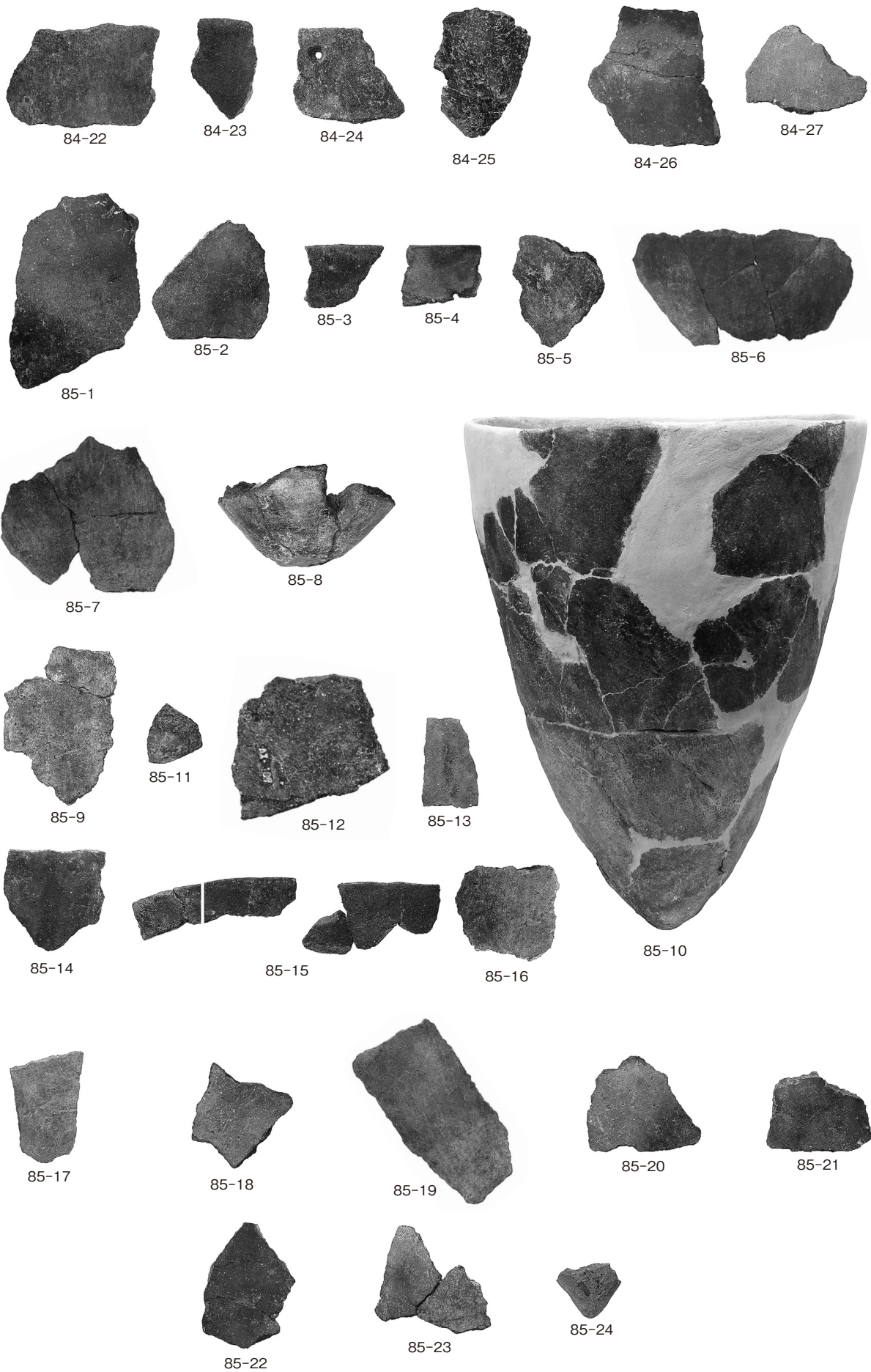


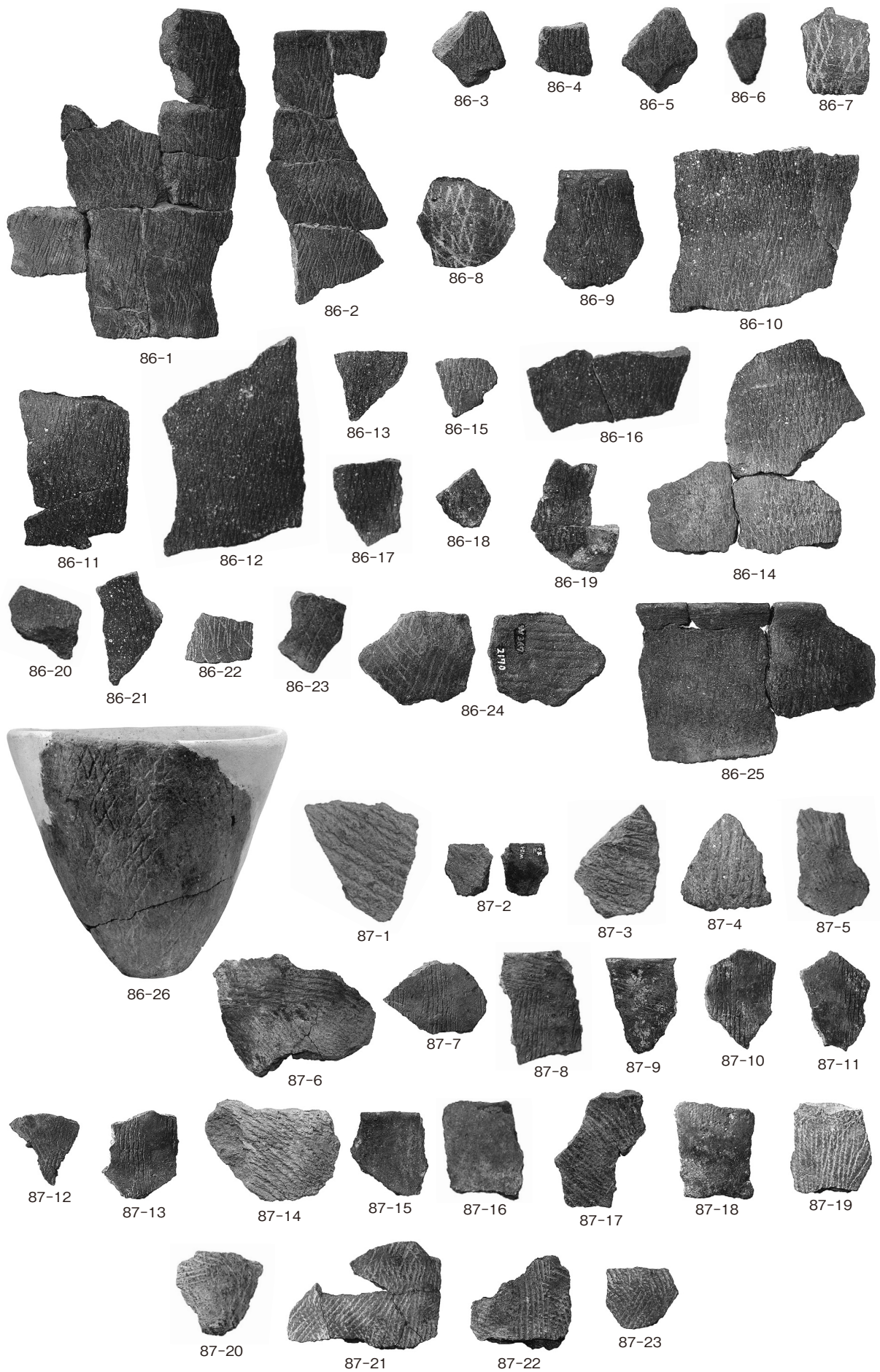


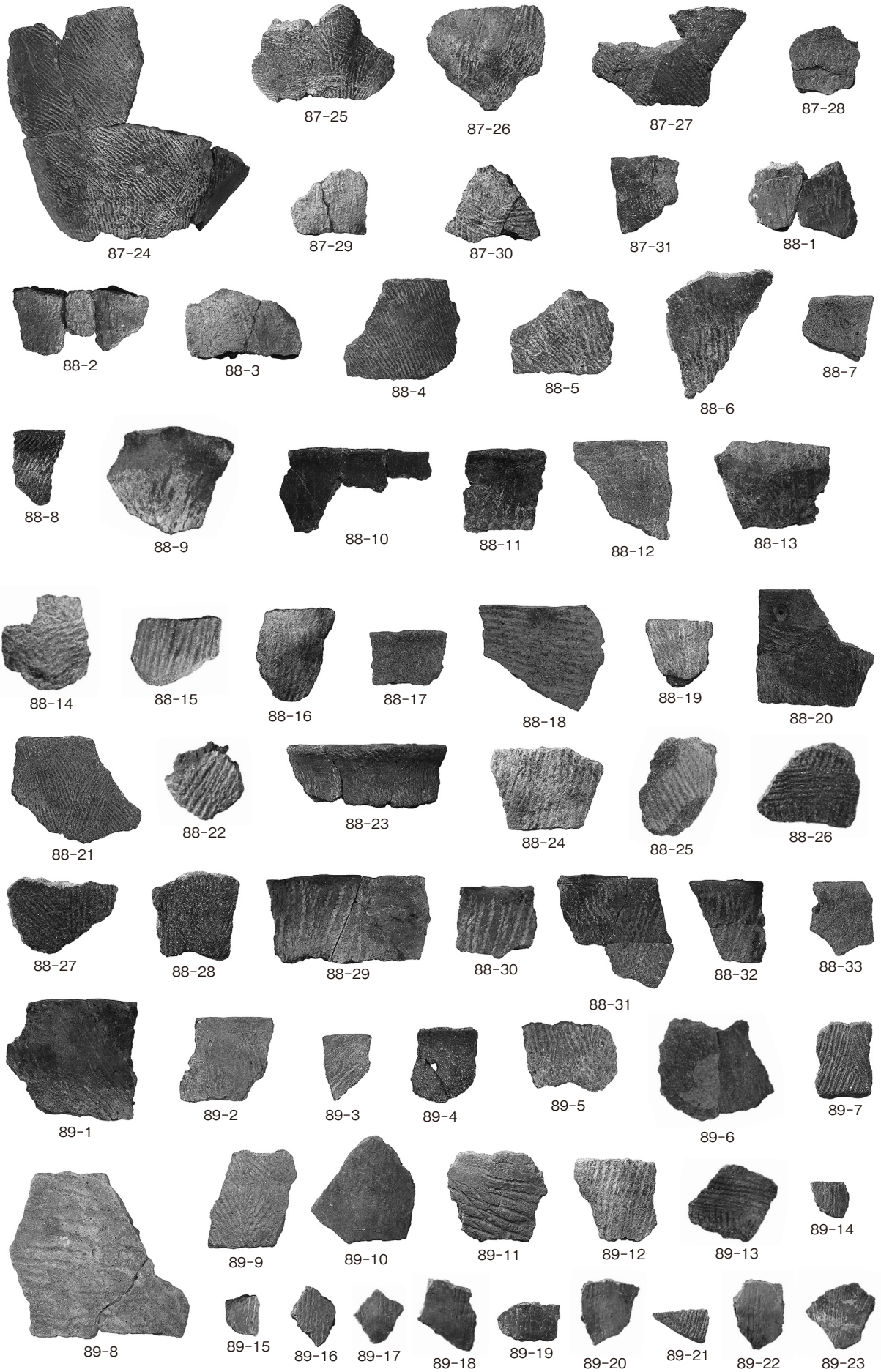
写真图版6



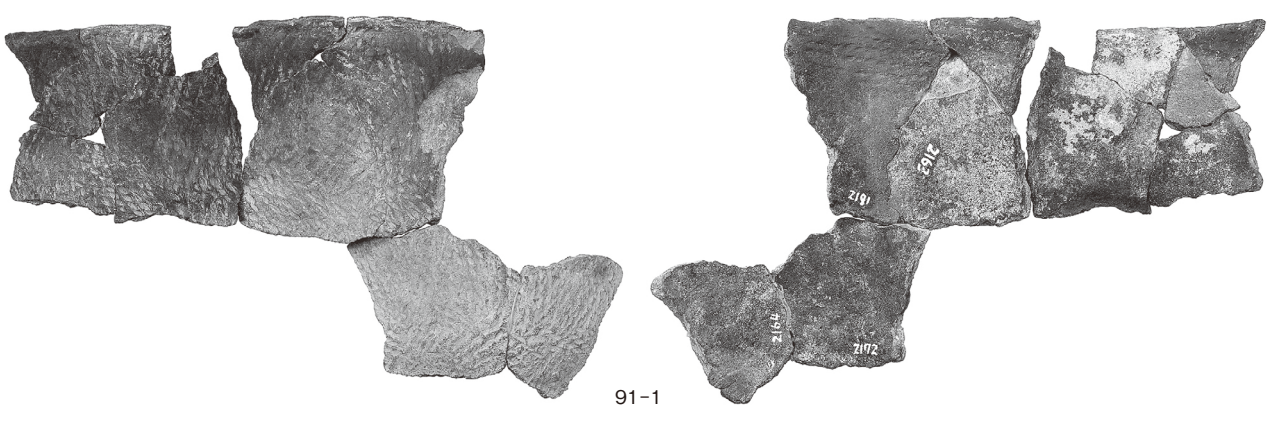
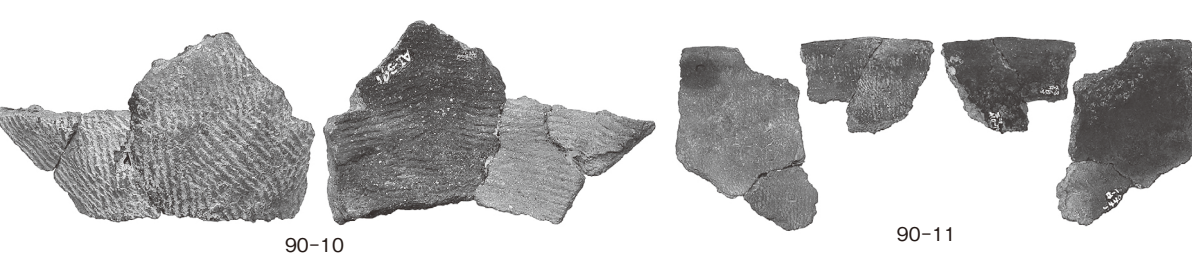
写真図版7

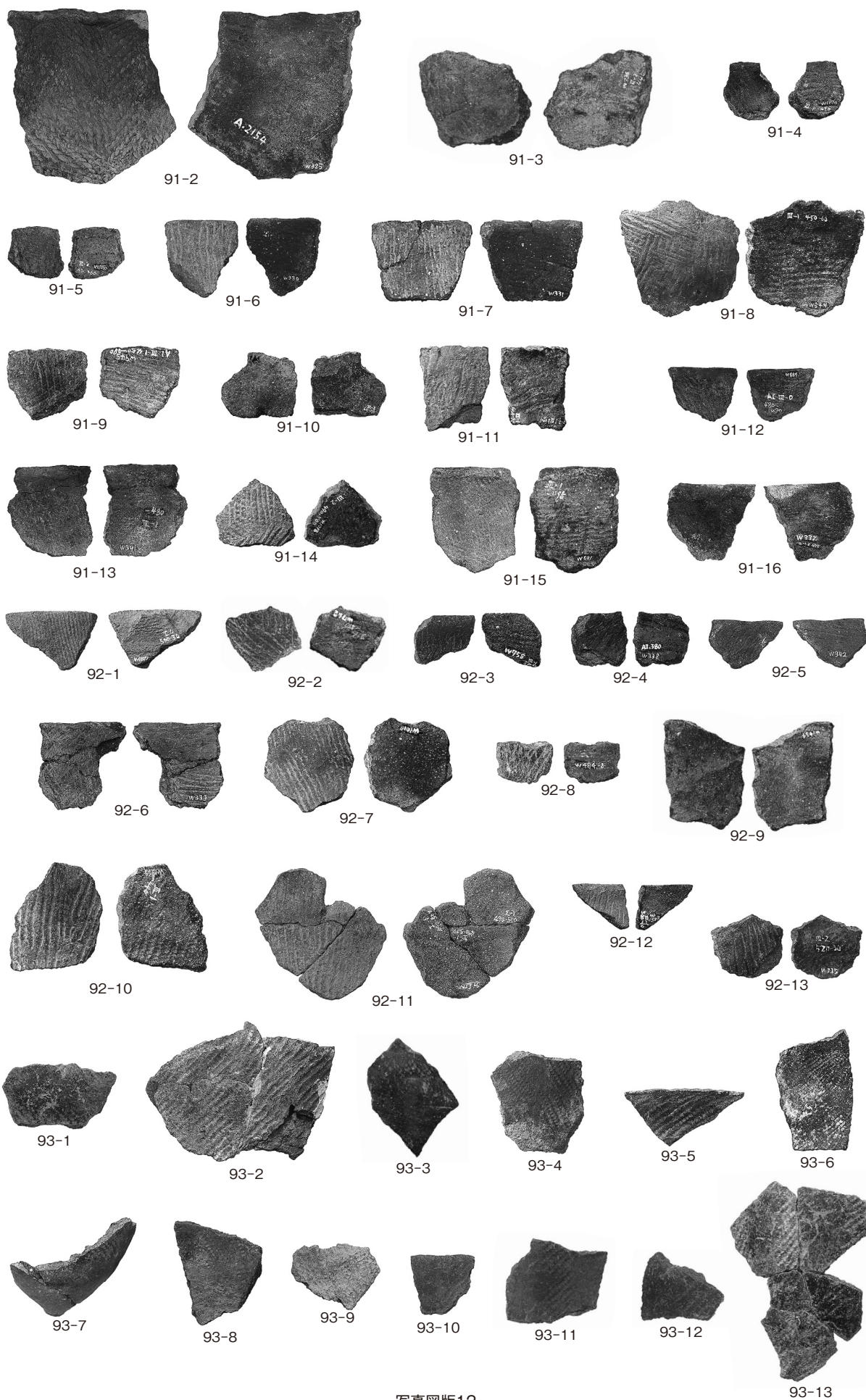




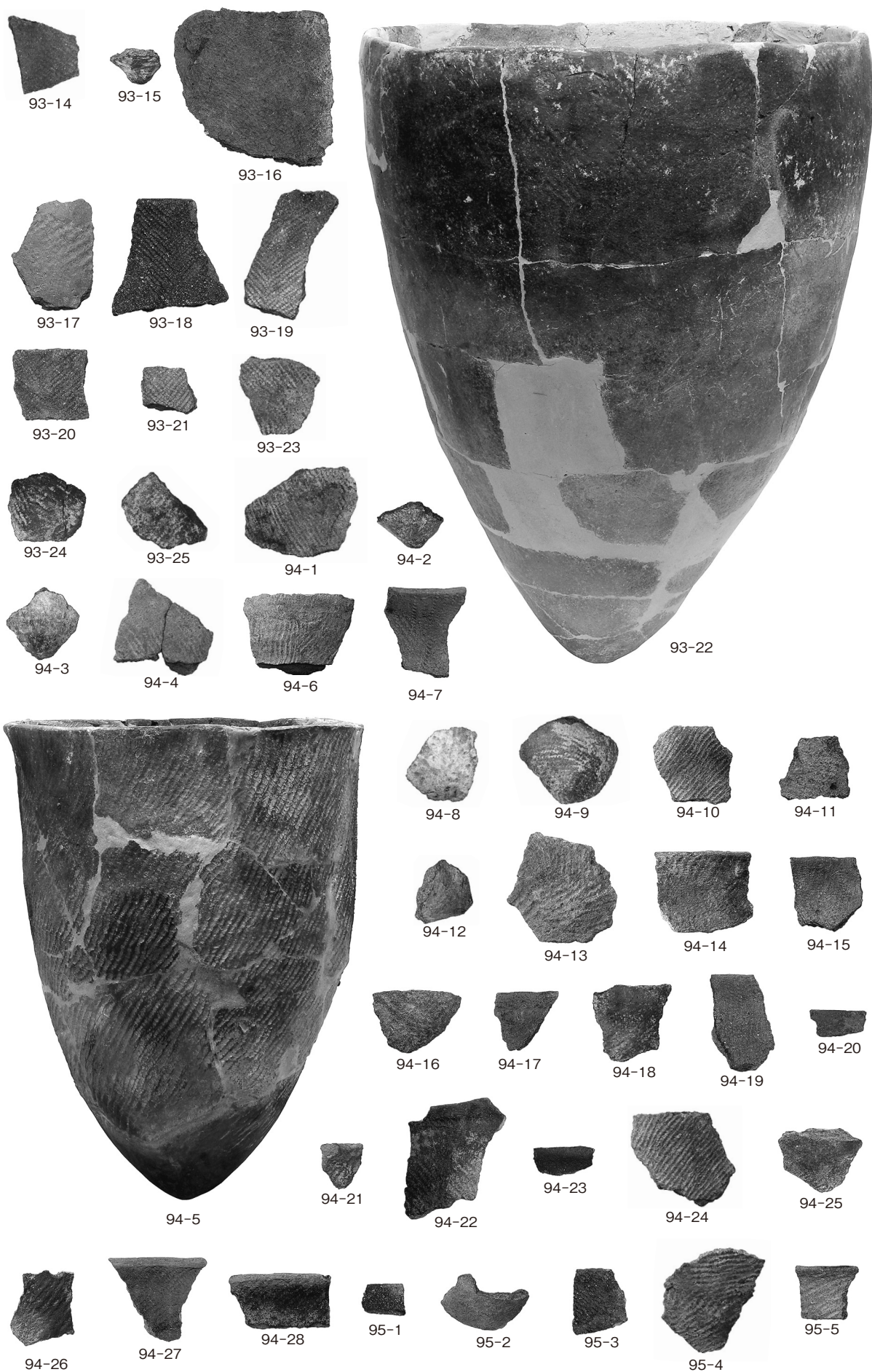


写真图版10

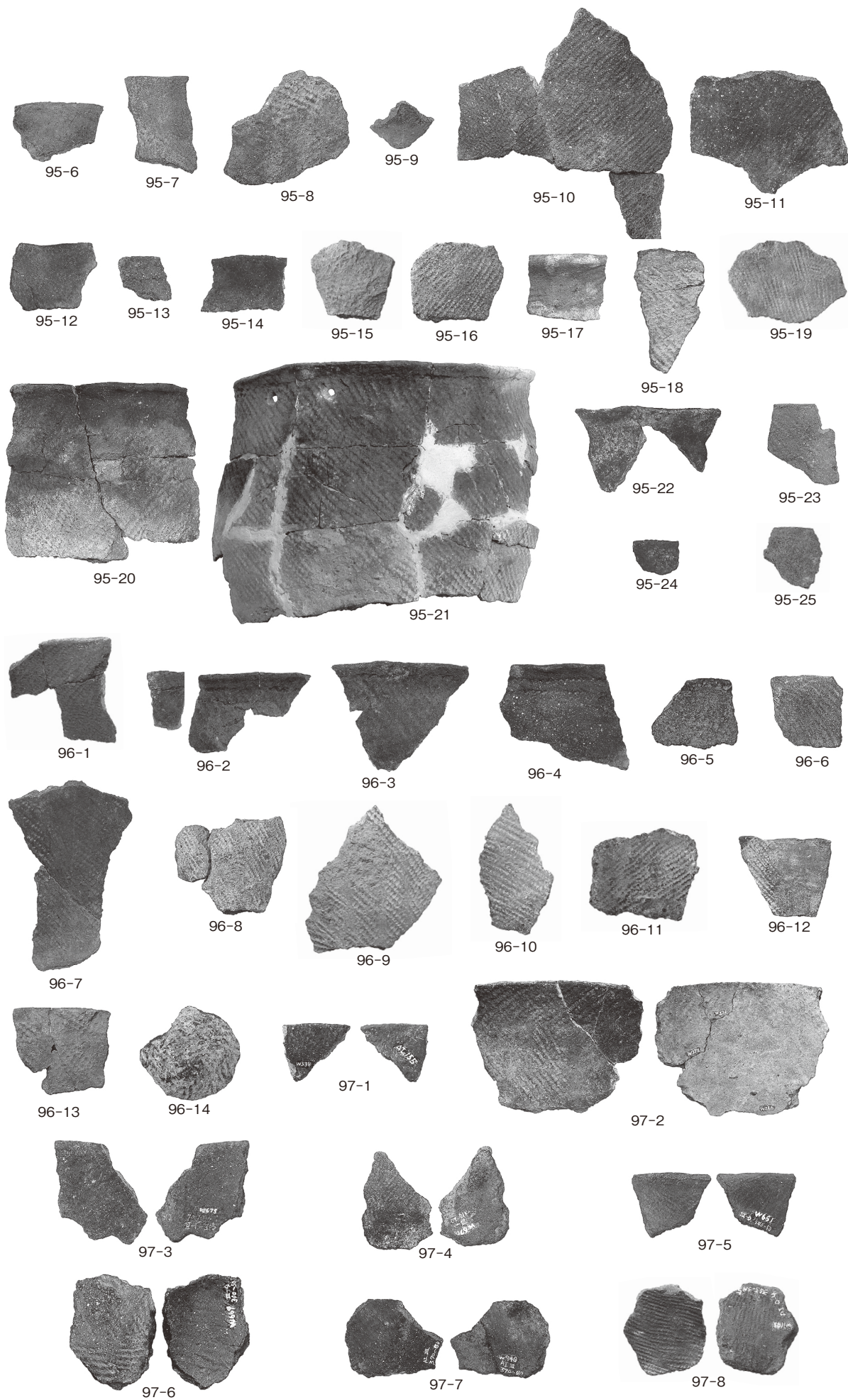




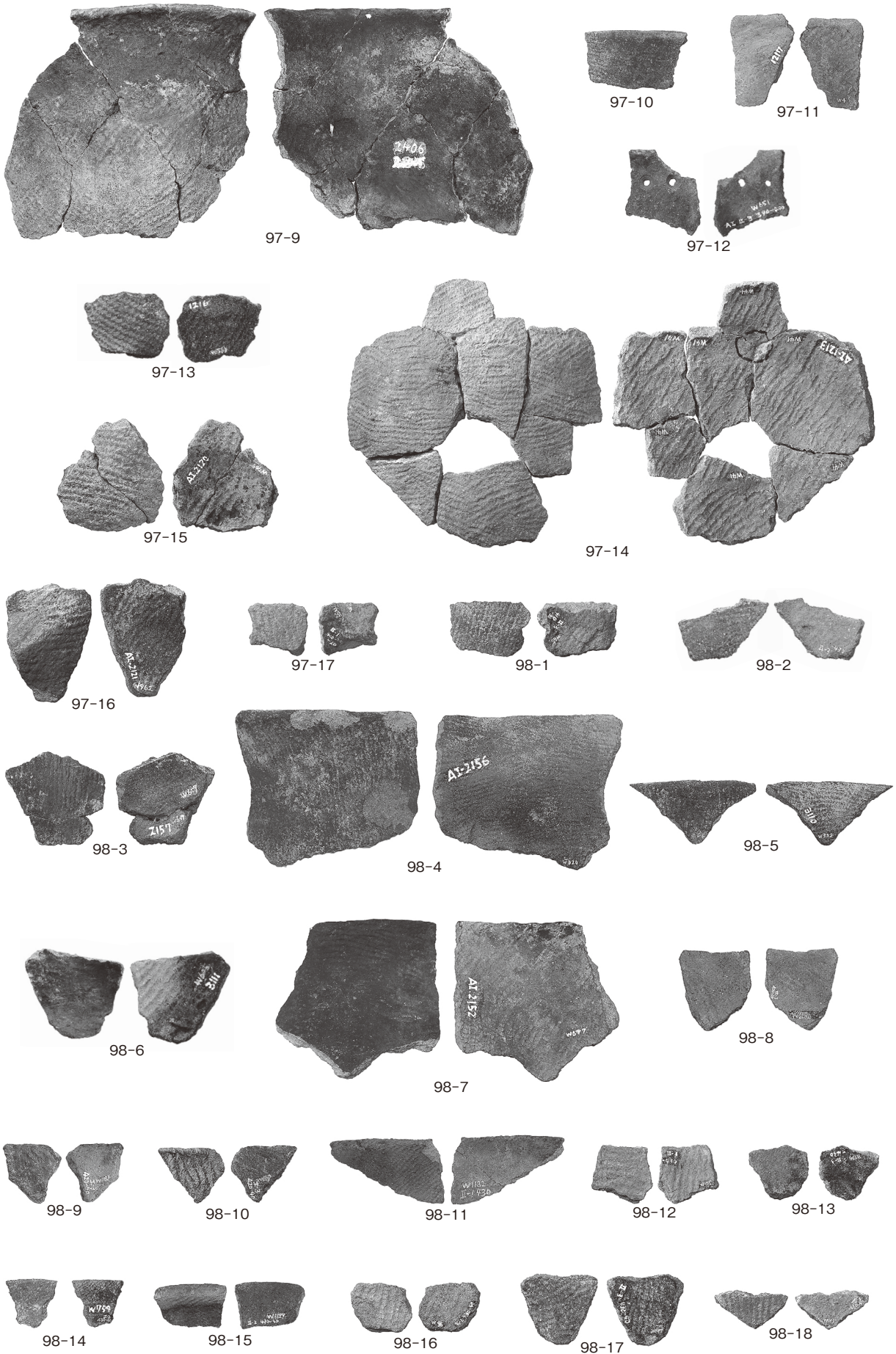
写真図版12

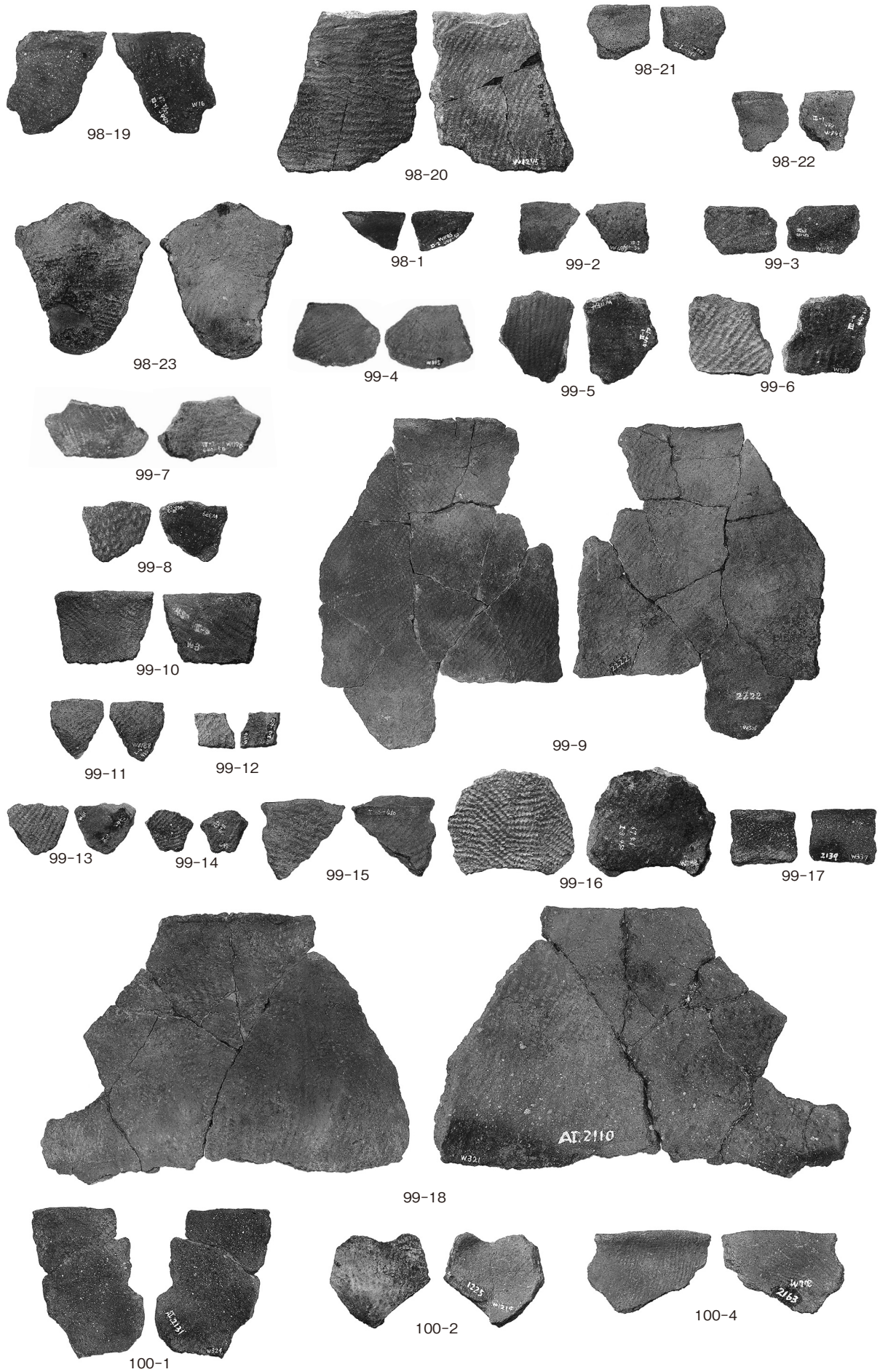


写真图版13

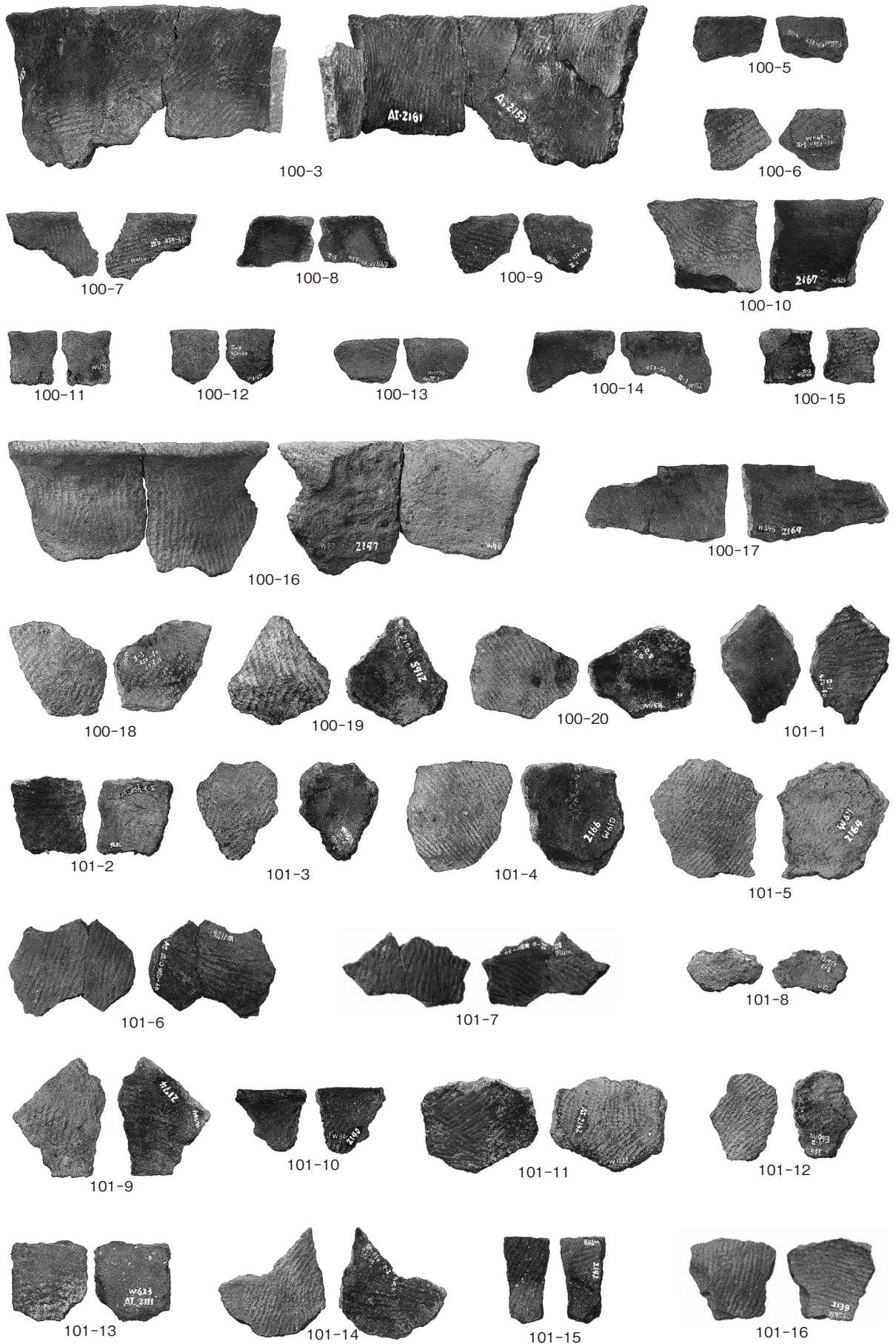


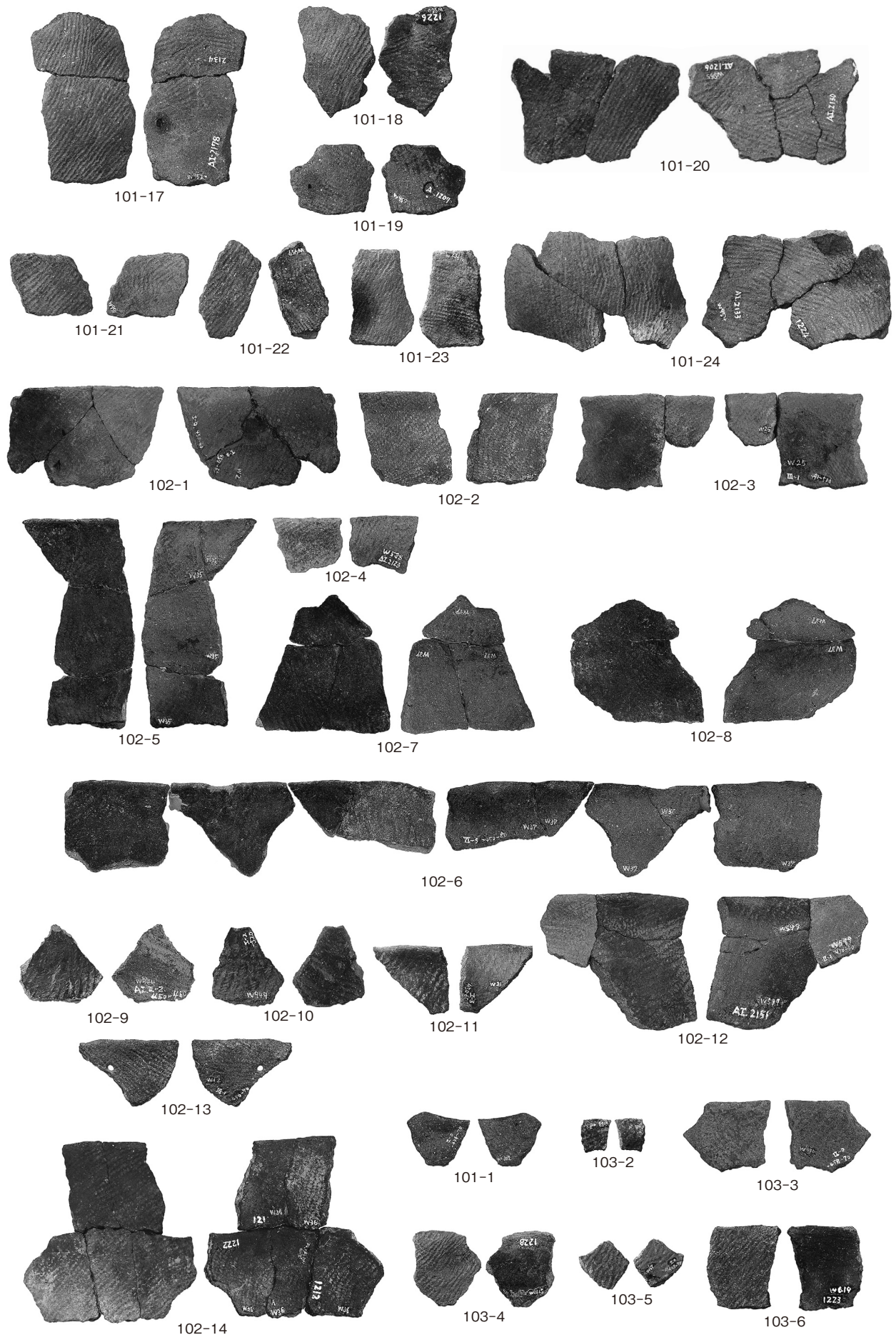
写真图版14



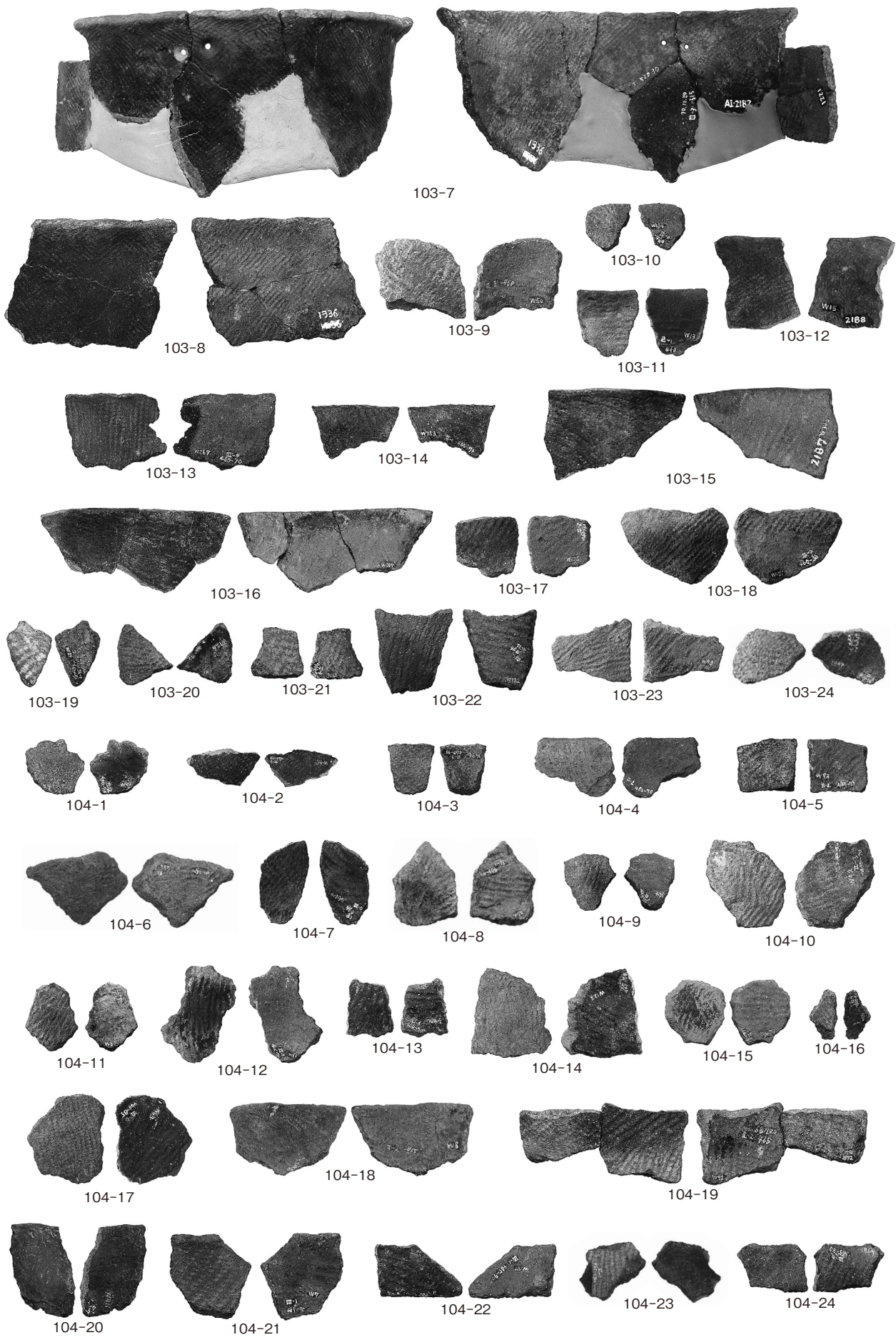


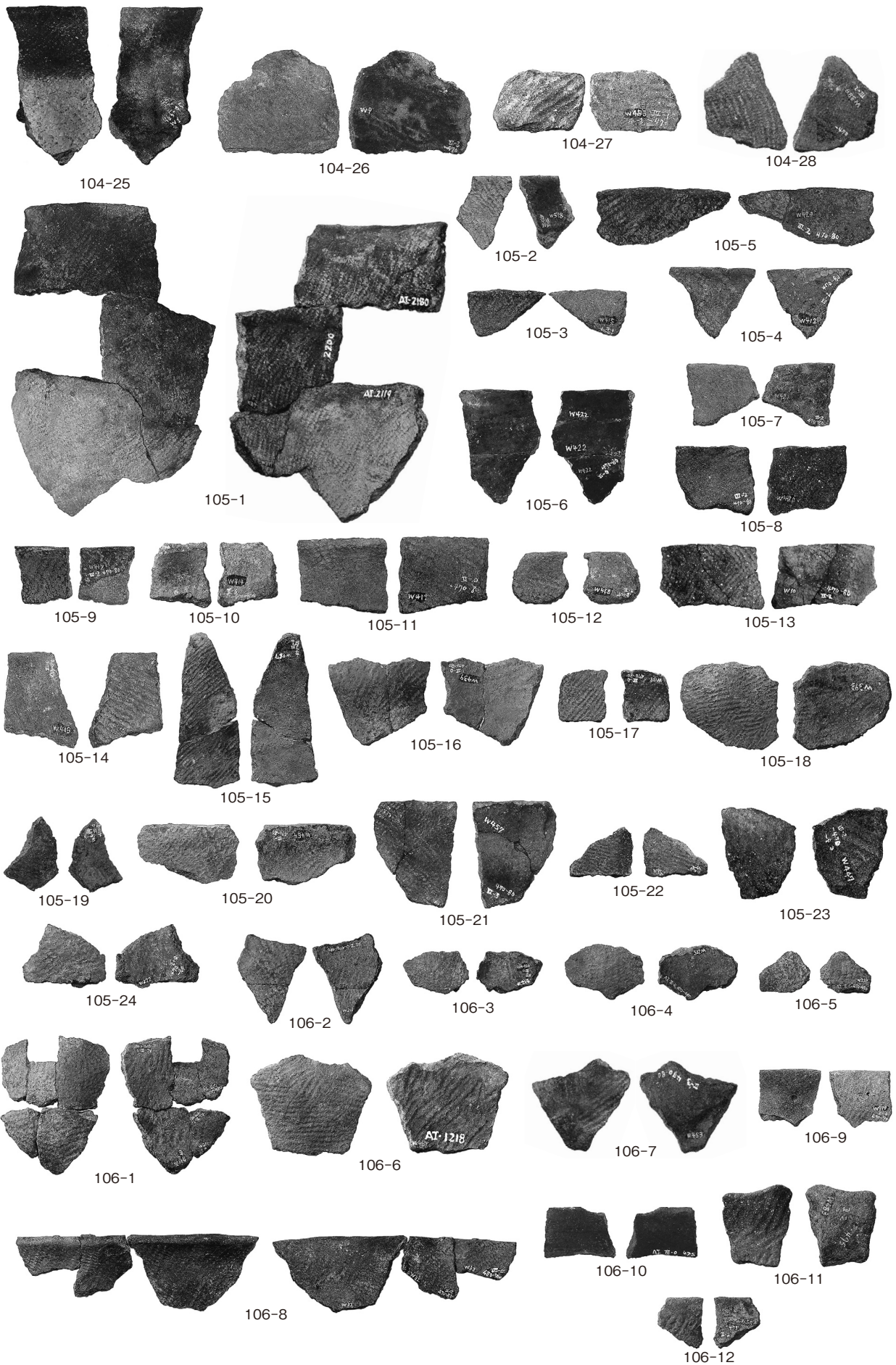
写真図版16

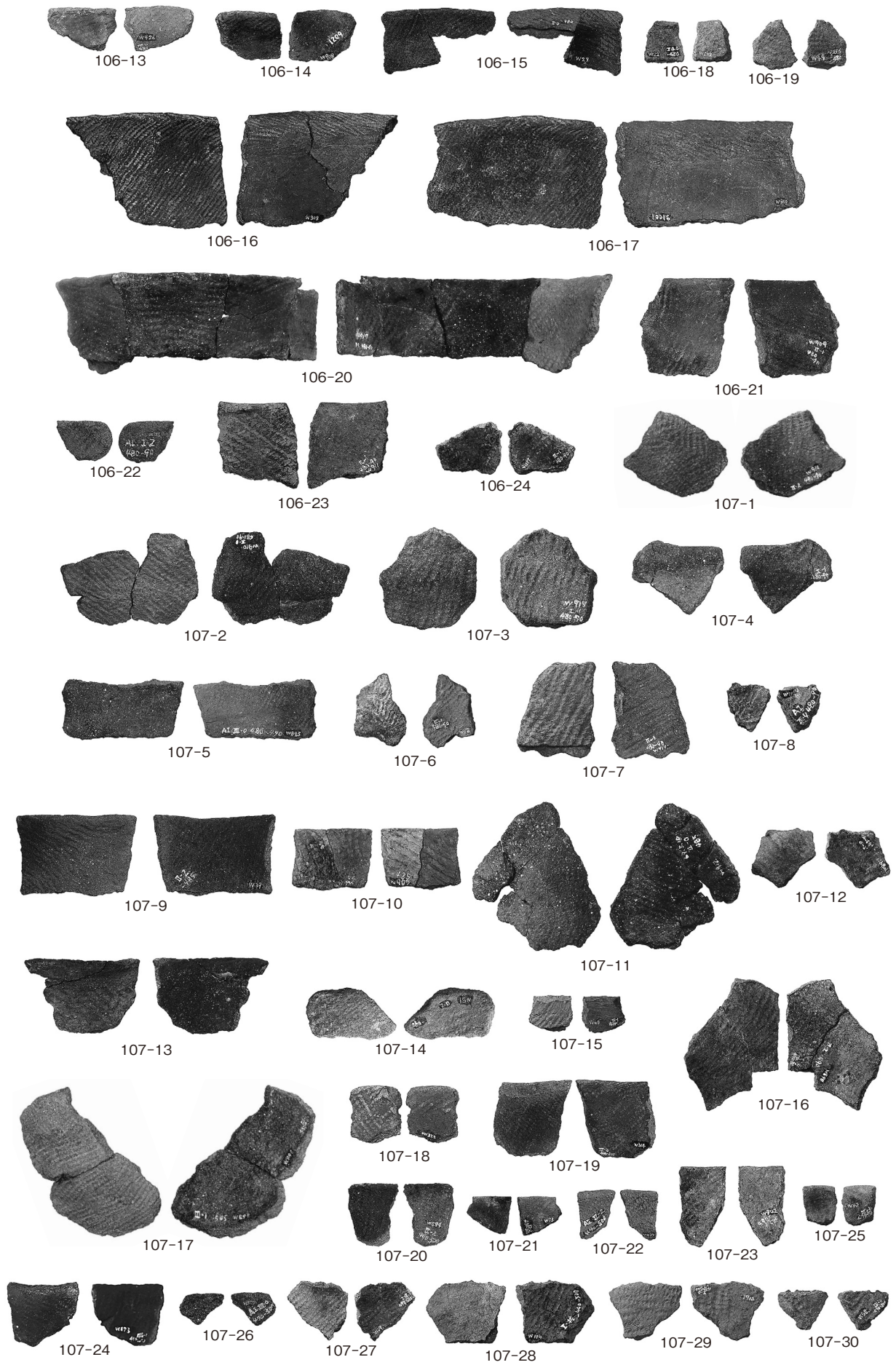




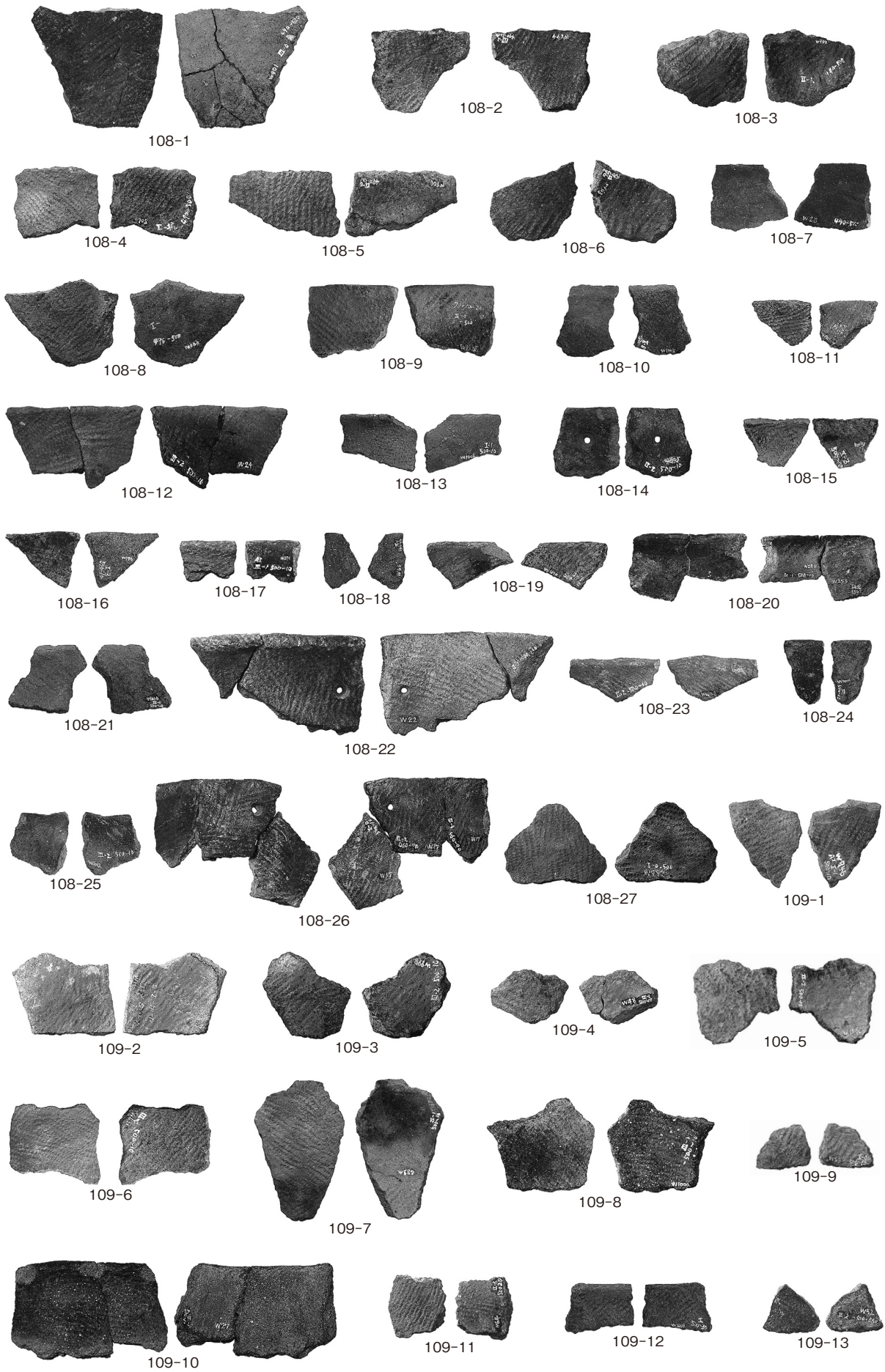
写真図版18

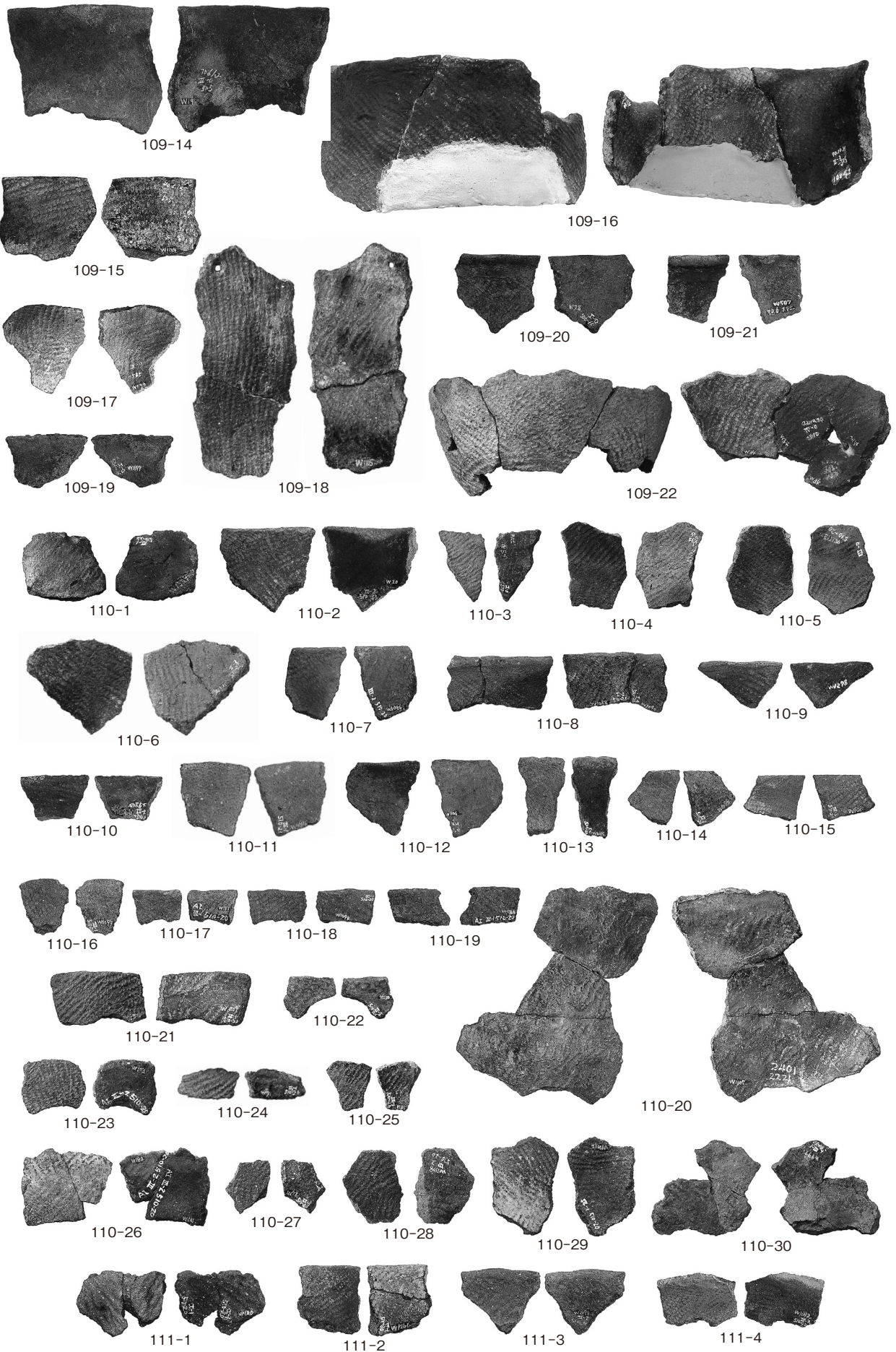


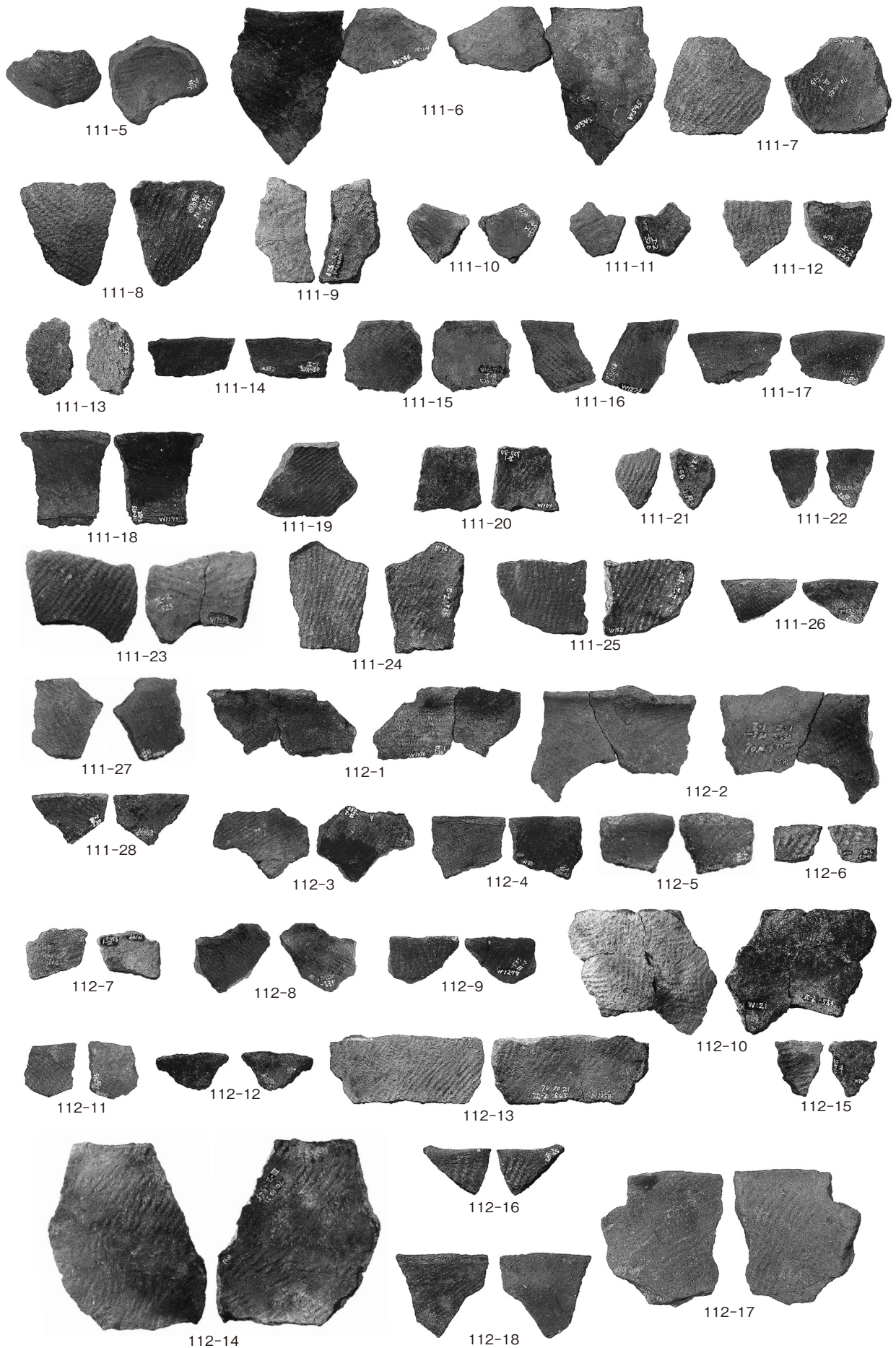




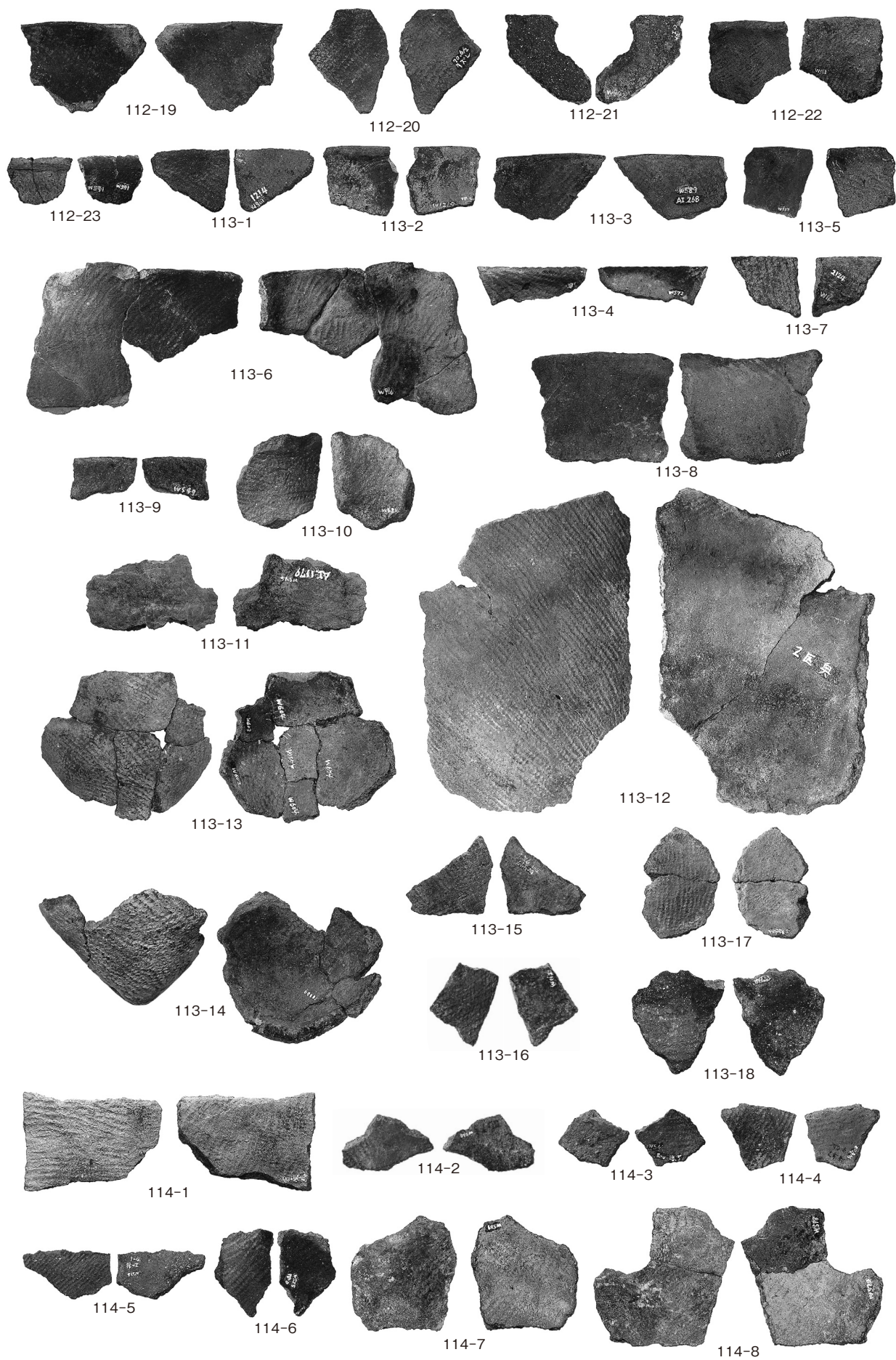
写真図版21

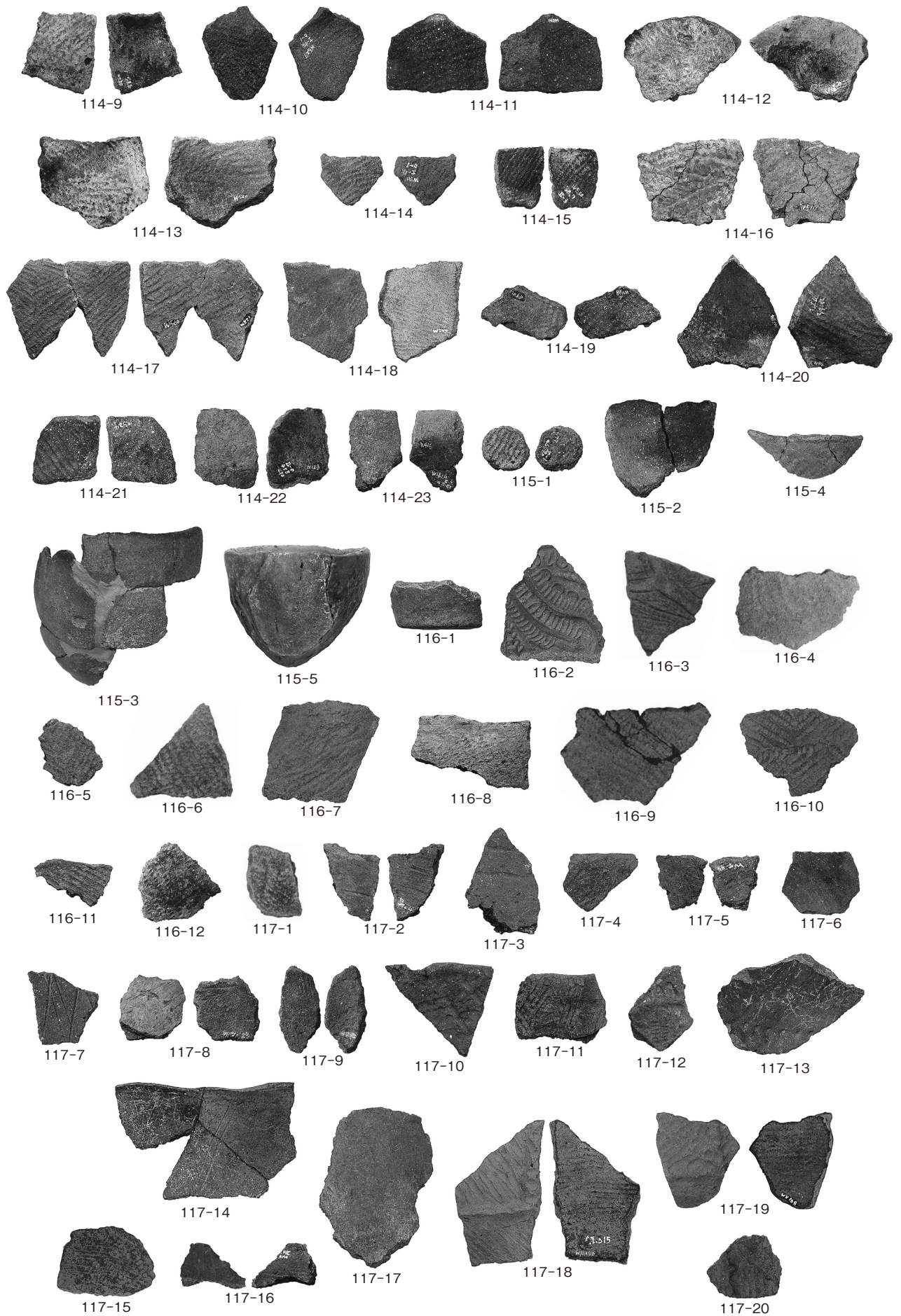


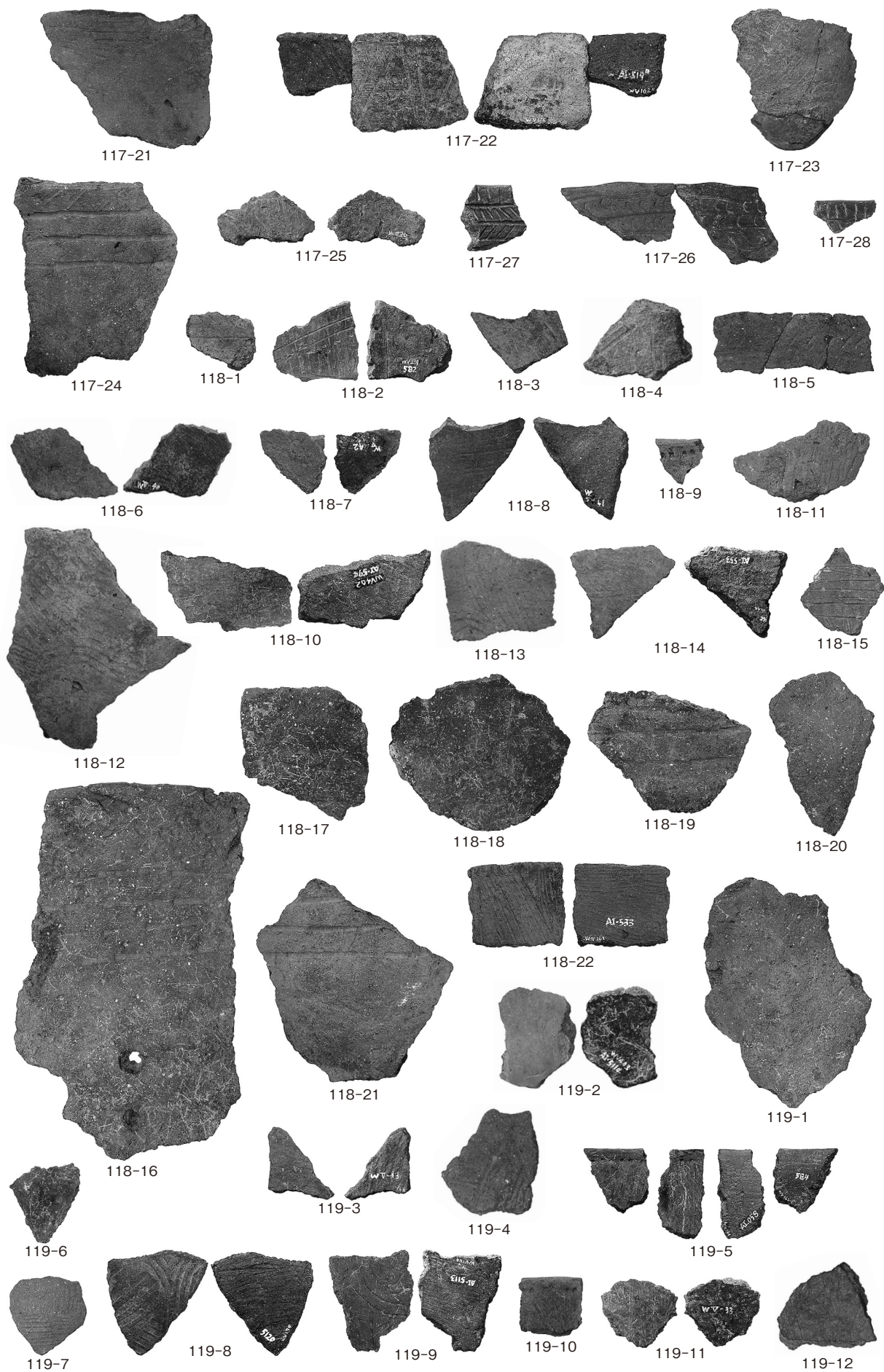




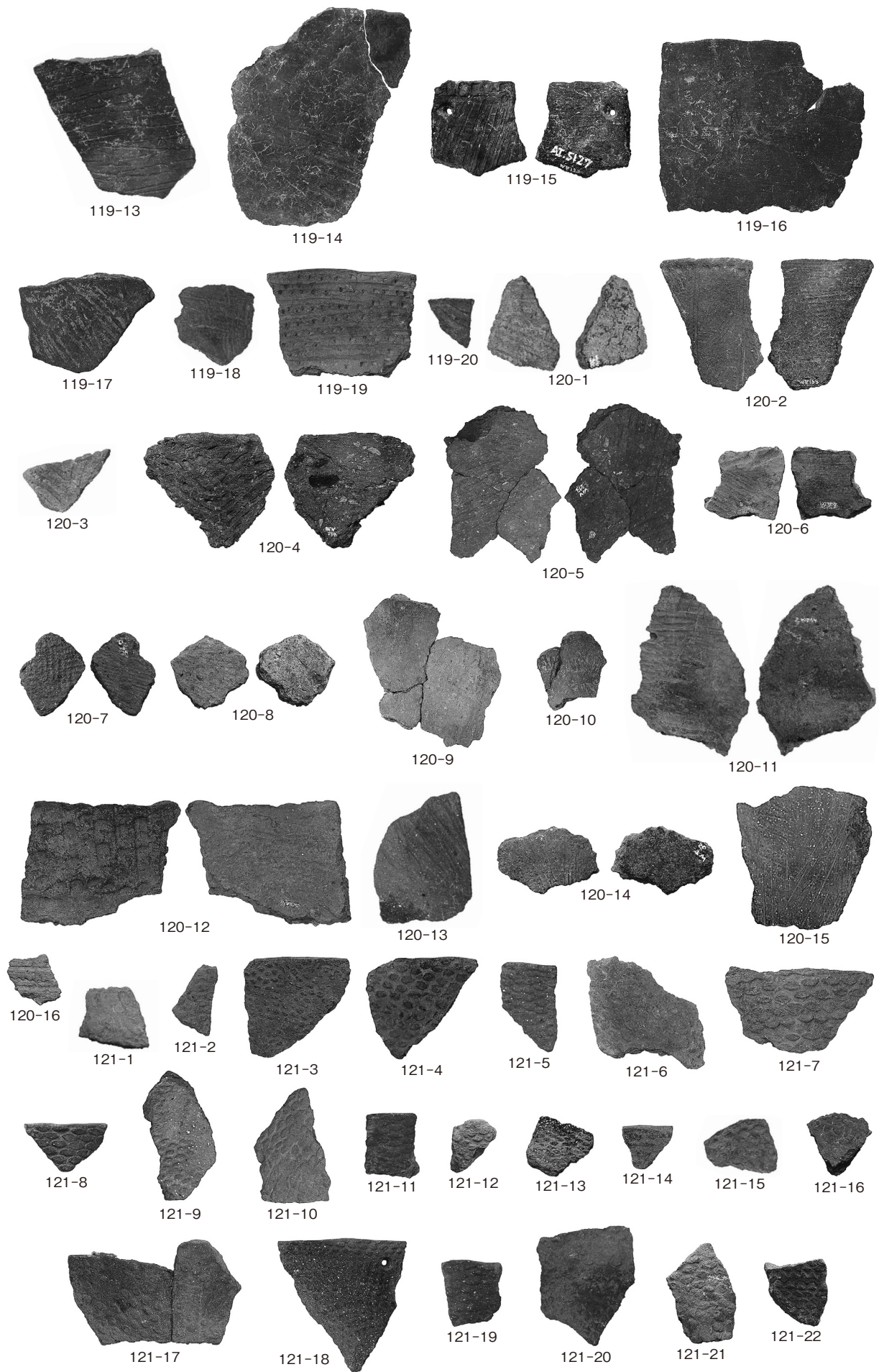
写真図版24



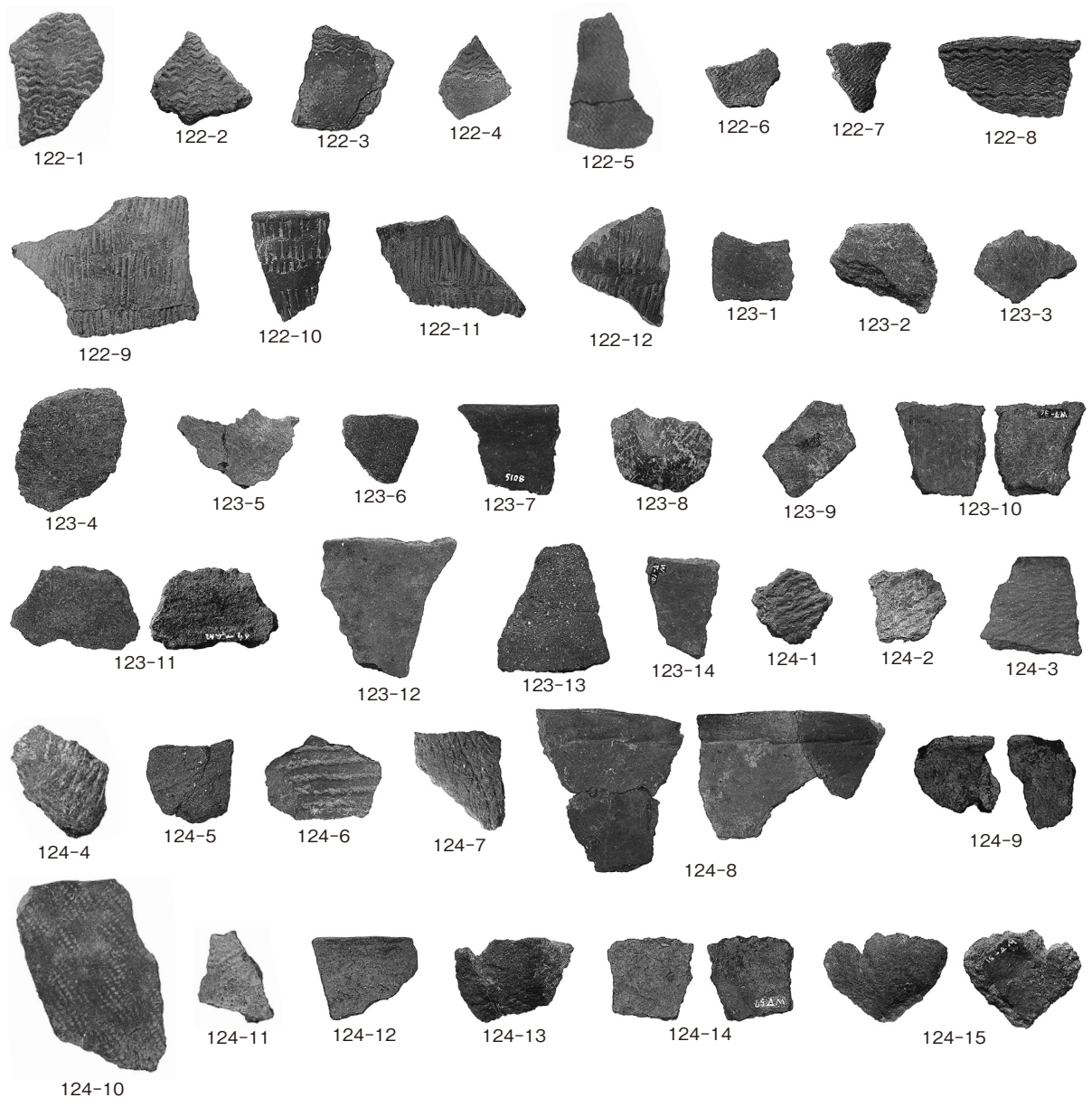


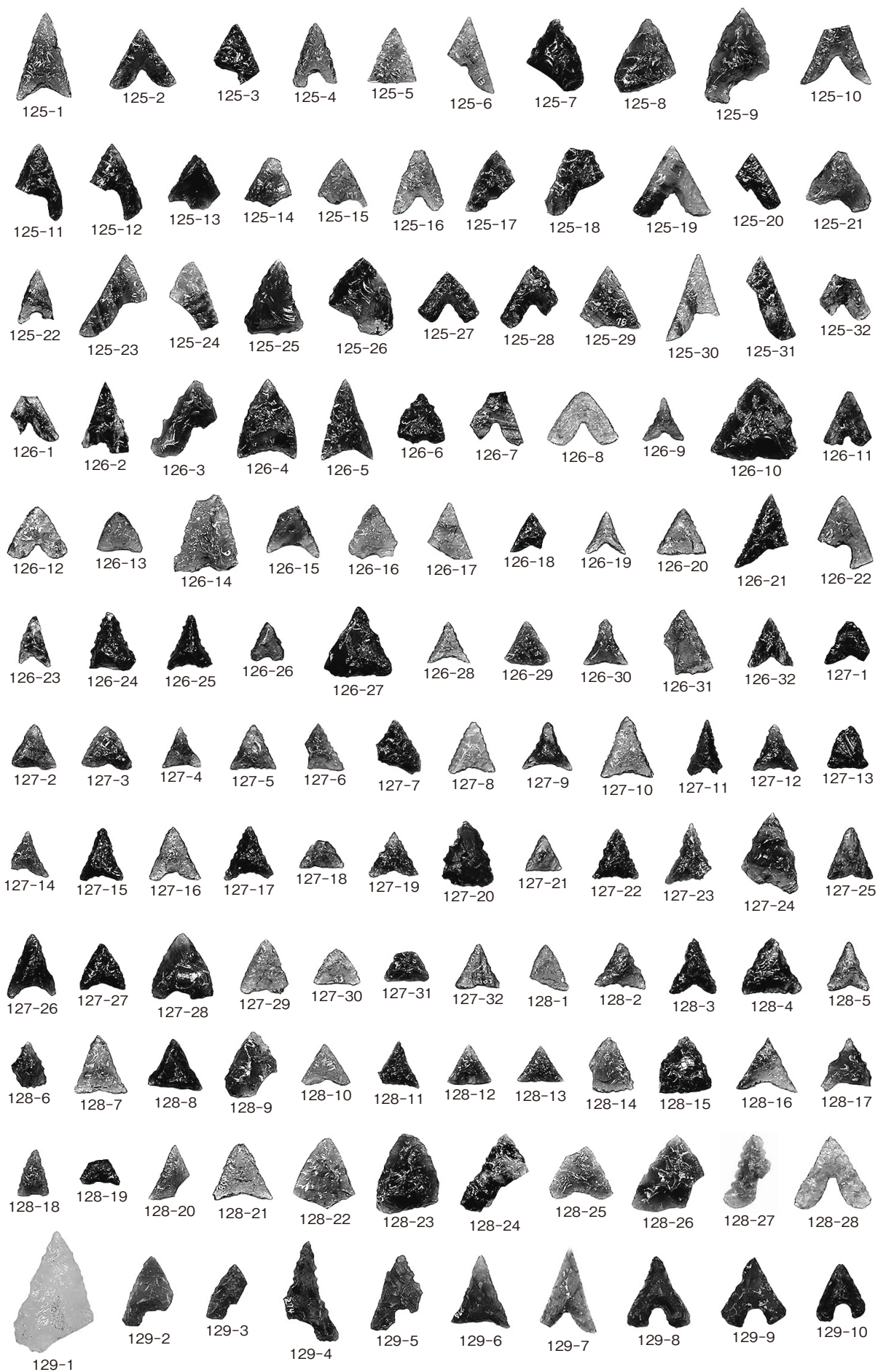


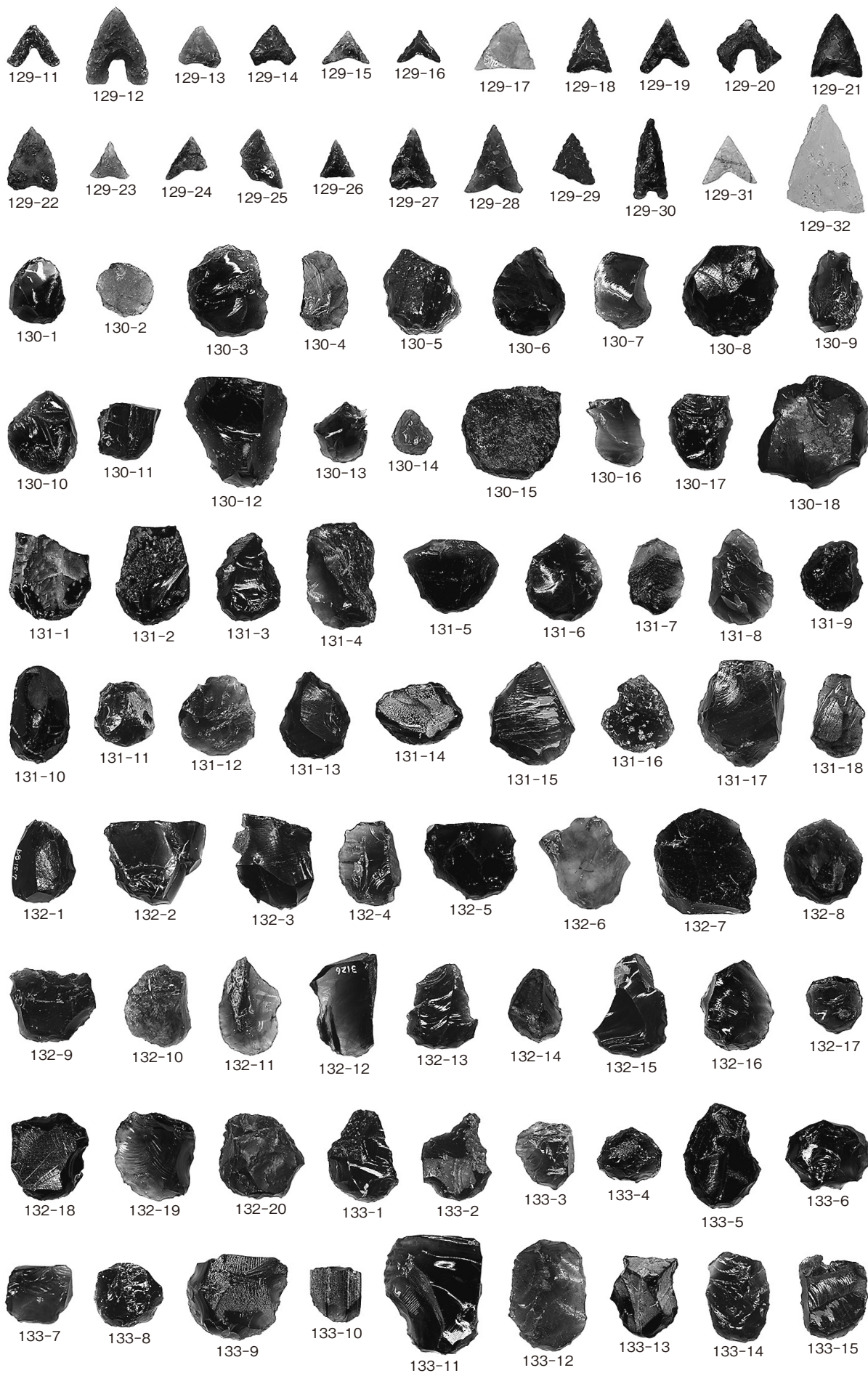
写真图版27

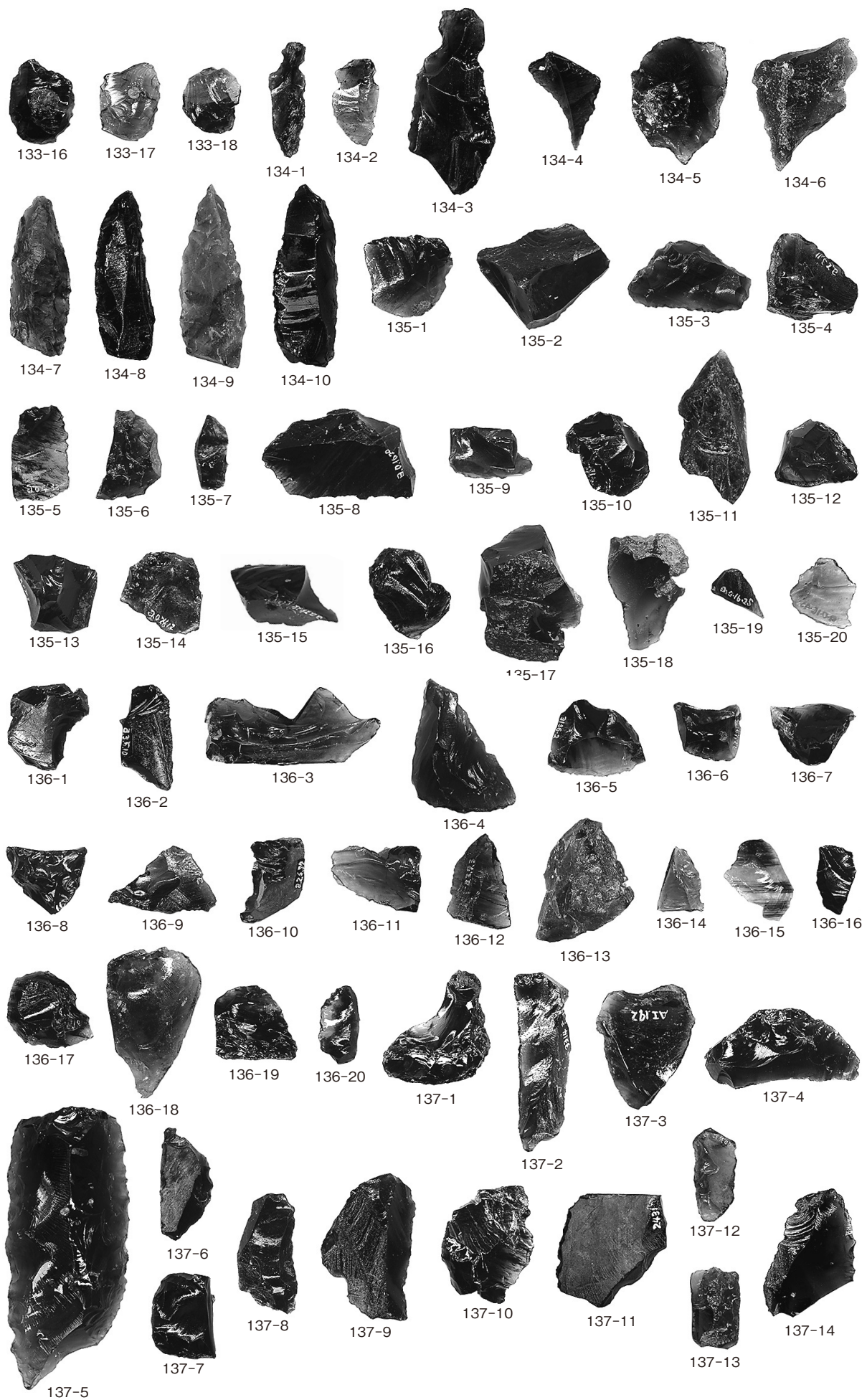


写真图版28

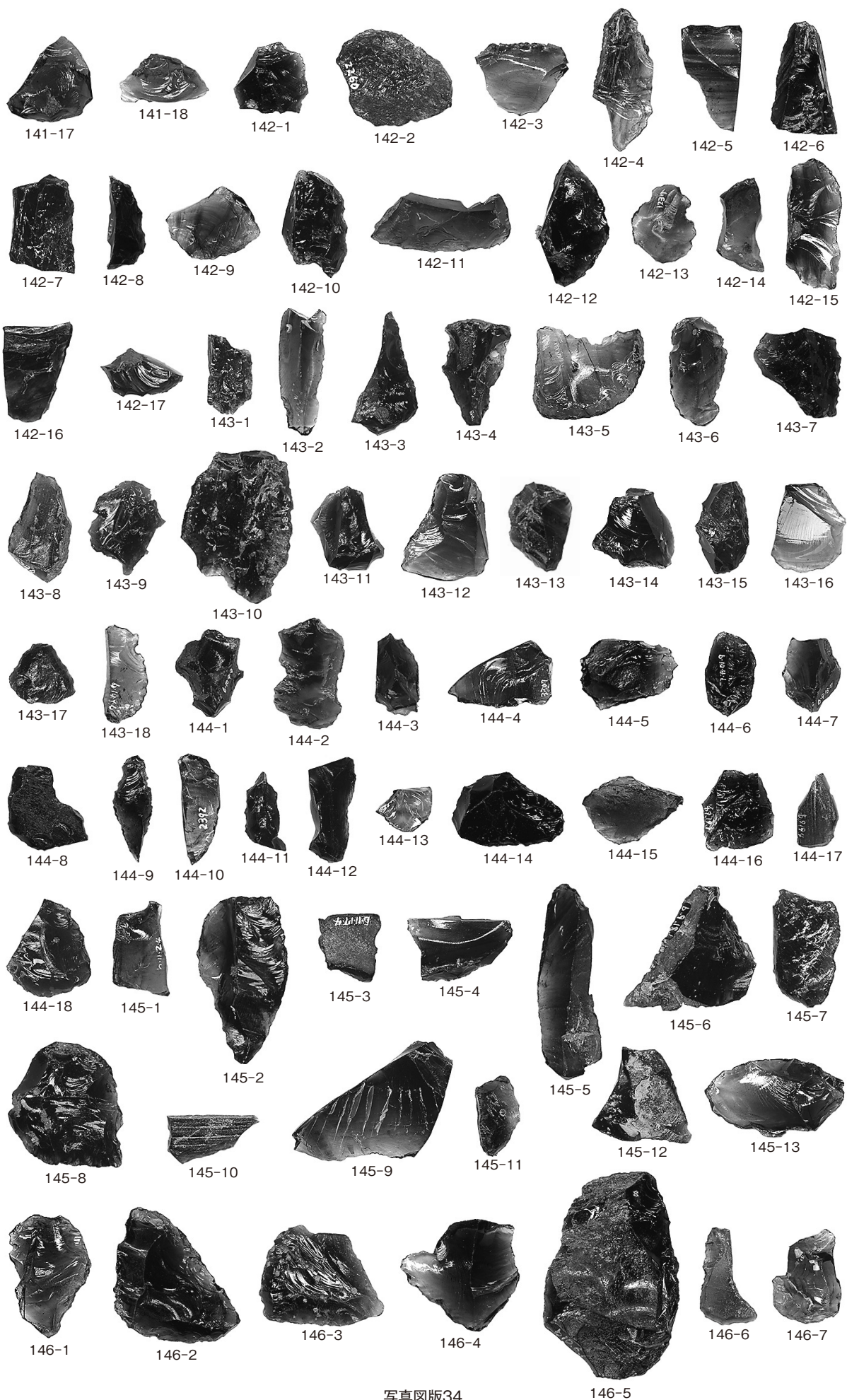




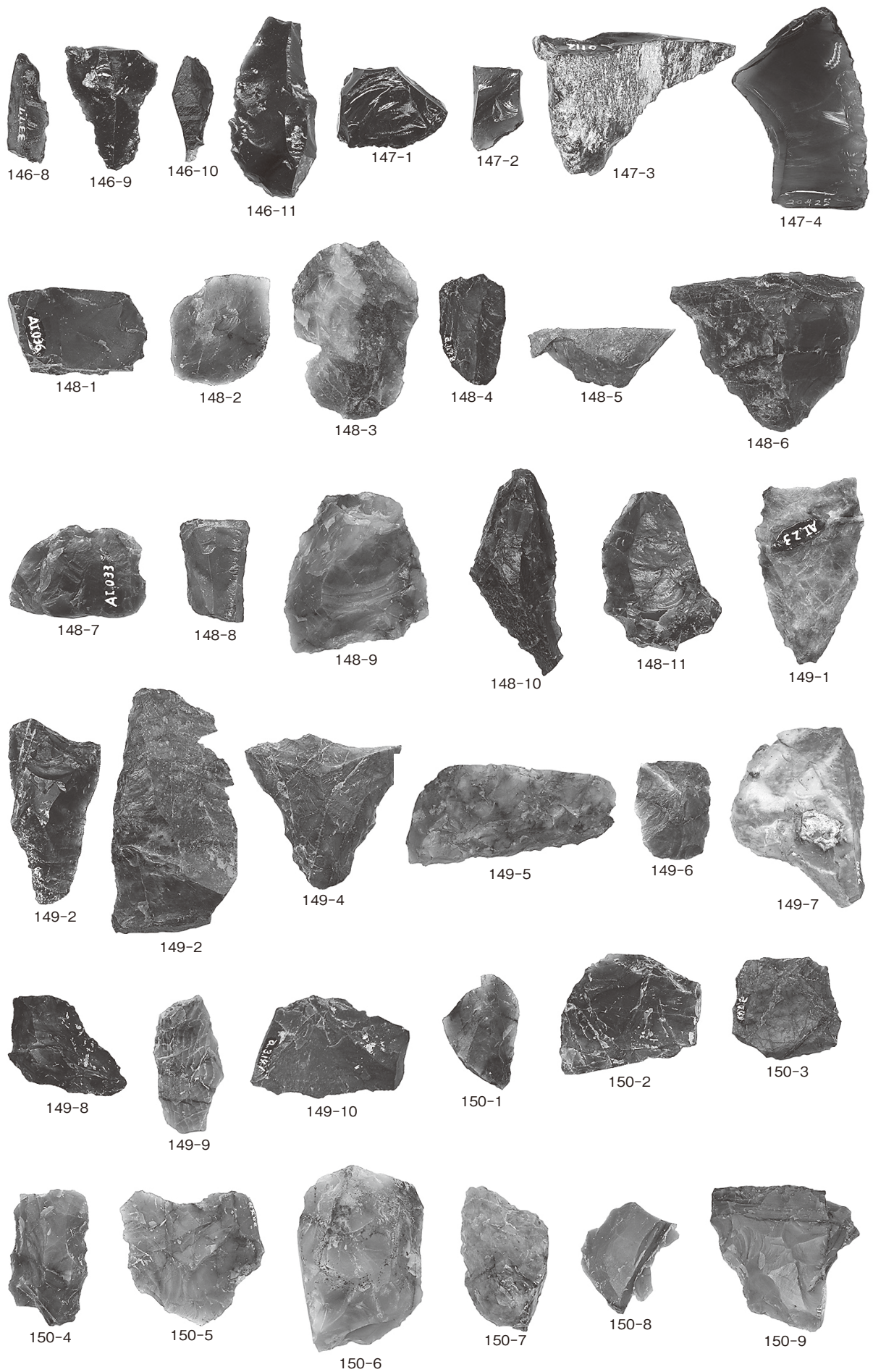


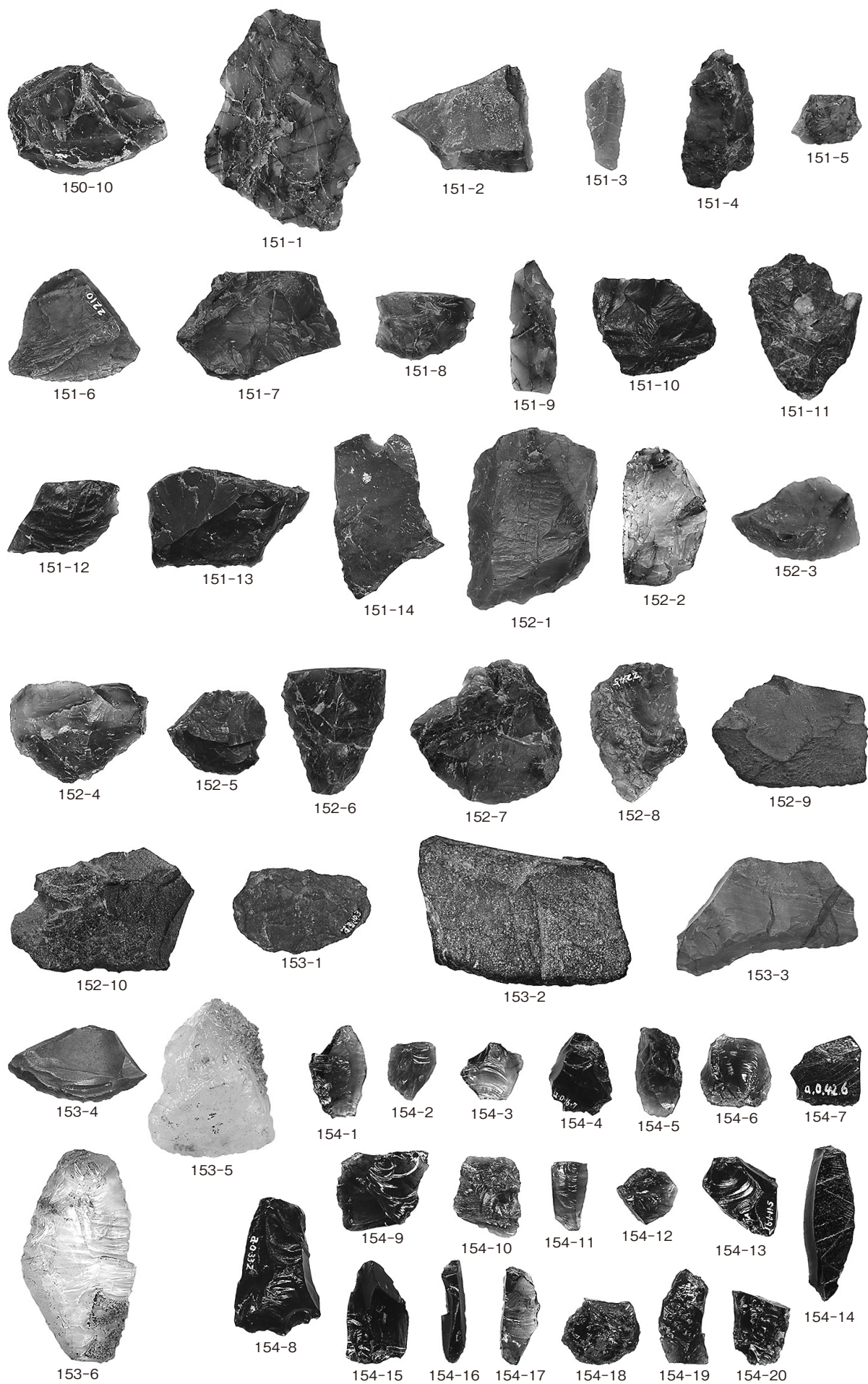




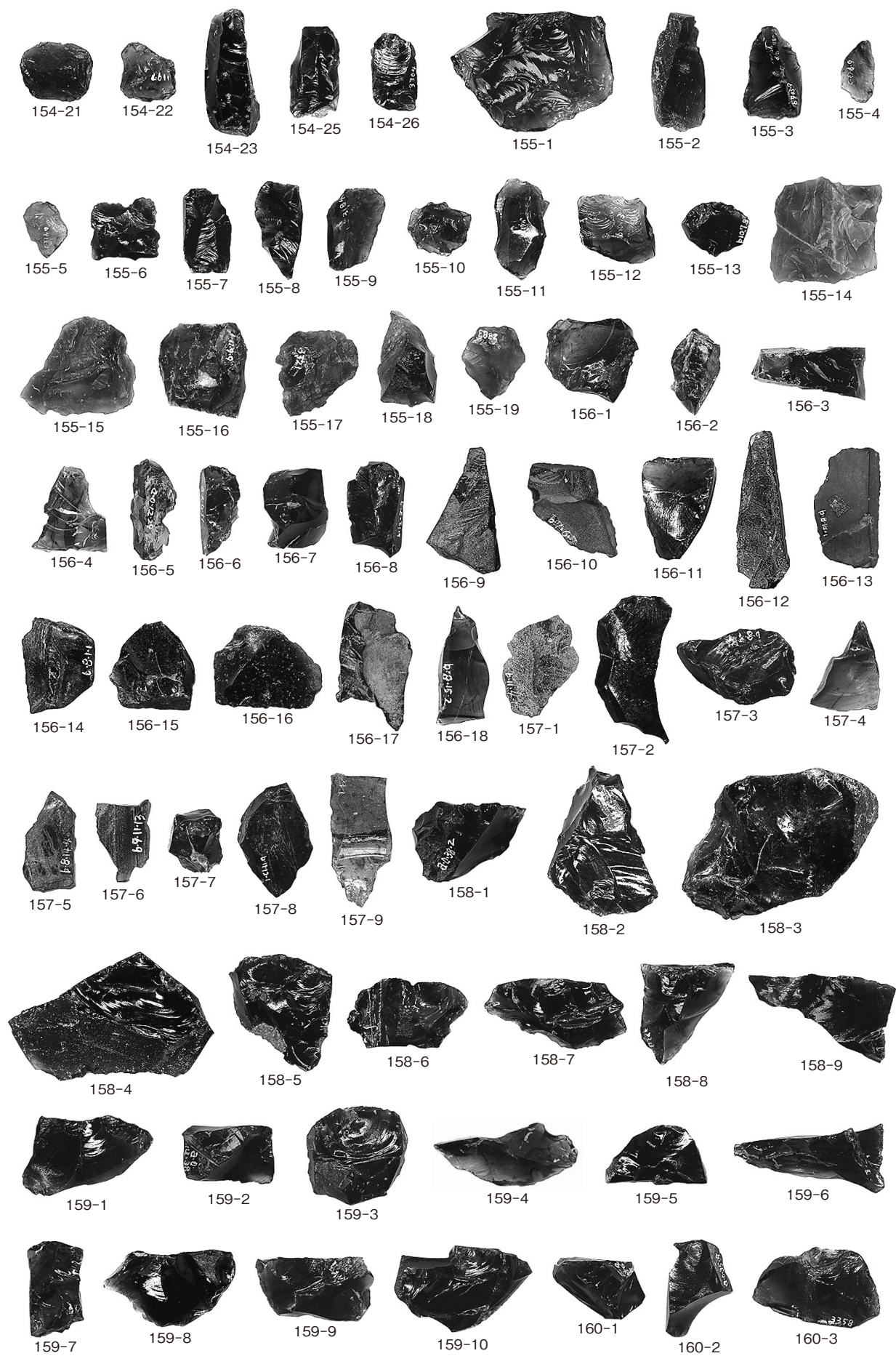


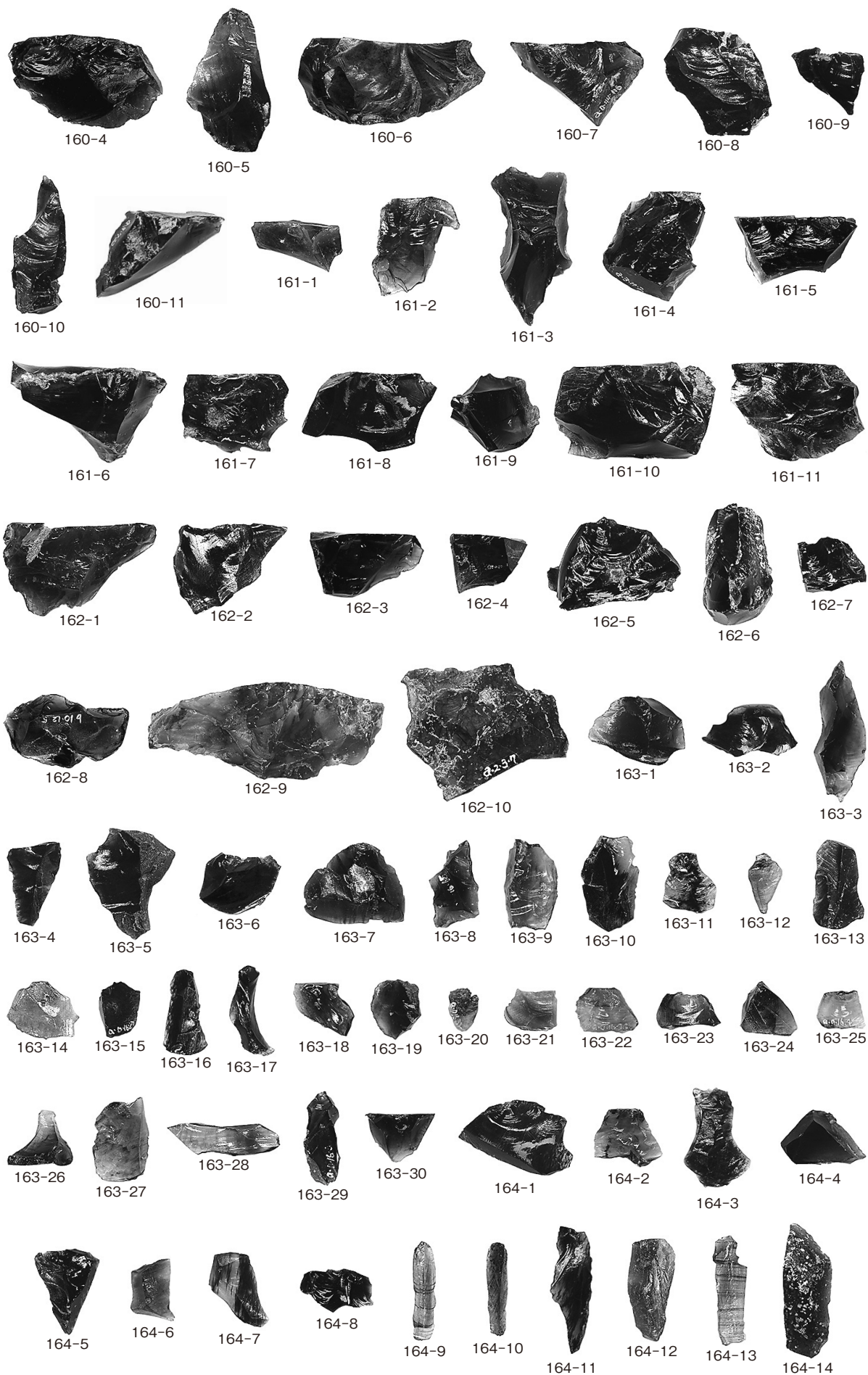
写真图版34





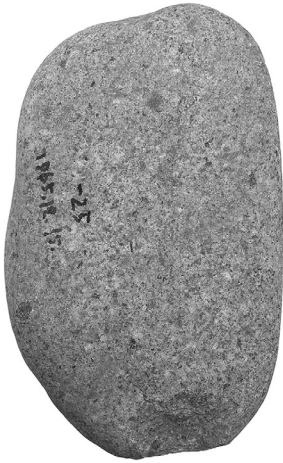
写真図版36





写真图版38





169-1



169-2



169-3



169-4



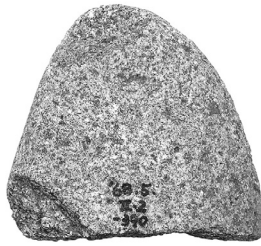
169-5



169-6



170-1



170-2



170-3



170-4



170-5



170-6



170-7



170-8



171-2



171-1



171-3



171-4



171-5



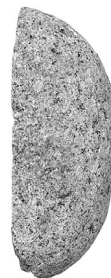
171-6



172-1



172-2



172-3



172-4



172-5



172-6



172-7



172-8



172-9



172-10



173-1



173-2



172-3



173-4



173-5



173-6



173-7



173-8



174-1



174-2



173-3



174-4



174-5



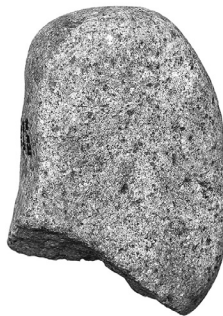
174-6



174-7



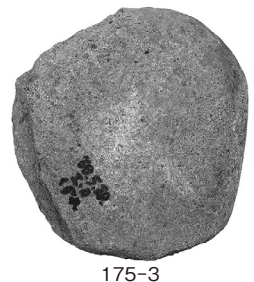
174-8



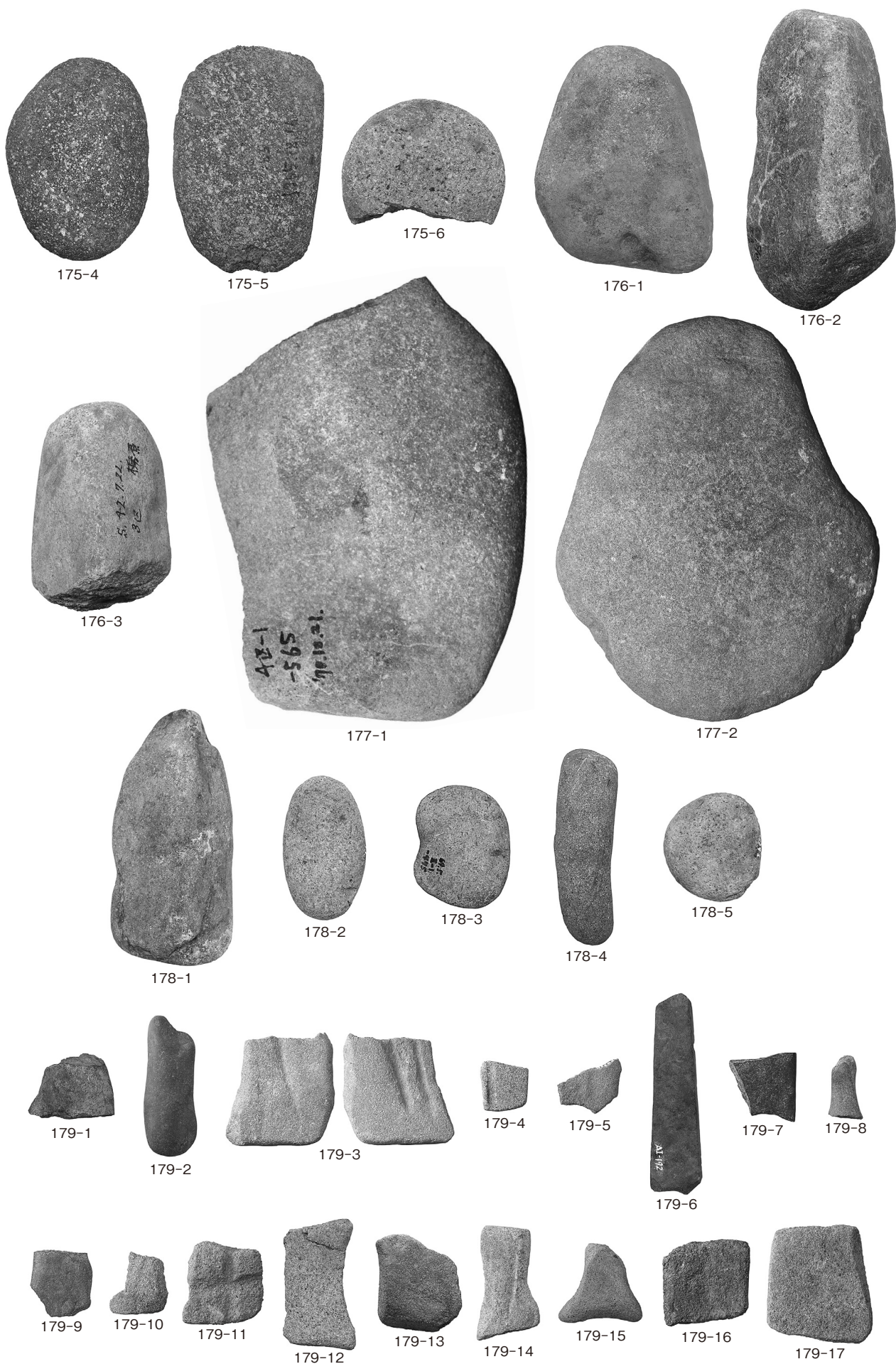
175-1



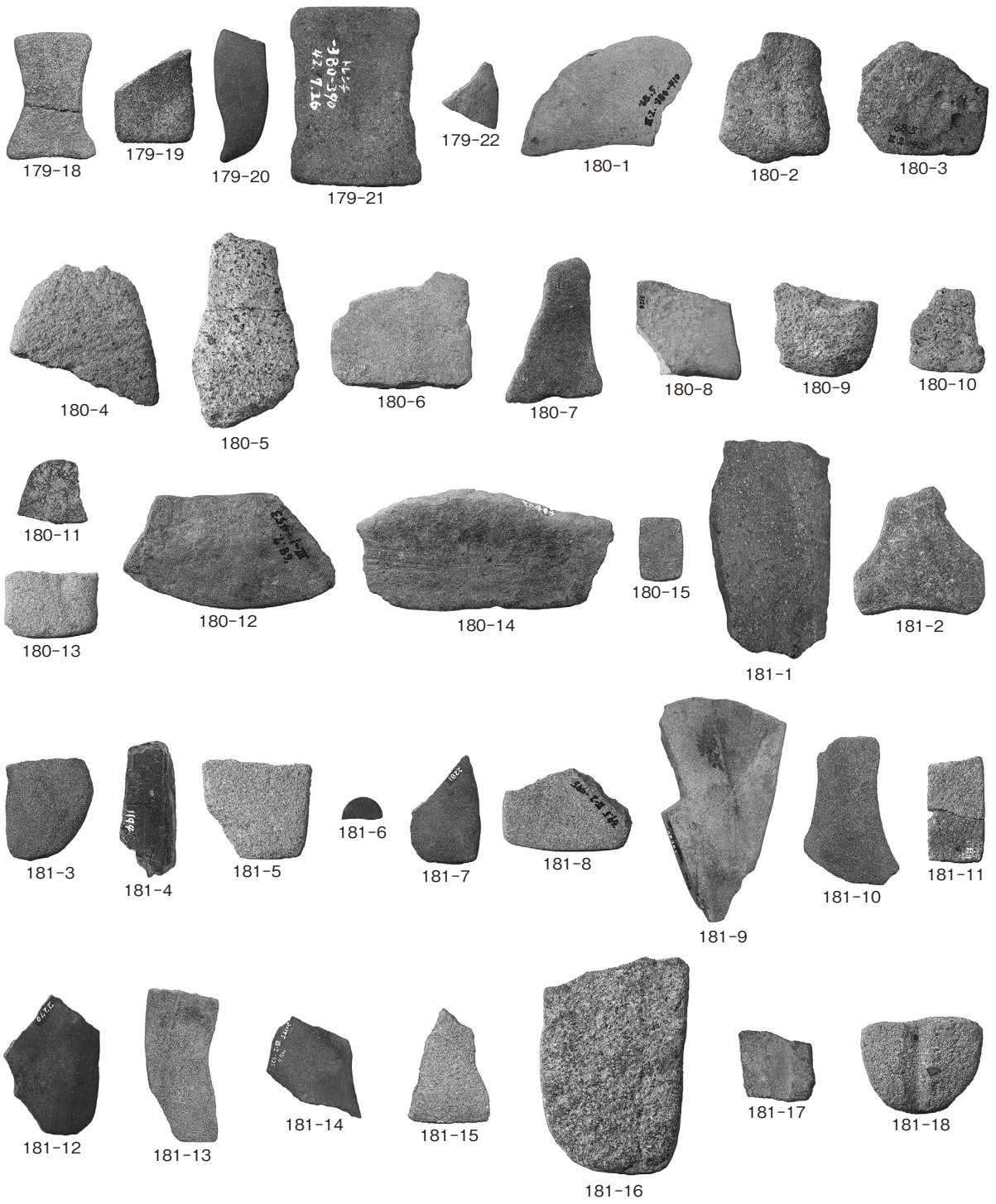
175-2

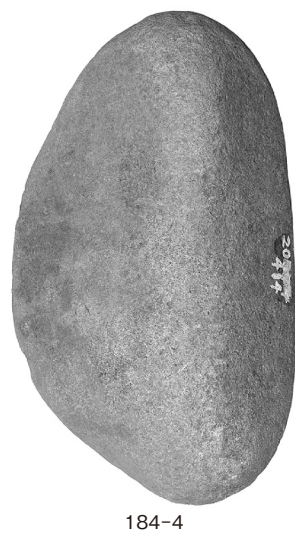
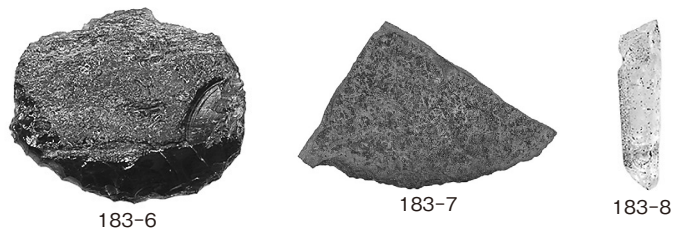


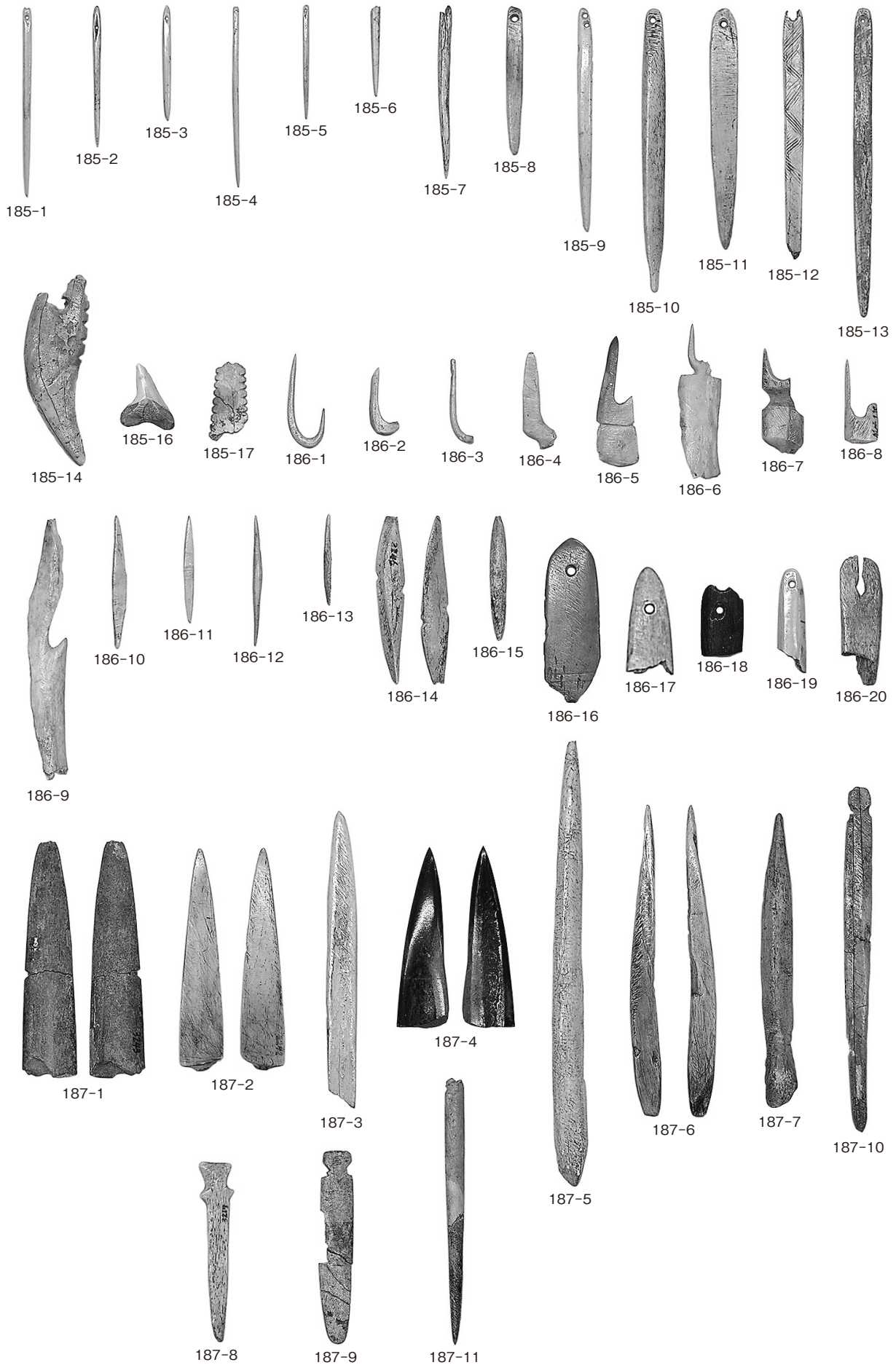
175-3

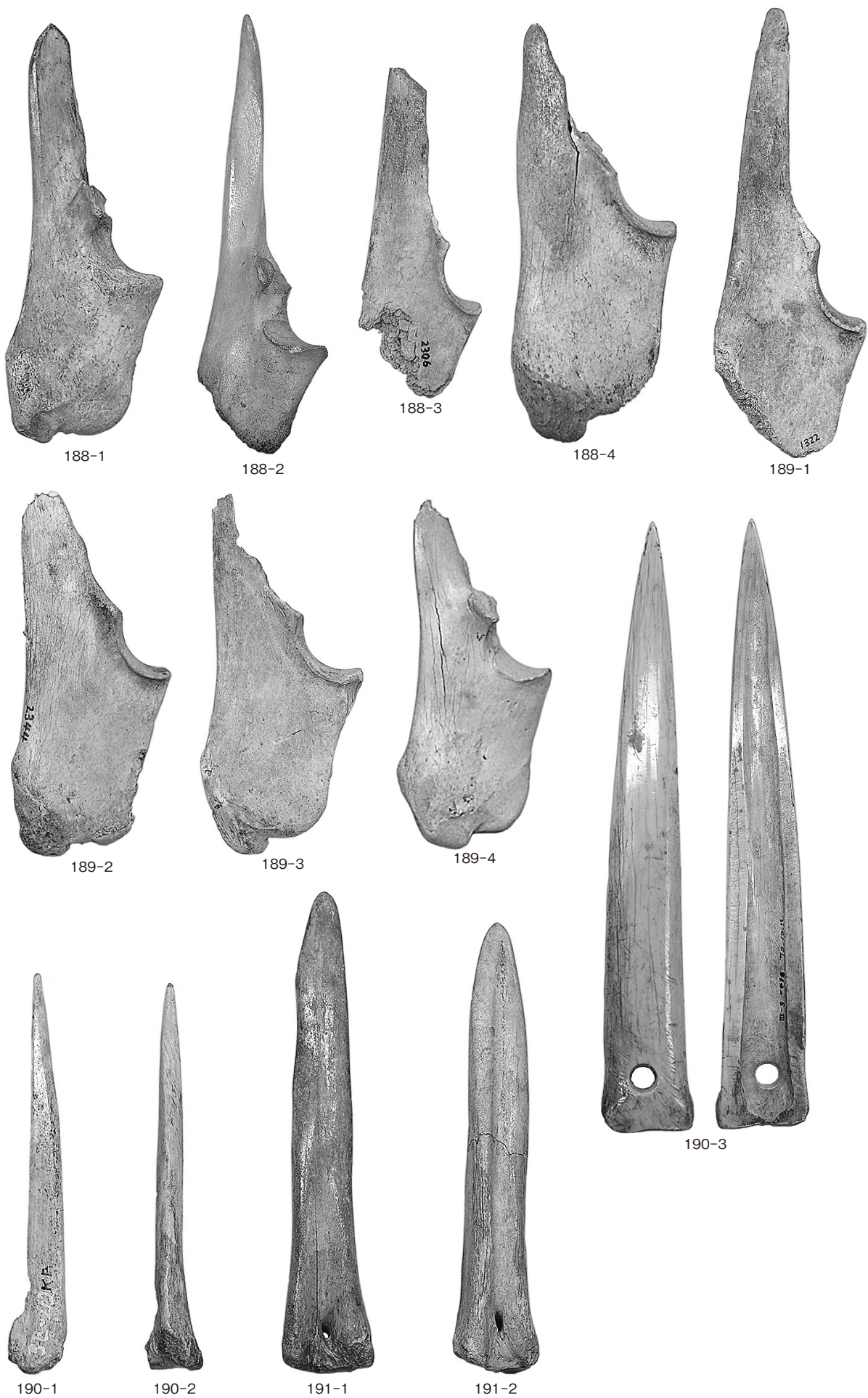


写真図版42









写真図版46



191-3



191-4



191-5



191-6



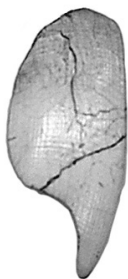
192-1



192-2



192-3



192-4



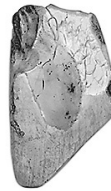
192-5



192-6



192-7



192-8



193-1



193-2



193-3



193-4



193-5



193-6



193-7



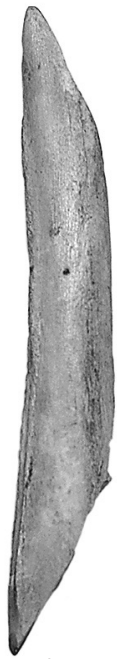
193-8



193-9



193-10



194-1



194-2



194-3



194-4



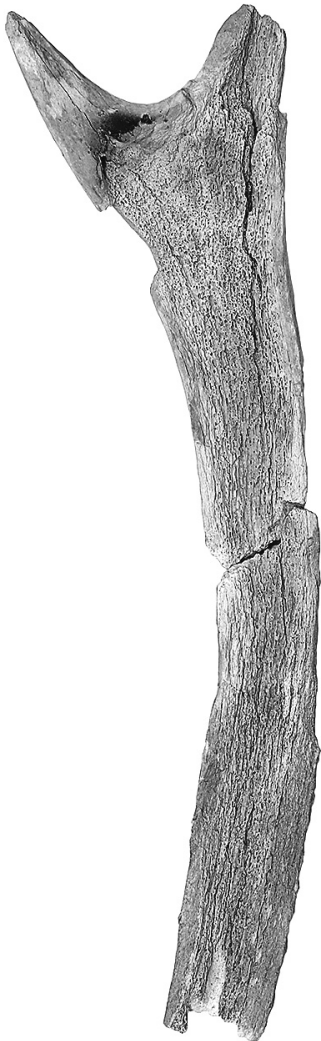
195-2



195-3



195-4



195-1



196-1



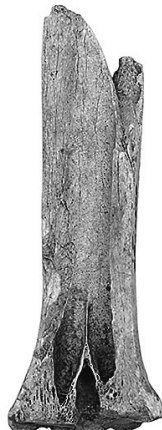
196-2



196-3



196-4

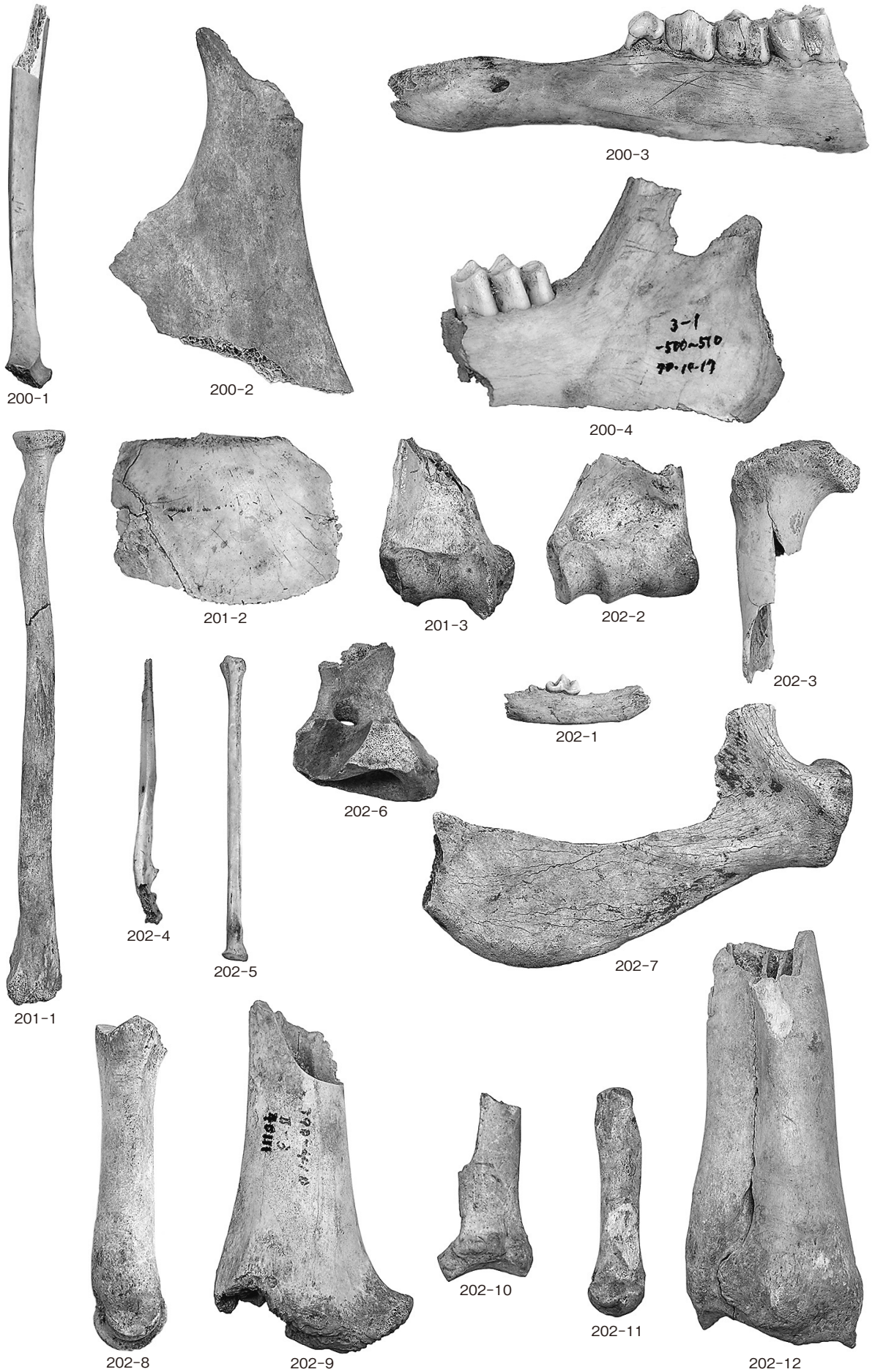


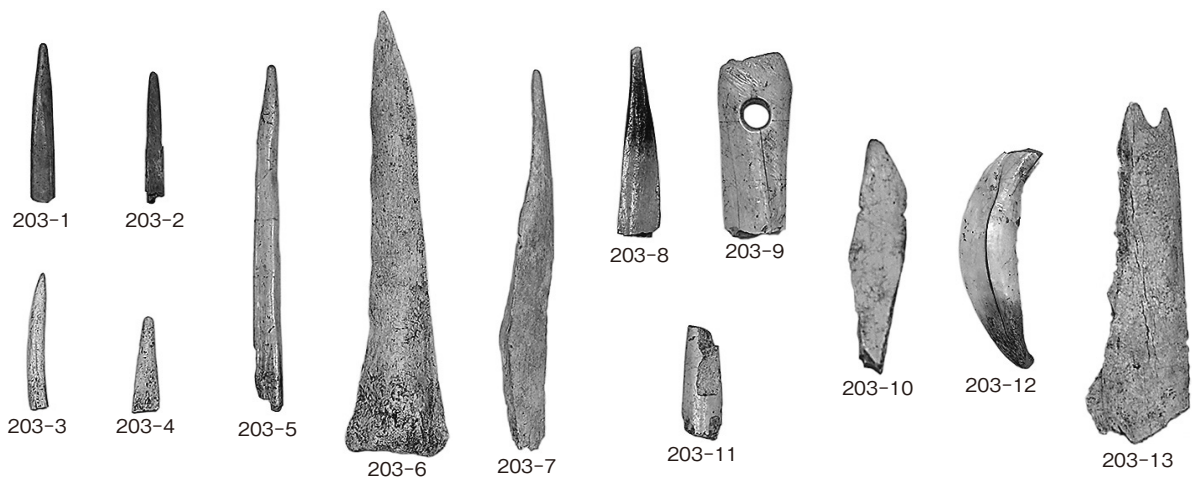
196-5

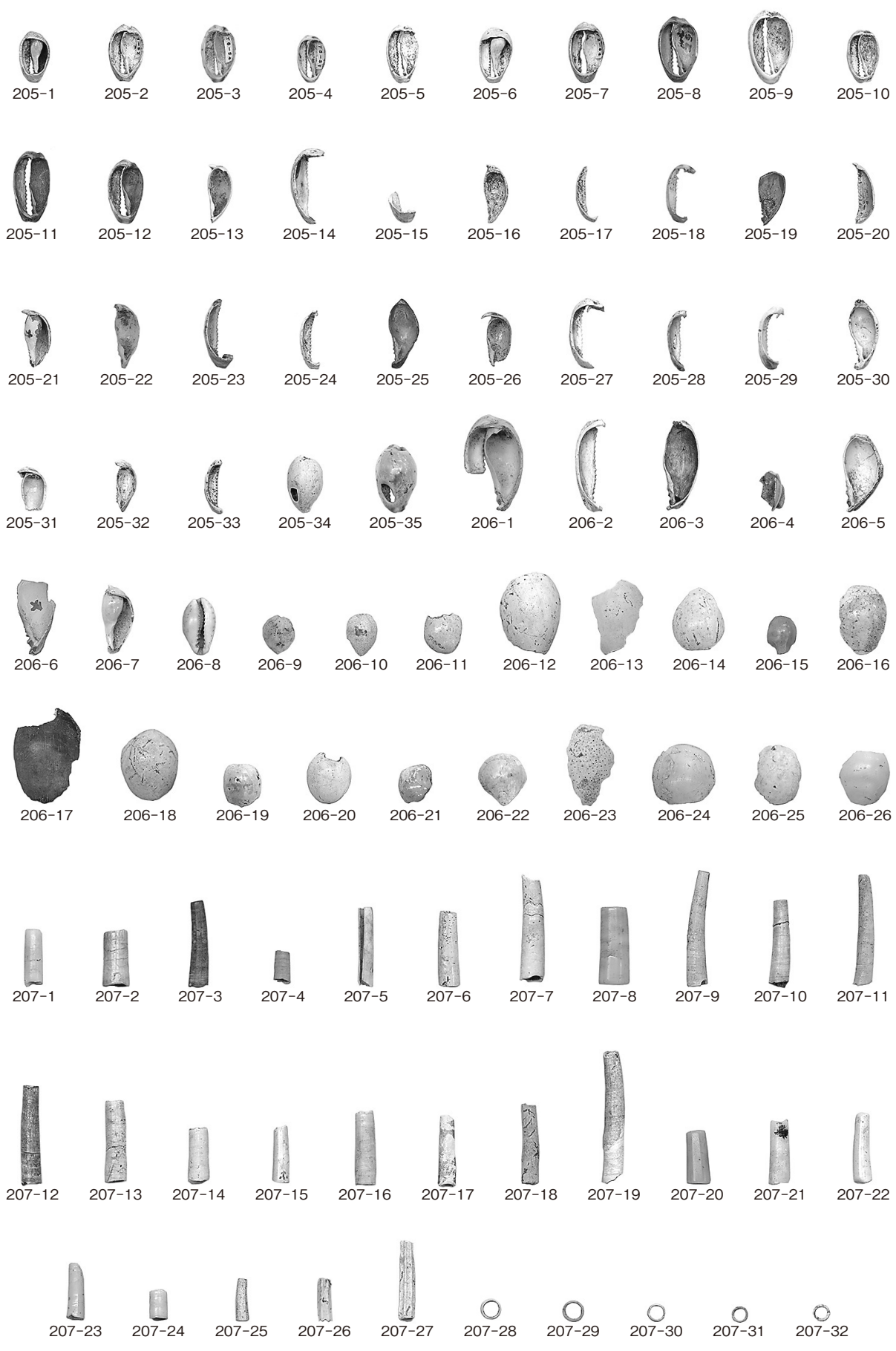


196-6

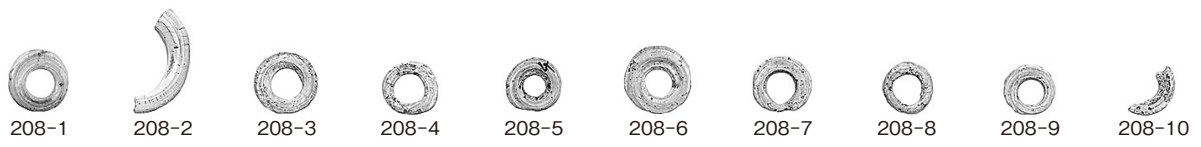




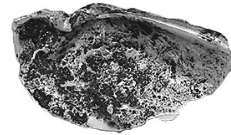




写真图版52



209-4



209-5



210-1



210-2



210-3



210-4



210-5



「栃原岩陰部」西側から



「栃原岩陰部」内部



北相木村考古博物館展示



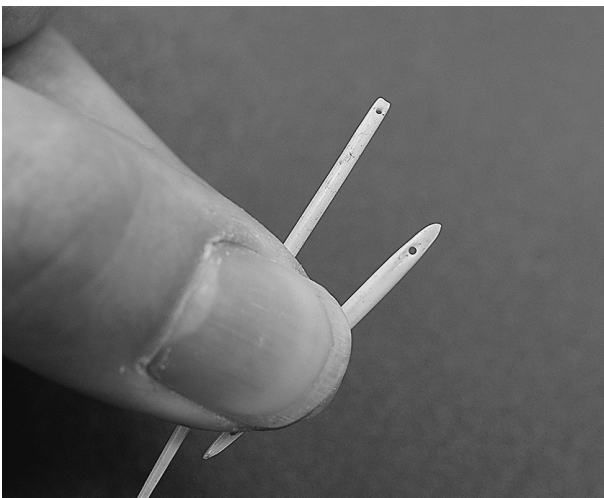
北相木村考古博物館展示



磨面のある石鎌 (図版番号125-2)



自然面・風化面を残す拇指状搔器
(図版番号133-9・130-15・130-5)



骨製縫針 (図版番号185-4・185-3)



タカラガイ類の殻背部

報告書抄録

ふりがな	とちばらいわかげいせき							
書名	栃原岩陰遺跡発掘調査報告書							
副書名	第1次～第15次調査 (1965-1978)							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
著者名	藤森英二・利涉幾多郎・江田真毅・渡辺双葉・樋泉岳二・佐々木由香・バンダリスダ ルシャン・会田進・山本華・米田穰・(株)加速器分析研究所・パレオ・ラボAMS年 代測定グループ・伊藤茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze・黒沼保 子・香原志勢・茂原信生・西沢寿晃・藤田敬・大谷江里・馬場悠男							
編集機関	北相木村教育委員会							
所在地	〒384-1201 長野県南佐久郡北相木村2744 Tel.0267-77-2111							
発行年月日	2019 (令和元年) 10月25日							
ふりがな	ふりがな	コード	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡					
とちばらいわかげいせき 栃原岩陰遺跡	ながのけんみなさくぐんきたあい 長野県南佐久郡北相 木村東栃原277-2・ うえのだん 上ノ段664	203076		36° 03′ 29″	138° 31′ 05″	19651215 ～ 19780401	60㎡	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
栃原岩陰遺跡	居住地 墓地	縄文時代 中期・前期 早期 弥生時代 中期～後期 古代	埋葬人骨5 配石(石囲)炉多 数 焼土 多数	縄文土器・石器 骨角器・貝製品 人骨・動物骨 植物遺存体等 弥生土器 土師器		特に縄文早期の遺物 が多く、この時期の 骨角器や貝製品など も多く出土した。 人骨は12体に及ぶ。 動物骨の破片数は、 推定10万点を超え る。		
要約	<p>国史跡栃原岩陰遺跡は複数の岩陰を含むが、このうち遺跡西側の「栃原岩陰部」では、栃原岩陰遺跡発掘調査団を中心に、1965年～1978年にかけて、学術的な発掘調査が行われた。</p> <p>主に縄文早期の土器、石器とともに、埋葬例5体を含む12体の人骨、動物骨、貝製品、そして骨角器などが出土し、山間部では珍しい有機質遺物を多量に見る遺跡となった。さらに、岩陰部の遺物包含層は約5.6mにおよび、概ね時代順に堆積していたと考えられ、考古学的に極めて重要な遺跡とされてきた。しかし、調査の中心を担った方々が故人となられたこともあり、正式な報告書は刊行されなかった。</p> <p>そこで北相木村教育委員会では、遺物の整理作業等を引き継ぎ、その成果をまとめることとした。本書では、縄文早期を中心とした多様な遺物を、今日的な視点で捉え直し、調査当時の平面図、セクション図や、さらに近年行われた放射性炭素年代測定などの成果を加え、遺跡理解の基礎資料として提示した。</p> <p>その結果、遺物包含層を5つの時期に区分し、特に縄文早期前葉から中葉における岩陰利用の変遷を描いた。</p>							

令和元(2019)年10月25日発行

栃原岩陰遺跡発掘調査報告書

第1次～第15次調査(1965～1978)

発行者 北相木村教育委員会
〒384-1201 長野県南佐久郡北相木村2744
0267-77-2111

印刷者 臼田活版株式会社
〒384-0301 長野県佐久市臼田2016
0267-82-2109



TOCHIBARA ROCK SHELTER SITE _____